

平成 29 年度東大阪市子どもの生活に関するアンケート
集計結果報告書

平成 30 年 3 月
東大阪市

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の趣旨	2
2. 調査の概要	2
3. 報告書の見方	3
4. クロス集計について	3
II 調査結果	5
第1編 子どもの生活に関するアンケート調査	6
1. 回答者の属性	6
(1) 小・中学生	6
(2) 16・17歳	7
(3) 保護者	8
2. 集計結果	9
(1) 経済状況	9
(2) 生活環境	50
(3) 教育環境	115
(4) 社会環境	135
(5) 子どもの居場所づくり	171
第2編 児童扶養手当現況届時アンケート	191
1. 回答者の属性	191
2. 単純集計結果	192
(1) 経済状況	192
(2) 生活環境	200
(3) 教育環境	206
(4) 社会環境	208
(5) 子どもの居場所づくり	210
(6) 母子・父子施策の認知度	217

I 調査の概要

1. 調査の趣旨

東大阪市では、安心して子育てが出来る環境を整えるために、「子育てしやすい、子どもにやさしいまちづくり」を推進しています。

今回のアンケート調査は、子どもの生活実態とニーズを把握し、子どもたちが安全に安心して生活ができるように、支援策の充実と改善を図るため、小学校5年生、中学校2年生、16・17歳の子どもとその保護者を対象に実施しました。このアンケート調査の結果は「東大阪市子どもの未来応援プラン」策定のための基礎資料として活用します。また、本アンケート調査の結果を補完する目的で「児童扶養手当現況届時アンケート」を実施しましたが、回収数が少なく、調査方法や質問内容も異なることから参考値として把握しています。

2. 調査の概要

①子どもの生活に関するアンケート調査

- 調査地域：東大阪市
- 調査対象者：東大阪市にお住まいの小学5年生、中学2年生、16・17歳とその保護者。
- 調査方法：郵送配布、郵送回収
- 調査期間：平成29年8月17日～平成29年9月7日

表 配布数及び回収数（回収率）

種類	配布数	回収数	回収率（％）
子ども（※1）	2,000件	637件	31.9%
小学5年生	1,000件	347件	34.7%
中学2年生	1,000件	281件	28.1%
16・17歳	1,000件	222件	22.2%
保護者（※2）	3,000件	874件	29.1%
小学5年生の保護者	1,000件	346件	34.6%
中学2年生の保護者	1,000件	280件	28.0%
16・17歳の保護者	1,000件	221件	22.1%

※1：子どもの学年無回答分を含みます。

※2：子どもの学年・年齢不明分を含みます。

②児童扶養手当現況届時アンケート

- 調査地域：東大阪市
- 調査対象者：児童扶養手当を受給しているひとり親家庭の保護者。
- 調査方法：児童扶養手当現況届時にアンケートを配布し、記入してもらいました。
- 回収数：50

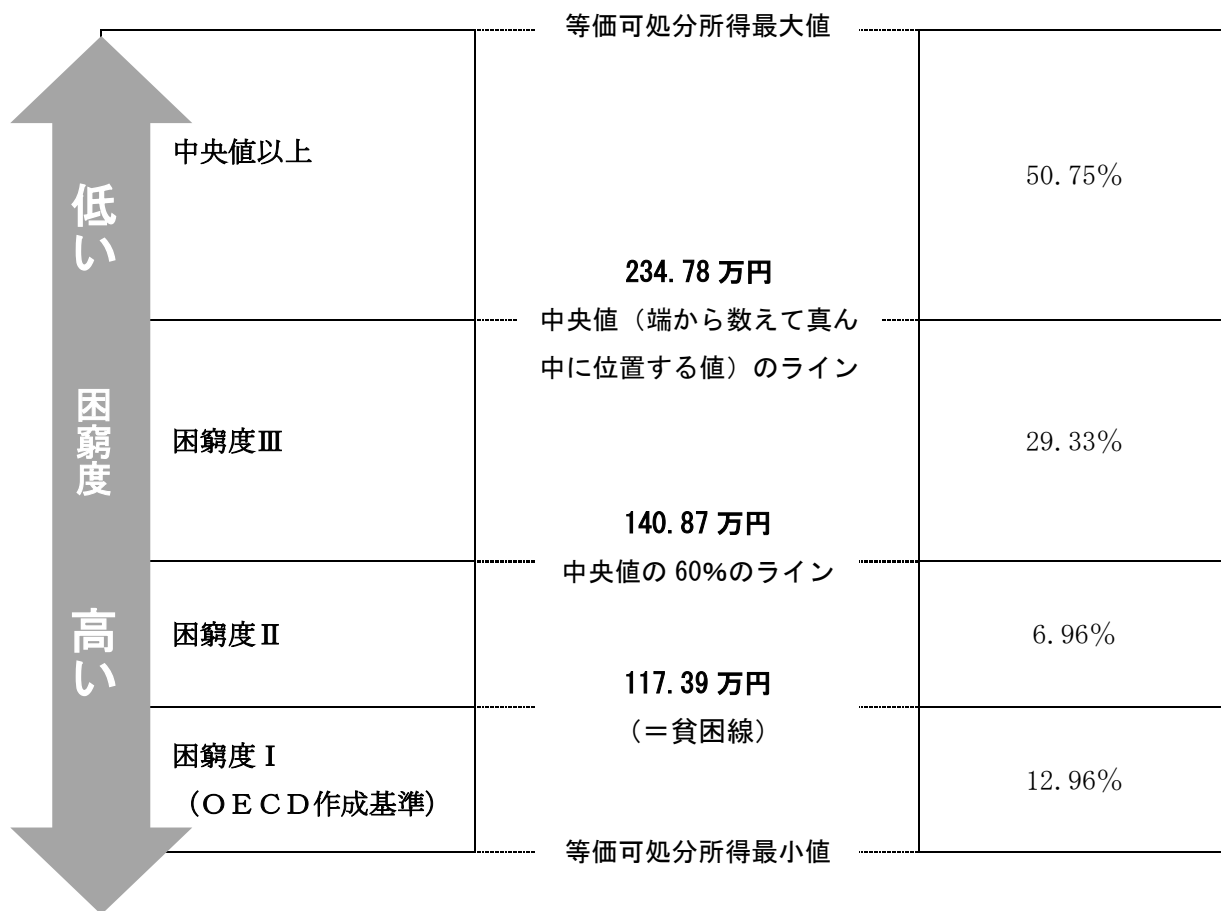
3. 報告書の見方

- 集計結果は、すべて小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100%とならないことがあります。
- 複数回答の質問では比率の合計が100%とならない場合があります。
- グラフの中の「n=***」は、集計母数を表しています。
- 本文中の表などにおいて、選択肢が長い文章となる際に簡略化している場合があります。
- 分析においては、「その他」や「無回答」は、特に断りなく分析区分や分析の対象から除外しています。
- 学年は平成29年度で表記しています。
- 時刻は24時間制で表示しています。

4. クロス集計について

クロス集計による分析については、子ども及びその保護者からの回答内容について、生活の困窮度や世帯構成、就業状況などを基に集計を行い、家庭の経済状況などが、健康面や学習面等にどのような影響を与えているかを検証しています。

図：等価可処分所得による困窮度



実際の生活上の体験や困りごとなどを把握し、多面的に情報を分析するための指標として、「等価可処分所得」を基に区分した「困窮度」を用います。

厚生労働省が実施する国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合を示しています。このときの貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいい、この算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づくものとなっています（なお、ユニセフの報告書では、等価可処分所得の60%を採用しています）

国民生活基礎調査は所得額について、詳細な記述を求め、算出しています。本市で実施した「子どもの生活に関する実態調査」は世帯の所得額については、回答者の負担感等を考慮し、平成28年中の手取り収入を50万～100万円の幅を持たせた選択肢で回答を求めました。そのため、国の貧困線の算出方法で用いる「等価可処分所得」の中央値には、選択肢の上限値と下限値の平均値を世帯人員の平方根で割って調整した値を当てはめています。

（例）世帯所得が「500～550万円」で世帯人員が5人の場合、世帯所得を525万円として算出します。
 $525 \div \sqrt{5} \approx 234.8$ 万円

このように算出した等価可処分所得の中央値（234.78万円）の50%（117.39万円）未満の層を「困窮度Ⅰ」、50%以上60%（140.87万円）未満の層を「困窮度Ⅱ」、60%以上中央値未満の層を「困窮度Ⅲ」、中央値以上を「中央値以上」の4つの層に分類しています。

なお、大阪府内全自治体における相対的貧困率（困窮度Ⅰの占める割合）は14.9%（127.5万円）、本市の相対的貧困率は12.96%（117.39万円＝貧困線）でした*。

※平成28年度に大阪府が実施した「大阪府子どもの生活に関する実態調査」による結果

Ⅱ 調査結果

第1編 子どもの生活に関するアンケート調査

1. 回答者の属性

(1) 小・中学生

小・中学生 1. 学年

問 1. あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生の学年をみると、東大阪市では637名が有効サンプルで、内訳として「小学生」が347名で54.5%、「中学生」が281名で44.1%となっており、小学5年生がやや高い比率となっています。

図：学年（小・中学生）

	回答数	構成比
小学生	347	54.5%
中学生	281	44.1%
無回答	9	1.4%
合計	637	100.0%

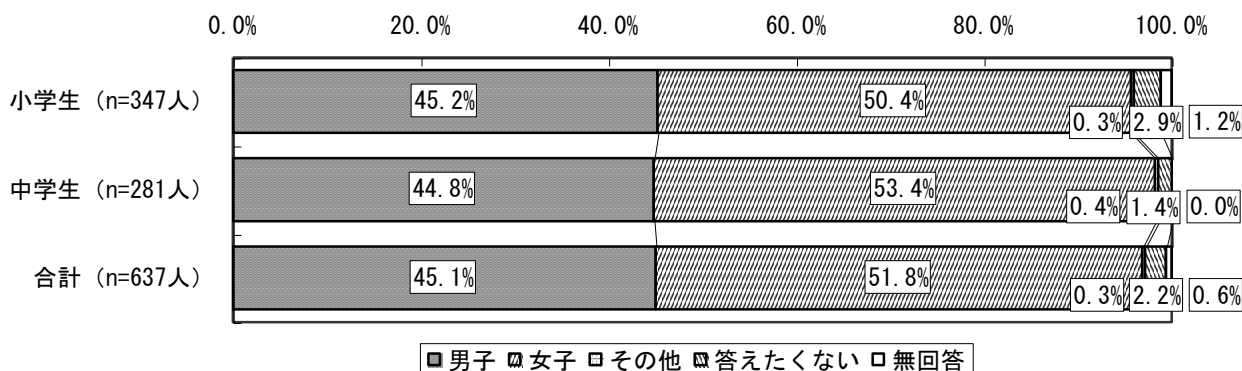
小・中学生 40. 性別

問 40. あなたの性別を教えてください。

小・中学生の性別をみると、「女子」が51.8%、「男子」が45.1%で、やや女子が高い比率となっています。

小学生と中学生の比較では、中学生の方が女子の比率が高くなっています。

図：性別（小・中学生）



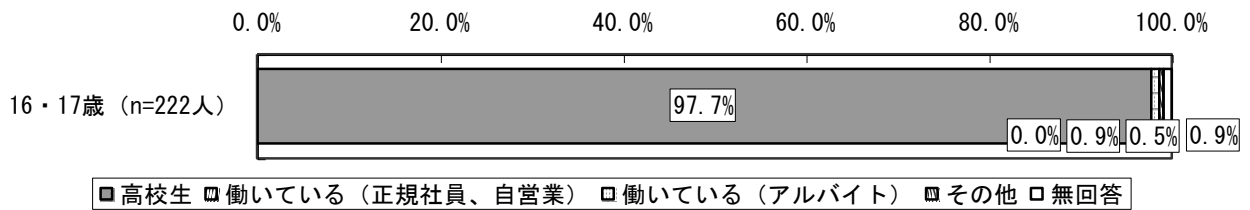
(2) 16・17歳

16・17歳 1. 現在の状況

問 1. あなたの現在の状況について教えてください。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳の現在の状況を見ると、「高校生」が97.7%、「働いている(アルバイト)」が0.9%となっており、高校に在学中の16・17歳が9割強と高い比率となっています。

図：現在の状況(16・17歳)

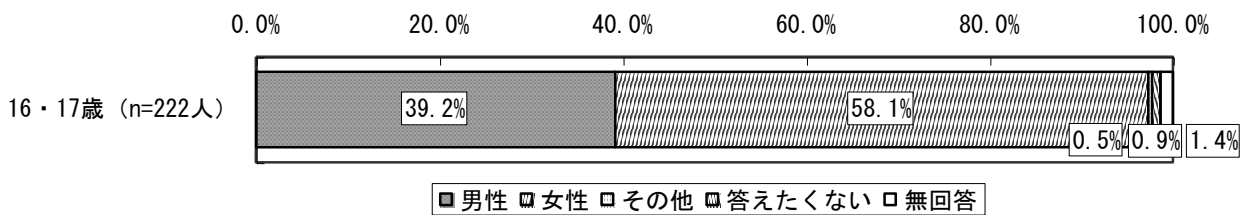


16・17歳 42. 性別

問 41. あなたの性別を教えてください。

16・17歳の性別を見ると、「女性」が58.1%、「男性」が39.2%で、女性の比率が高くなっています。

図：性別(16・17歳)



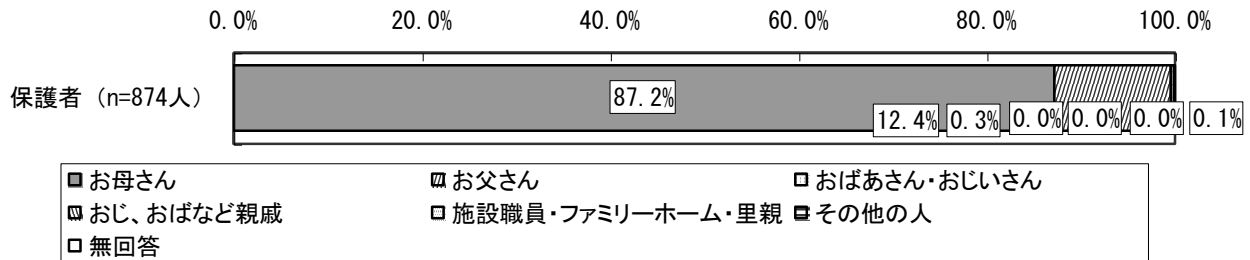
(3) 保護者

保護者 1. 宛名のお子さんから見た続柄

問 1. お子さんからみたあなたの続柄について教えてください。(あてはまるもの1つだけに○)

保護者について宛名のお子さんからみた続柄をみると、「お母さん」が87.2%、「お父さん」が12.4%となっており、このアンケートの保護者での回答者はお母さんが多くなっています。

図：宛名のお子さんから見た続柄（保護者）

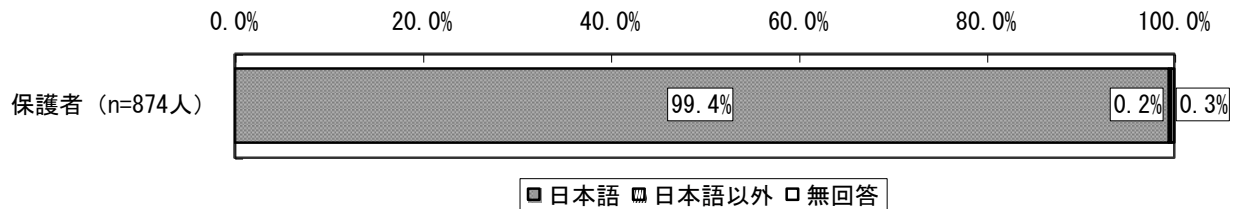


保護者 2. 使用言語

問 1. あなたが日常生活でよく使う言葉はどれですか。(あてはまるもの1つだけに○)

保護者の使用言語をみると、「日本語」が99.4%、「日本語以外」が0.2%となっており、回答者の9割強が日本語を使用して生活しています。

図：使用言語（保護者）



2. 集計結果

各設問の集計結果について、以下のとおり、(1) 経済状況、(2) 生活環境、(3) 教育環境、(4) 社会環境、(5) 子どもの居場所づくりに分けて整理しました。

(1) 経済状況

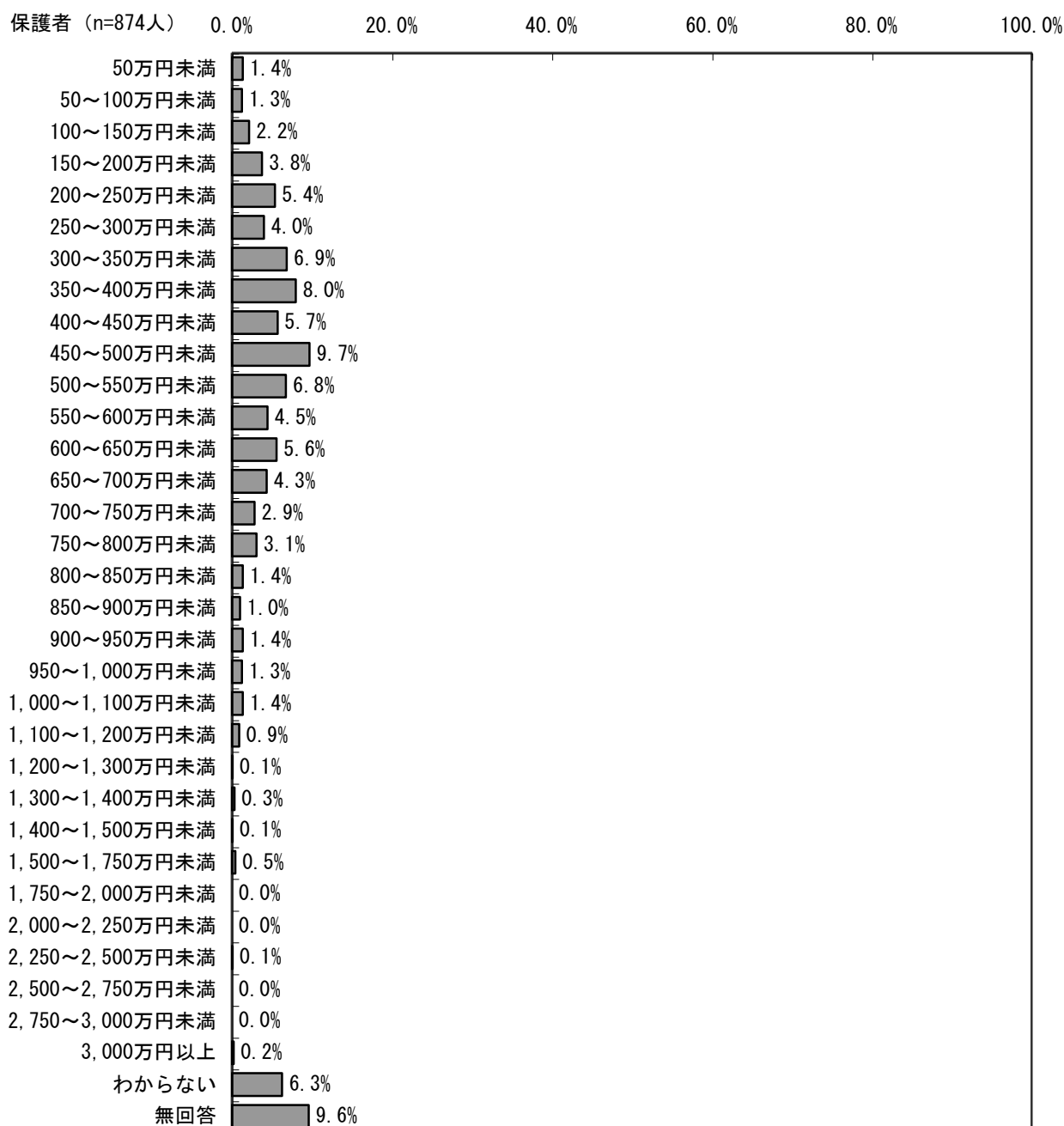
保護者 38-4. (4) 世帯収入額

問 38 (4). 前年 (2016 年) のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。

(あてはまるもの 1 つだけに○)

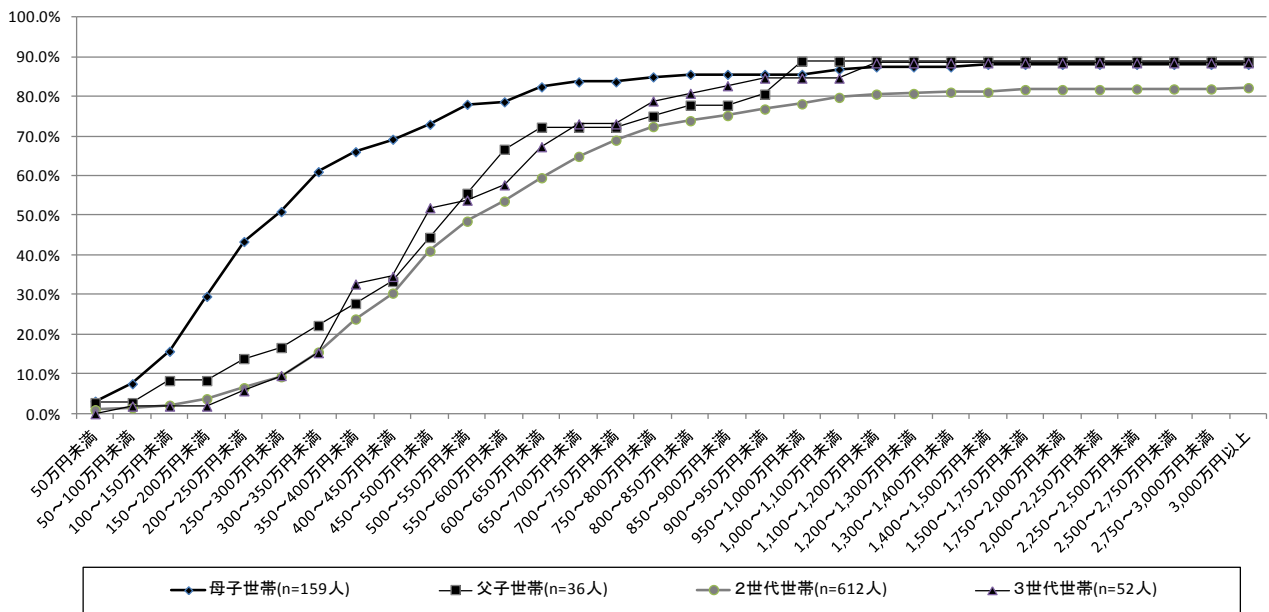
世帯収入額をみると、「450～500 万円未満」が 9.7%、「350～400 万円未満」が 8.0%、「300～350 万円未満」が 6.9%となっています。200 万円～700 万円の間全体に全体の約 6 割が収まっています。

図：世帯収入額（保護者）

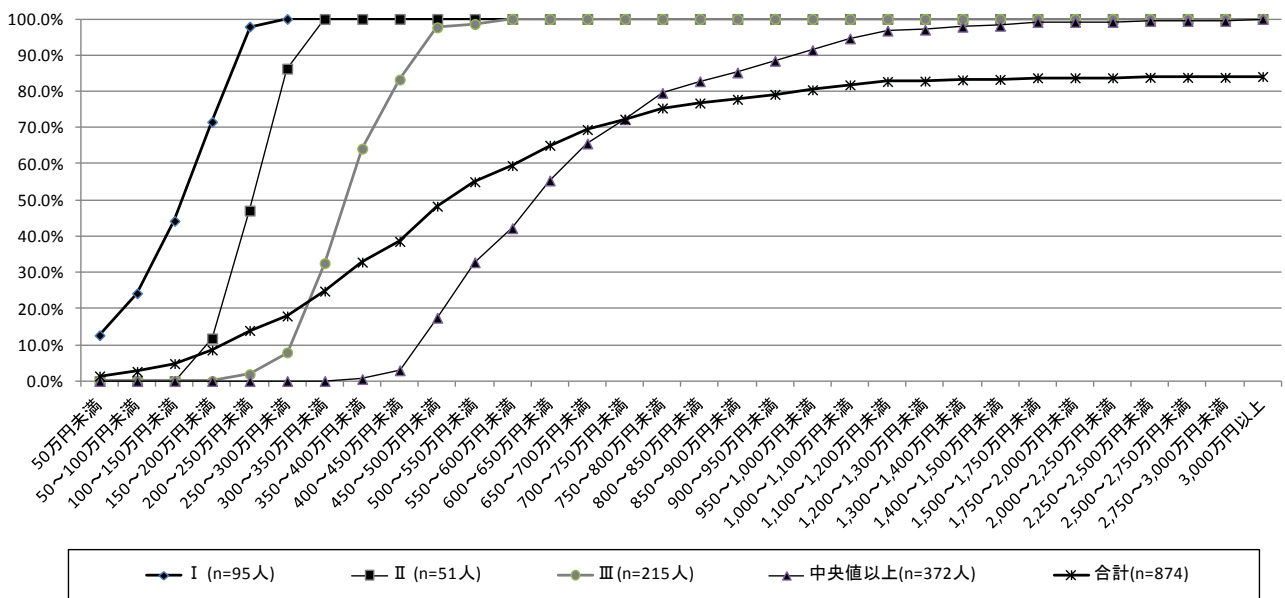


世帯類型別に世帯収入の低い世帯からの累積分布をみると、中央値の収入は母子世帯が 250～300 万円未満、その他は 450～500 万円未満から 500～550 万円未満程度になっています。

図：世帯類型×世帯収入（保護者：累積分布）



図：困窮度別と全世帯合計



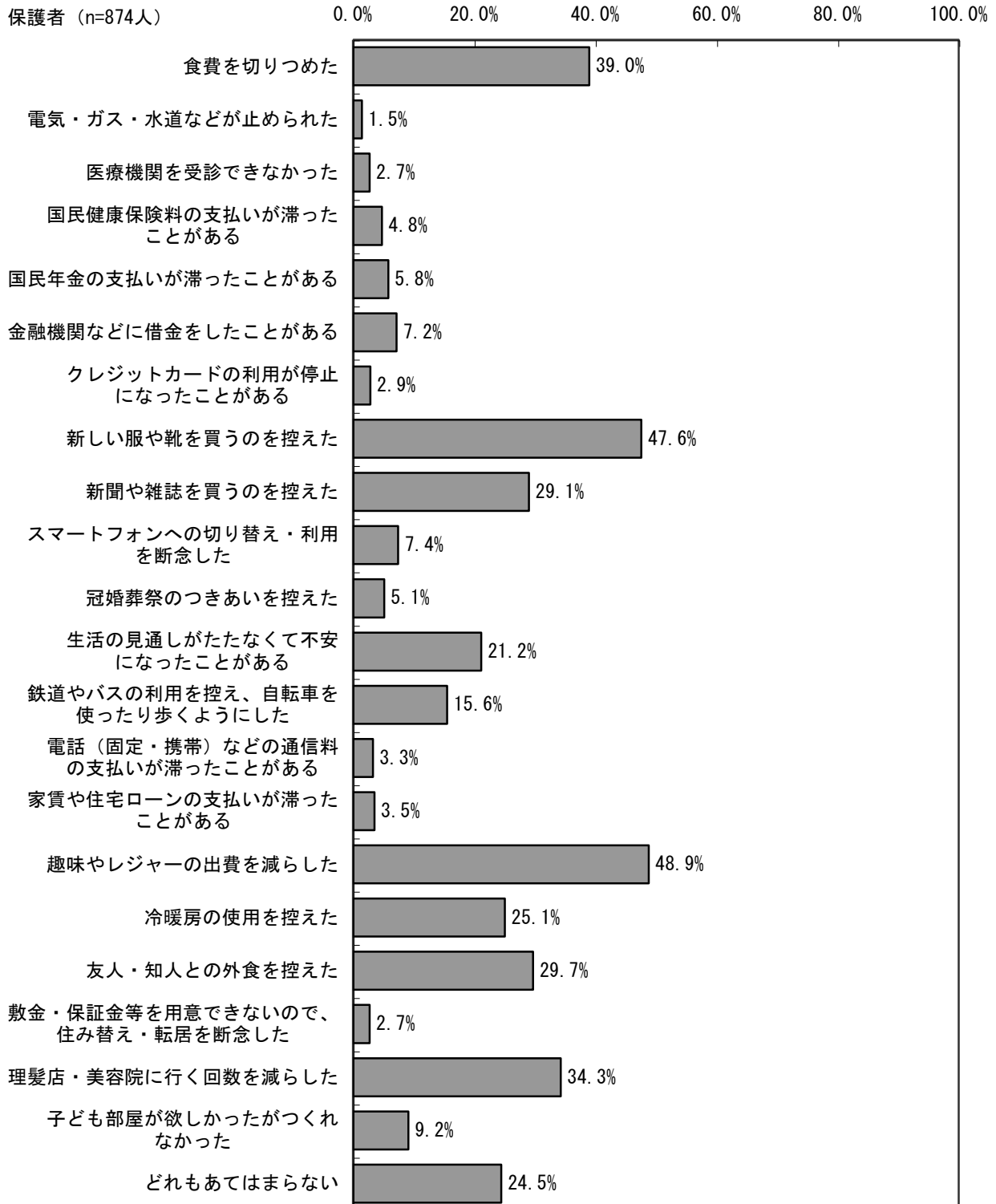
※困窮度別を除き、世帯類型別や合計には世帯収入が「わからない」や無回答の人が含まれるため、累積分布は 100%になりません。

保護者 7. 生活面での経済的な理由による経験

問 7. あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。
 おおむね半年の間でお考えください。(あてはまるものすべてに○)

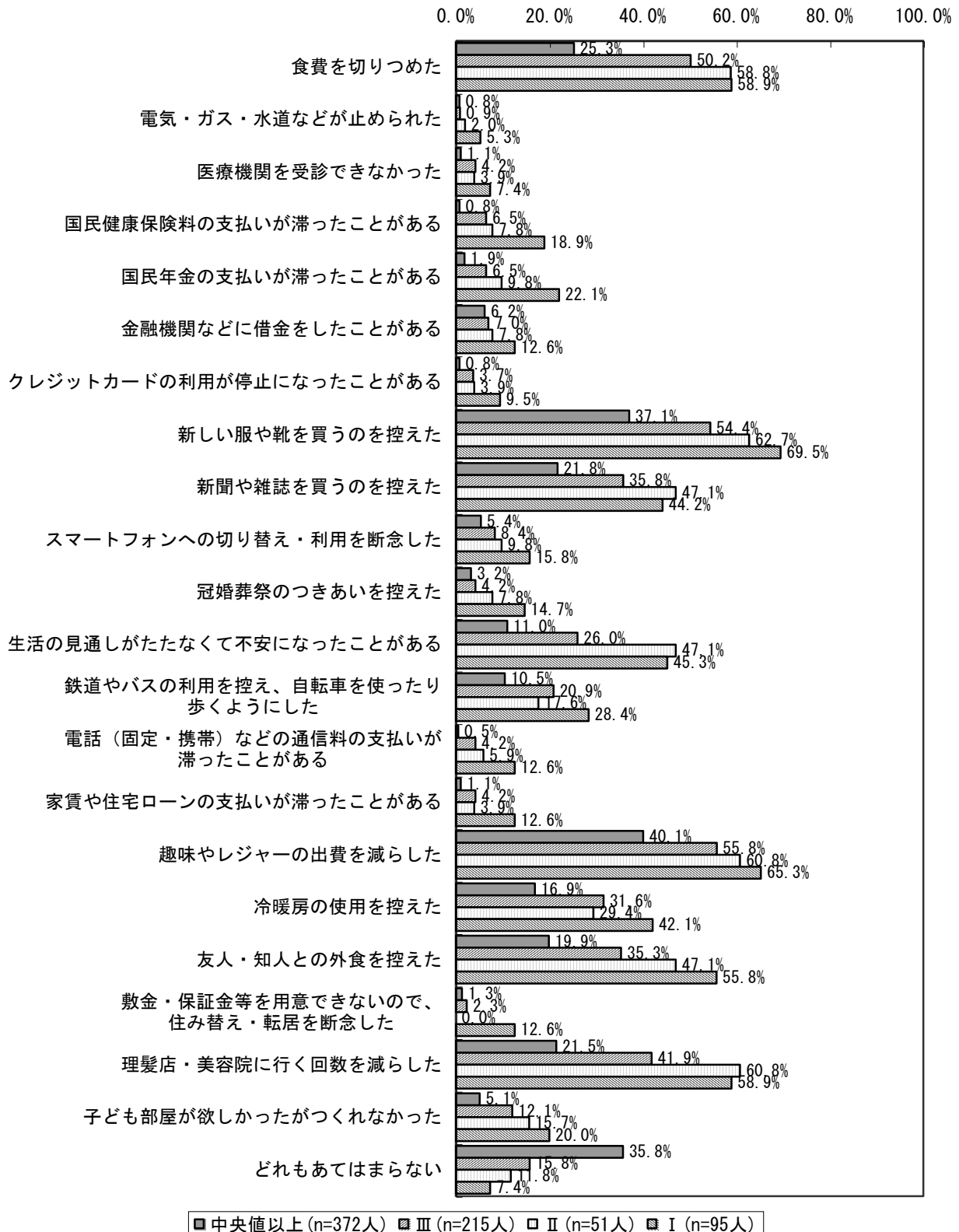
世帯における、生活面での経済的な理由による経験をみると、「趣味やレジャーの出費を減らした」が 48.9%、「新しい服や靴を買うのを控えた」が 47.6%、「食費を切りつめた」が 39.0%となっています。

図：生活面での経済的な理由による経験（保護者）



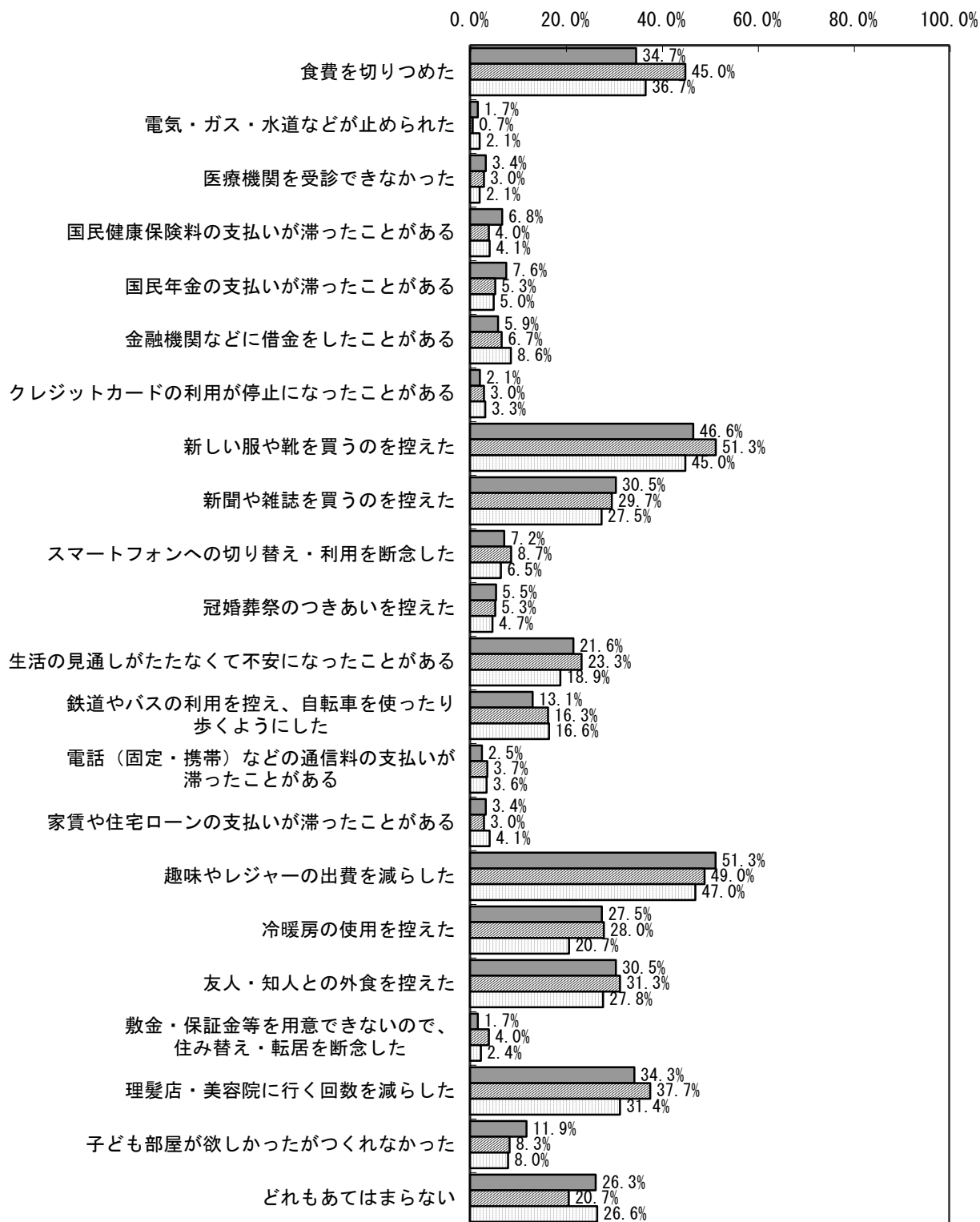
困窮度別にみると、困窮度の高い世帯ほど「趣味やレジャーの出費を減らした」や「新しい服や靴を買うのを控えた」、「食費を切りつめた」、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」、「友人・知人との外食を控えた」等が多くなっています。また、「電気・ガス・水道などが止められた」は中央値以上では1%に満たないのに対し、困窮度Ⅰの世帯では5.3%と多くなっています。さらに「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」や「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」は困窮度Ⅰの世帯では1割以上を占めており、困窮度Ⅱや困窮度Ⅲの世帯と比べても厳しい状況にあることがわかります。

図：困窮度別・生活面での経済的な理由による経験（保護者）



福祉事務所管内別にみると、東福祉事務所管内では、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」、「国民年金の支払いが滞ったことがある」が相対的に多くなっています。中福祉事務所管内では「どれもあてはまらない」という人が最も少なく、「食費を切りつめた」は45.0%となっており、東福祉事務所管内、西福祉事務所管内より8ポイント以上多くなっています。西福祉事務所管内をみると、「電気・ガス・水道などが止められた」や「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」が相対的に多くなっています。

図：福祉事務所管内別・生活面での経済的な理由による経験（保護者）



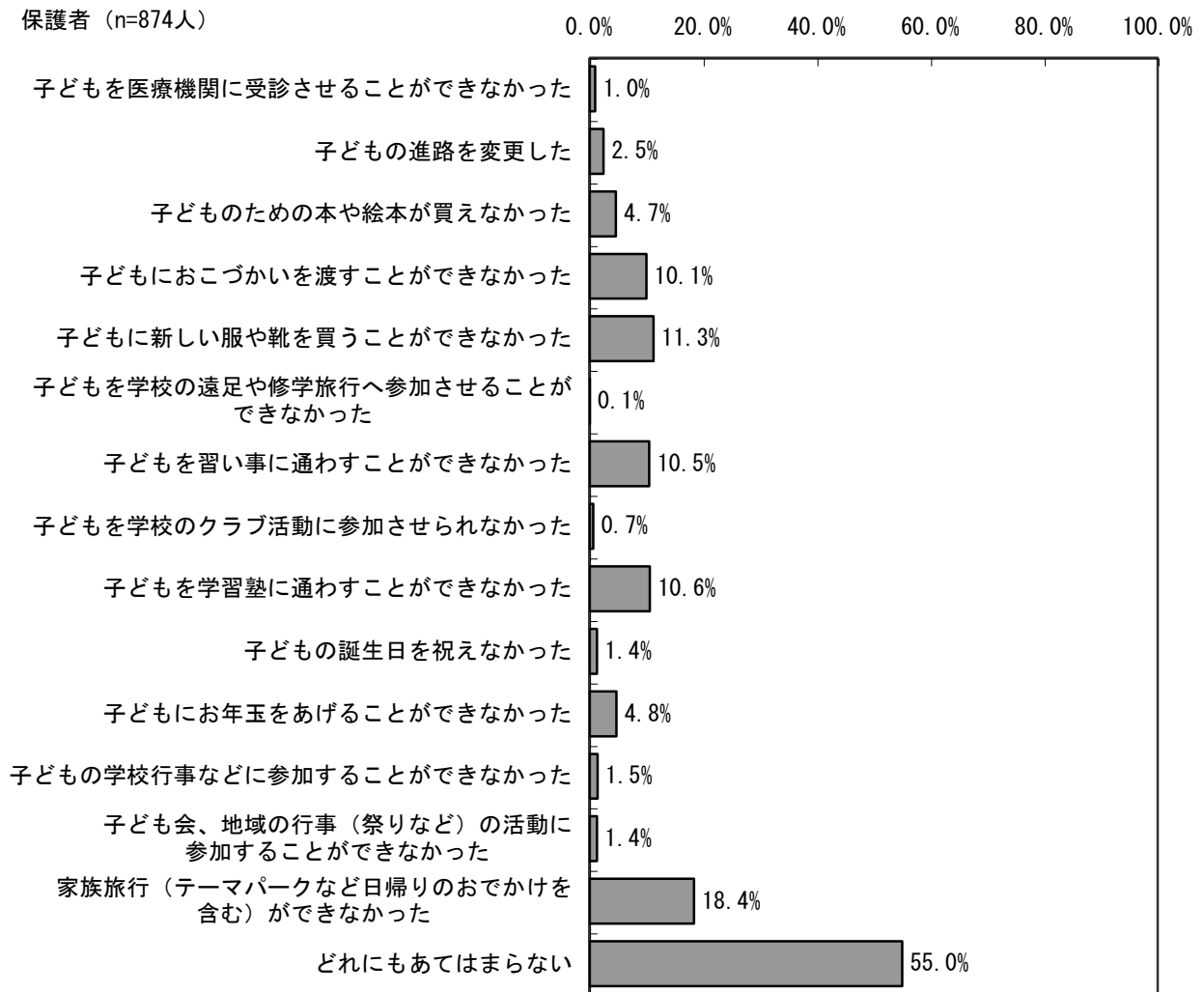
■ 東福祉事務所管内 (n=236人) ■ 中福祉事務所管内 (n=300人) □ 西福祉事務所管内 (n=338人)

保護者 13. 子どもに関する経済的な理由による経験

問 13. あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。
 (おおむね1年間でお考えください) (あてはまるものすべてに○)

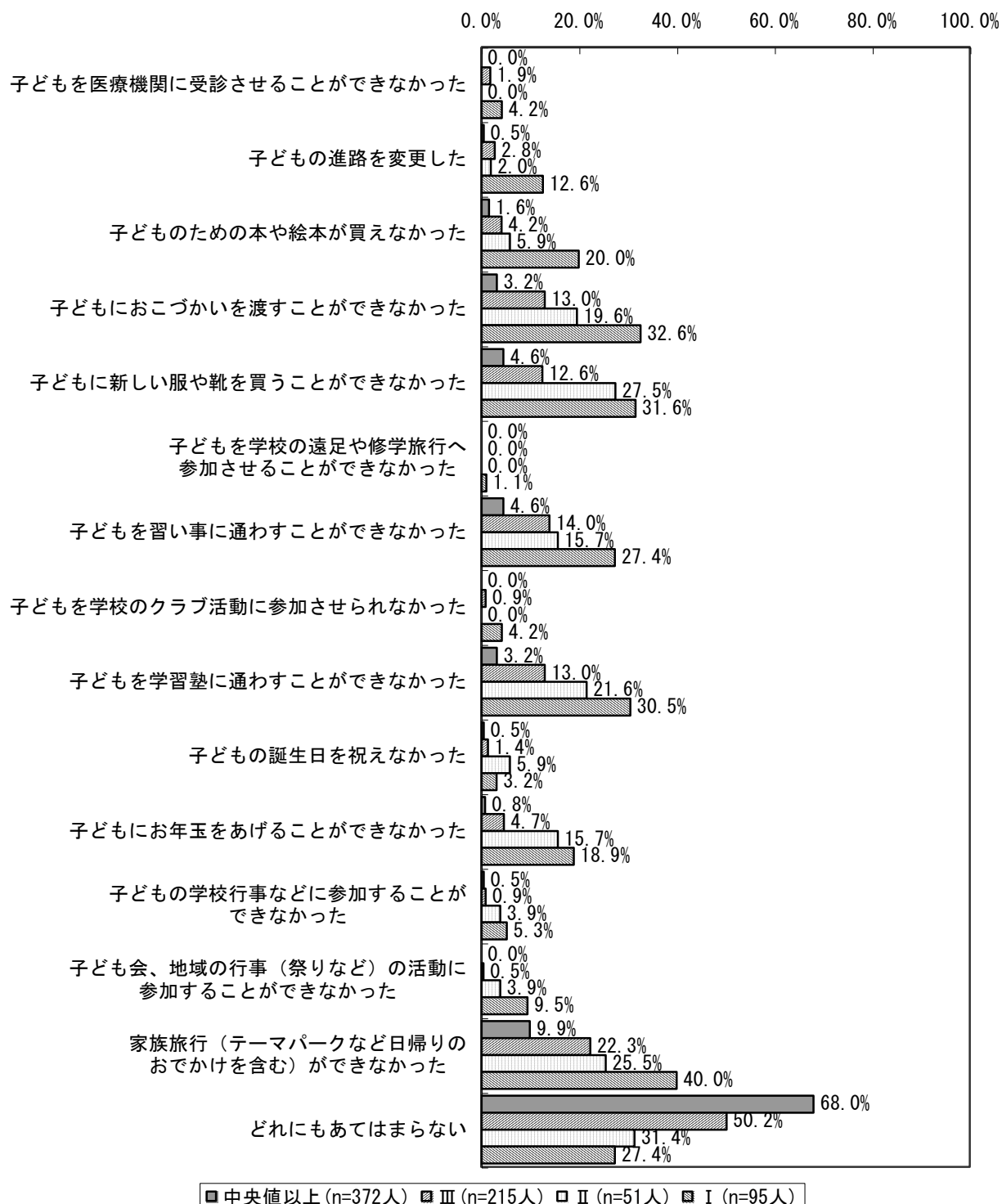
世帯における、子どもに関する経済的な理由による経験をみると、「どれにもあてはまらない」が55.0%と最も多くなっています。「どれにもあてはまらない」を除くと、「家族旅行(テーマパークや日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が18.4%と最も多く、次いで「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」が11.3%、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が10.6%となっています。

図：子どもに関する経済的な理由による経験（保護者）



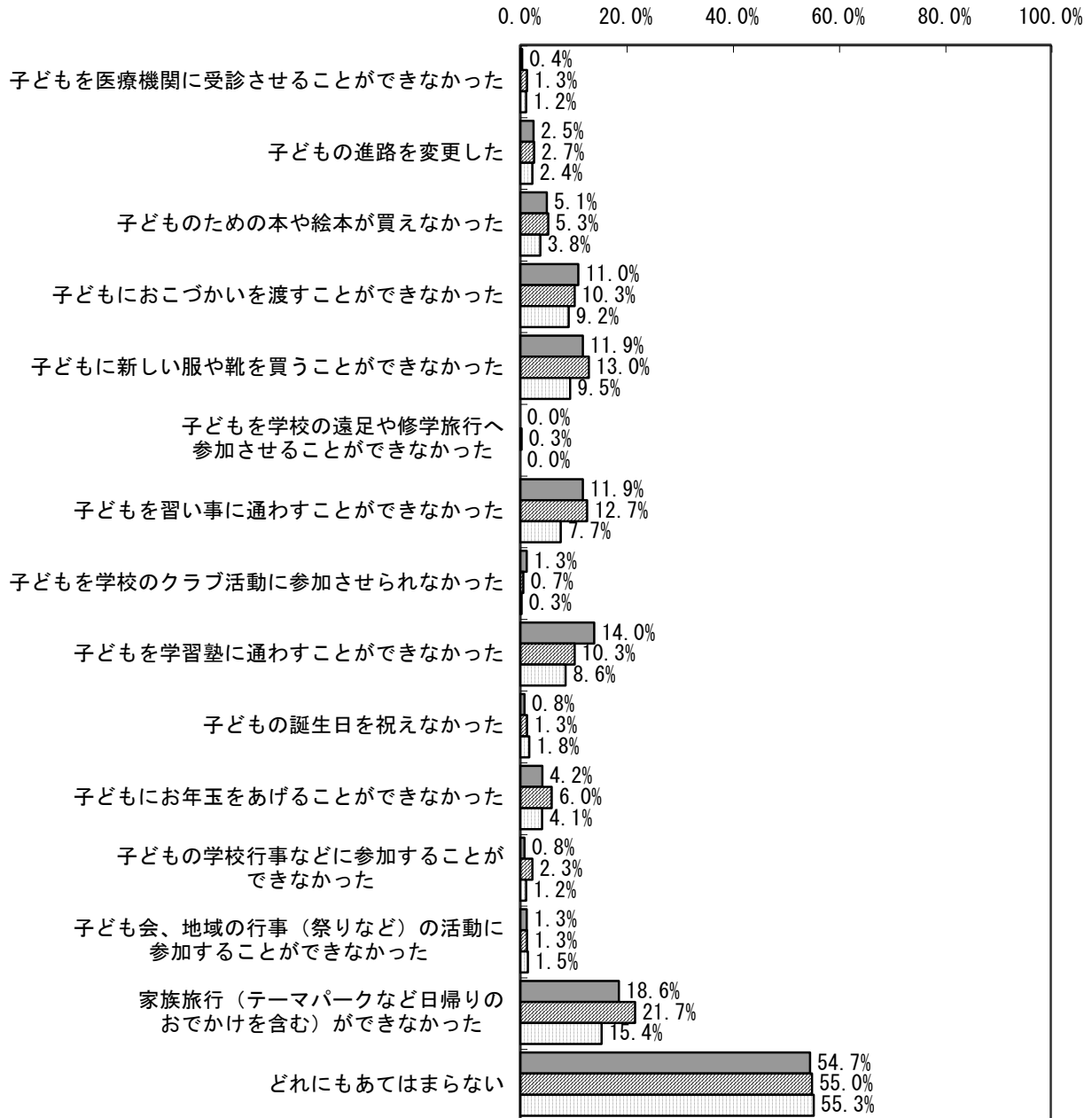
困窮度別にみると、困窮度の高い世帯ほど「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」や「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」、「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」、「子どもを習い事に通わすことができなかった」、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」等が多くなっています。また、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」は全体では1.0%と少数ですが、困窮度Ⅰでは4.2%となっており相対的に多くなっています。

図：困窮度別・子どもに関する経済的な理由による経験（保護者）



福祉事務所管内別にみると、東福祉事務所管内と中福祉事務所管内では「子どもを習い事に通わすことができなかった」、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が1割以上となっており、西福祉事務所管内に比べて相対的に多くなっています。中福祉事務所管内と西福祉事務所管内では「子どもを医療機関に受診させることができなかった」が相対的に多くなっています。

図：福祉事務所管内別・子どもに関する経済的な理由による経験（保護者）



■ 東福祉事務所管内 (n=236人) ■ 中福祉事務所管内 (n=300人) □ 西福祉事務所管内 (n=338人)

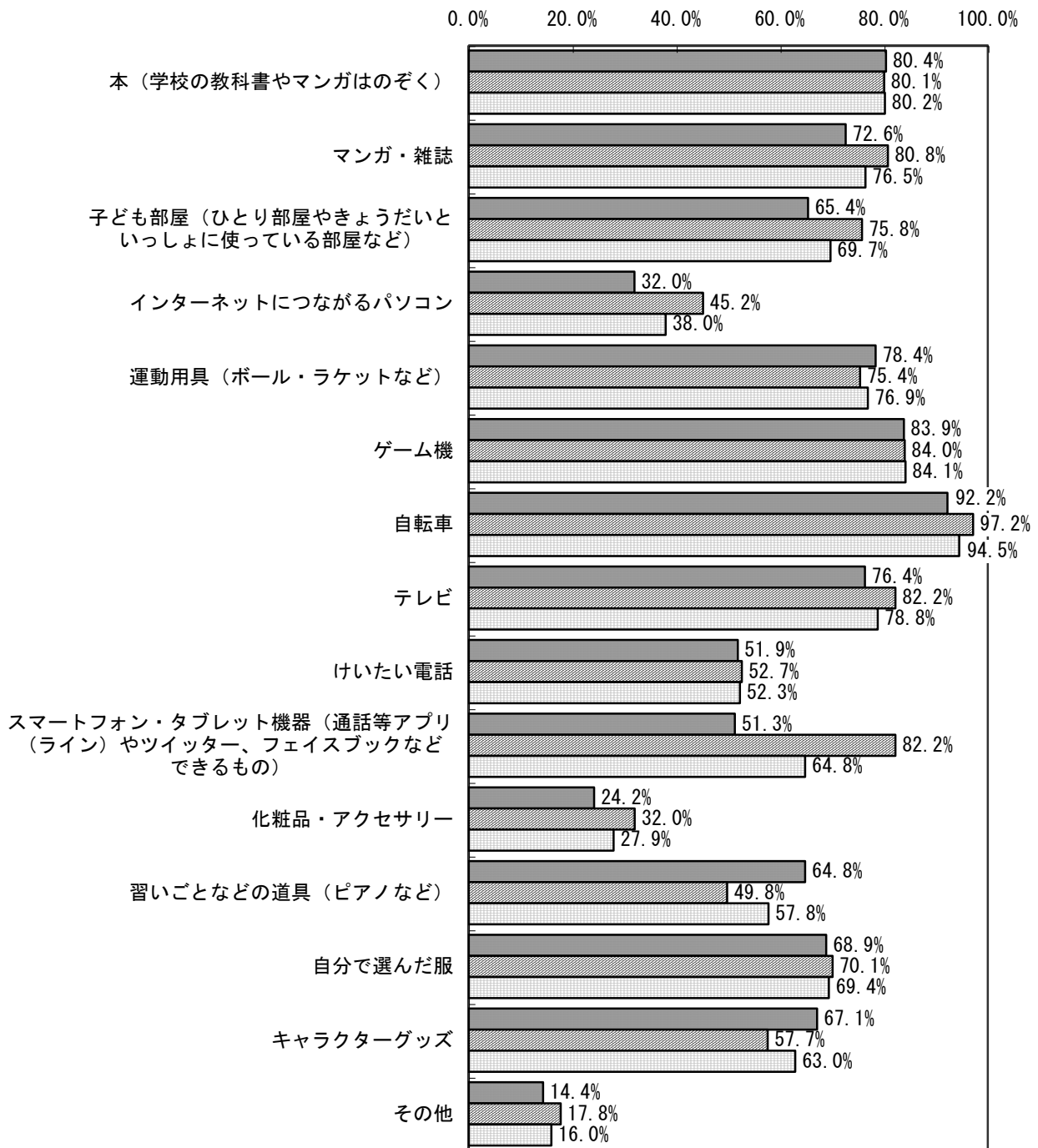
小・中学生 33. 持っているもの

問 33. あなたが、持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

小・中学生の子どもの持っているものと、「自転車」が94.5%、「ゲーム機」が84.1%、「本(学校の教科書やマンガはのぞく)」が80.2%となっています。

「スマートフォン・タブレット機器(通話等アプリ(ライン)やツイッター、フェイスブックなどできるもの)」は小学生が51.3%、中学生が82.2%となっており、中学生のほうが30%以上多くなっています。

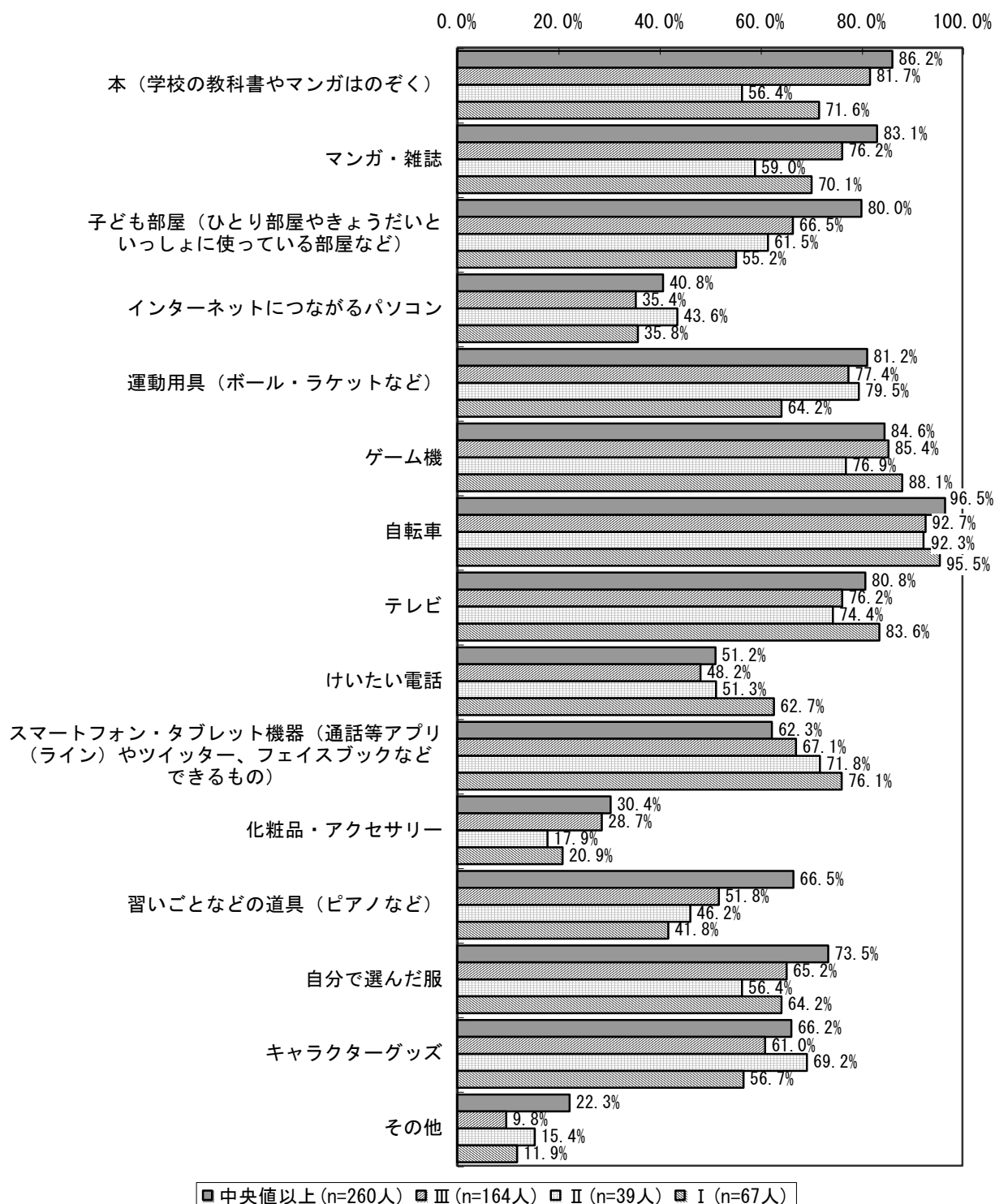
図：持っているもの(小・中学生)



■小学生 (n=347人) ■中学生 (n=281人) □合計 (n=637人)

困窮度別にみると、「本（学校の教科書やマンガはのぞく）」、「マンガ・雑誌」、「子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいといっしょに使っている部屋など）」、「運動用具（ボール・ラケットなど）」は中央値以上の世帯では8割以上の小・中学生が持っていたり使用することができますが、中央値未満の世帯では割合が少なくなっています。特に「子ども部屋」は中央値以上の世帯と困窮度Ⅰの世帯の差が24.8ポイントと大きくなっています。「インターネットにつながるパソコン」、「ゲーム機」、「自転車」、「テレビ」は中央値以上の世帯と中央値未満の世帯の差は小さくなっています。また、各項目で中央値以上の割合が多い傾向にありますが、「スマートフォン・タブレット機器（通話等アプリ（ライン）やツイッター、フェイスブックなどできるもの）」は困窮度が高くなるほど割合が多くなっています。

図：困窮度別・持っているもの（小・中学生）



小・中学生 24. おこづかいの金額

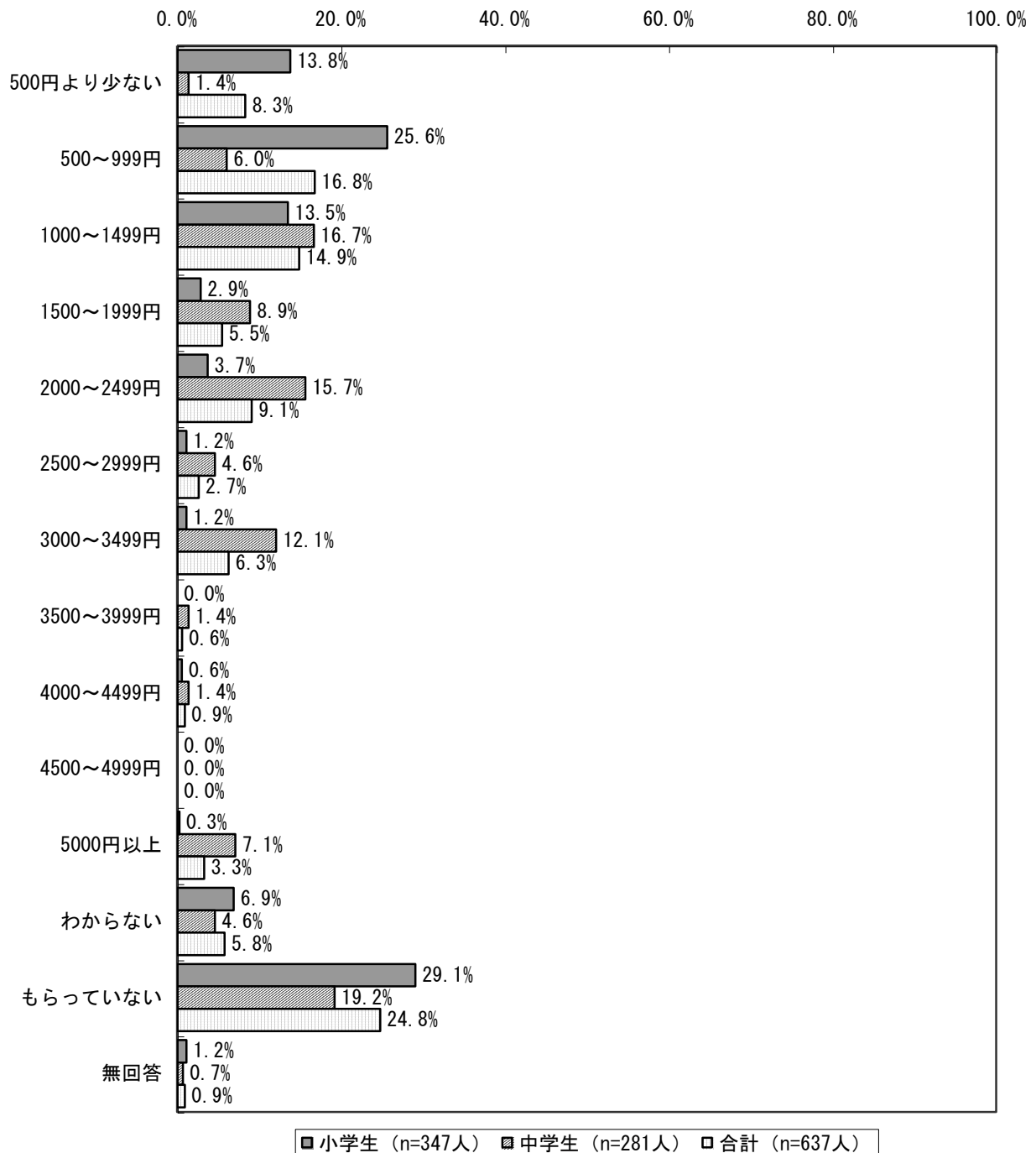
問 24. あなたは、毎月、いくらおこづかいをもらっていますか。

(時々もらう場合は、1ヶ月のおおよその平均の金額に○をつけてください。ただしお年玉はのぞきます)(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生のおこづかいの金額をみると、「もらっていない」が24.8%、「500～999円」が16.8%、「1000～1499円」が14.9%となっています。

小学生と中学生の比較では、「もらっていない」は小学生が29.1%、中学生が19.2%となり、それを除くと、小学生は「500～999円」が25.6%で最も多く、中学生は「1000～1499円」が16.7%で最も多くなっています。

図：おこづかいの金額（小・中学生）



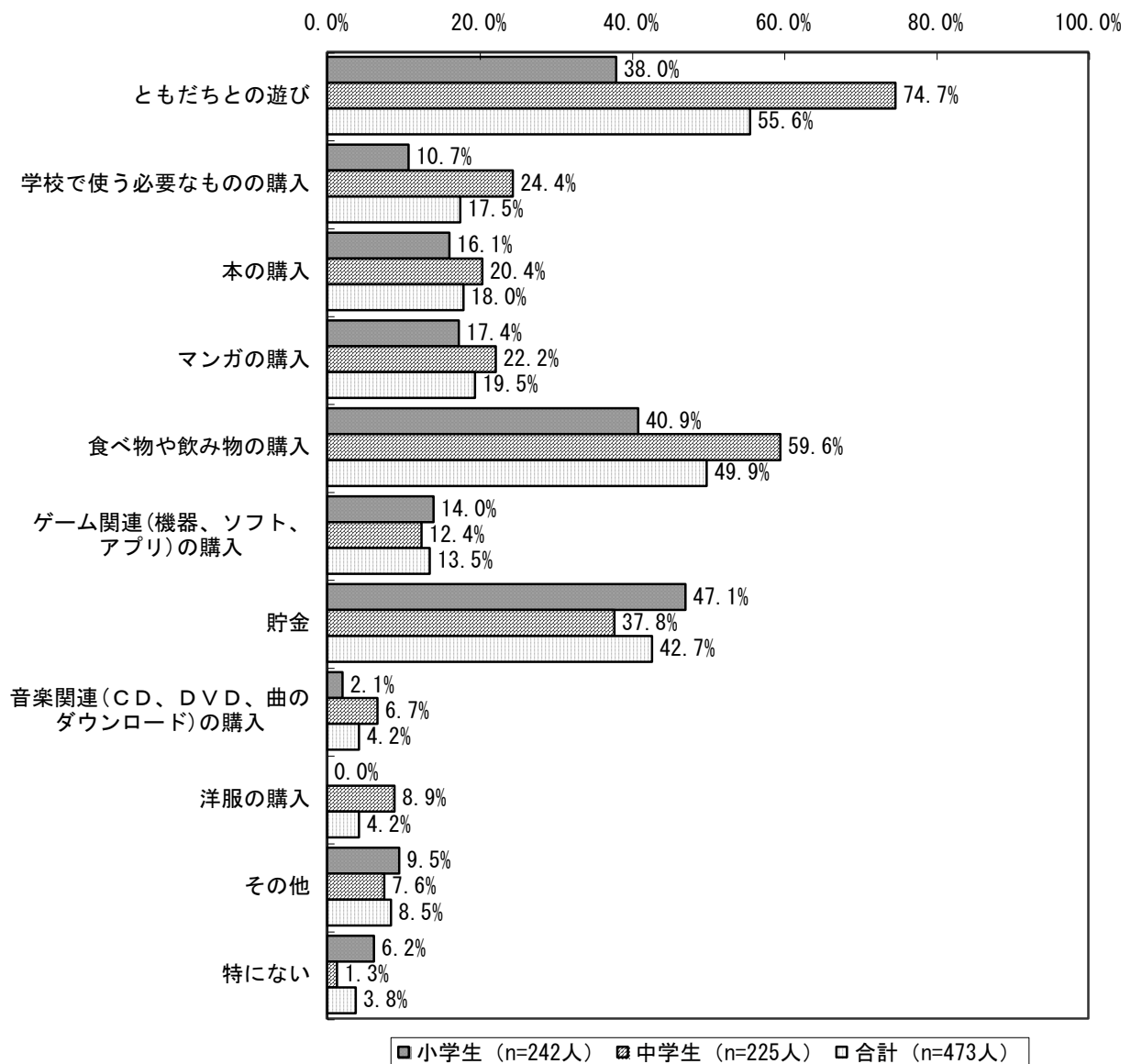
小・中学生 25. おこづかいの用途

問 25. 毎月のおこづかいは、何に使っていますか。(あてはまるものすべてに○)

小・中学生のおこづかいの用途をみると、「ともだちとの遊び」が55.6%、「食べ物や飲み物の購入」が49.9%、「貯金」が42.7%となっています。おこづかいを「ともだちとの遊び」に使用している子どもが5割を超え、おこづかいが友人との遊びに関係していることがうかがえます。

小学生と中学生の比較では、中学生の「ともだちとの遊び」の74.7%や「食べ物や飲み物の購入」の59.6%などが多くなっています。「貯金」は小学生が47.1%、中学生が37.8%と小学生の方が多くなっています。

図：おこづかいの用途（小・中学生）



小・中学生 26. おこづかいはたりているか

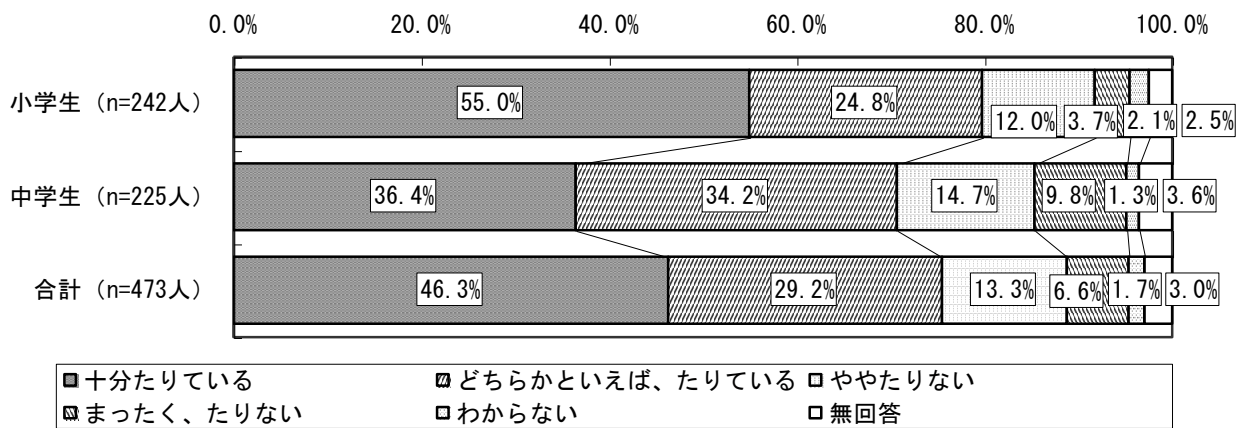
問 26. 毎月のおこづかいは、たりていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生のおこづかいはたりているかどうかをみると、「十分たりている」が46.3%、「どちらかといえば、たりている」が29.2%、「ややたりない」が13.3%となっています。

「十分たりている」と「どちらかといえば、たりている」を合計した比率が75.5%で、7割を超える子どもがおこづかいはたりていると感じています。

小学生と中学生の比較では、小学生は「十分たりている」が55.0%と過半数を上回り、中学生の36.4%に比較して多くなっています。

図：おこづかいはたりているか（小・中学生）



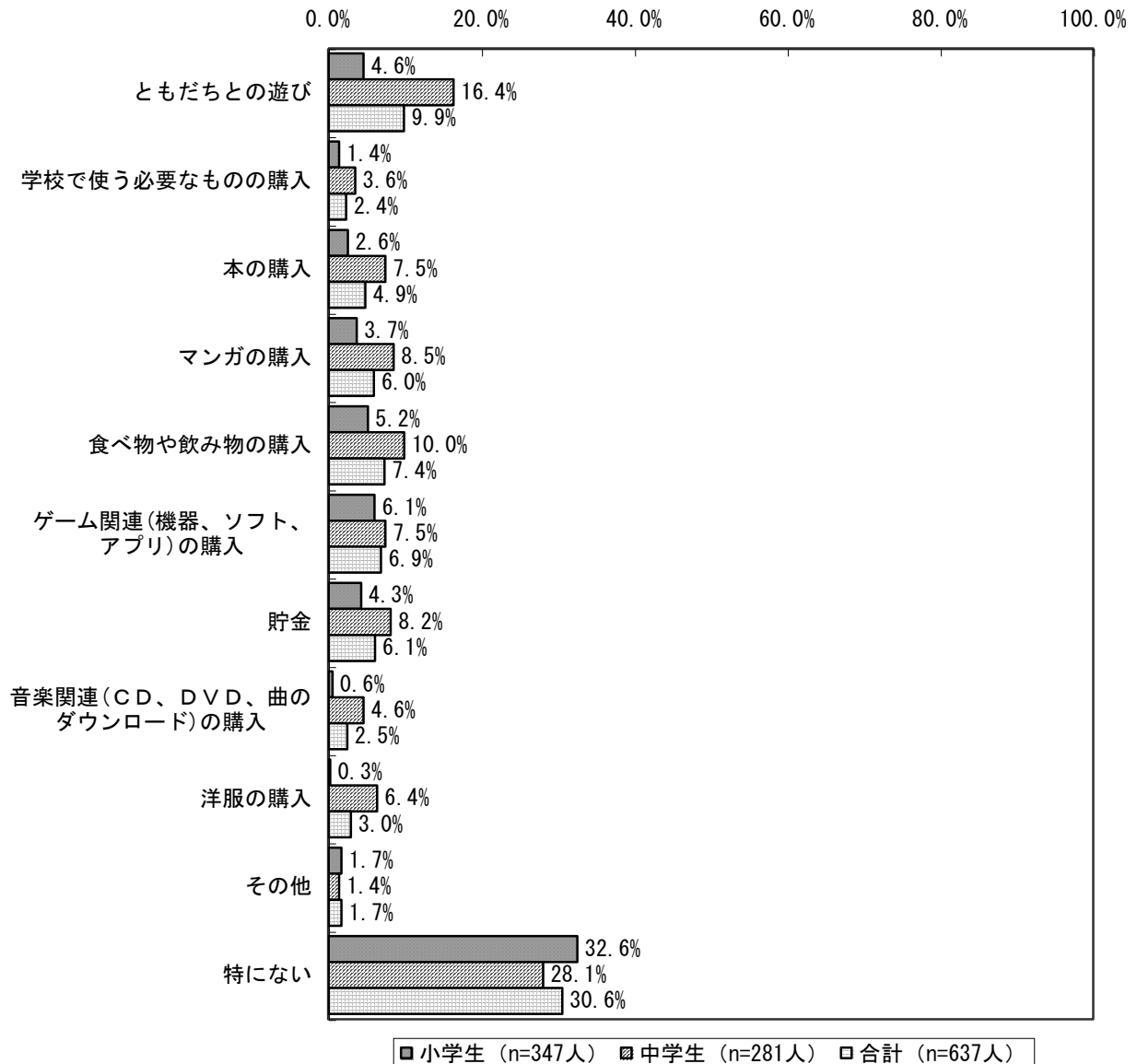
小・中学生 27. おこづかいの不足で我慢したこと

問 27. おこづかいがたりない、または、もらってないことが理由で、我慢したり、できなかったりしたことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

小・中学生についておこづかいの不足で我慢したことをみると、「特にない」が30.6%、「ともだちとの遊び」が9.9%、「食べ物や飲み物の購入」が7.4%となっており、「特にない」の次に「ともだちとの遊び」が高い比率となっています。

小学生と中学生の比較では、中学生の「ともだちとの遊び」が16.4%と多くなっています。

図：おこづかいの不足で我慢したこと（小・中学生）



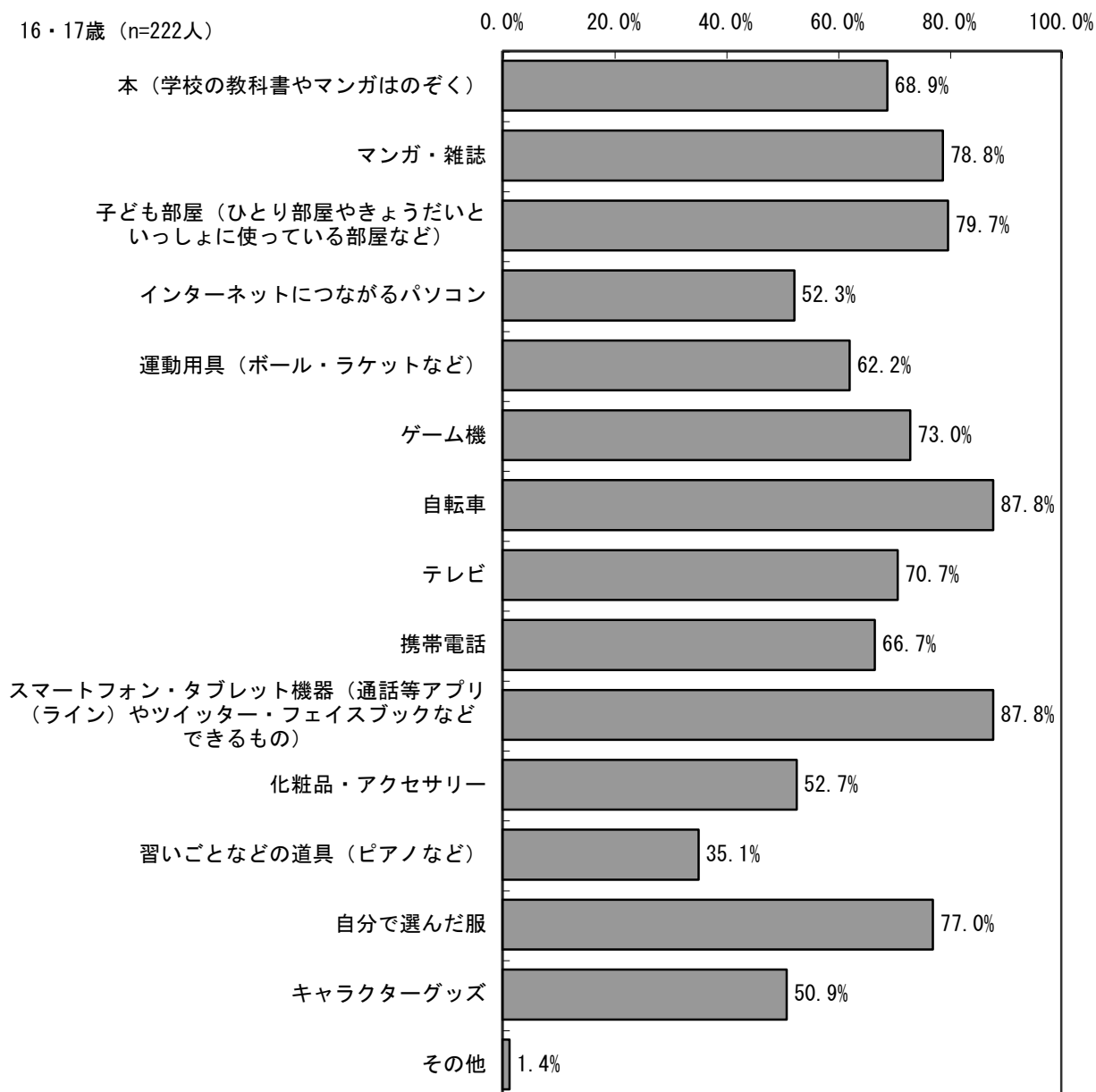
16・17歳 31. 持っているもの

問 31. あなたが、持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。

(あてはまるものすべてに○)

16・17歳の持っているものをみると、「自転車」と「スマートフォン・タブレット機器（通話等アプリ（ライン）やツイッター・フェイスブックなどできるもの）」が87.8%、「子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいといっしょに使っている部屋など）」が79.7%、「マンガ・雑誌」が78.8%となっています。

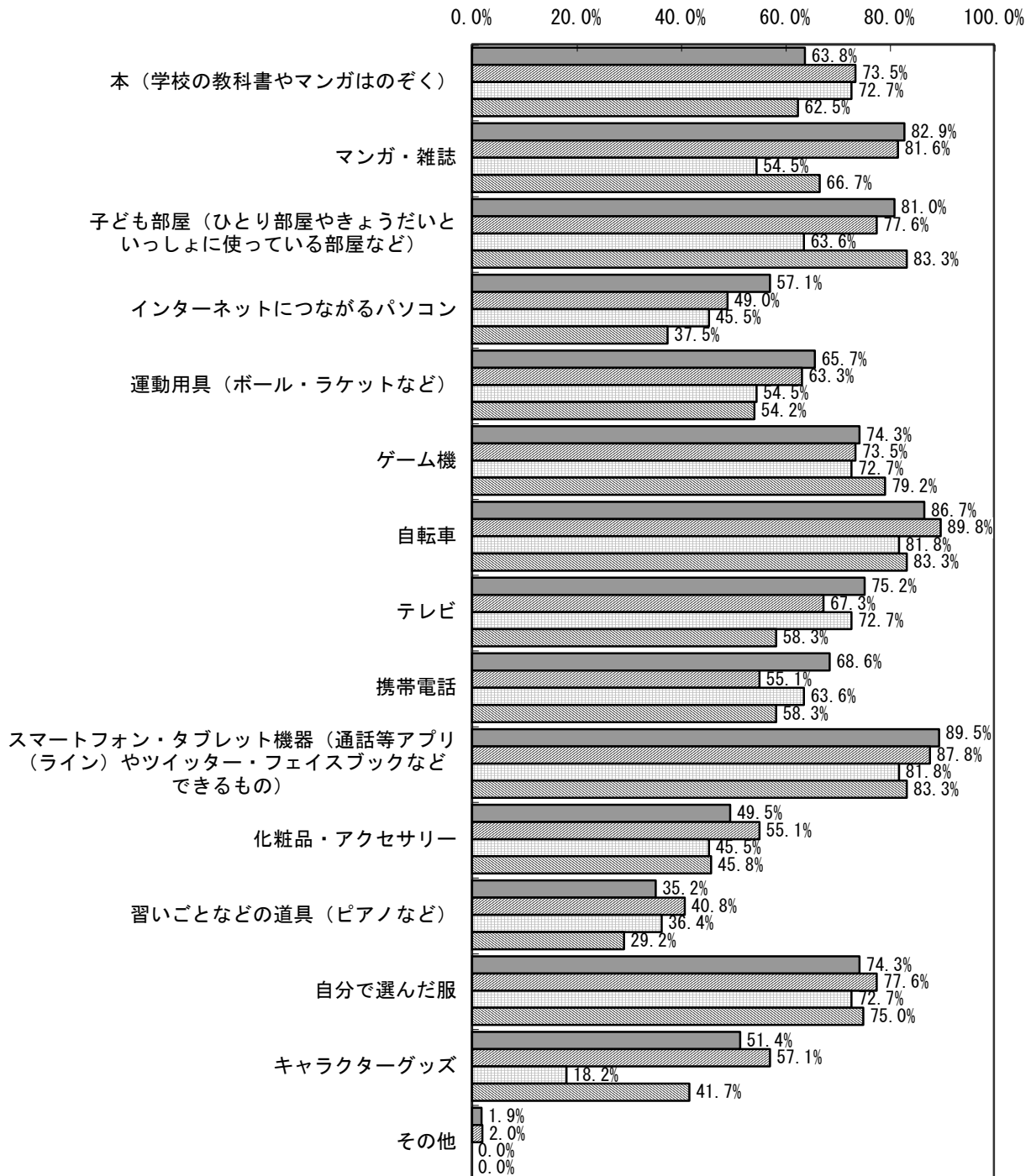
図：持っているもの（16・17歳）



困窮度別にみると、中央値以上の世帯と困窮度Ⅲの世帯の差は「本(学校の教科書やマンガはのぞく)」では9.7ポイントと最も大きく、困窮度Ⅲの世帯が中央値以上の世帯を上回っています。次いで「インターネットにつながるパソコン」では8.1ポイント、「テレビ」では7.9ポイントになっており、困窮度Ⅲの世帯が中央値以上の世帯を下回っています。

中央値以上の世帯と困窮度ⅠとⅡの差をみると、困窮度ⅠとⅡの世帯が中央値以上の世帯を下回っているものでは「マンガ・雑誌」、「インターネットにつながるパソコン」、「運動用具(ボール・ラケット)」、「テレビ」で差が大きくなっています。特に「インターネットにつながるパソコン」は中央値以上の世帯と困窮度Ⅰの世帯の差が19.6ポイントとなっています。

図：困窮度別・持っているもの(16・17歳)



■ 中央値以上(n=105人) ■ Ⅲ(n=49人) □ Ⅱ(n=11人) ▨ Ⅰ(n=24人)

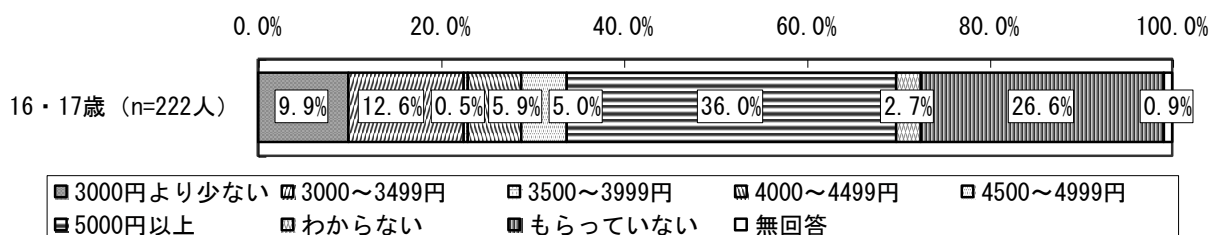
16・17歳 22. おこづかいの金額

問 22. あなたは、毎月、いくらおこづかいをもらっていますか。ただし、昼食代は含みません。

(時々もらう場合は、1ヶ月のおおよその平均の金額に○をつけてください。ただしお年玉はのぞきます)(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳のおこづかいの金額をみると、「5000円以上」が36.0%、「もらっていない」が26.6%、「3000～3499円」が12.6%となっています。

図：おこづかいの金額（16・17歳）

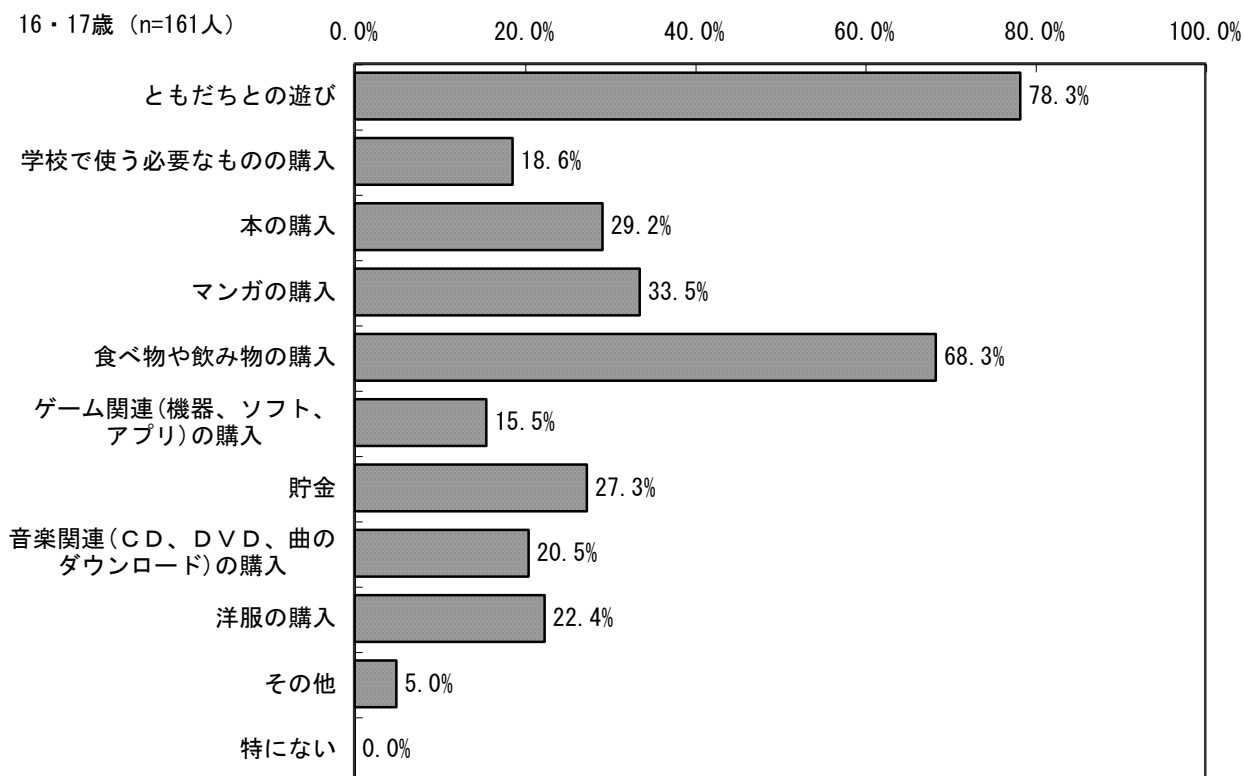


16・17歳 23. おこづかいの用途

問 23. 毎月のおこづかいは、何に使っていますか。(あてはまるものすべてに○)

16・17歳のおこづかいの用途をみると、「ともだちとの遊び」が78.3%、「食べ物や飲み物の購入」が68.3%、「マンガの購入」が33.5%となっています。おこづかいを「ともだちとの遊び」に使用している16・17歳が7割強となっており、おこづかいが友人との遊びに関係していることがうかがえます。

図：おこづかいの用途（16・17歳）



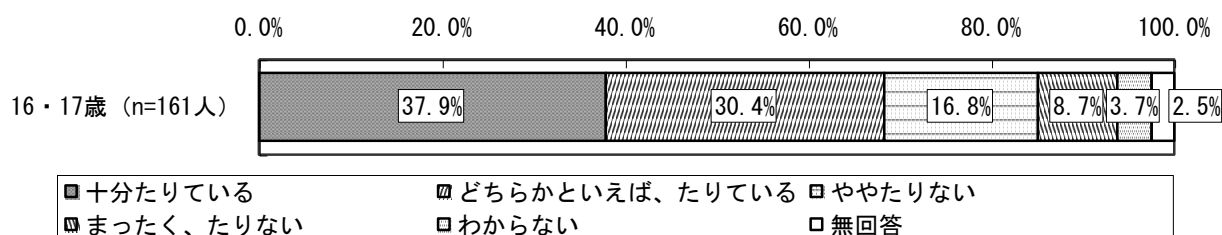
16・17歳 24. おこづかいはたりているか

問 24. 毎月のおこづかいは、たりていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳のおこづかいはたりているかをみると、「十分たりている」が37.9%、「どちらかといえば、たりている」が30.4%、「ややたりない」が16.8%となっています。

「十分たりている」と「どちらかといえば、たりている」を合計した比率が68.3%で、6割強がおこづかいはたりていると答えています。

図：おこづかいはたりているか（16・17歳）

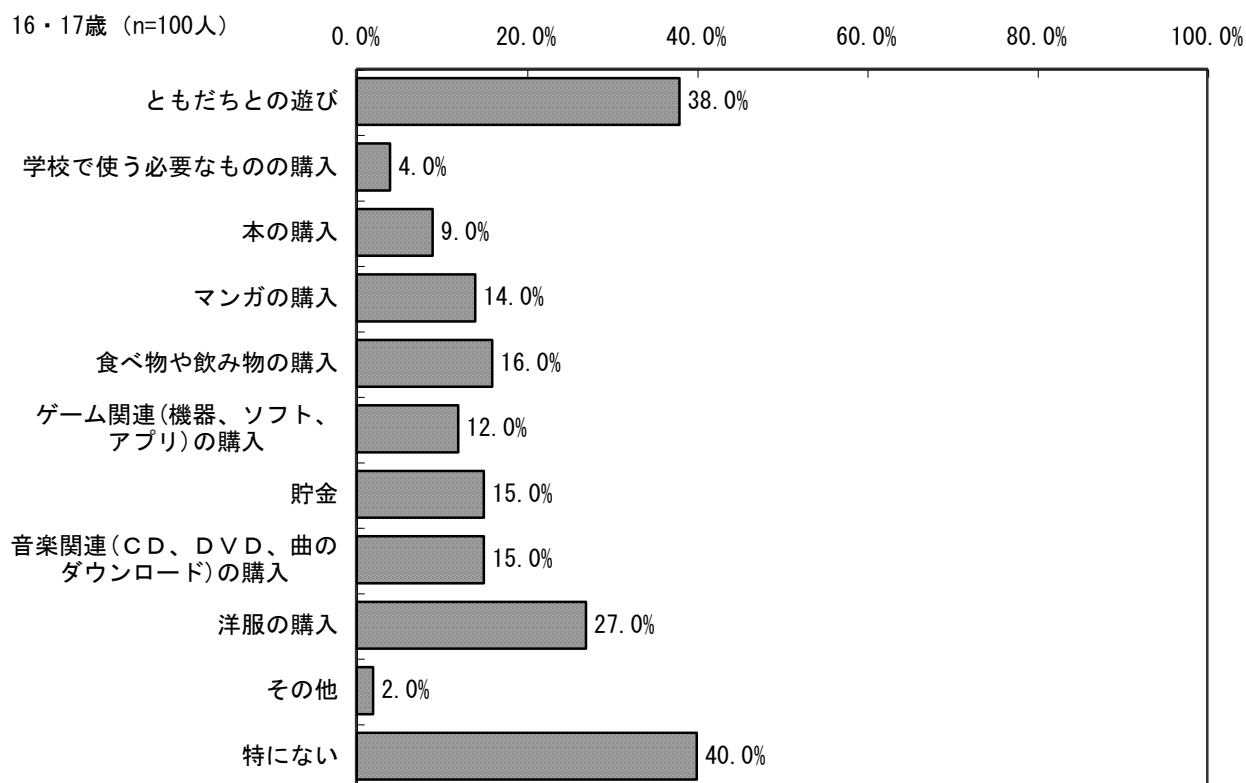


16・17歳 25. おこづかいの不足で我慢したこと

問 25. おこづかいはたりない、または、もらってないことが理由で、我慢したりできなかったりしたことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

16・17歳についておこづかいの不足で我慢したことをみると、「特にない」が40.0%、「ともだちとの遊び」が38.0%、「洋服の購入」が27.0%となり、「特にない」の次に「ともだちとの遊び」が高くなっています。

図：おこづかいの不足で我慢したこと（16・17歳）

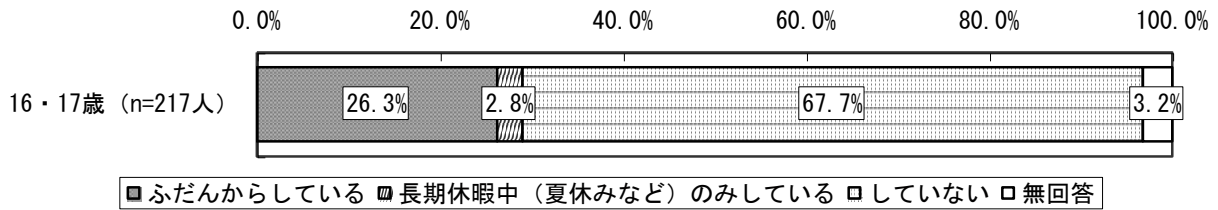


16・17歳 21. アルバイト

問 21. あなたは、アルバイトをしていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

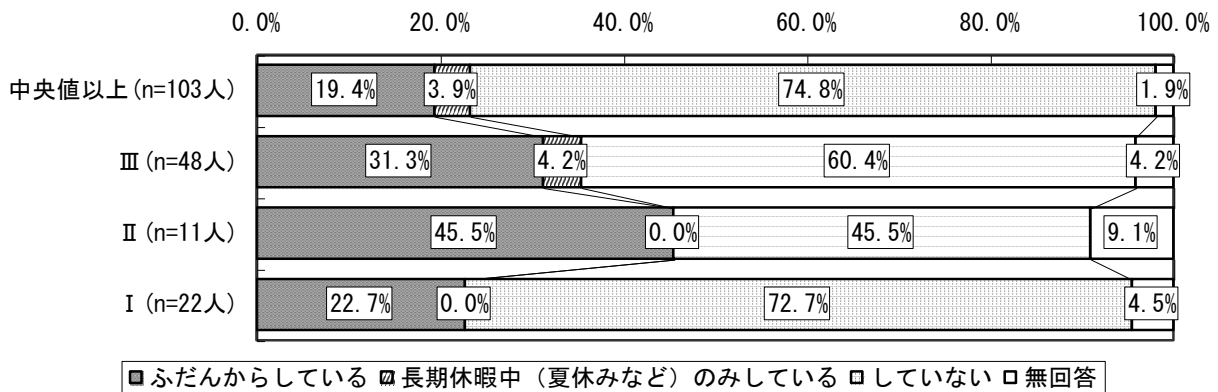
16・17歳のアルバイトの状況をみると、「していない」が67.7%、「ふだんからしている」が26.3%、「長期休暇中（夏休みなど）のみしている」が2.8%となっており、アルバイトをしていない16・17歳の比率が6割強と高くなっています。

図：アルバイト（16・17歳）



困窮度別にみると、「ふだんからしている」は困窮度Ⅱの世帯では45.5%、困窮度Ⅲの世帯では31.3%となっており、困窮度Ⅱ～Ⅲの世帯でアルバイトをしている16・17歳が多くなっています。

図：困窮度別・アルバイト（16・17歳）

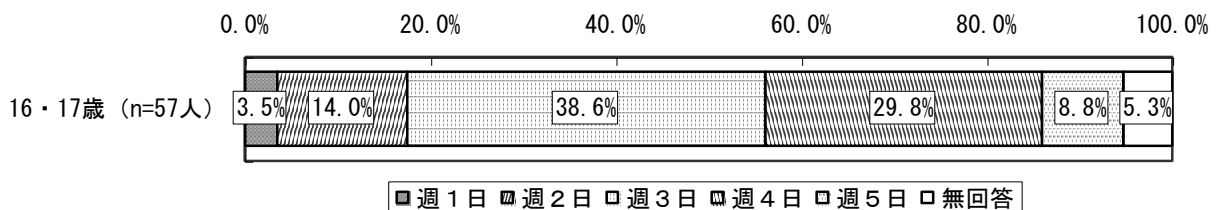


16・17歳 21- (1). アルバイトの勤務日数

問 21 (1). 勤務日数。

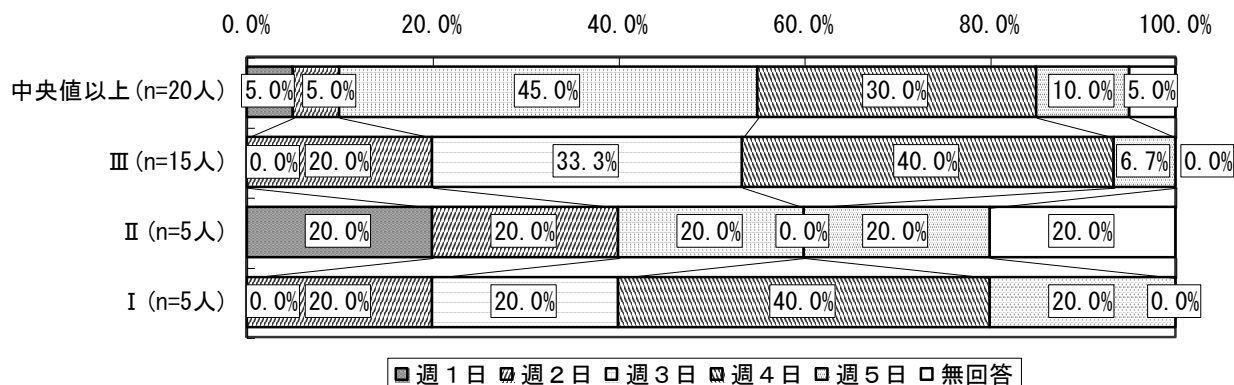
アルバイトをしている16・17歳について、アルバイトの勤務日数をみると、「週3日」が38.6%、「週4日」が29.8%、「週2日」が14.0%となっており、週3日から4日アルバイトをしている割合が約7割となっています。

図：アルバイトの勤務日数（16・17歳）



困窮度別にみると、中央値以上の世帯では「週3日」が45.0%、困窮度Ⅲの世帯では「週4日」が40.0%でそれぞれ最も多くなっています。困窮度ⅠとⅡではアルバイトをしている16・17歳はそれぞれ5人と少ないが、困窮度Ⅱでは「週4日」を除いてそれぞれ20.0%となっています。また、困窮度Ⅰでは「週4日」が40.0%、「週2日」、「週3日」、「週5日」がそれぞれ20.0%となっています。

図：困窮度別・アルバイトの勤務日数（16・17歳）

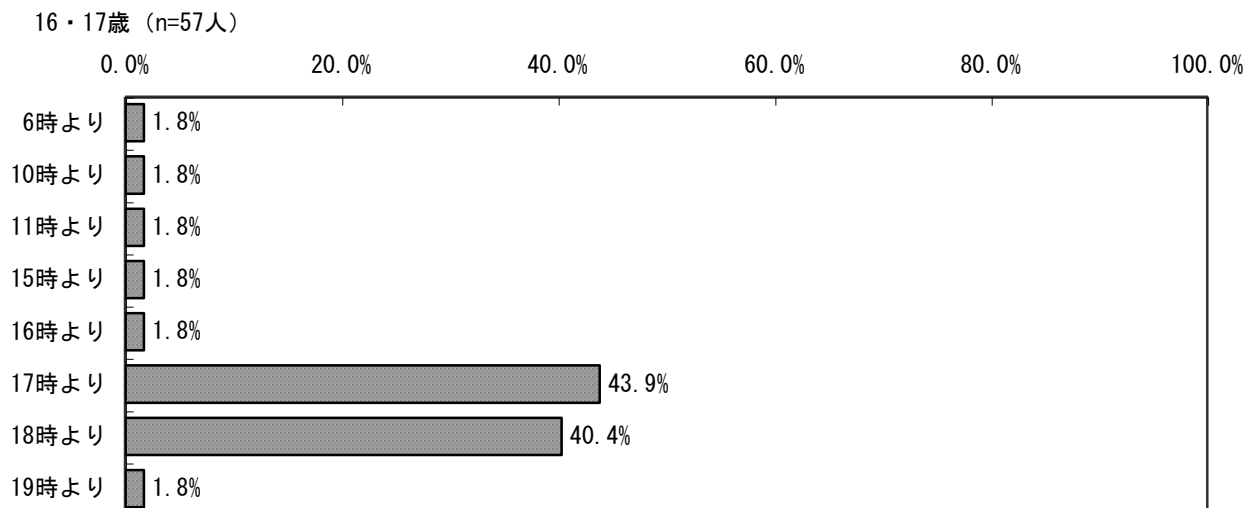


16・17歳 21- (2). アルバイトの勤務時間

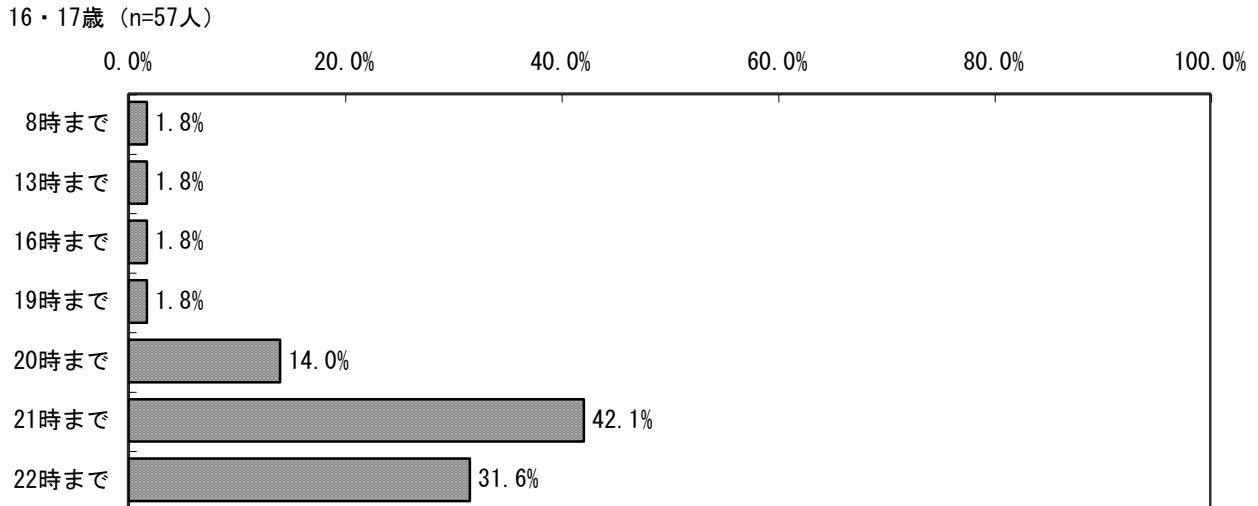
問 21 (2). 勤務時間 (日によって異なる場合は、よくある時間帯を書いてください。)

アルバイトをしている16・17歳について、16・17歳のアルバイトの勤務時間をみると平日の開始時間では、「17時より」が43.9%、「18時より」が40.4%、平日の終了時間では「21時まで」が42.1%、「22時まで」が31.6%となっており、平日のアルバイトの時間は17時から22時の間が多くなっています。

図：アルバイトの勤務時間（平日の開始時間）（16・17歳）

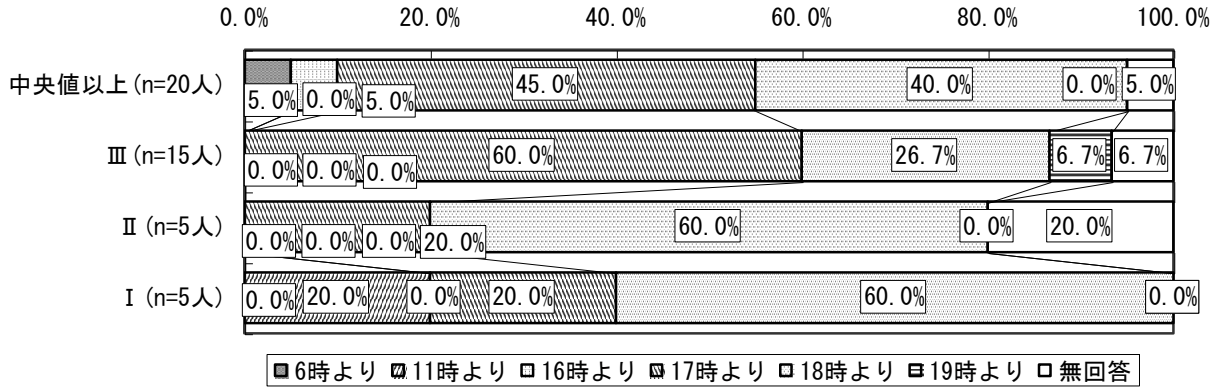


図：アルバイトの勤務時間（平日の終了時間）（16・17歳）

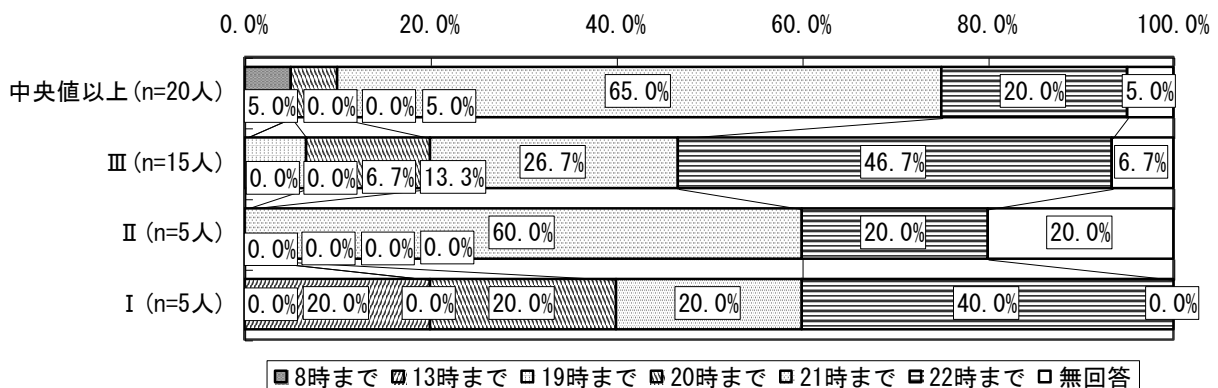


困窮度別にみると、平日の開始時間では中央値以上の世帯と困窮度Ⅲの世帯では「17時より」、困窮度ⅠとⅡの世帯では「18時より」がそれぞれ最も多くなっています。平日の終了時間では困窮度Ⅲの世帯では「22時まで」が46.7%で最も多く、中央値以上の世帯に比べて終了時間が遅い傾向がみられます。また、困窮度Ⅱでは「21時まで」が60.0%と最も多く、困窮度Ⅰでは「22時まで」が40.0%と最も多くなっています。

図：困窮度別・アルバイトの勤務時間（平日の開始時間）（16・17歳）

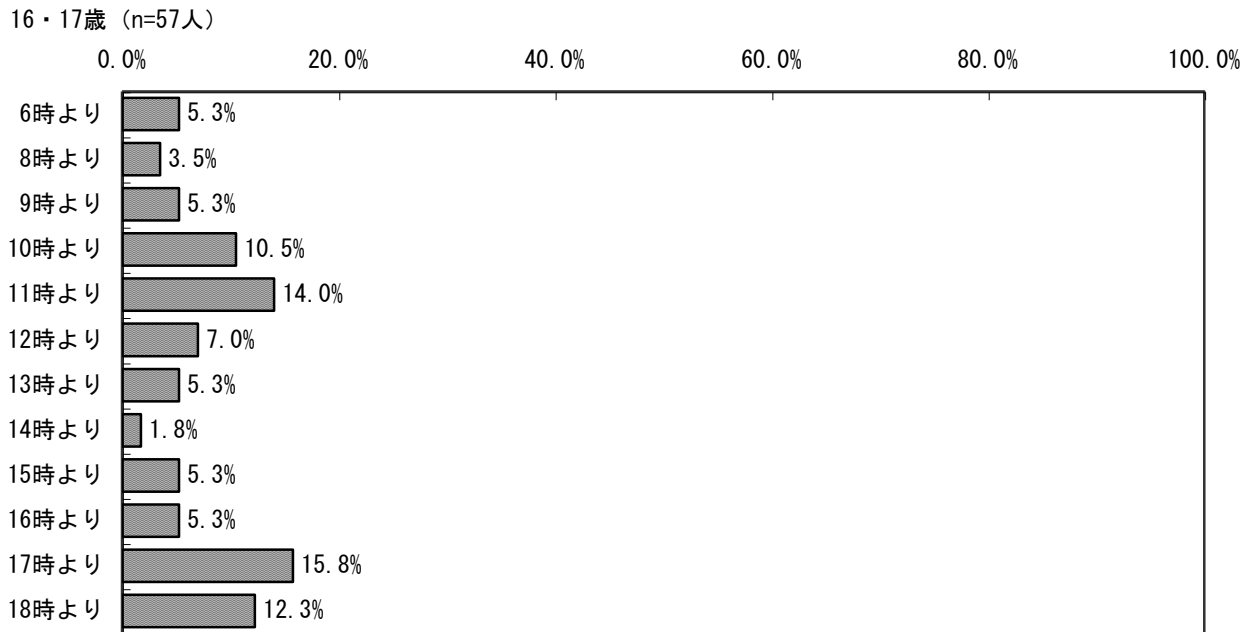


図：困窮度別・アルバイトの勤務時間（平日の終了時間）（16・17歳）

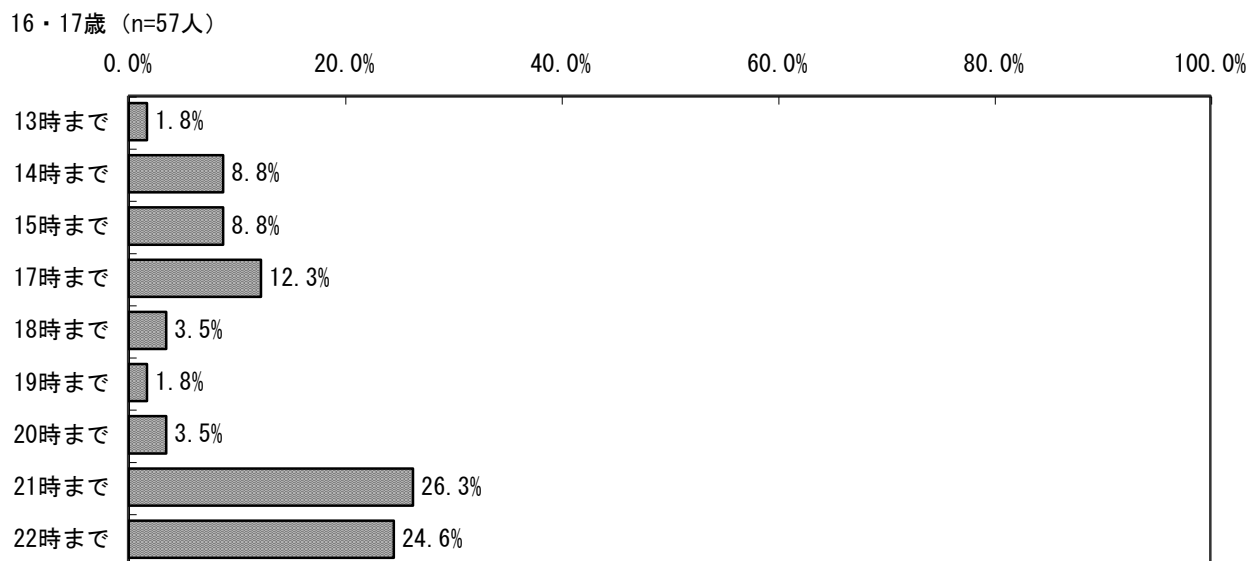


土日の開始時間では、「17時より」が15.8%、「11時より」が14.0%、土日の終了時間では「21時まで」が26.3%、「22時まで」が24.6%となっています。

図：アルバイトの勤務時間（土日の開始時間）（16・17歳）

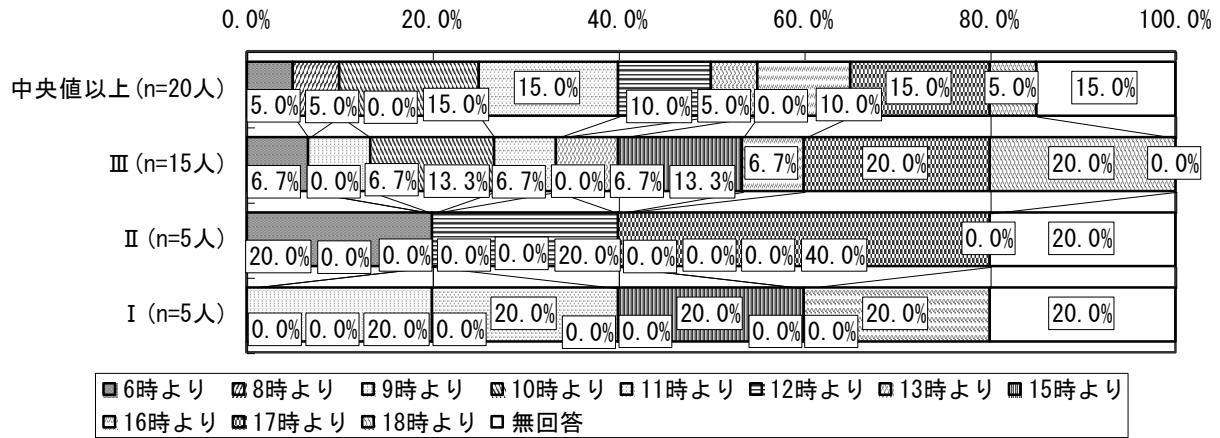


図：アルバイトの勤務時間（土日の終了時間）（16・17歳）

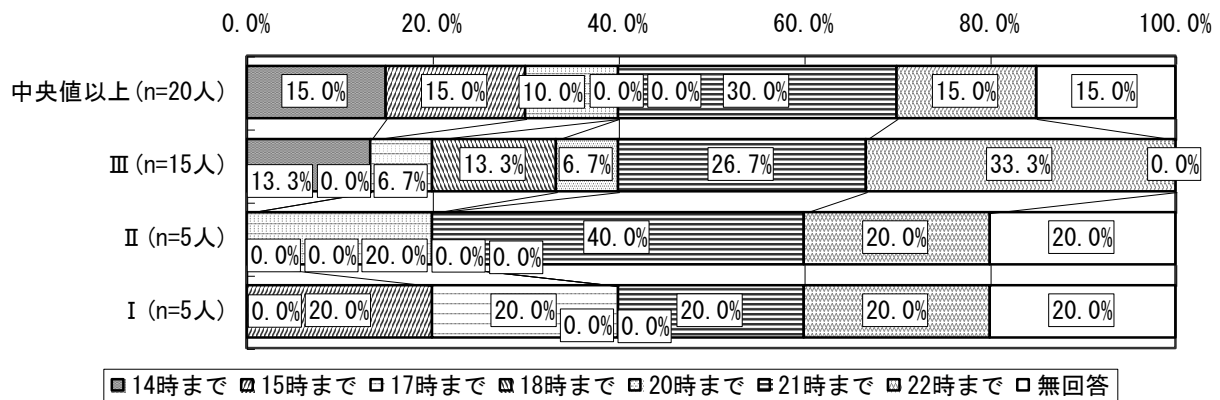


困窮度別にみると、土日の開始時間では困窮度Ⅲの世帯では17時以降が40.0%と、中央値以上の世帯(20.0%)に比べて多くなっています。土日の終了時間では困窮度Ⅲの世帯では「22時まで」が33.3%で最も多くなっており、中央値以上の世帯に比べて終了時間が遅い傾向がみられます。また、困窮度Ⅱの世帯では「21時まで」が40.0%と最も多く、困窮度Ⅰの世帯では「15時まで」、「17時まで」、「21時まで」、「22時まで」がそれぞれ20.0%となっています。

図：困窮度別・アルバイトの勤務時間（土日の開始時間）（16・17歳）



図：困窮度別・アルバイトの勤務時間（土日の終了時間）（16・17歳）



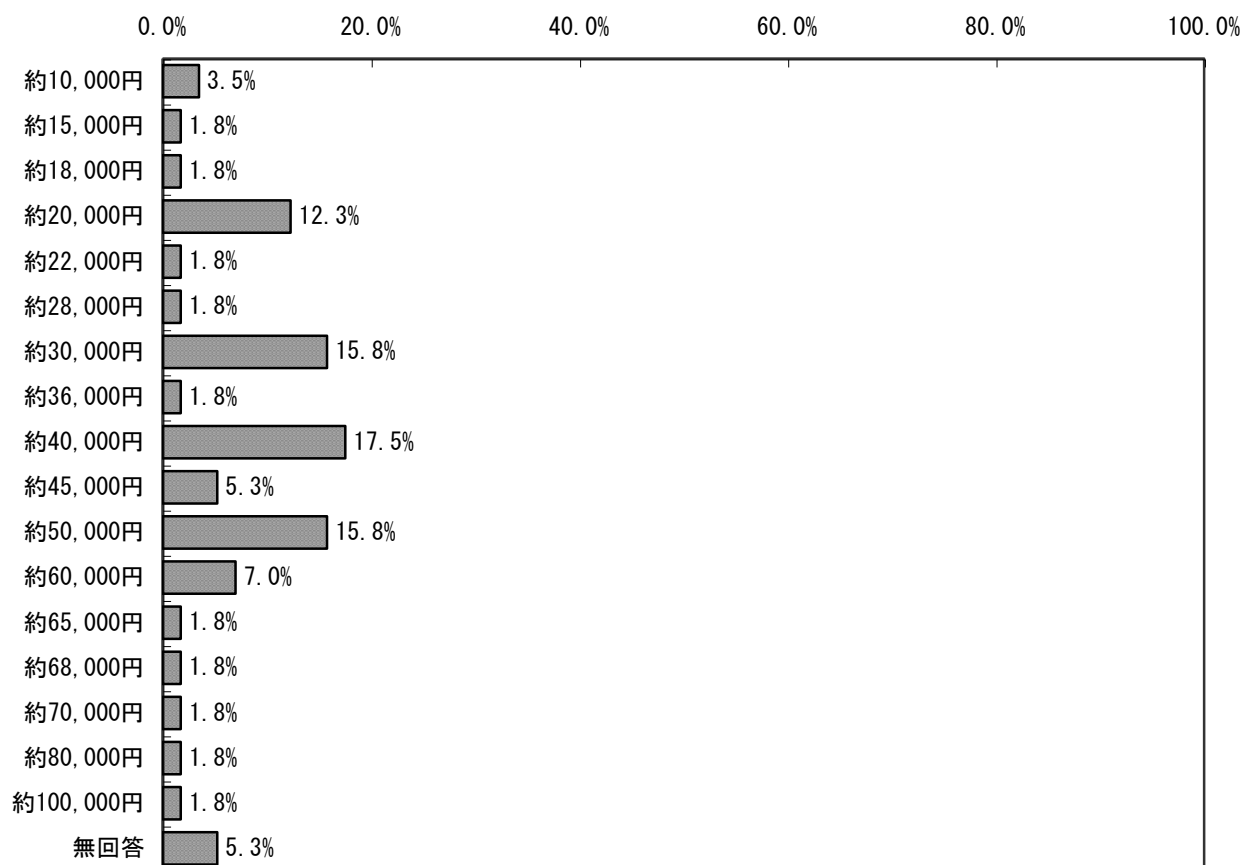
16・17歳 21- (3). アルバイトの給料

問 21 (3). 1か月のアルバイト代。

16・17歳のアルバイトの給料をみると、「約40,000円」が17.5%、「約30,000円」「約50,000円」が15.8%、「約20,000円」が12.3%となっています。

図：アルバイトの給料（16・17歳）

16・17歳 (n=57人)

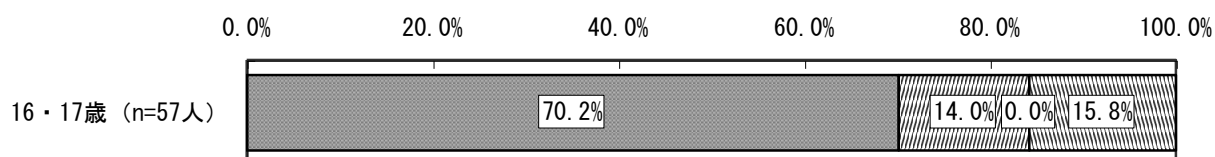


16・17歳 21- (4). 給料の使いみち

問 21 (4). アルバイト代の使いみち。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳の給料の使いみちをみると、「すべて自分のおこづかいとして使える」が70.2%、「一部を家の生活費にしている」が14.0%となっています。

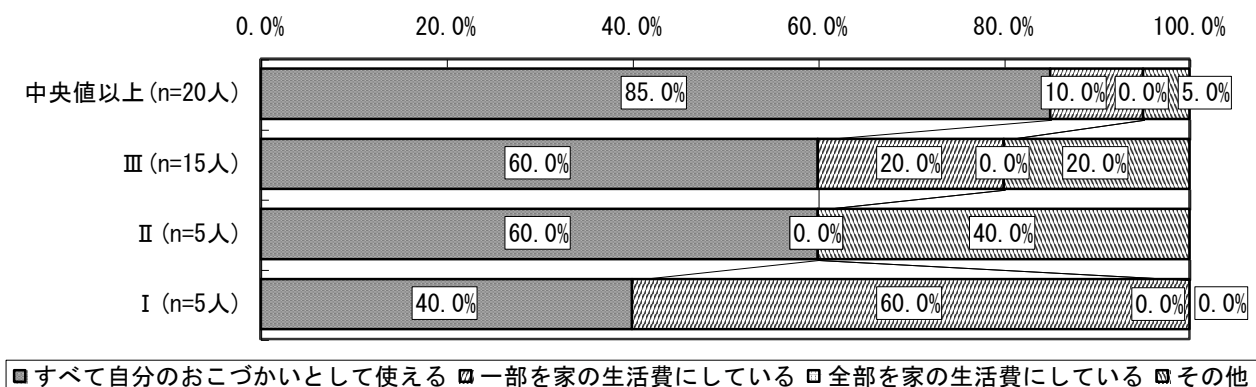
図：給料の使いみち（16・17歳）



■ すべて自分のおこづかいとして使える ■ 一部を家の生活費にしている □ 全部を家の生活費にしている ■ その他

困窮度別にみると、中央値以上の世帯では「すべて自分のおこづかいとして使える」が85.0%と8割以上を占めていますが、困窮度Ⅱ・Ⅲの世帯では60.0%、困窮度Ⅰの世帯では40.0%と少なくなっています。

図：困窮度別・給料の使いみち（16・17歳）

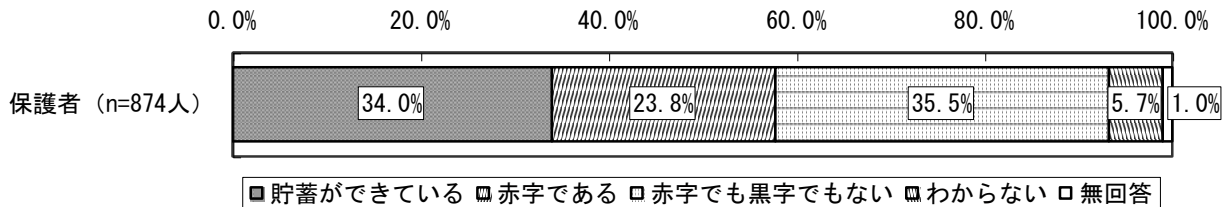


保護者 6-1. 家計状況

問6(1). 前年(2016年)の1年間のあなたの家計状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

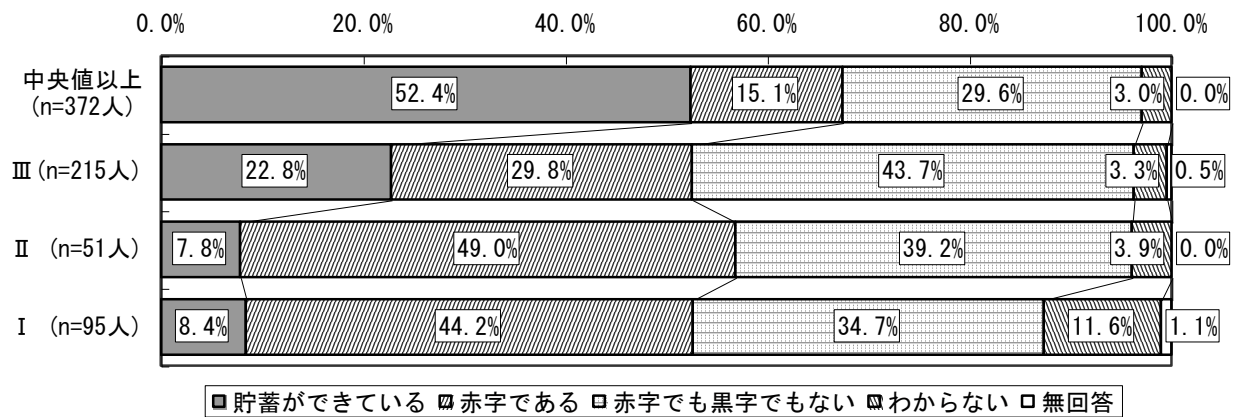
家計状況を見ると、「赤字でも黒字でもない」が35.5%、「貯蓄ができています」が34.0%、「赤字である」が23.8%となっており、3割が貯蓄することができています。

図：家計状況（保護者）



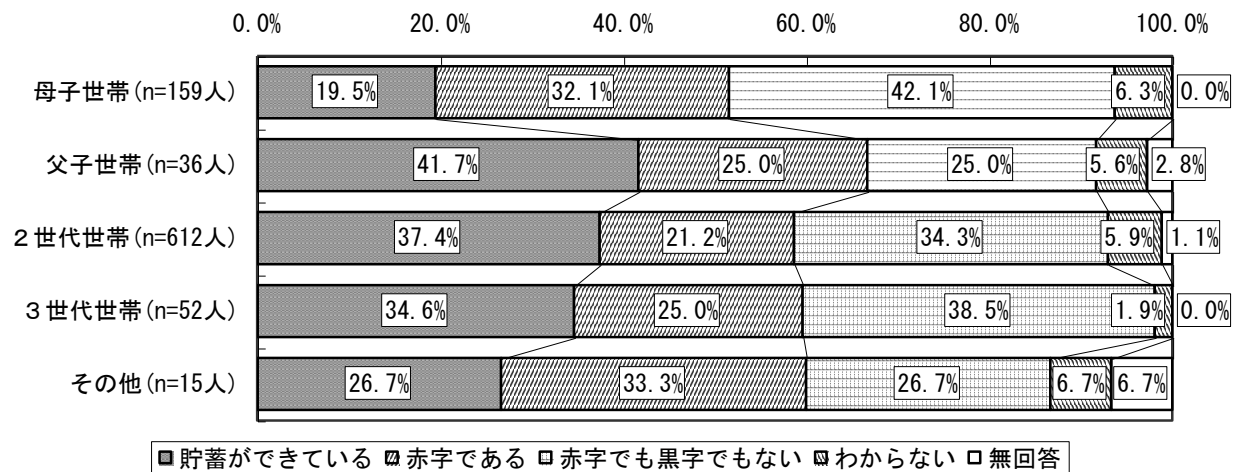
困窮度別にみると、困窮度ⅠとⅡの世帯では「貯蓄ができています」がそれぞれ1割未満と少なくなっています。また、「赤字である」がそれぞれ4割以上を占めており、困窮度Ⅱの世帯では49.0%となっています。

図：困窮度別・家計状況（保護者）



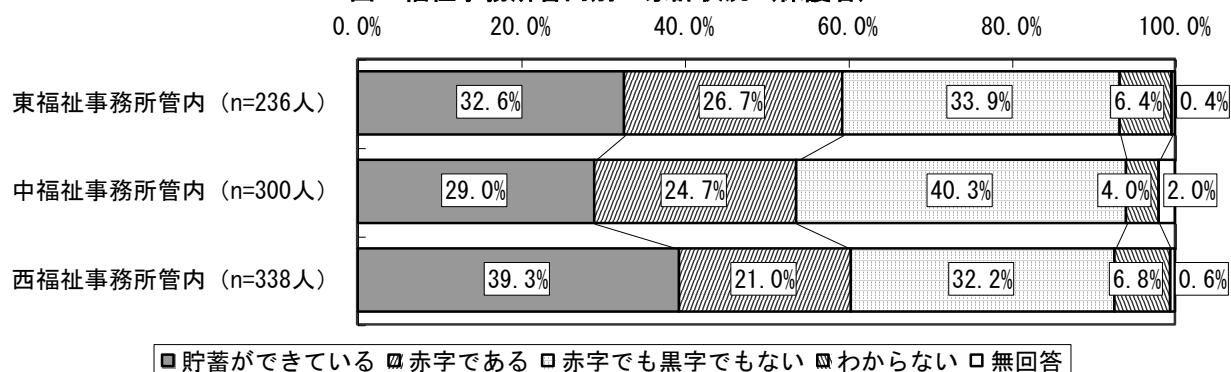
世帯類型別にみると、母子世帯は「貯蓄ができています」が少なくなっています。

図：世帯類型別・家計状況（保護者）



福祉事務所管内別にみると、いずれの地域も「赤字である」が2割以上となっており、東福祉事務所管内では26.7%と3管内のうち最も多くなっています。中福祉事務所管内は「赤字でも黒字でもない」が40.3%となっていますが、「貯蓄ができています」は29.0%となっており3管内のうち最も少なくなっています。西福祉事務所管内は「貯蓄ができています」が39.3%となっており「赤字である」または「赤字でも黒字でもない」という世帯を上回り、3管内のうちで最も多くなっています。

図：福祉事務所管内別・家計状況（保護者）

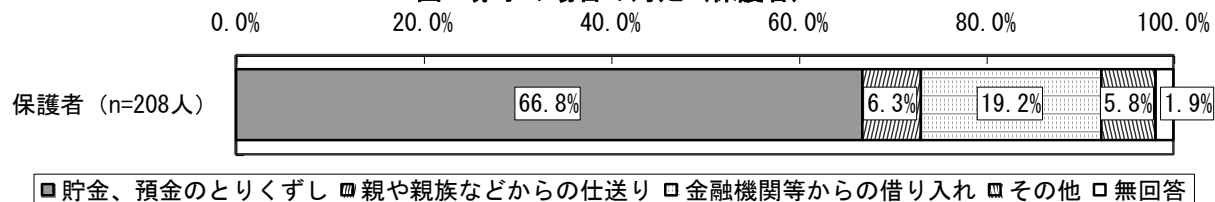


保護者 6-2. 赤字の場合の対処

問6(2). 問6(1)で2に○をした方*にお聞きします。赤字の場合はどのようにしていますか。
(あてはまるもの1つだけに○)

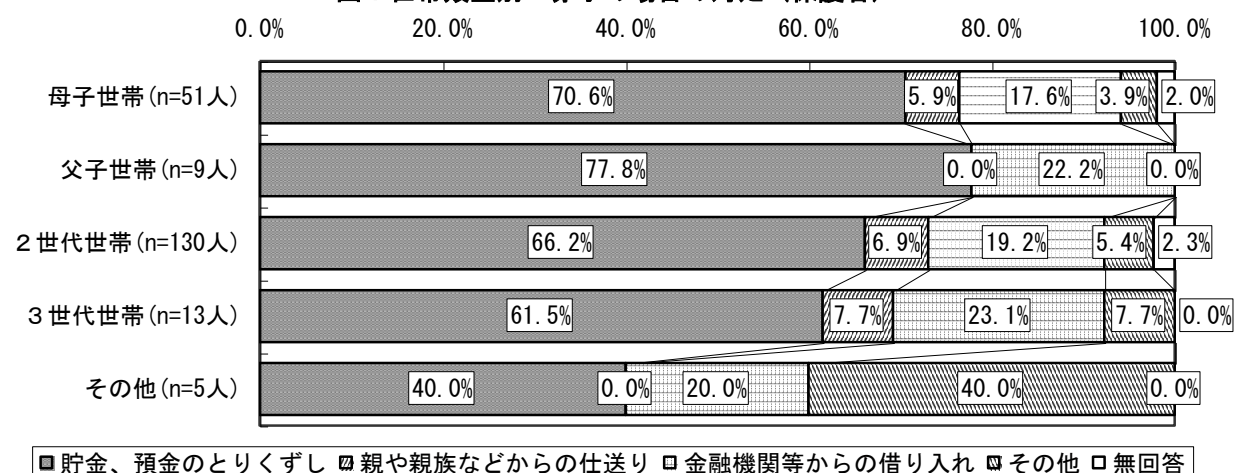
赤字の場合の対処をみると、「貯金、預金のとりくずし」が66.8%、「金融機関等からの借り入れ」が19.2%、「親や親族などからの仕送り」が6.3%となっており、6割を越える世帯で「貯金、預金のとりくずし」で赤字を補っています。

図：赤字の場合の対処（保護者）



世帯類型別にみると、「父子世帯」や「母子世帯」は「貯金、預金のとりくずし」が多くなっています。

図：世帯類型別・赤字の場合の対処（保護者）



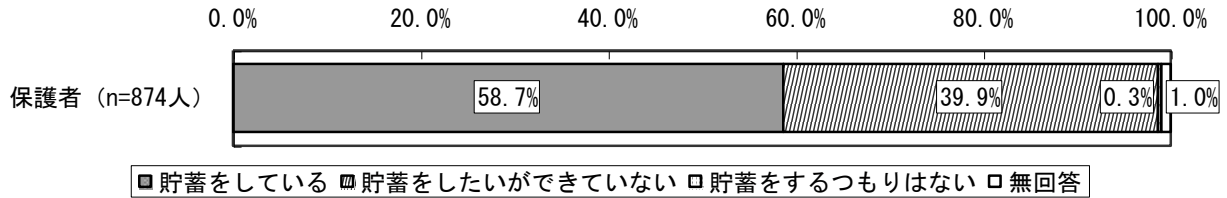
*問6(2)の質問中、「問6(1)で2に○をした方」とは家計状況について「赤字である」に回答した人のことです。

保護者 6-3. 子どものための貯蓄

問6 (3). お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

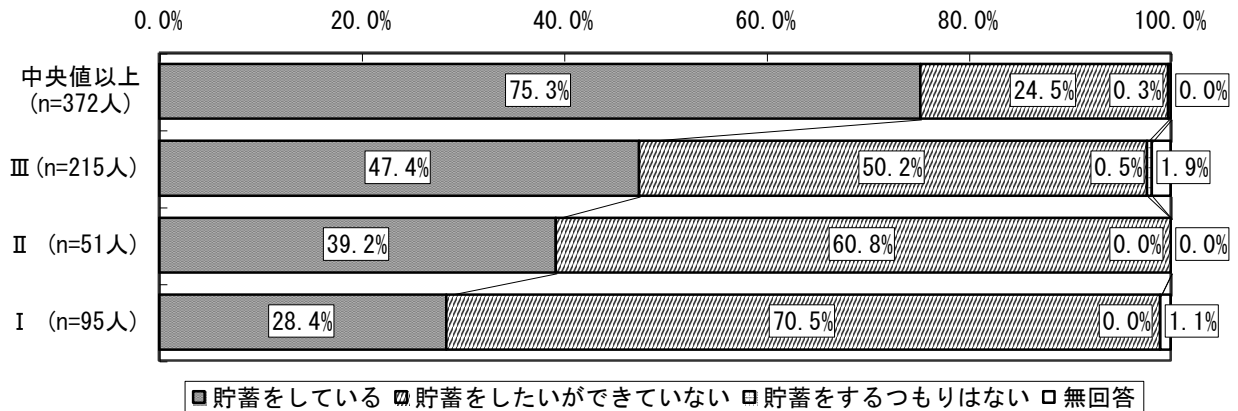
子どものための貯蓄をみると、「貯蓄をしている」が58.7%、「貯蓄をしたいができていない」が39.9%となっており、5割を超える保護者が子どものために貯蓄をしている一方、貯蓄ができていない保護者も4割近くになります。

図：子どものための貯蓄（保護者）



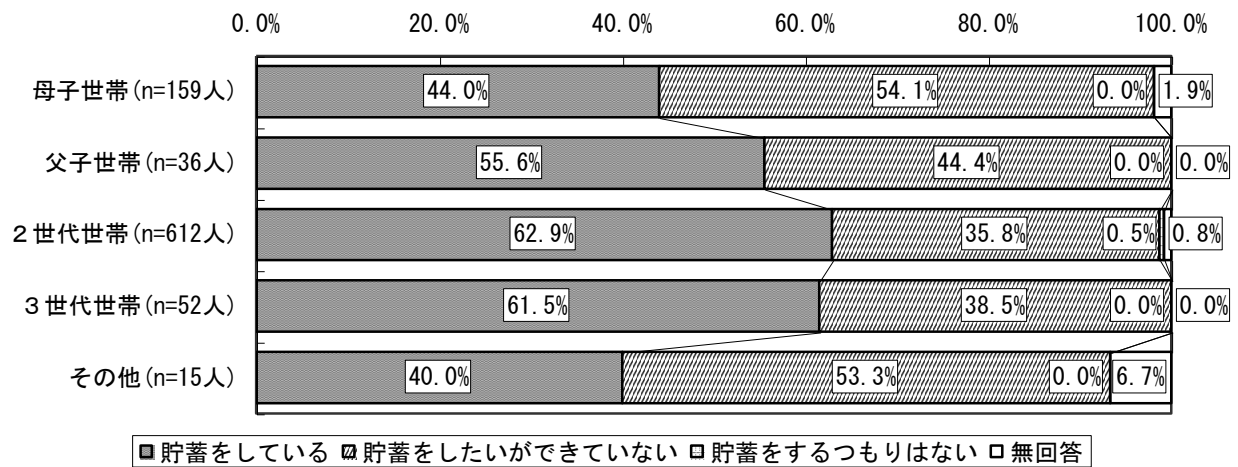
困窮度別にみると、困窮度が高い世帯ほど「貯蓄をしている」が少なくなり、「貯蓄をしたいができていない」が多くなっています。

図：困窮度別・子どものための貯蓄（保護者）



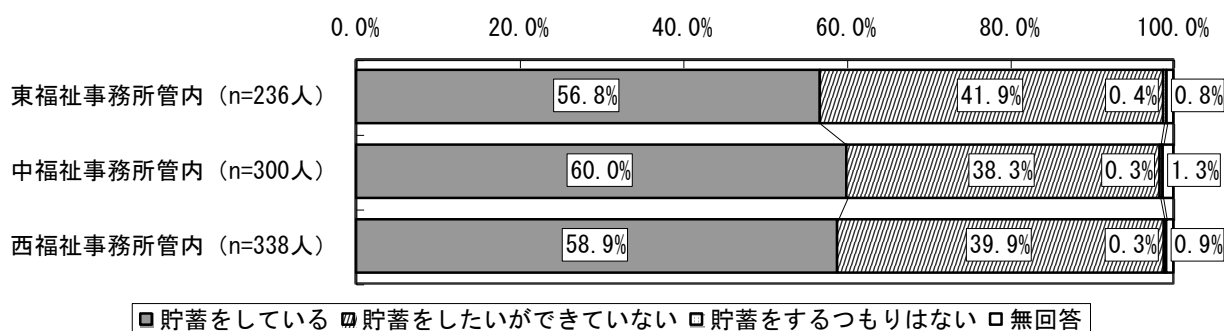
世帯類型別にみると、「2世代世帯」や「3世代世帯」は「貯蓄をしている」が多くなり、「母子世帯」は「貯蓄をしている」が少なくなっています。

図：世帯類型別・子どものための貯蓄（保護者）



福祉事務所管内別にみると、いずれの地域も「貯蓄をしている」が5割以上となっており、中福祉事務所管内が60.0%と最も多くなっています。「貯蓄をしたいができていない」は東福祉事務所管内が41.9%と最も多くなっています。

図：福祉事務所管内別・子どものための貯蓄（保護者）

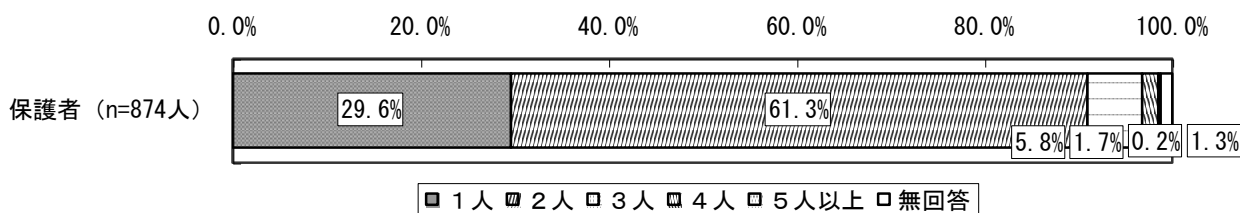


保護者 38-1. 世帯収入のある人数

問 38(1). あなたの世帯で収入のある方の人数を教えてください。(あてはまるもの1つだけに○)

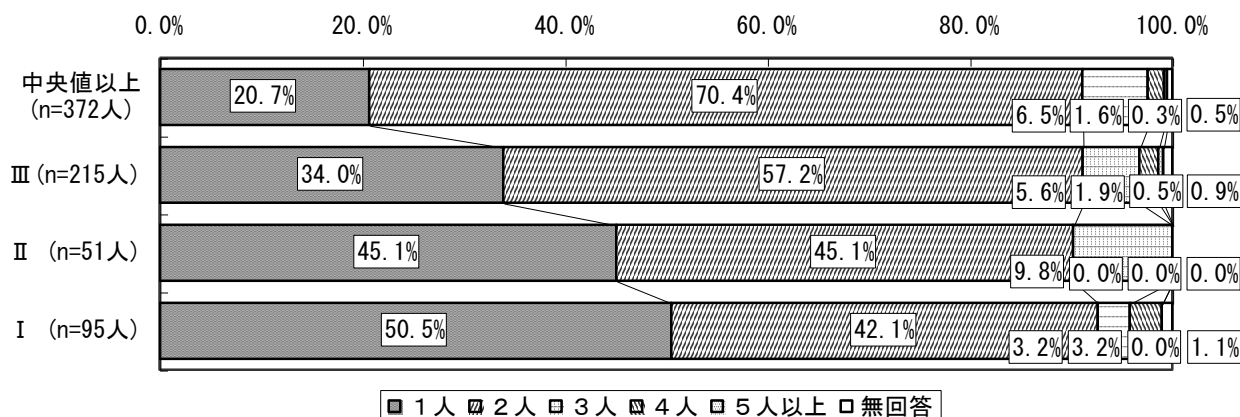
世帯収入のある人数をみると、「2人」が61.3%、「1人」が29.6%、「3人」が5.8%となっています。収入のある人数が2人以上の世帯は69.0%となっており、約7割が複数人による世帯収入を得ています。

図：世帯収入のある人数（保護者）



困窮度別にみると、困窮度が高い世帯ほど「1人」が多くなり、「2人」が少なくなっています。

図：困窮度別・世帯収入のある人数（保護者）



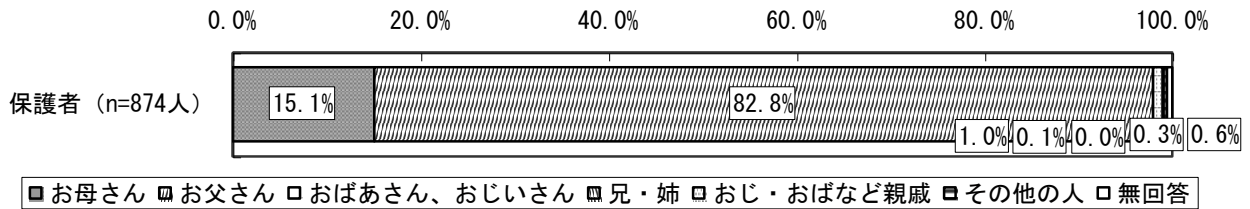
保護者 38-2. 生計を支えている人

問 38 (2). あなたの世帯で主に生計を支えている方はどなたですか。

(お子さんからみた続柄でお答えください) (あてはまるもの1つだけに○)

主に生計を支えている人を見ると、「お父さん」が82.8%、「お母さん」が15.1%となっています。

図：生計を支えている人（保護者）

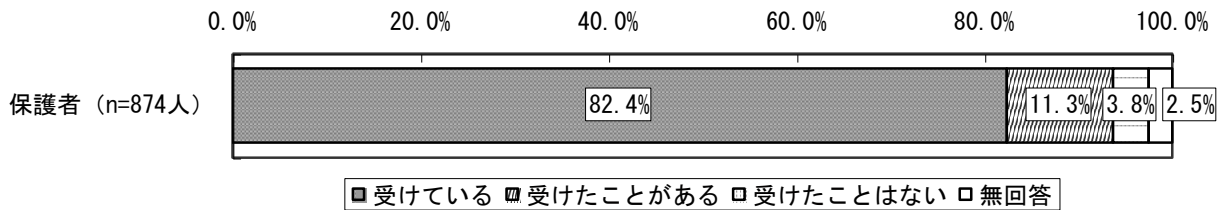


保護者 38-3-A. 児童手当

問 38 (3) A. 児童手当を受けていますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

児童手当の受給状況を見ると、「受けている」が82.4%、「受けたことがある」が11.3%、「受けたことはない」が3.8%となっています。

図：児童手当（保護者）

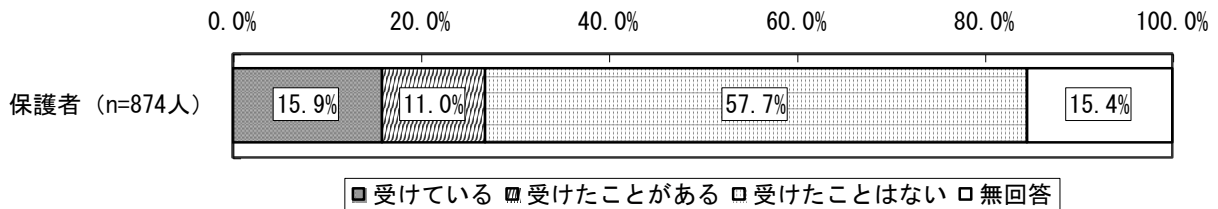


保護者 38-3-B. 就学援助費

問 38 (3) B. 就学援助費を受けていますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

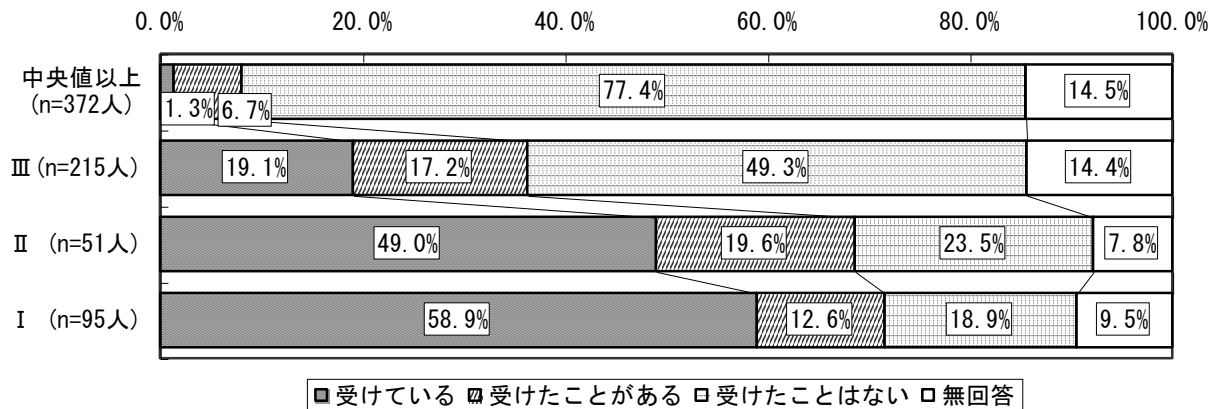
就学援助費の受給状況を見ると、「受けたことはない」が57.7%、「受けている」が15.9%、「受けたことがある」が11.0%となっています。

図：就学援助費（保護者）



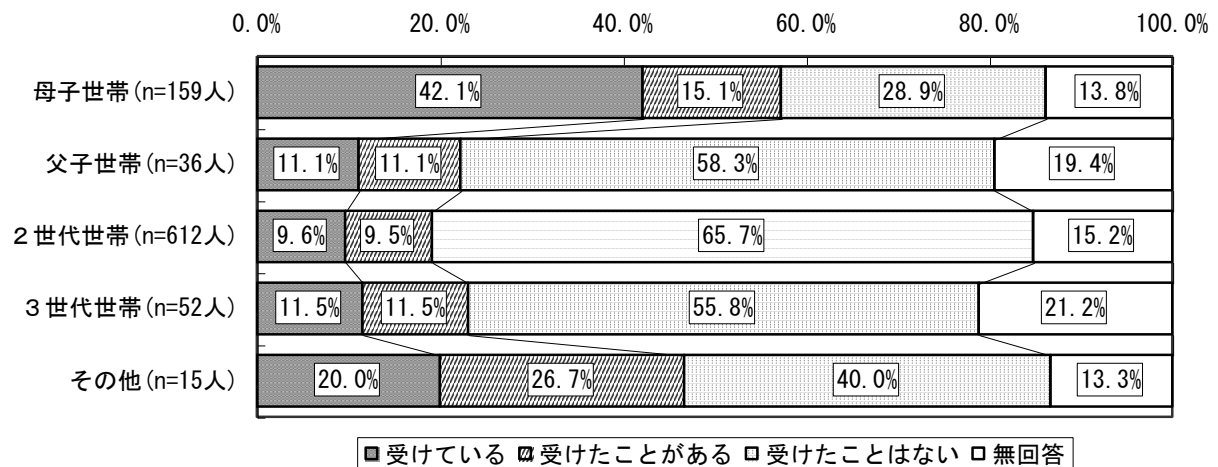
困窮度別にみると、困窮度が高い世帯ほど「受けている」が多くなり、困窮度Ⅰの世帯では58.9%、困窮度Ⅱの世帯では49.0%となっています。

図：困窮度別・就学援助費（保護者）



世帯類型別にみると、母子世帯は「受けている」が42.1%と多く、「受けたことがある」の15.1%を足すと、「受けたことがある」または「受けている」世帯が5割以上となっています。

図：世帯類型別・就学援助費（保護者）

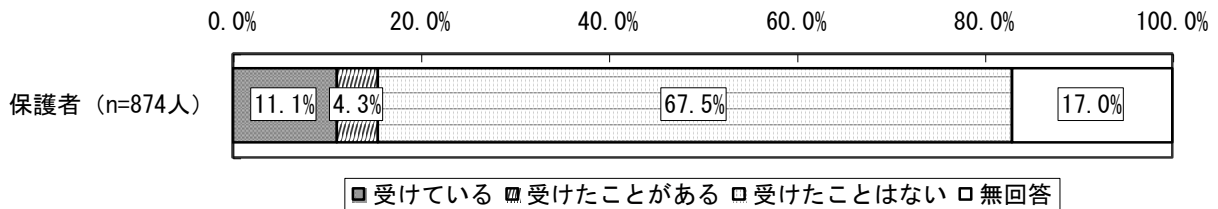


保護者 38-3-C. 児童扶養手当

問 38 (3) C. 児童扶養手当を受けていますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

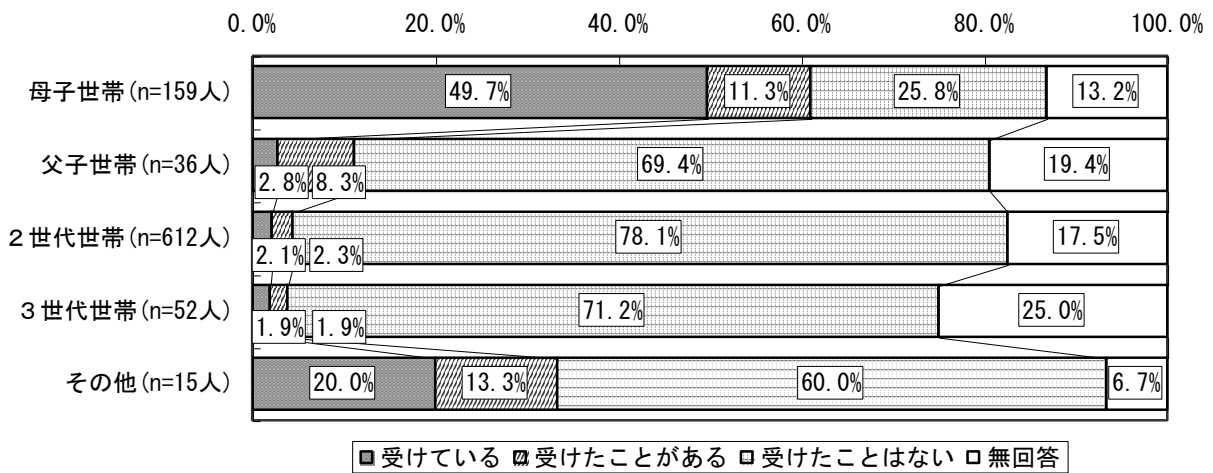
児童扶養手当の受給状況を見ると、「受けたことはない」が67.5%、「受けている」が11.1%、「受けたことがある」が4.3%となっています。

図：児童扶養手当（保護者）



世帯類型別にみると、母子世帯では「受けている」が49.7%と最も多く、約5割となっており、「受けたことはない」が25.8%となっています。父子世帯では「受けている」は2.8%とわずかですが、「受けたことがある」を合わせると11.1%となっており、約1割に受給経験があります。また、父子世帯では「受けたことはない」が69.4%と約7割を占めています。

図：世帯類型別・児童扶養手当（保護者）

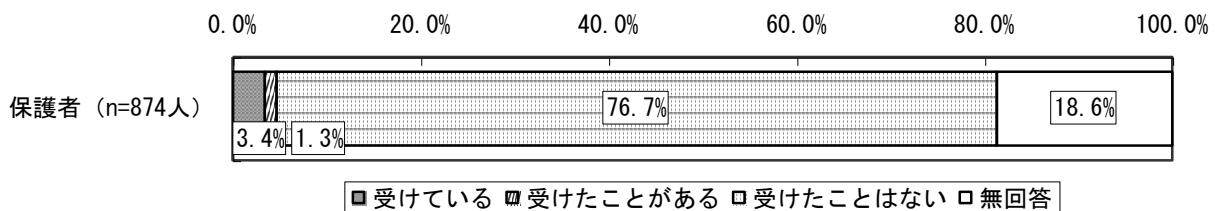


保護者 38-3-D. 障害や難病の手当

問 38 (3) D. 障害や難病の手当を受けていますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

障害や難病の手当の受給状況を見ると、「受けたことはない」が76.7%、「受けている」が3.4%、「受けたことがある」が1.3%となっています。

図：障害や難病の手当（保護者）

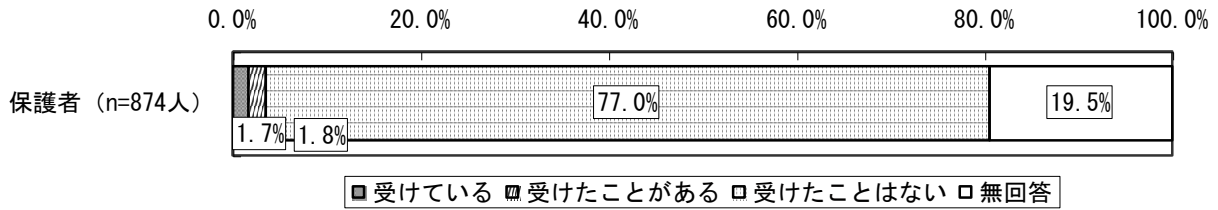


保護者 38-3-E. 生活保護

問 38 (3) E. 生活保護を受けていますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

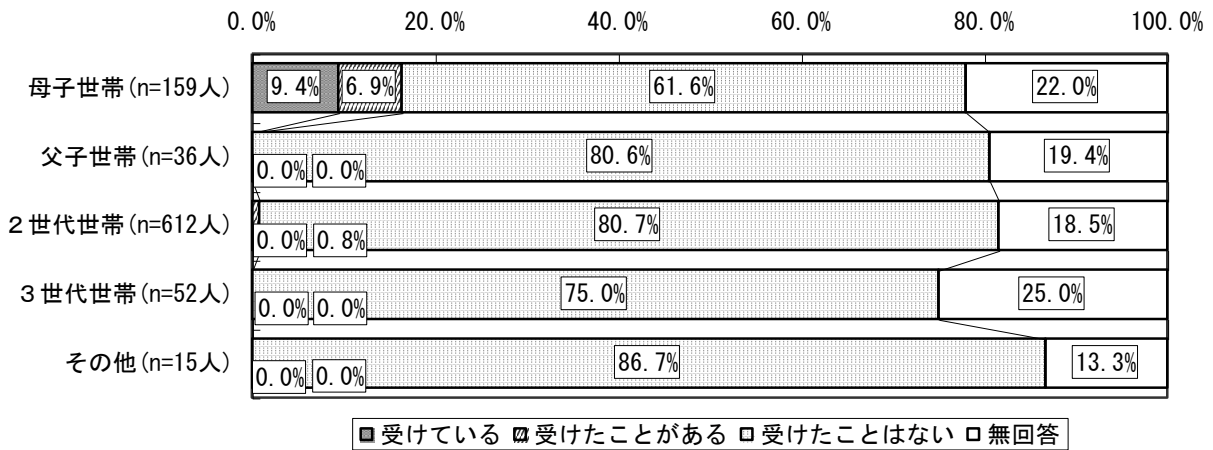
生活保護の受給状況を見ると、「受けたことはない」が 77.0%、「受けたことがある」が 1.8%、「受けている」が 1.7%となっています。

図：生活保護（保護者）



世帯類型別にみると、生活保護を「受けている」は母子世帯が 9.4%と約 1 割を占めています。また、「受けたことがある」では母子世帯が 6.9%、2 世代世帯が 0.8%となっています。「受けている」と「受けたことがある」を合わせると、母子世帯では 16.3%となっており、2 割弱に受給経験があります。

図：世帯類型別・生活保護（保護者）



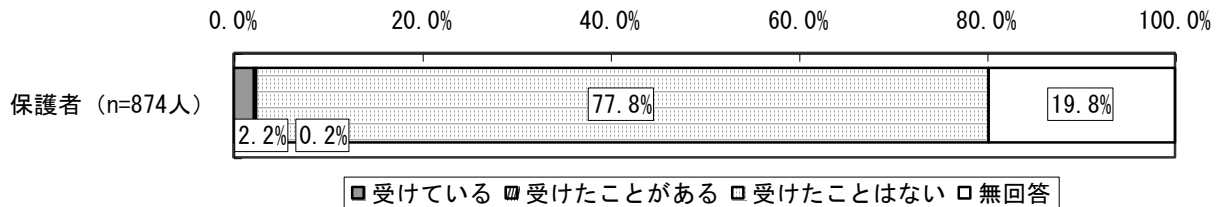
保護者 38-3-F. 公的年金（老齢年金）

問 38（3）F. 公的年金（老齢年金）を受けていますか。

（あてはまるもの1つに○をつけてください）

公的年金（老齢年金）の受給状況を見ると、「受けたことはない」が77.8%、「受けている」が2.2%、「受けたことがある」が0.2%となっています。

図：公的年金（老齢年金）（保護者）



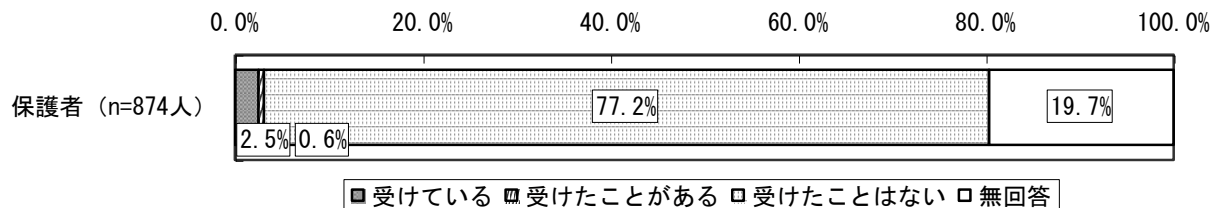
保護者 38-3-G. 公的年金（遺族年金・障害年金）

問 38（3）G. 公的年金（遺族年金・障害年金）を受けていますか。

（あてはまるもの1つに○をつけてください）

公的年金（遺族年金・障害年金）の受給状況を見ると、「受けたことはない」が77.2%、「受けている」が2.5%、「受けたことがある」が0.6%となっています。

図：公的年金（遺族年金・障害年金）（保護者）



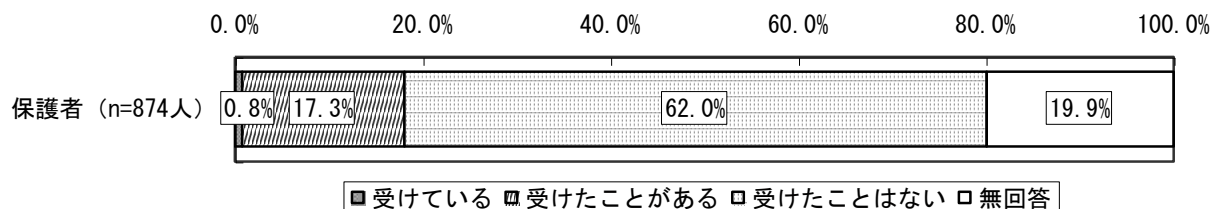
保護者 38-3-H. 雇用保険（失業保険）

問 38（3）H. 雇用保険（失業保険）を受けていますか。

（あてはまるもの1つに○をつけてください）

雇用保険（失業保険）の受給状況を見ると、「受けたことはない」が62.0%、「受けたことがある」が17.3%、「受けている」が0.8%となっています。

図：雇用保険（失業保険）（保護者）

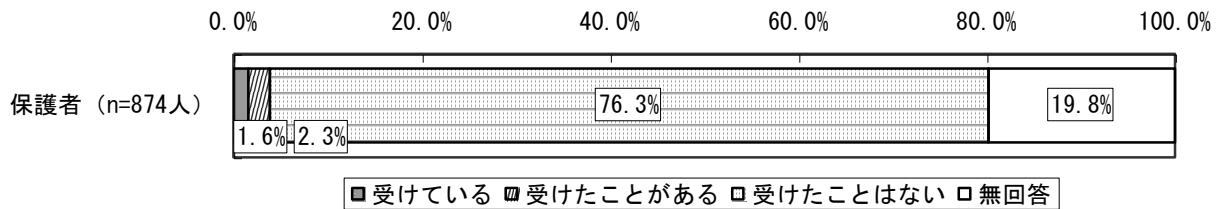


保護者 38-3-I. 養育費

問 38 (3) I. 養育費を受けていますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

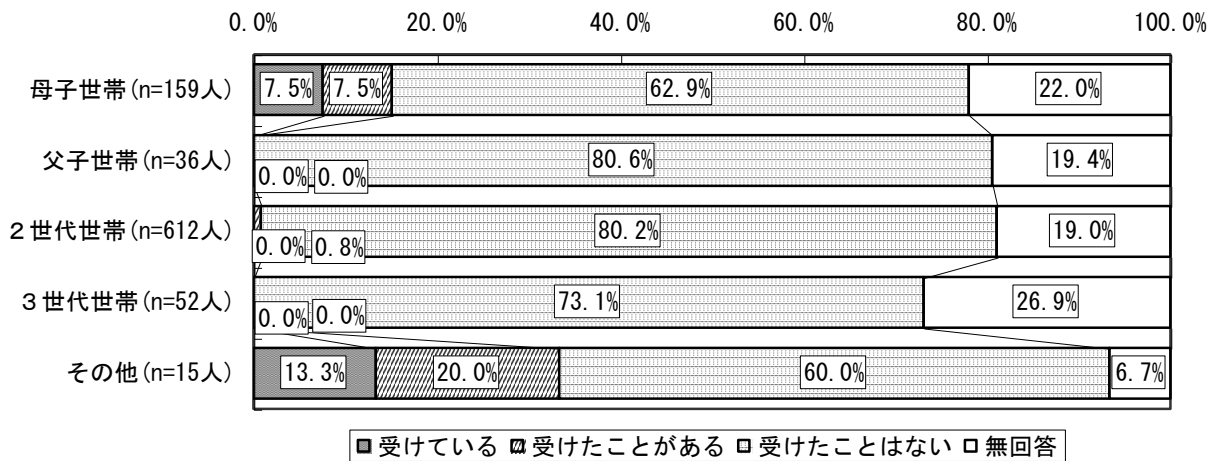
養育費の受給状況を見ると、「受けたことはない」が76.3%、「受けたことがある」が2.3%、「受けている」が1.6%となっています。

図：養育費（保護者）



世帯類型別にみると、母子世帯は「受けている」が7.5%、「受けたことがある」が7.5%となっています。父子世帯は「受けている」「受けたことがある」がともに0.0%となっています。

図：世帯類型別・養育費（保護者）

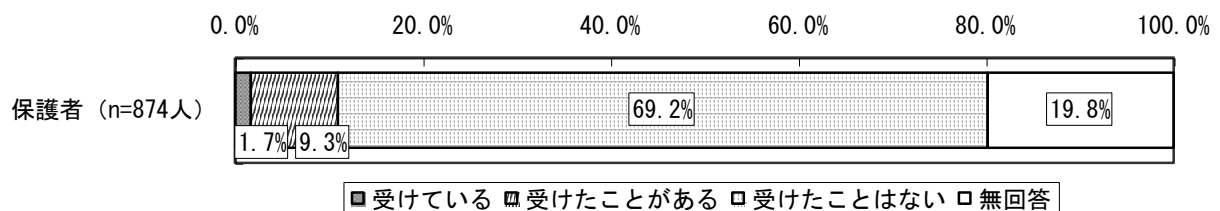


保護者 38-3-J. 親・親族からの仕送り

問 38 (3) J. 親・親族からの仕送りを受けていますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

親・親族からの仕送りの状況を見ると、「受けたことはない」が69.2%、「受けたことがある」が9.3%、「受けている」が1.7%となっています。

図：親・親族からの仕送り（保護者）

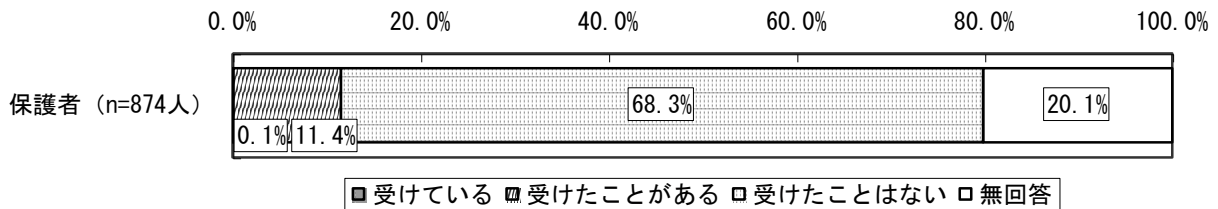


保護者 38-3-K. 退職金

問 38 (3) K. 退職金を受けていますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

退職金の状況を見ると、「受けたことはない」が68.3%、「受けたことがある」が11.4%、「受けている」が0.1%となっています。

図：退職金（保護者）



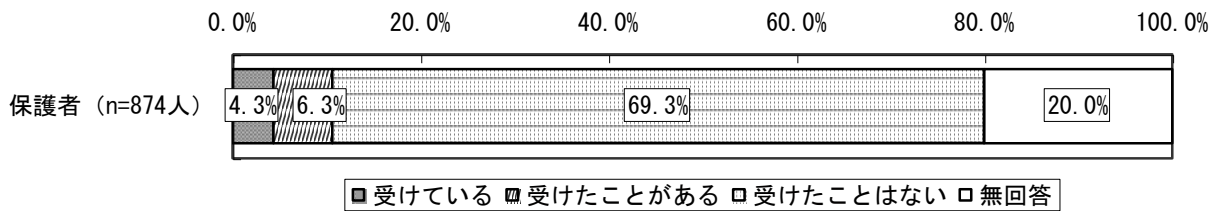
保護者 38-3-L. その他、株式配当などの副収入

問 38 (3) L. その他、株式配当などの副収入がありますか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

その他、株式配当などの副収入の状況を見ると、「受けたことはない」が69.3%、「受けたことがある」が6.3%、「受けている」が4.3%となっています。

図：その他、株式配当などの副収入（保護者）



保護者 9-1. 母親の就業状況

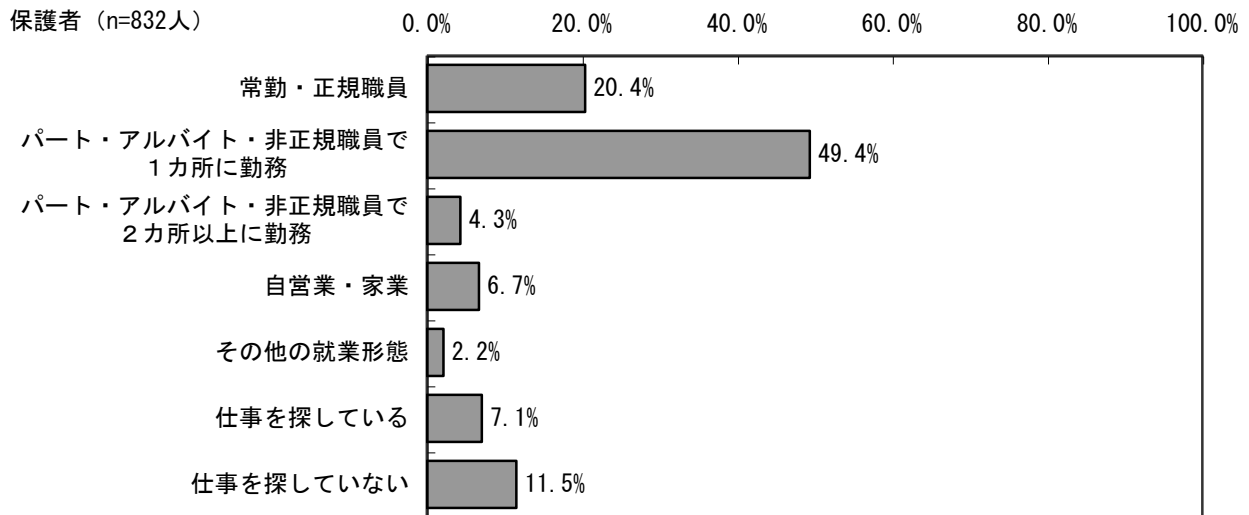
問9 (1). お母さんの就業状況についておたずねします。

※複数力所に勤めている場合は、あてはまるものすべてに○をしてください。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号に○をしてください。

母親の就業状況を見ると、「パート・アルバイト・非正規職員で1カ所に勤務」が49.4%、「常勤・正規職員」が20.4%、「仕事を探していない」が11.5%となっており、母親の8割が働いていますが、「常勤・正規職員」の比率は約2割となっています。

図：母親の就業状況（保護者）

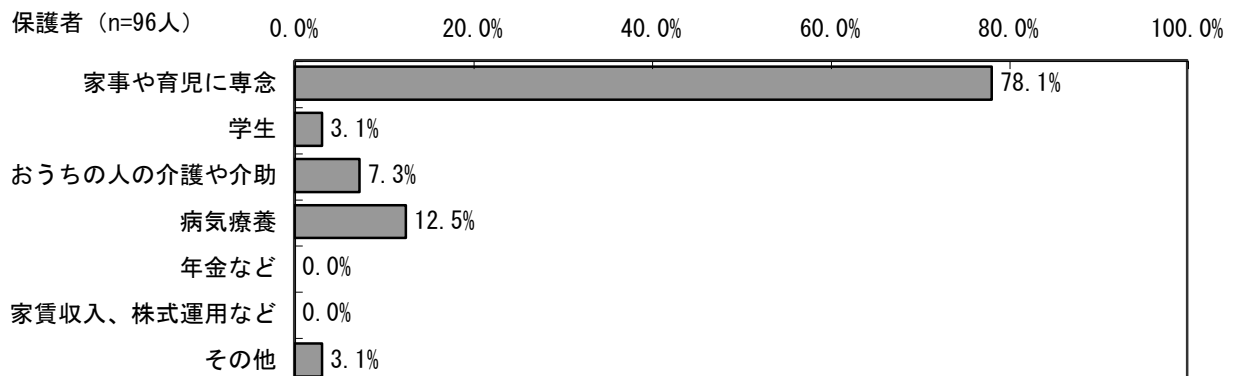


保護者 9-1. 仕事を探していない理由（母親）

問9 (1). 仕事を探していない理由は何ですか。

現在仕事を探していない母親についてその理由をみると、「家事や育児に専念」が78.1%、「病気療養」が12.5%となっています。

図：仕事を探していない理由（母親）（保護者）



保護者 9-2. 父親の就業状況

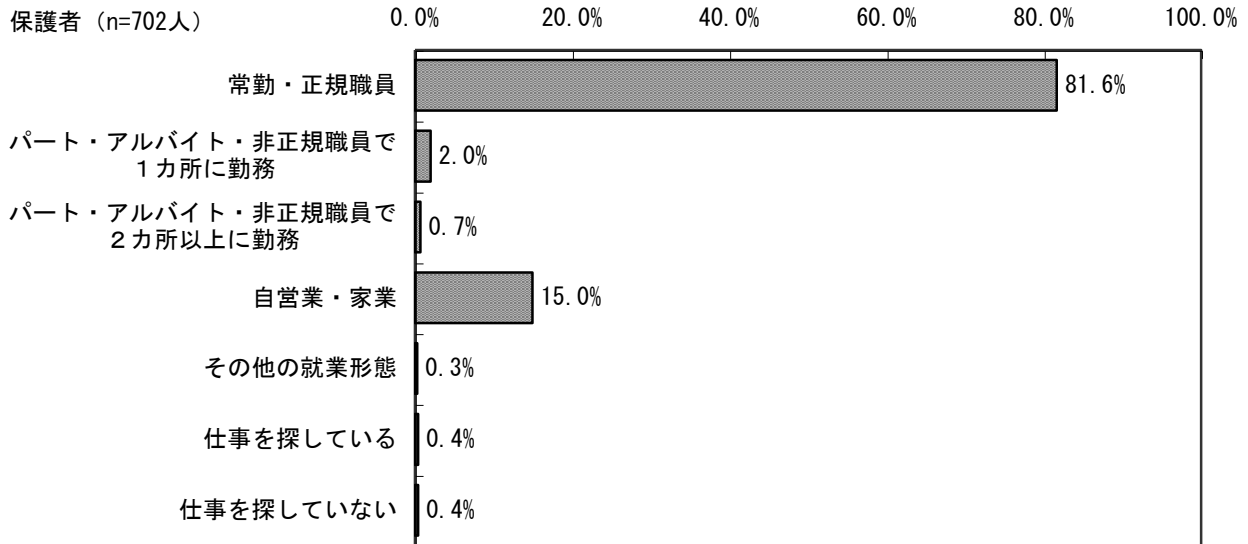
問 9 (2). お父さんの就業状況についておたずねします。

※複数力所に勤めている場合は、あてはまるものすべてに○をしてください。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号に○をしてください。

父親の就業状況を見ると、「常勤・正規職員」が81.6%、「自営業・家業」が15.0%、「パート・アルバイト・非正規職員で1カ所に勤務」が2.0%となっています。父親の9割以上が仕事をしており、「常勤・正規職員」の比率は8割となっています。

図：父親の就業状況（保護者）

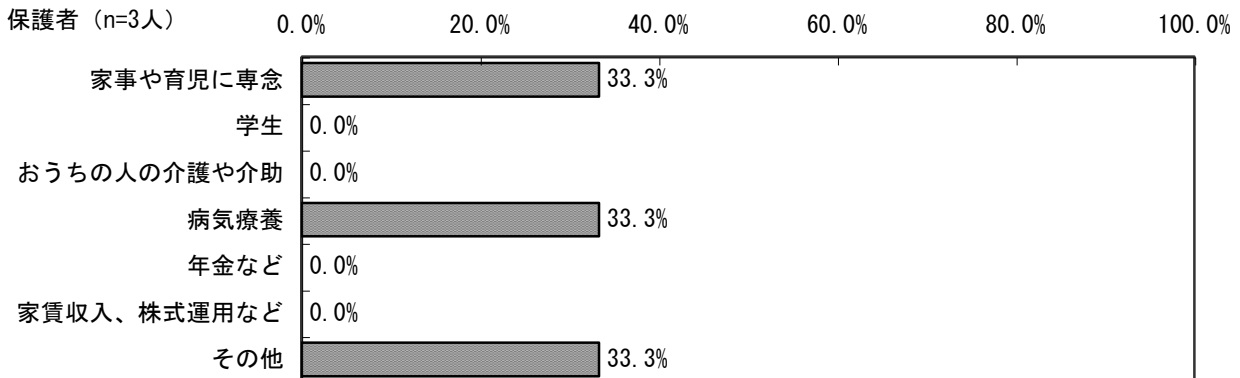


保護者 9-2. 仕事を探していない理由（父親）

問 9 (2). 仕事を探していない理由は何ですか。

現在仕事を探していない父親についてその理由をみると、「家事や育児に専念」、「病気療養」、「その他」が各33.3%（1人）となっています。

図：仕事を探していない理由（父親）（保護者）



保護者 9-3. 両親以外の人の就業状況

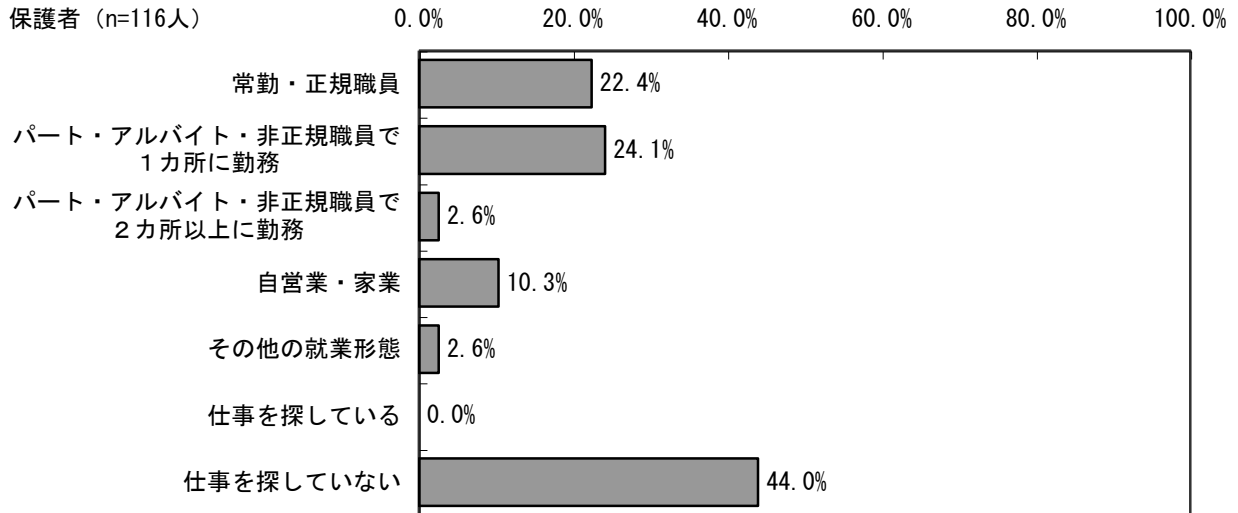
問9(3). お父さん・お母さん以外の就業状況についておたずねします。

※複数力所に勤めている場合は、あてはまるものすべてに○をしてください。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号に○をしてください。

両親以外の人の就業状況をみると、「仕事を探していない」が44.0%、「パート・アルバイト・非正規職員で1カ所に勤務」が24.1%、「常勤・正規職員」が22.4%となっています。約6割が仕事をしており、「常勤・正規職員」の比率は約2割となっています。

図：両親以外の人の就業状況（保護者）

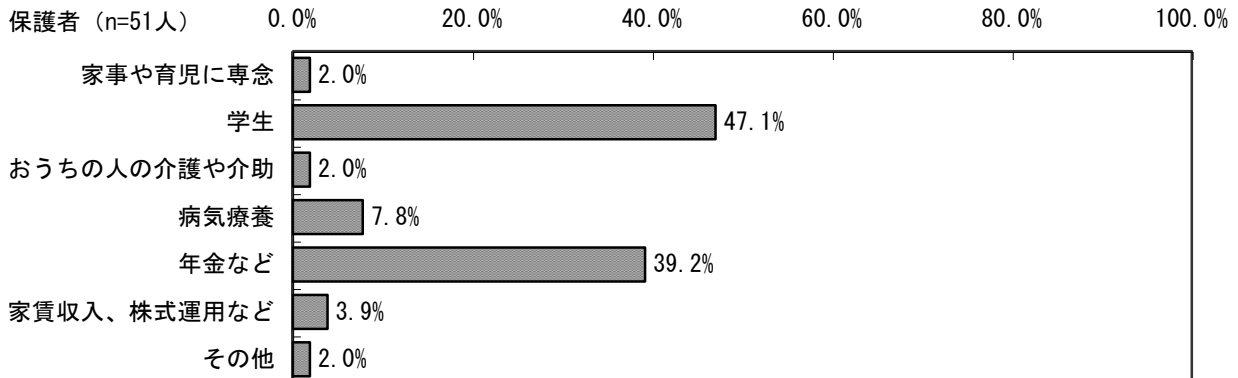


保護者 9-3. 仕事を探していない理由（両親以外）

問9(3). 仕事を探していない理由は何ですか。

両親以外の人の仕事を探していない理由をみると、「学生」が47.1%、「年金など」が39.2%となっています。

図：仕事を探していない理由（両親以外）（保護者）



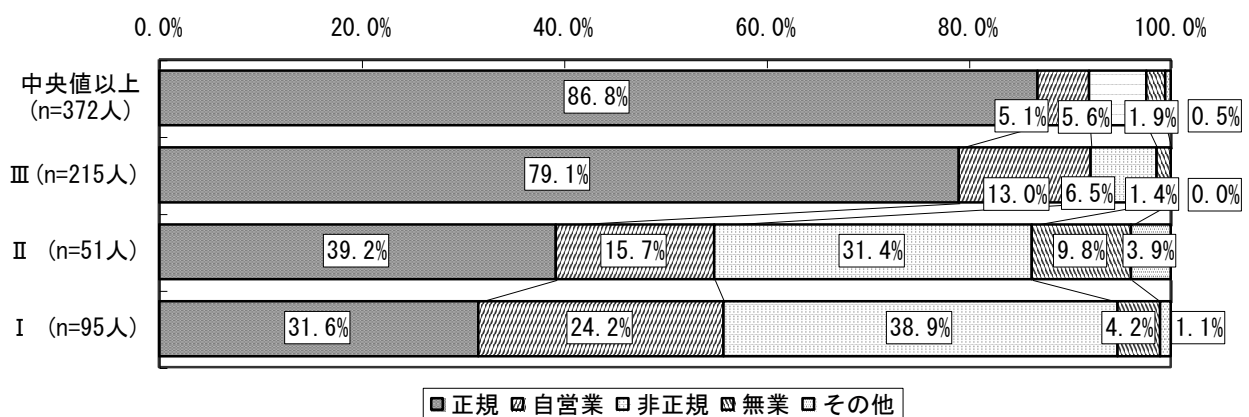
父母の就業状況（保護者問9（1）、問9（2）、問9（3））を基に、次のとおり分類しました。なお、クロス集計で「就業状況」を用いる時は、以下の分類に基づき分析しています。

- ・父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）
- ・上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）・上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）
- ・上記以外で、誰も働いていなければ「無業」（問9選択肢6、7）・上記以外がその他となります。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指します。（就業構造基本調査による）

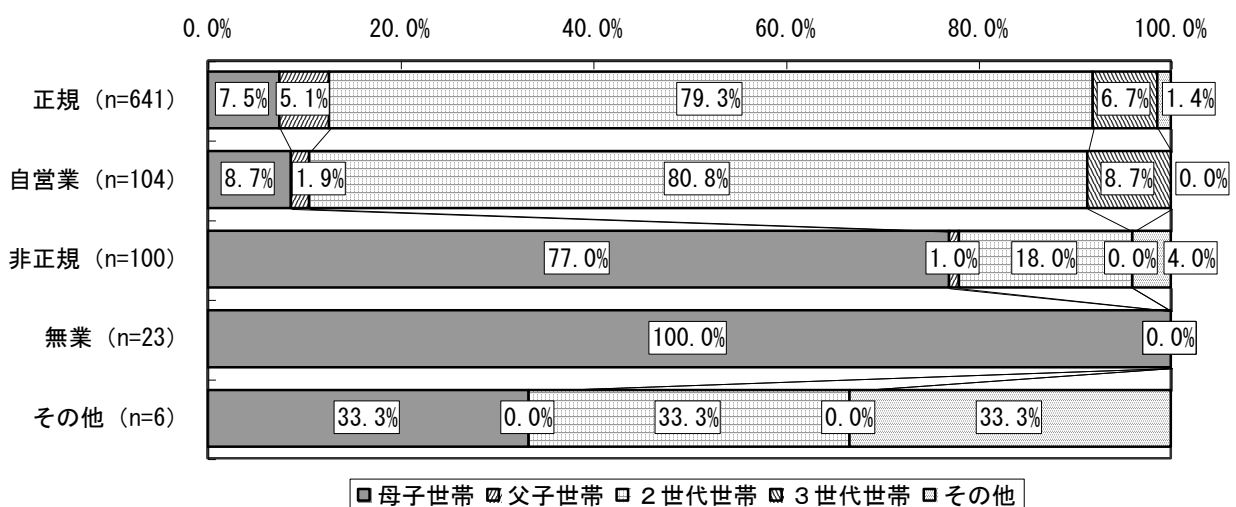
困窮度別に親の就業状況をみると、困窮度が高い世帯の保護者ほど「正規」が少なく、「非正規」が多くなっています。

図：困窮度別・親の就業状況（保護者）



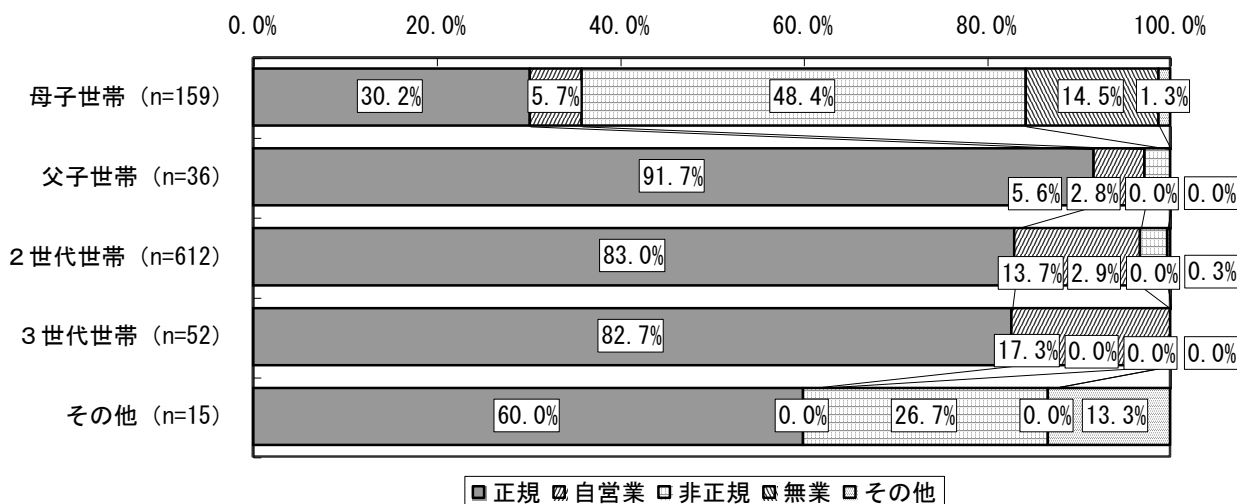
親の就業状況別に世帯類型をみると、「非正規」は母子世帯が77.0%、「無業」は母子世帯が100.0%となっています。

図：親の就業状況別・世帯類型（保護者）



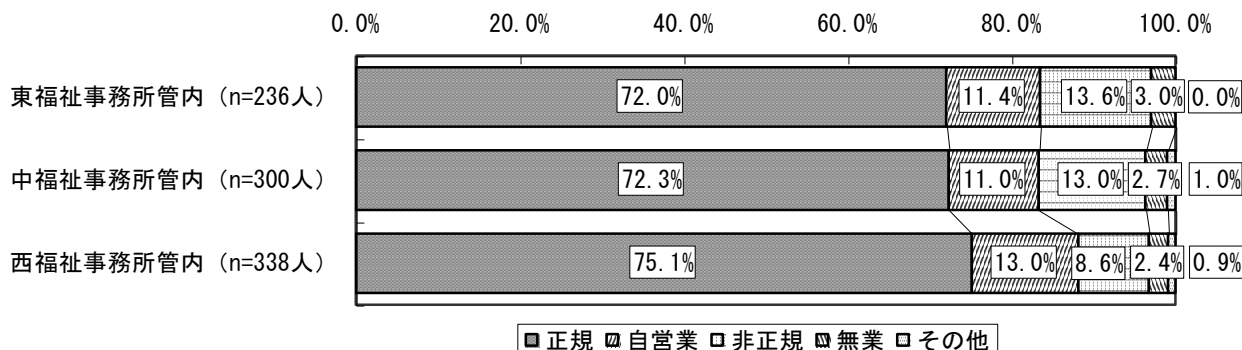
世帯類型別にみると、母子世帯は「非正規」が48.4%と最も多く、「正規」が30.2%となっています。また、「無業」が14.5%となっています。父子世帯、2世代世帯、3世代世帯では「正規」が8割以上となっており、父子世帯では91.7%となっています。

図：世帯類型別・親の就業状況（保護者）



福祉事務所管内別にみると、いずれの地域も「正規」が7割以上となっており、西福祉事務所管内が75.1%と最も多くなっています。東福祉事務所管内と中福祉事務所管内では「非正規」が1割以上を占めています。

図：福祉事務所管内別・親の就業状況（保護者）



(2) 生活環境

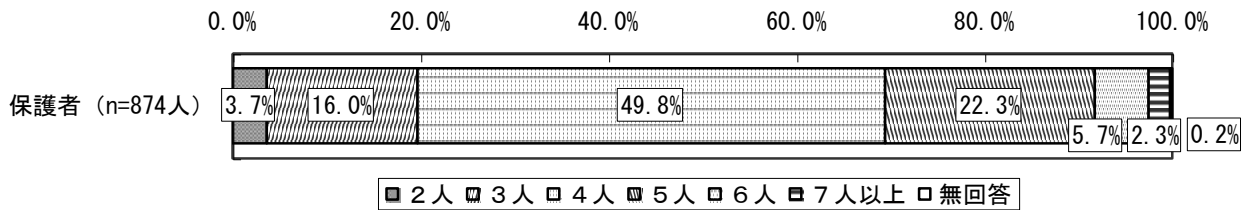
保護者 3-1. 世帯人数

問3(1). あなたの家族は、何人ですか。

(あなたとこの調査票を受け取ったお子さんを含め、あてはまる人数の番号1つだけに○)

世帯人数をみると、「4人」が49.8%、「5人」が22.3%、「3人」が16.0%となっています。

図：世帯人数（保護者）

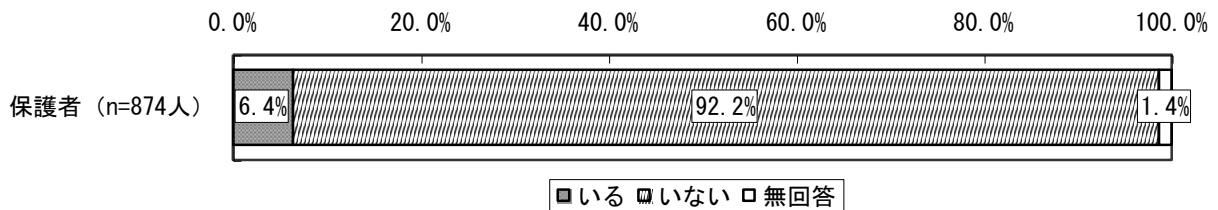


保護者 3-2. 家族の中の介護の必要な人

問3(2). 家族の中に介護または介助の必要な方はいますか。(あてはまるもの1つだけに○)

家族の中の介護の必要な人をみると、「いない」が92.2%、「いる」が6.4%となっています。

図：家族の中の介護の必要な人（保護者）

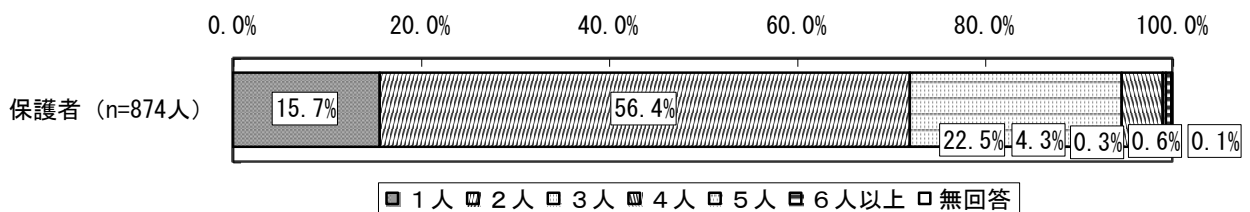


保護者 3-3. 子どもの人数

問3(3). 家族のなかの子どもの人数は何人ですか。(あてはまるもの1つだけに○)

子どもの人数をみると、「2人」が56.4%、「3人」が22.5%、「1人」が15.7%となっています。

図：子どもの人数（保護者）

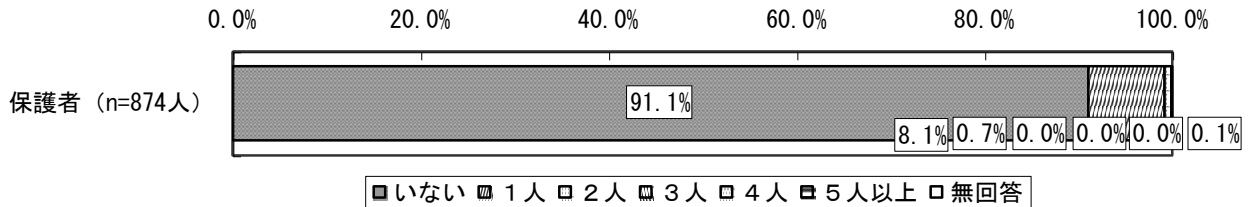


保護者 3-4. 小学校入学前の子どもの人数

問3(4). 家族のなかの子どものうち小学校入学前の子どもの人数は何人ですか。
(あてはまるもの1つだけに○)

小学校入学前の子どもの人数をみると、「いない」が91.1%、「1人」が8.1%となっています。

図：小学校入学前の子どもの人数（保護者）

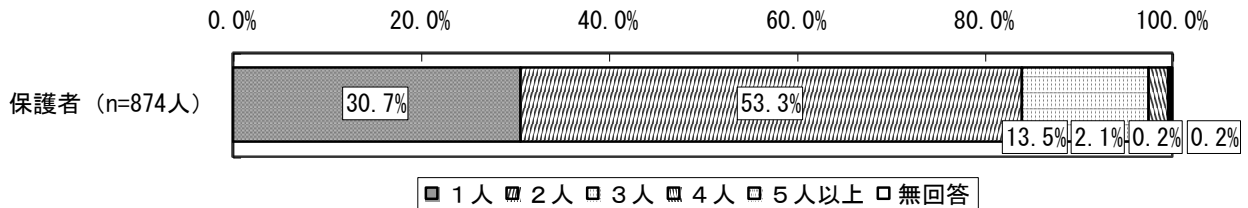


保護者 3-5. 小学校1年生から18歳未満の子どもの人数

問3(5). 家族のなかで、小学校1年生から18歳未満の子ども的人数は何人ですか。
(あてはまるもの1つだけに○)

小学校1年生から18歳未満の子ども的人数をみると、「2人」が53.3%、「1人」が30.7%、「3人」が13.5%となっています。

図：小学校1年生から18歳未満の子ども的人数（保護者）

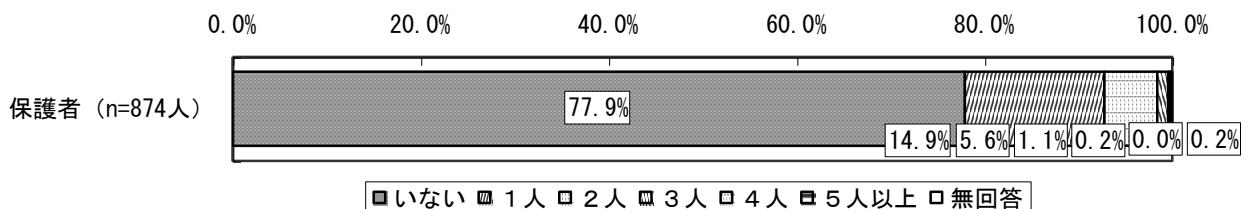


保護者 3-6. 18歳以上の子ども的人数

問3(6). 家族のなかで、18歳以上の子ども的人数は何人ですか。(あてはまるもの1つだけに○)

18歳以上の子ども的人数をみると、「いない」が77.9%、「1人」が14.9%、「2人」が5.6%となっています。

図：18歳以上の子ども的人数（保護者）



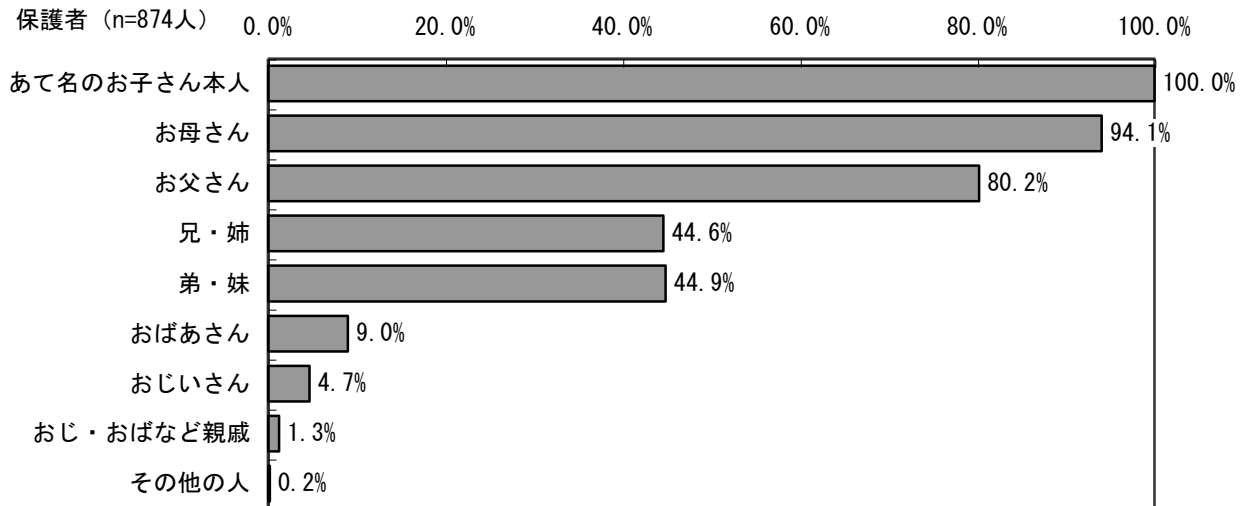
保護者 3-7. 家族構成

問 3 (7). 家族をすべて選んでください。

(お子さんからみたあなたの続柄で、あてはまるものすべてに○)

家族構成をみると、「あて名のお子さん本人」が 100.0%、「お母さん」が 94.1%、「お父さん」が 80.2% となっています。

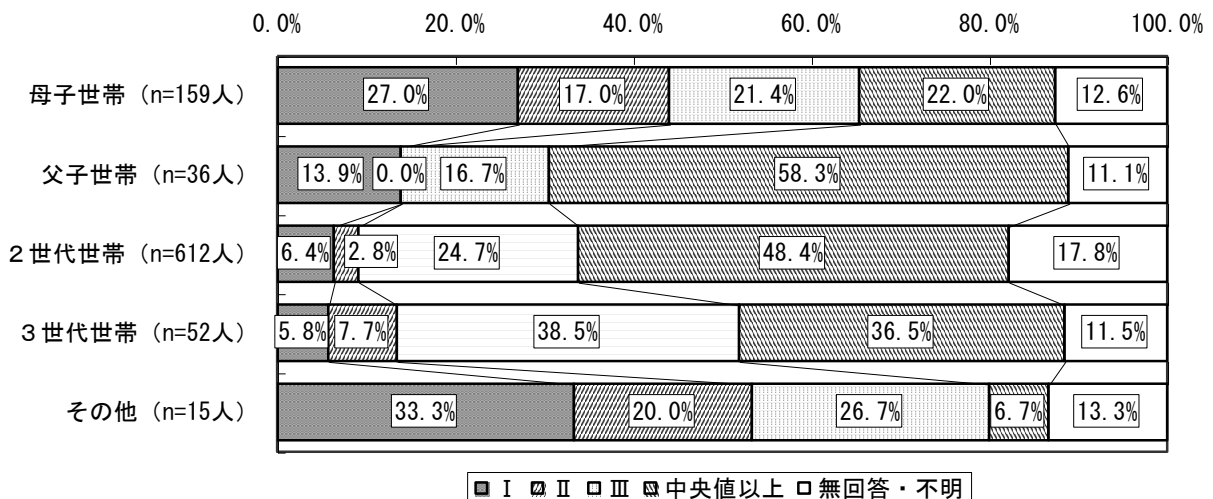
図：家族構成（保護者）



家族構成を基に世帯を分類したところ、母子世帯が 18.1%、父子世帯が 4.1%、2 世代世帯が 70.0%、3 世代世帯が 5.9% となっています。

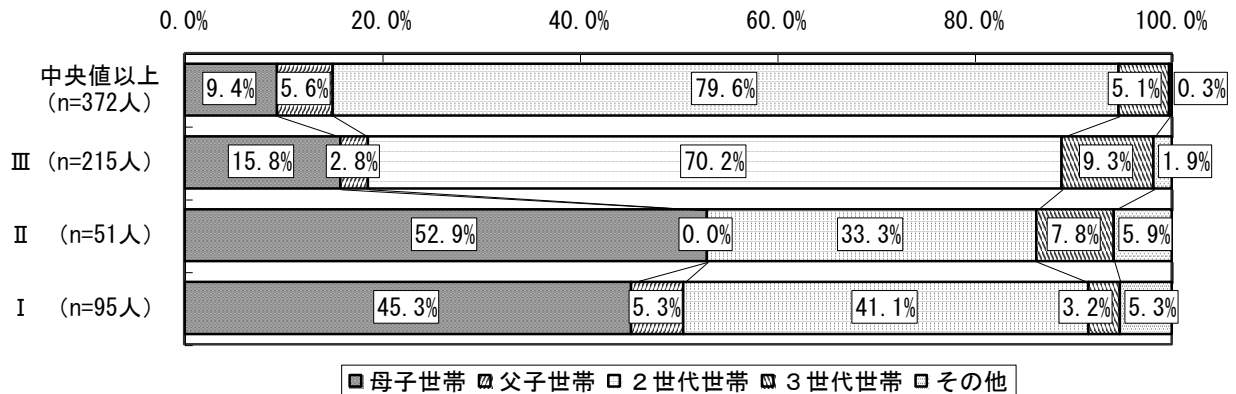
世帯類型別に困窮度をみると、母子世帯は困窮度Ⅰが 27.0%と最も多くなっています。父子世帯、2 世代世帯では中央値以上が最も多く、3 世代世帯では困窮度Ⅲが中央値以上をやや上回っています。

図：世帯類型別・困窮度



困窮度別に世帯類型をみると、困窮度Ⅱ以上の世帯は母子世帯（困窮度Ⅰ・45.3%、困窮度Ⅱ・52.9%）が最も多く、次いで2世代世帯（困窮度Ⅰ・33.3%、困窮度Ⅱ・41.1%）となっています。

図：困窮度別・世帯類型

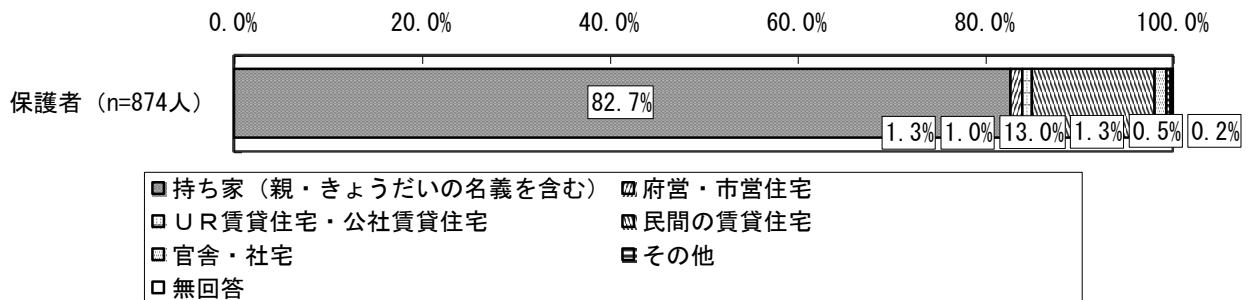


保護者 4. 住居

問 4. あなたの住居は、次のどれに当てはまりますか。（あてはまるもの1つだけに○）

住居をみると、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が 82.7%、「民間の賃貸住宅」が 13.0%、「府営・市営住宅」と「官舎・社宅」がともに 1.3%となっています。

図：住居（保護者）

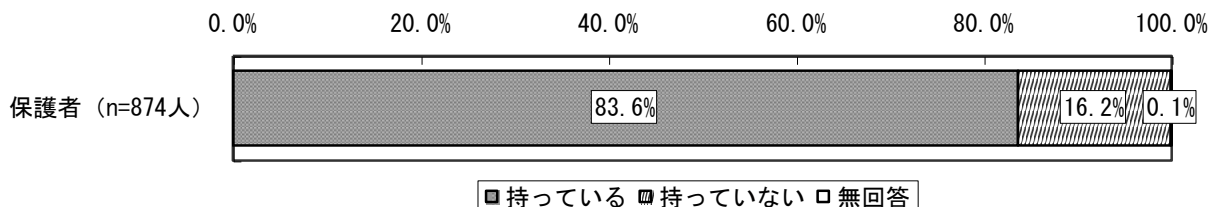


保護者 5. 自家用車

問 5. あなた（世帯の方を含む）は自家用車を持っていますか。（あてはまるもの1つだけに○）

自家用車の所有状況をみると、「持っている」が 83.6%、「持っていない」が 16.2%となっています。

図：自家用車（保護者）



保護者 10. 保護者の在宅時間

問 10. お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で、多い時間帯を選んでください。

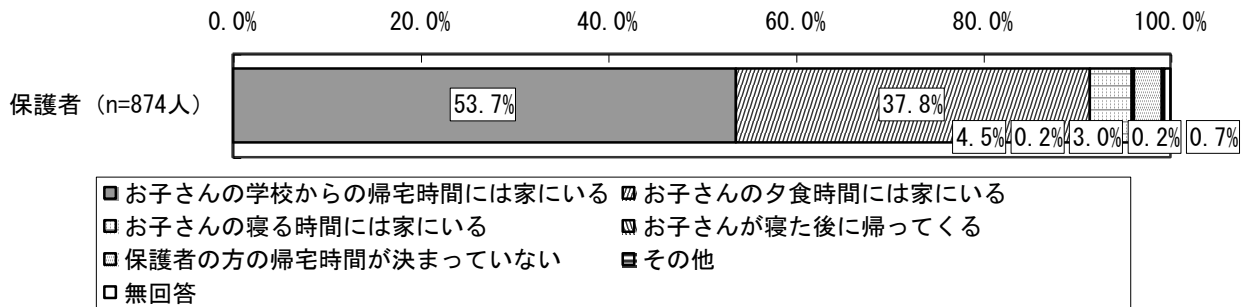
(あてはまるもの1つだけに○)

※保護者の方には、おばあさん、おじいさん、おじ、おばなど親戚などを含みます。

※自宅が仕事場の場合は、お仕事が終わる時間帯を選んでください。

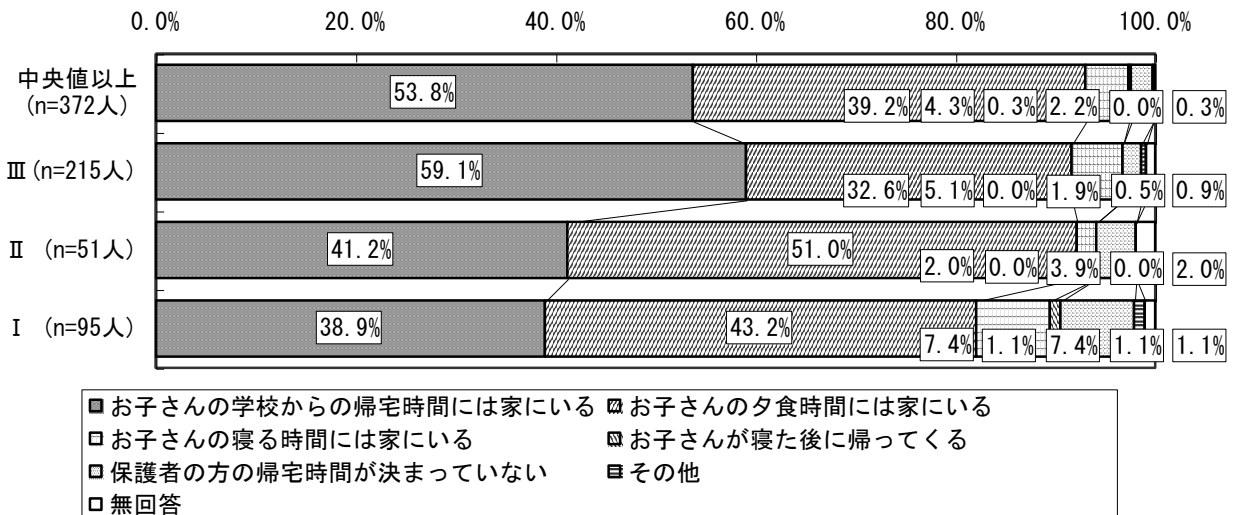
保護者の在宅時間を見ると、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が53.7%、「お子さんの夕食時間には家にいる」が37.8%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が4.5%となっています。

図：保護者の在宅時間（保護者）



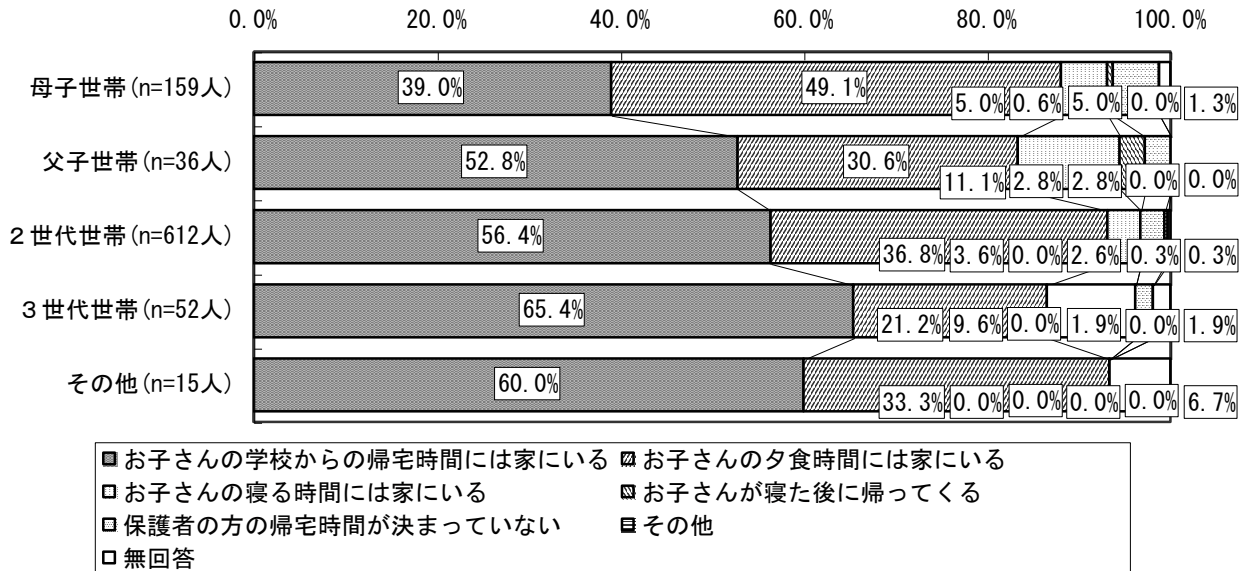
困窮度別にみると、困窮度Ⅲと中央値以上の世帯では「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が最も多く、困窮度Ⅰと困窮度Ⅱの世帯では「お子さんの夕食時間には家にいる」が最も多くなっています。

図：困窮度別・保護者の在宅時間（保護者）



世帯類型別にみると、母子世帯を除く世帯では「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」が最も多く、母子世帯では「お子さんの夕食時には家にいる」が最も多くなっています。「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」という人は3世代世帯では7割弱となっていますが、父子世帯と2世代世帯では6割未満と少なくなっています

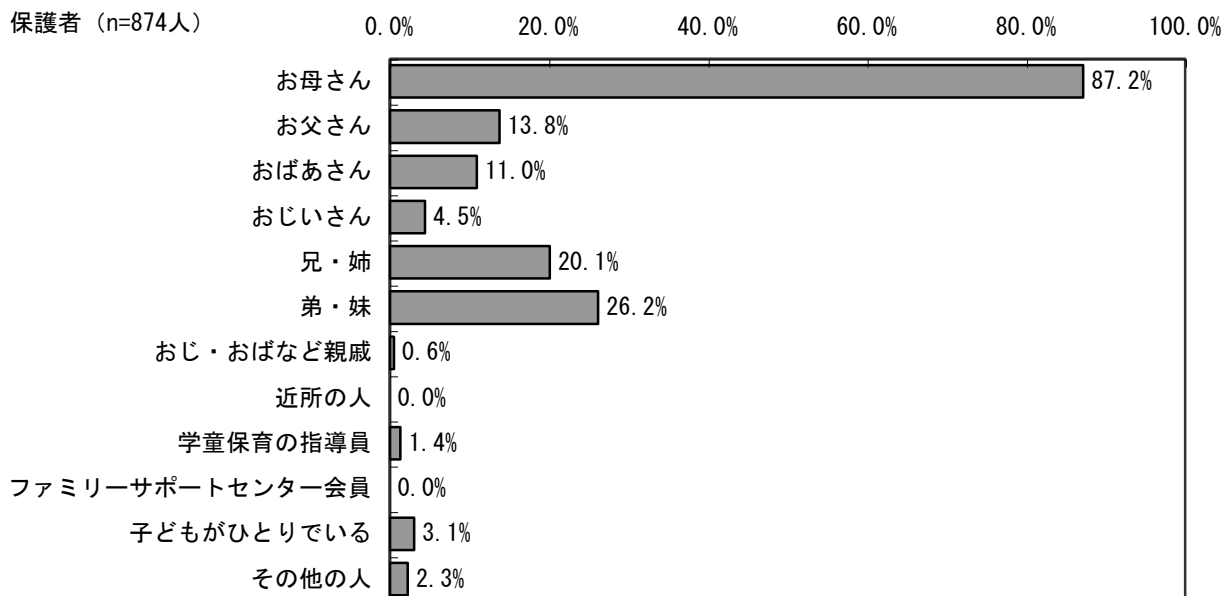
図：世帯類型別・保護者の在宅時間（保護者）



保護者 11. 放課後に子どもと過ごす時間が長い人
 問 11. 学校が終わってから、主にお子さんと過ごす時間が長いのはどなたですか。
 （あてはまるものすべてに○）

放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、「お母さん」が87.2%、「弟・妹」が26.2%、「兄・姉」が20.1%となっています。「お母さん」が8割強と高い比率となっています。

図：放課後に子どもと過ごす時間が長い人（保護者）

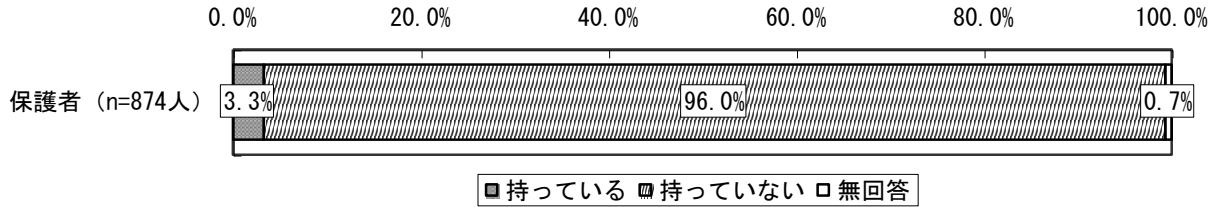


保護者 12. 子どもの療育手帳や身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳の所有

問 12. お子さんは、療育手帳や身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。
(あてはまるもの1つだけに○)

子どもの療育手帳や身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳の所有をみると、「持っていない」が96.0%、「持っている」が3.3%となっています。

図：療育手帳や身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳の所有（保護者）

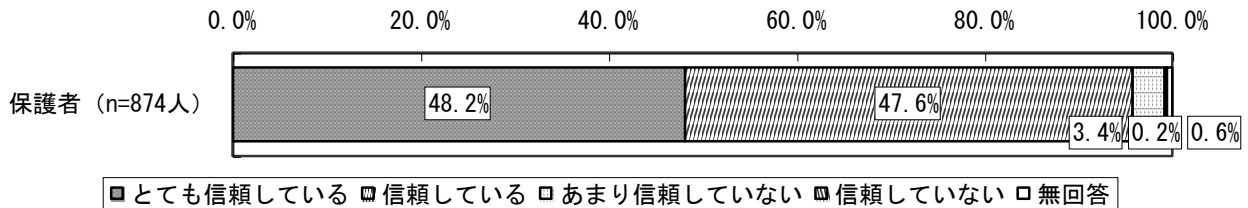


保護者 14-1. 子どもへの信頼度

問 14 (1). あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまるもの1つだけに○)

保護者について子どもへの信頼度をみると、「とても信頼している」が48.2%、「信頼している」が47.6%、「あまり信頼していない」が3.4%となっており、「とても信頼している」と「信頼している」を合計した比率は95.8%となっており、9割以上の保護者が子どもを信頼しています。

図：子どもへの信頼度（保護者）

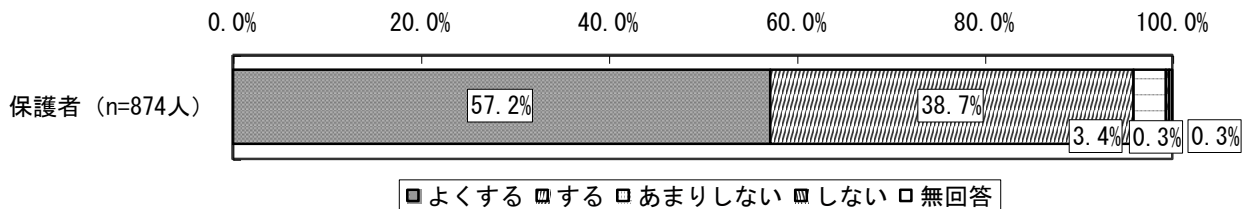


保護者 14-2. 子どもとの会話

問 14 (2). あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(あてはまるもの1つだけに○)

保護者について子どもとの会話をみると、「よくする」が57.2%、「する」が38.7%、「あまりしない」が3.4%となっており、「よくする」と「する」を合計した比率は95.9%となっており、9割以上が子どもと会話をしています。

図：子どもとの会話（保護者）



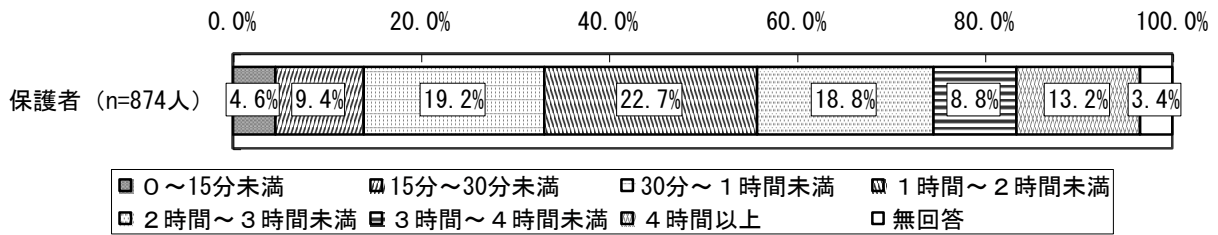
保護者 14-3. 子どもと一緒にいる時間（平日）

問 14（3）. 平日にあなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。

（あてはまるもの1つに○をつけてください）

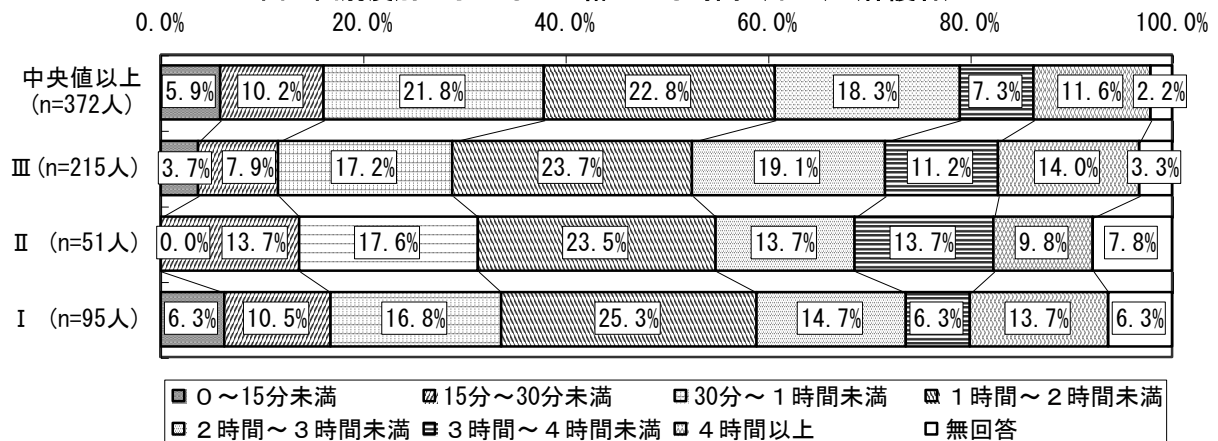
保護者が平日に子どもと一緒にいる時間をみると、「1時間～2時間未満」が22.7%、「30分～1時間未満」が19.2%、「2時間～3時間未満」が18.8%となっています。子どもと一緒にいる時間が1時間未満の保護者は約3割となっています。

図：子どもと一緒にいる時間（平日）（保護者）



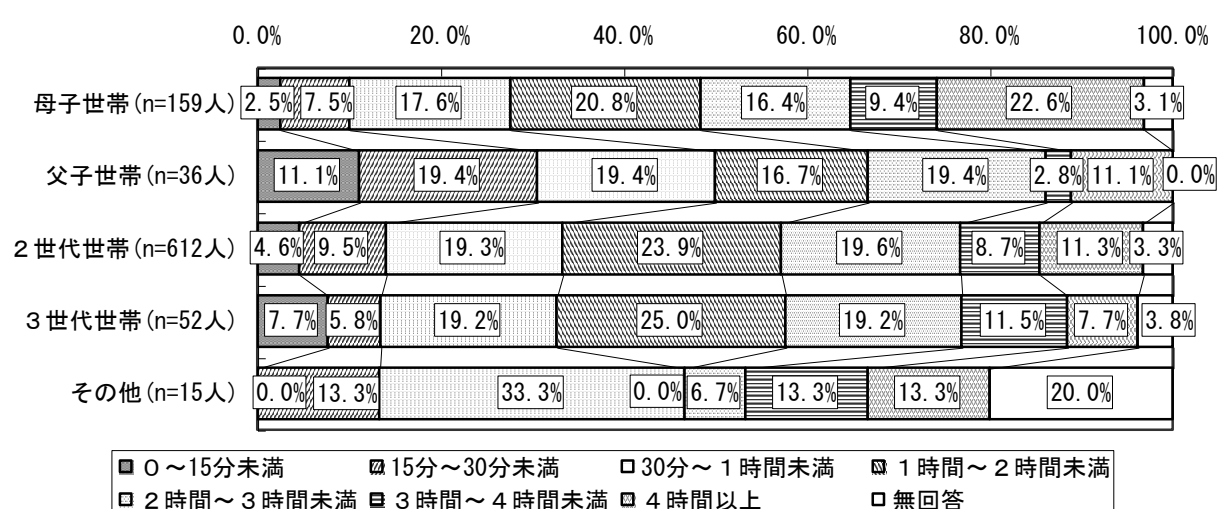
困窮度別にみると、大きな差はありませんが、中央値以上の世帯では1時間未満が3割以上とやや多くなっています。

図：困窮度別・子どもと一緒にいる時間（平日）（保護者）



世帯類型別にみると、父子世帯では1時間未満が約5割、母子世帯では「4時間以上」が約2割と多くなっています。

図：世帯類型別・子どもと一緒にいる時間（平日）（保護者）



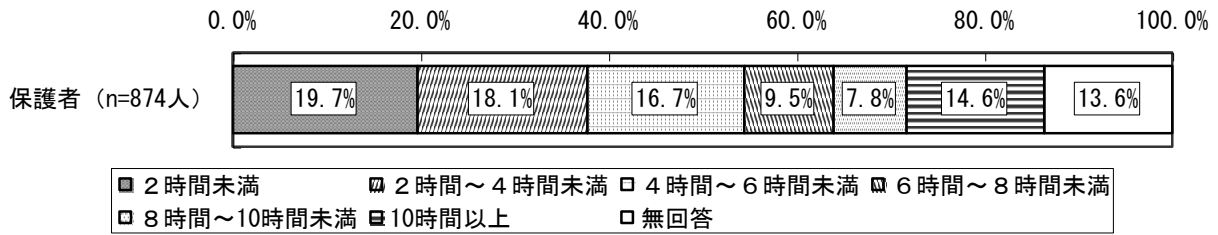
保護者 14-3. 子どもと一緒にいる時間（休日）

問 14（3）. 休日にあなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。

（あてはまるもの1つに○をつけてください）

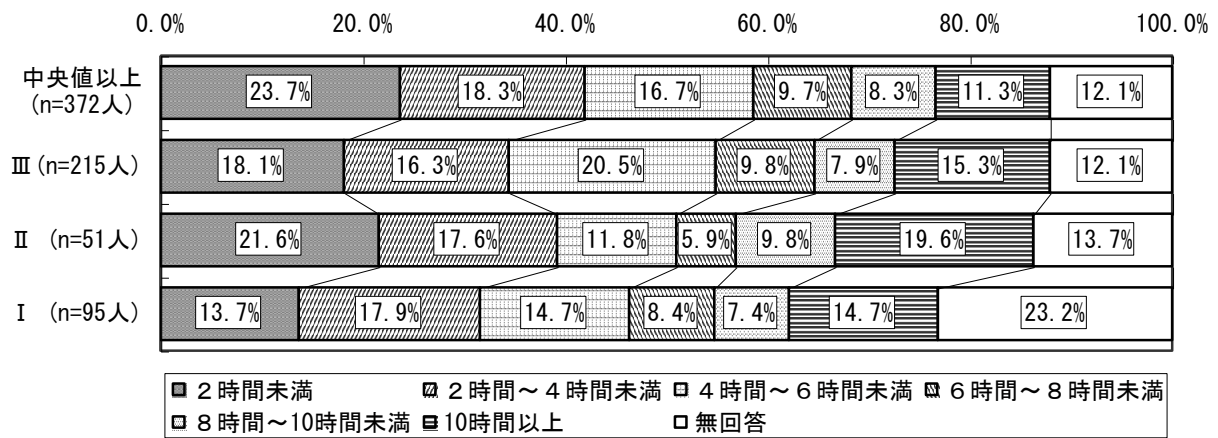
保護者が休日に子どもと一緒にいる時間をみると、「2時間未満」が19.7%、「2時間～4時間未満」が18.1%、「4時間～6時間未満」が16.7%となっています。子どもと一緒にいる時間が6時間未満の保護者が5割以上となっています。また、「10時間以上」は14.6%となっており、「2時間未満」、「2時間～4時間未満」、「4時間～6時間未満」のそれぞれの比率より少なくなっています。

図：子どもと一緒にいる時間（休日）（保護者）



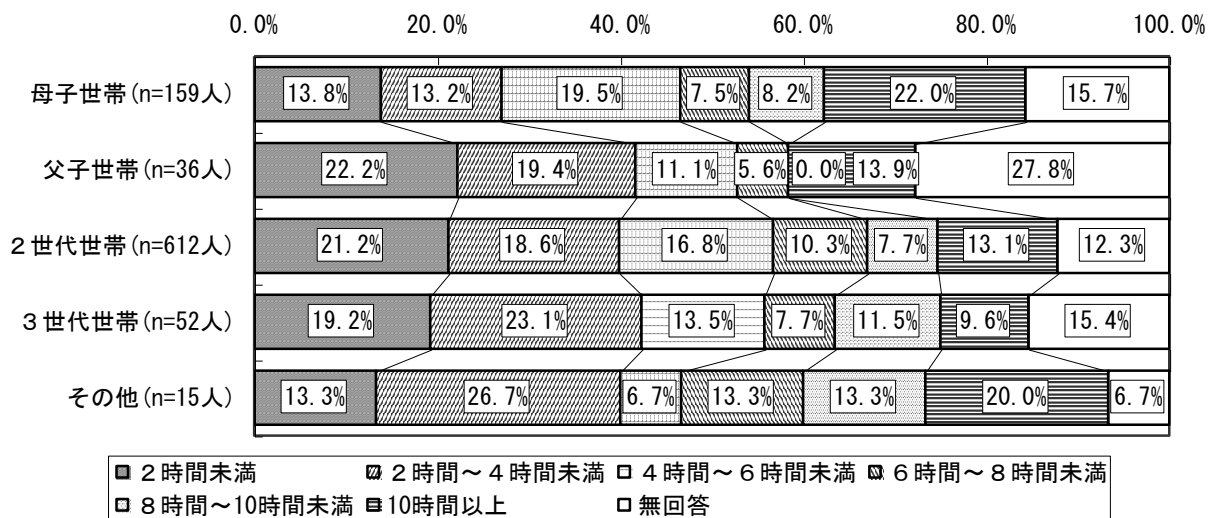
困窮度別にみると、中央値以上と困窮度ⅡまたはⅢの世帯では6時間未満が5割以上となっており、中央値以上では58.7%と約6割を占めています。10時間以上過ごす保護者は中央値未満の世帯で多く、困窮度Ⅱの世帯では19.6%となっています。

図：困窮度別・子どもと一緒にいる時間（休日）（保護者）



世帯類型別にみると、母子世帯とその他の世帯を除く世帯では6時間未満が5割以上となっており、また、「2時間未満」も約2割となっています。母子世帯は「10時間以上」が22.0%となっています。

図：世帯類型別・子どもと一緒にいる時間（休日）（保護者）

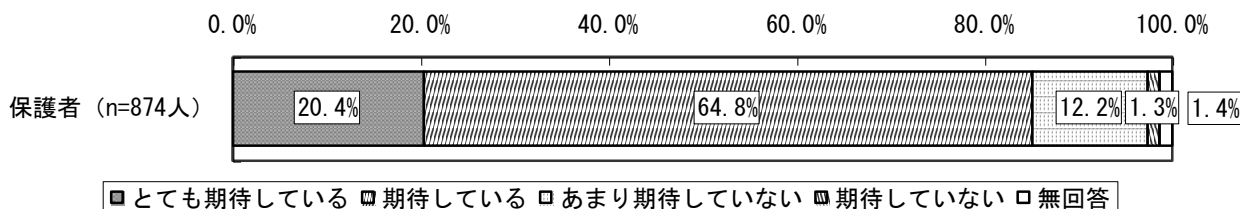


保護者 14-4. 将来への期待

問 14 (4). あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまるもの1つだけに○)

保護者について子どもの将来への期待をみると、「期待している」が64.8%、「とても期待している」が20.4%、「あまり期待していない」が12.2%となっており、「とても期待している」と「期待している」を合計した比率が85.2%となっており、8割以上の保護者が子どもの将来に期待しています。

図：将来への期待（保護者）

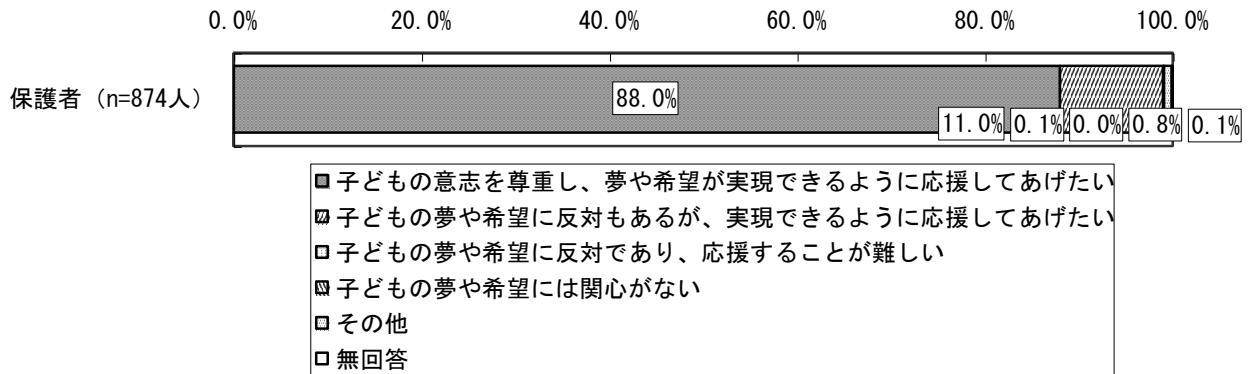


保護者 19. 子どもの将来をどのように考えているか

問 19. お子さんの将来について、どのように考えていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

保護者について子どもの将来をどのように考えているかをみると、「子どもの意志を尊重し、夢や希望が実現できるように応援してあげたい」が88.0%、「子どもの夢や希望に反対もあるが、実現できるように応援してあげたい」が11.0%となっており、ほとんどの保護者が子どもの将来を応援したいと考えています。

図：子どもの将来をどのように考えているか（保護者）



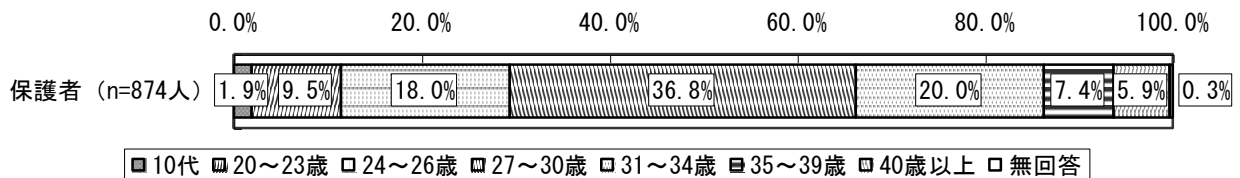
保護者 21. 初めて親となった年齢

問 21. 初めて親となった年齢はいくつですか。(実子以外も含みます)

(あてはまるもの1つだけに○)

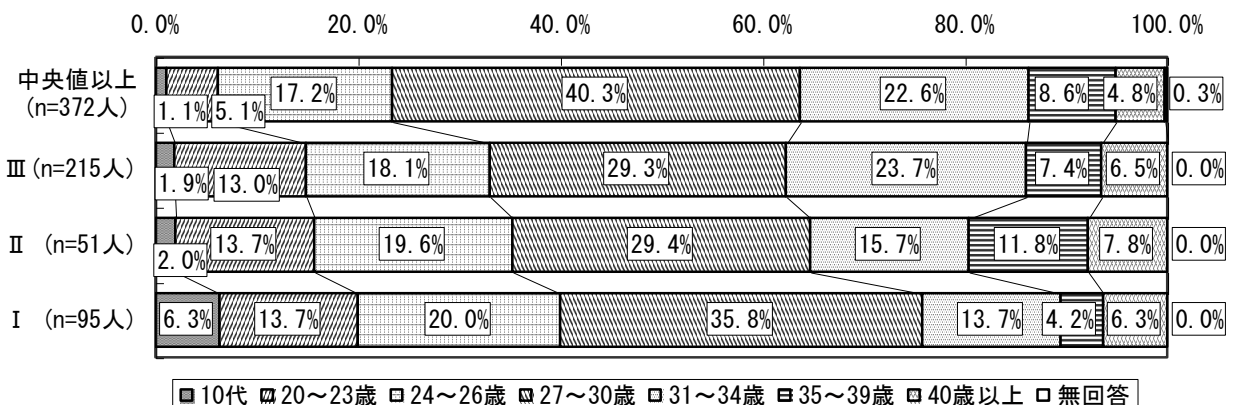
保護者が初めて親となった年齢をみると、「27～30歳」が36.8%、「31～34歳」が20.0%、「24～26歳」が18.0%となっています。

図：初めて親となった年齢（保護者）



困窮度別にみると、いずれの困窮度も「27～30歳」が最も多くなっています。中央値未満の世帯では、24歳未満のときに初めて親になる人がいずれの困窮度でも1割以上を占めており、困窮度Iでは2割となっています。

図：困窮度別・初めて親となった年齢（保護者）



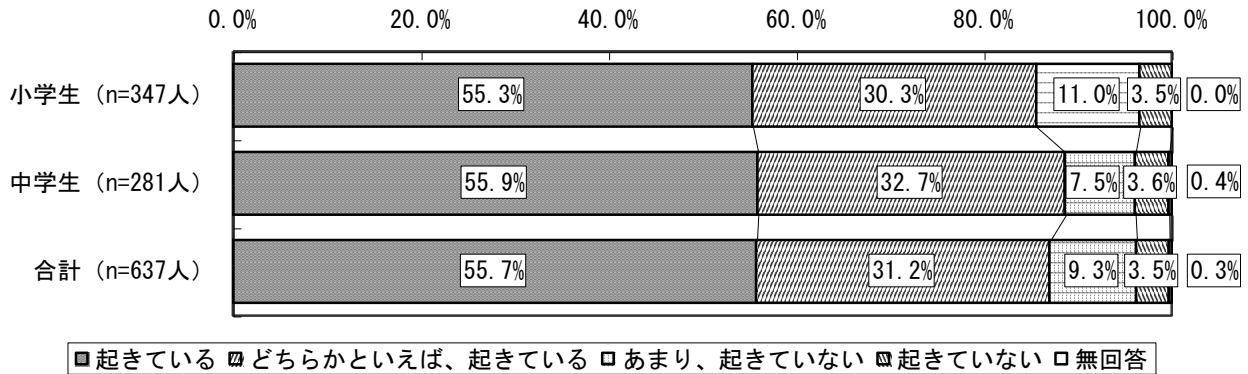
小・中学生 2. 起床時間の規則性（平日）

問2. あなたは、平日（月曜日～金曜日）は、決まった時間に起きていますか。
（あてはまるもの1つだけに○）

小・中学生の平日の起床時間の規則性をみると、「起きている」が55.7%、「どちらかといえば、起きている」が31.2%、「あまり、起きていない」が9.3%となっており、「起きている」と「どちらかといえば、起きている」を合計した比率が86.9%となっています。

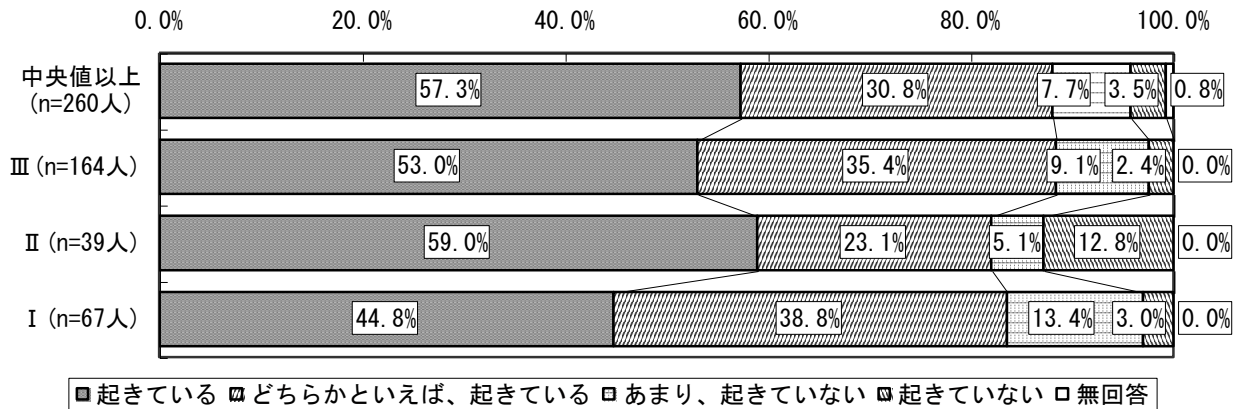
小学生と中学生では、ほとんど差が見られません。

図：起床時間の規則性（平日）（小・中学生）



困窮度別にみると、困窮度ⅠとⅡの世帯では「あまり起きていない」または「起きていない」という小・中学生が多くなっています。

図：困窮度別・起床時間の規則性（平日）（小・中学生）



小・中学生 3. 就寝時間（平日）

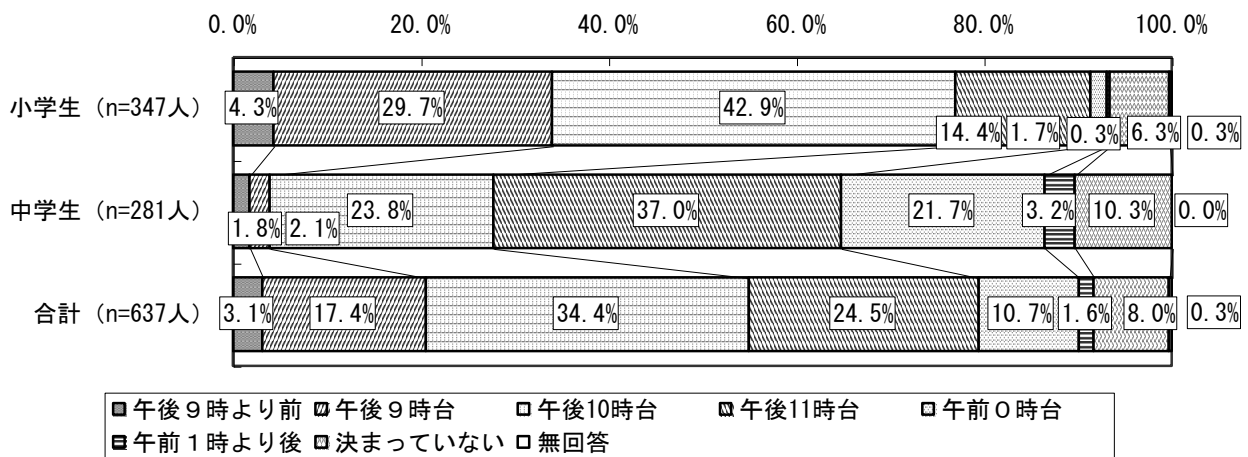
問3. あなたは、平日（月曜日～金曜日）は、何時に寝ていますか。

（あてはまるもの1つだけに○）

小・中学生の平日の就寝時間をみると、「午後10時台」が34.4%、「午後11時台」が24.5%、「午後9時台」が17.4%となっています。午後10時台までに就寝する小・中学生が約5割、午後11時台までに就寝する子どもが約8割となっています。

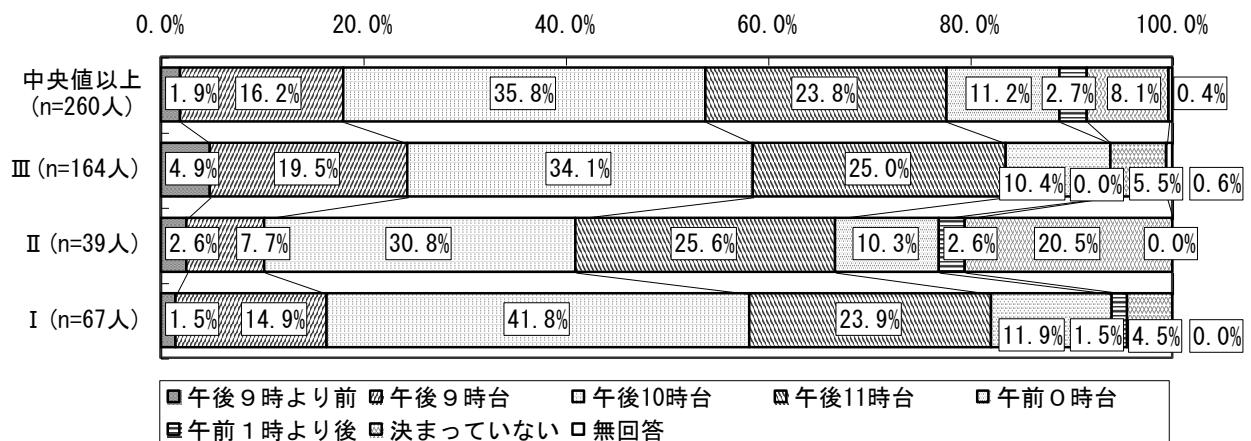
小学生は「午後10時台」の42.9%が最も多くなっています。中学生は「午後11時台」が37.0%で最も多く、また、「午前0時台」が21.7%となっています。

図：就寝時間（平日）（小・中学生）



困窮度別にみると、困窮度Ⅰの世帯では午後10時以降に就寝する小・中学生が約8割と多くなっています。また、困窮度Ⅱの世帯では「決まっていない」という小・中学生が20.5%と多くなっています。

図：困窮度別・就寝時間（平日）（小・中学生）



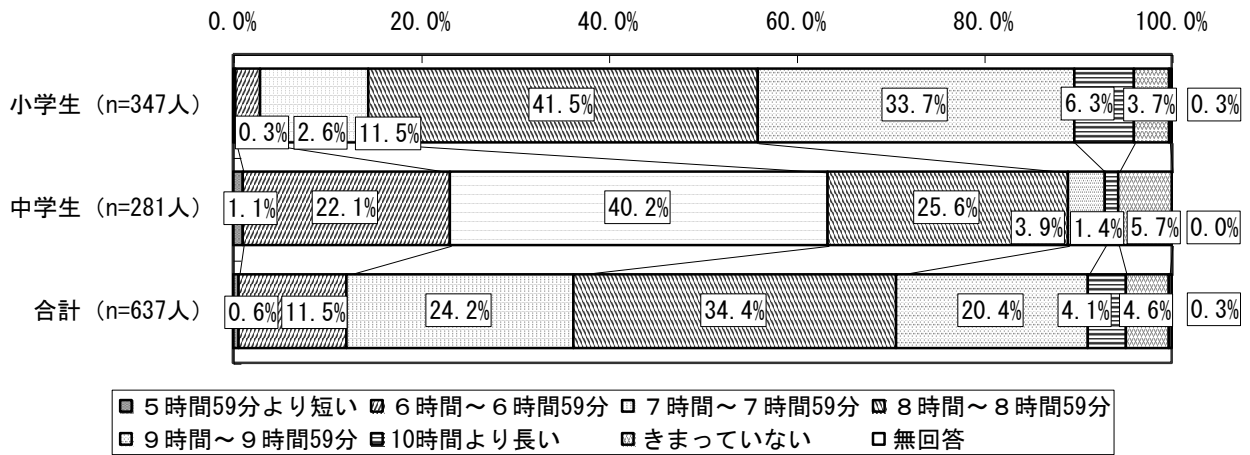
小・中学生 4. 睡眠時間（平日）

問4. あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、何時間くらい寝ていますか。
（あてはまるもの1つだけに○）

小・中学生の平日の睡眠時間をみると、「8時間～8時間59分」が34.4%、「7時間～7時間59分」が24.2%、「9時間～9時間59分」が20.4%となっています。

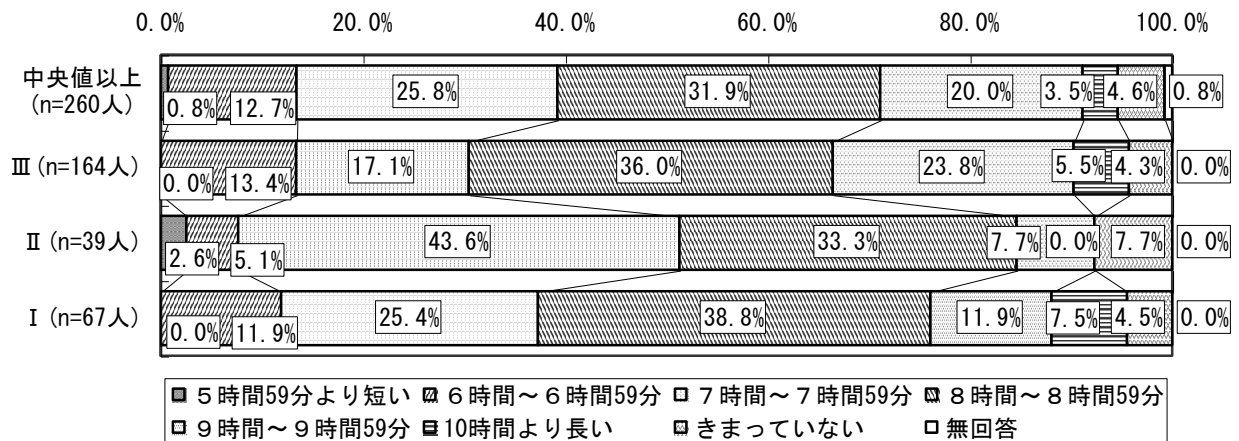
小学生は「8時間～8時間59分」が41.5%で最も多く、中学生は「7時間～7時間59分」が40.2%で最も多くなっています。

図：睡眠時間（平日）（小・中学生）



困窮別にみると、困窮度Ⅰと困窮度Ⅱの世帯では7時間以上9時間未満の小・中学生が多くなっていますが、困窮度Ⅲと中央値以上の世帯では睡眠時間が9時間以上の小・中学生も約2割を占めており、睡眠時間は長い傾向がみられます。

図：困窮度別・睡眠時間（平日）（小・中学生）



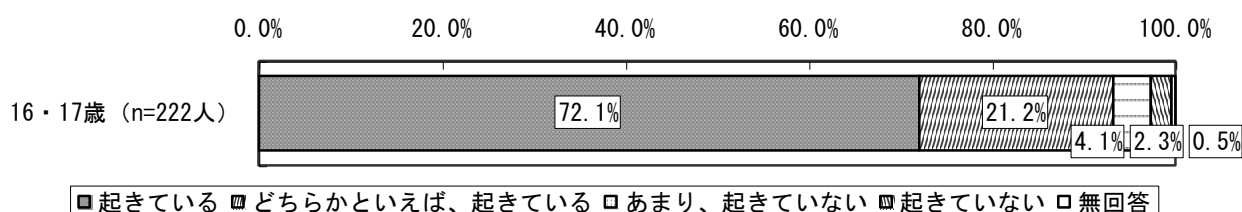
16・17歳 2. 起床時間の規則性（平日）

問2. あなたは、学校や仕事のある日は、決まった時間に起きていますか。

（あてはまるもの1つだけに○）

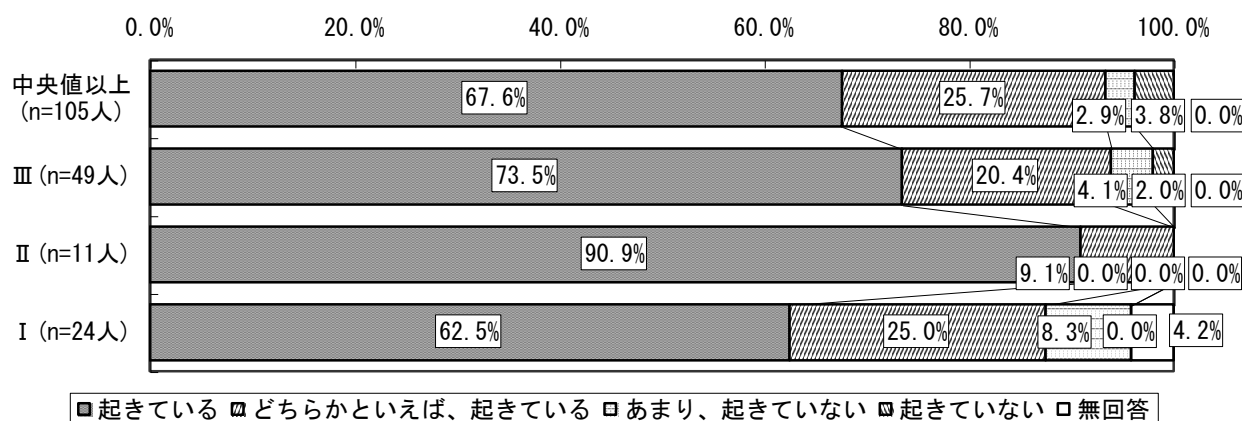
16・17歳の平日の起床時間の規則性をみると、「起きている」が72.1%、「どちらかといえば、起きている」が21.2%、「あまり、起きていない」が4.1%となっており、「起きている」と「どちらかといえば、起きている」を合計した比率が93.3%となっています。

図：起床時間の規則性（平日）（16・17歳）



困窮度別にみると、いずれも「起きている」または「どちらかといえば、起きている」という16・17歳が多くなっています。

図：困窮度別・起床時間の規則性（平日）（16・17歳）

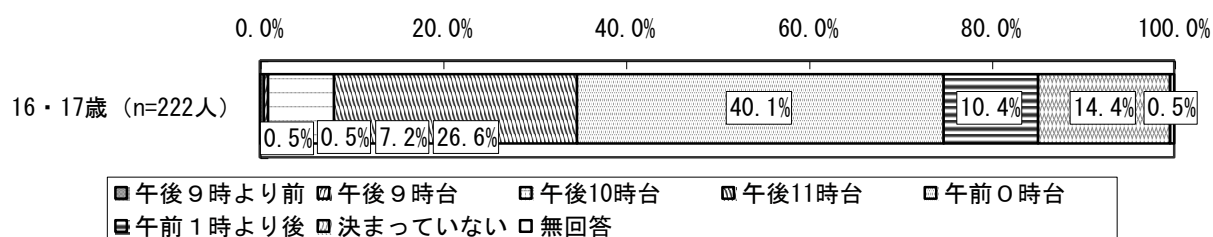


16・17歳 3. 就寝時間（平日）

問3. あなたは、学校や仕事のある日は、何時に寝ていますか（あてはまるもの1つだけに○）

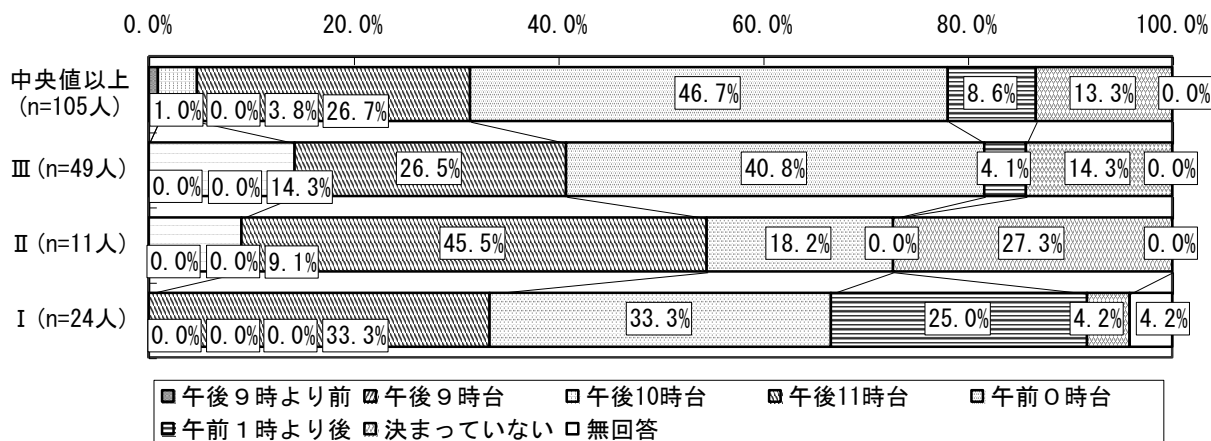
16・17歳の平日の就寝時間をみると、「午前0時台」が40.1%、「午後11時台」が26.6%、「決まっていない」が14.4%となっています。午前0時台までに就寝する16・17歳が7割以上、午前1時以降に就寝する16・17歳が約1割となっています。就寝時間が決まっていない比率も1割以上となっています。

図：就寝時間（平日）（16・17歳）



困窮度別にみると、困窮度Ⅰの世帯では午後11時以降に就寝する16・17歳が約9割となっています。

図：困窮度別・就寝時間（平日）（16・17歳）

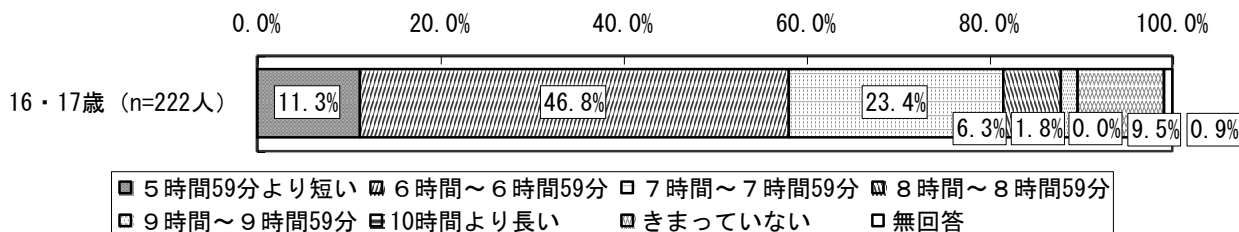


16・17歳 4. 睡眠時間（平日）

問4. あなたは、ふだん何時間くらい寝ていますか。（あてはまるもの1つだけに○）

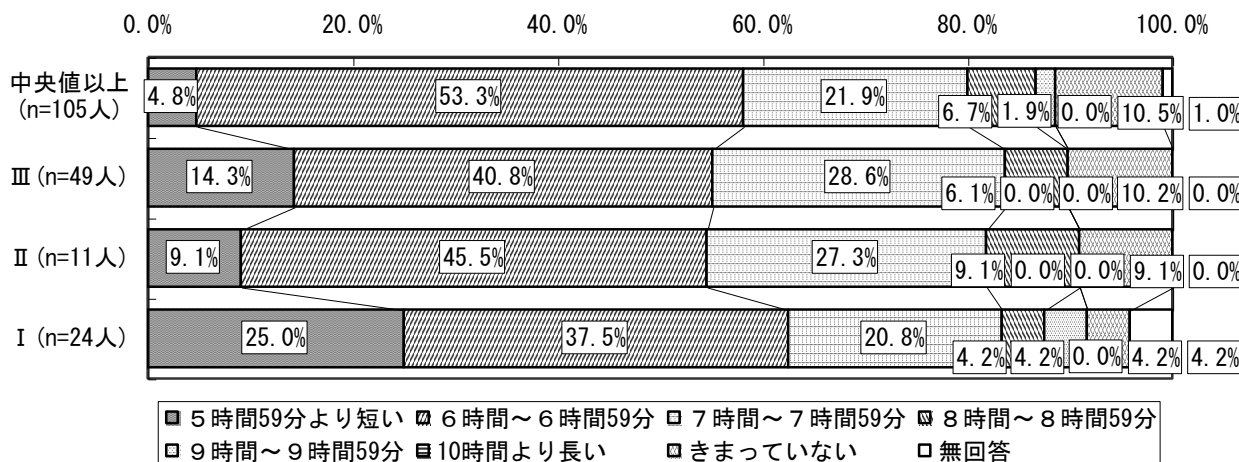
16・17歳の平日の睡眠時間をみると、「6時間～6時間59分」が46.8%、「7時間～7時間59分」が23.4%、「5時間59分より短い」が11.3%となっています。睡眠時間が6時間以上8時間未満の16・17歳が多くなっています。

図：睡眠時間（平日）（16・17歳）



困窮度別にみると、困窮度Ⅰの世帯では睡眠時間が6時間未満の子どもが3割弱を占めています。

図：困窮度別・睡眠時間（平日）（16・17歳）

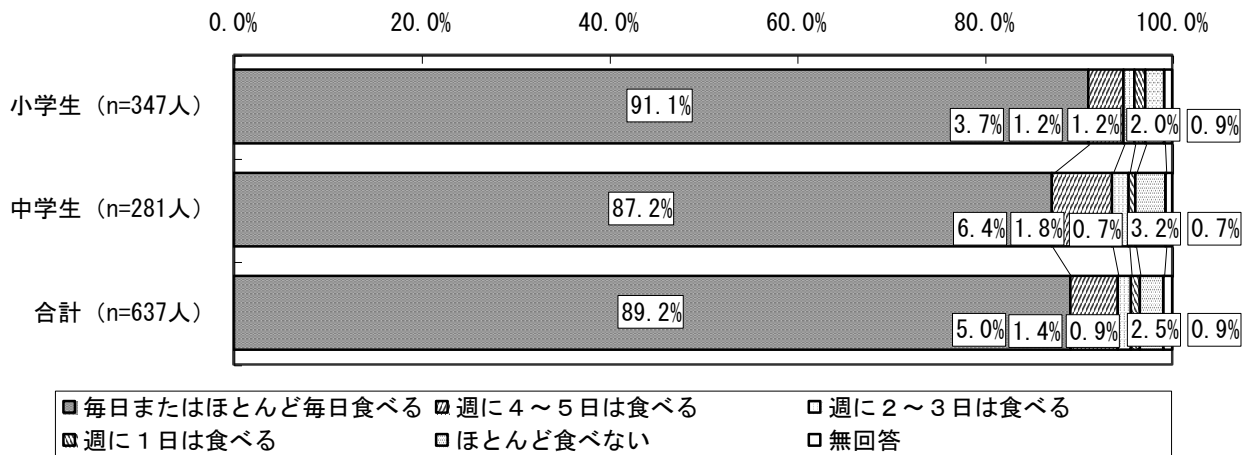


小・中学生5. 朝食の頻度

問5. あなたは、朝食をいつも食べていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

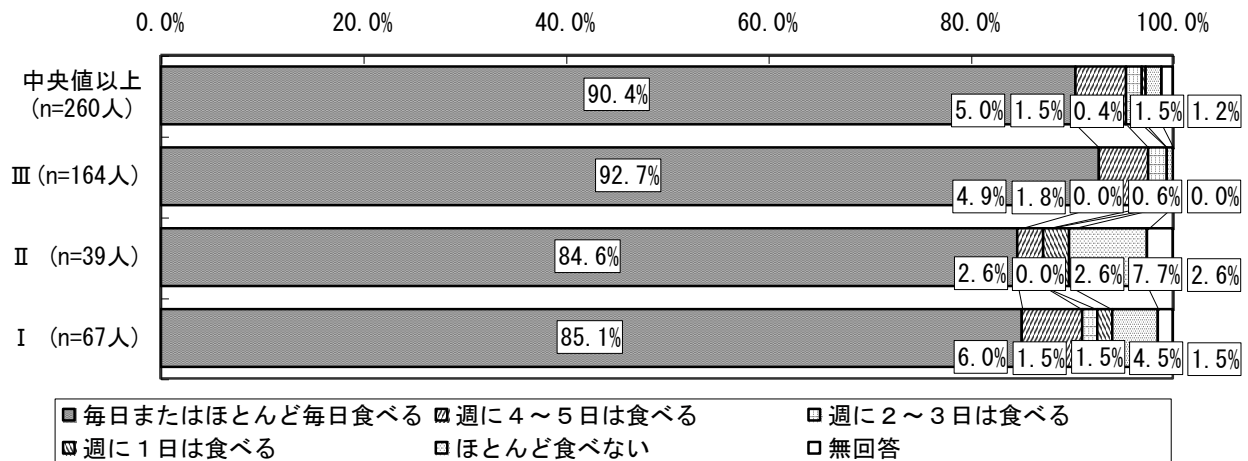
小・中学生の朝食の頻度をみると、「毎日またはほとんど毎日食べる」が89.2%、「週に4～5日は食べる」が5.0%、「ほとんど食べない」が2.5%となっています。「週に4～5日は食べる」、「週に2～3日は食べる」、「週に1日は食べる」、「ほとんど食べない」を合計すると9.8%となっており、約1割の小・中学生が朝食を食べない日があります。

図：朝食の頻度（小・中学生）



困窮度別にみると、「毎日またはほとんど毎日食べる」という小・中学生は中央値以上と困窮度Ⅲの世帯では約9割となっていますが、困窮度ⅠとⅡの世帯では9割未満となっており、朝食を食べない日がある小・中学生が約1割となっています。

図：困窮度別・朝食の頻度（小・中学生）



小・中学生 6. 毎日朝食を食べない理由

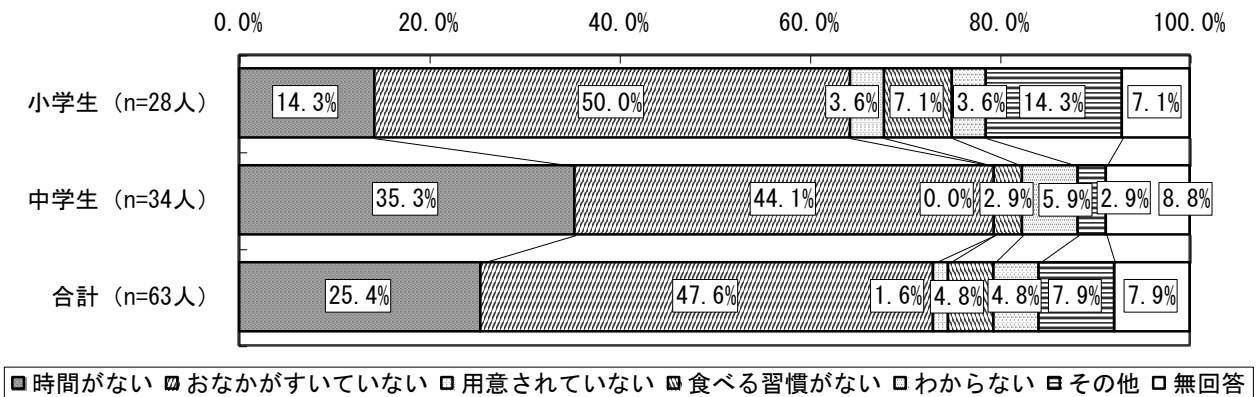
問6. 問5で2～5のどれかに○をした方*にお聞きします。

毎日朝食を食べない最も大きな理由はなんですか。(あてはまるもの1つだけに○)

朝食を食べない日がある子どもについてその理由をみると、「おなかがすいていない」が47.6%、「時間がない」が25.4%となっています。

小学生と中学生の比較では、「時間がない」が小学生は14.3%、中学生は35.3%と中学生の方が多くなっています。

図：毎日朝食を食べない理由（小・中学生）



※問6の質問中、「問5で2～5のどれかに○をした方」とは朝食の頻度について「週に4～5日は食べる」「週に2～3日は食べる」「週に1日は食べる」「ほとんど食べない」のいずれかに回答した人のことです。

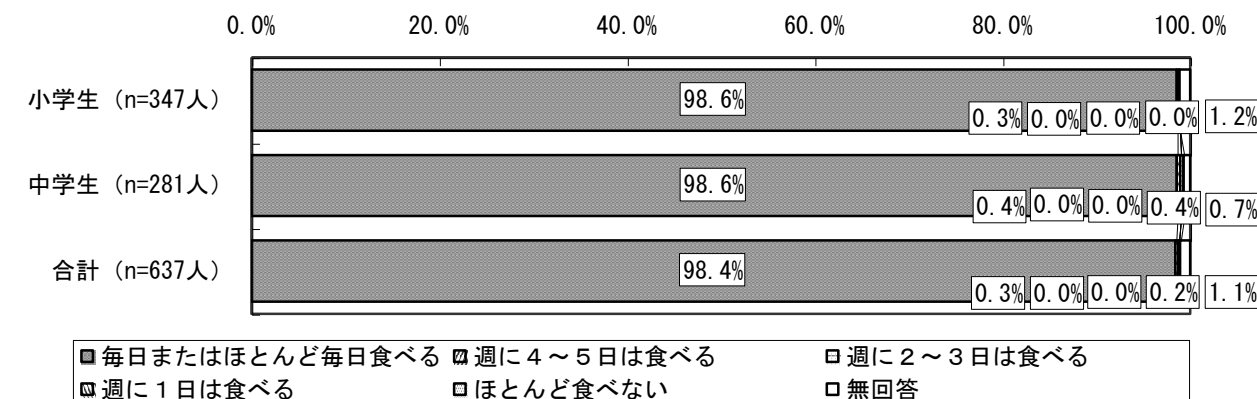
小・中学生 7. 夕食の頻度

問7. あなたは、夕食をいつも食べていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

子どもの夕食の頻度をみると、「毎日またはほとんど毎日食べる」が98.4%となっています。

小学生と中学生の比較では、ほとんど差が見られません。

図：夕食の頻度（小・中学生）



小・中学生 8. 毎日夕食を食べない理由

問 8. 問 7 で 2 ～ 5 のいずれかに○をした方*にお聞きします。

毎日夕食を食べない最も大きな理由はなんですか。(あてはまるもの 1 つだけに○)

夕食を食べない日がある子どもについてその理由をみると、以下のとおりとなっています。

図：毎日夕食を食べない理由（小・中学生）

	回答数	構成比
時間がない	1	33.3%
おなかがすいていない	0	0.0%
用意されていない	0	0.0%
食べる習慣がない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	2	66.7%
合計	3	100.0%

※問 8 の質問中、「問 7 で 2 ～ 5 のいずれかに○をした方」とは夕食の頻度について「週に 4 ～ 5 日は食べる」「週に 2 ～ 3 日は食べる」「週に 1 日は食べる」「ほとんど食べない」のいずれかに回答した人のことです。

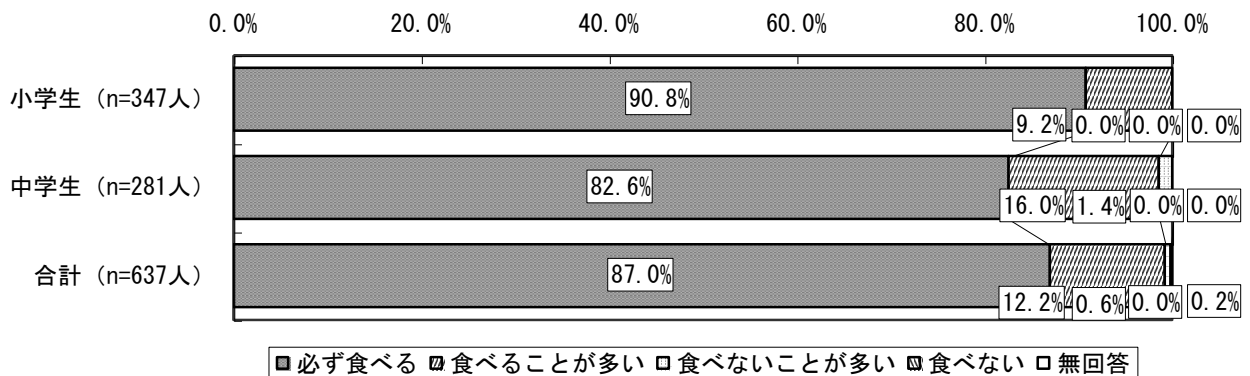
小・中学生 9. 休日の昼食の頻度

問 9. あなたは、学校がお休みの日に昼食を食べますか（夏休みなどの長期のお休みの日も含みます）(あてはまるもの 1 つだけに○)

子どもの休日の昼食の頻度をみると、「必ず食べる」が 87.0%、「食べることが多い」が 12.2%となっています。

小学生と中学生の比較では、「必ず食べる」が小学生は 90.8%、中学生は 82.6%と中学生の方が少し少なくなっています。

図：休日の昼食の頻度（小・中学生）

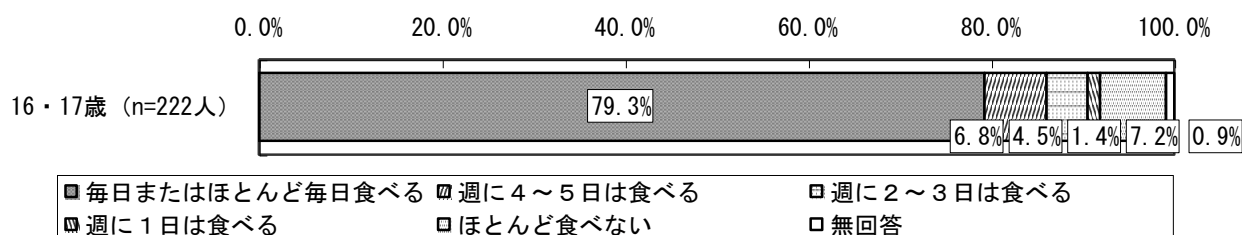


16・17歳 5. 朝食の頻度

問5. あなたは、朝食をいつも食べていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

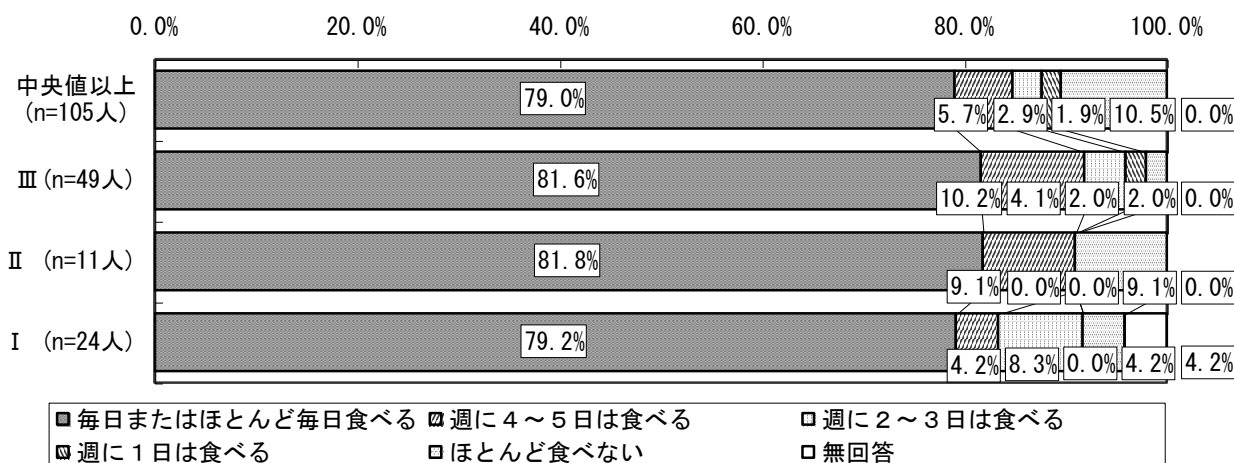
16・17歳の朝食の頻度をみると、「毎日またはほとんど毎日食べる」が79.3%、「ほとんど食べない」が7.2%、「週に4～5日は食べる」が6.8%となっています。「週に4～5日は食べる」、「週に2～3日は食べる」、「週に1日は食べる」、「ほとんど食べない」を合計すると19.9%となっており、約2割の16・17歳が朝食を食べない日があります。

図：朝食の頻度（16・17歳）



困窮度別にみると、困窮度と16・17歳の朝食の頻度はあまり関連はみられません。

図：困窮度別・朝食の頻度（16・17歳）



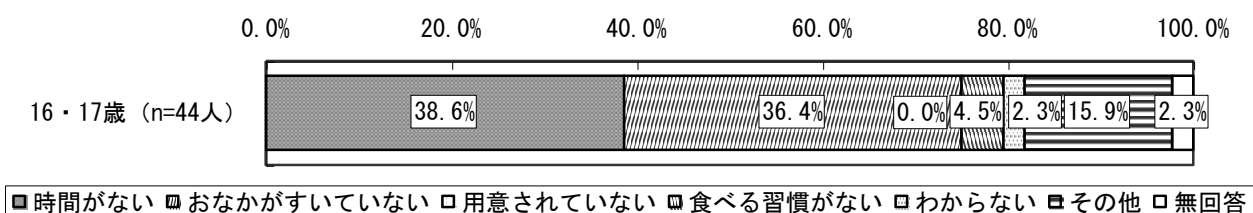
16・17歳 6. 毎日朝食を食べない理由

問6. 問5で2～5のどれかに○をした方*にお聞きします。

毎日朝食を食べない最大な理由は何ですか。(あてはまるもの1つだけに○)

朝食を食べない日がある16・17歳について、毎日朝食を食べない理由をみると、「時間がない」が38.6%、「おなかがすいていない」が36.4%となっています。

図：毎日朝食を食べない理由（16・17歳）



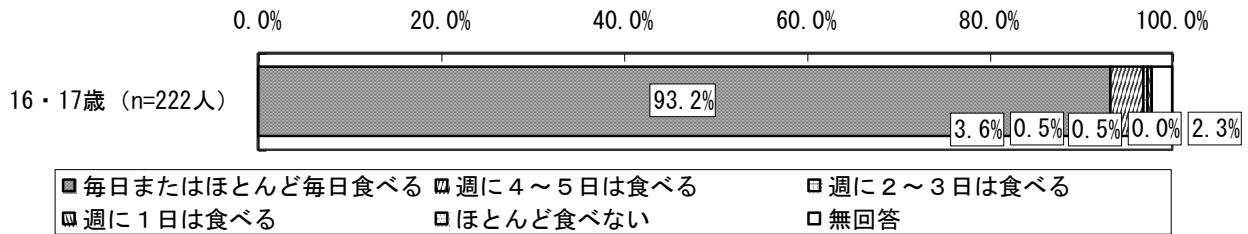
*問6の質問中「問5で2～5のどれかに○をした方」とは朝食の頻度について「週に4～5日は食べる」「週に2～3日は食べる」「週に1日は食べる」「ほとんど食べない」のいずれかに回答した人のことです。

16・17歳 7. 夕食の頻度

問7. あなたは、夕食をいつも食べていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳の夕食の頻度をみると、「毎日またはほとんど毎日食べる」が93.2%、「週に4～5日は食べる」が3.6%となっています。

図：夕食の頻度（16・17歳）



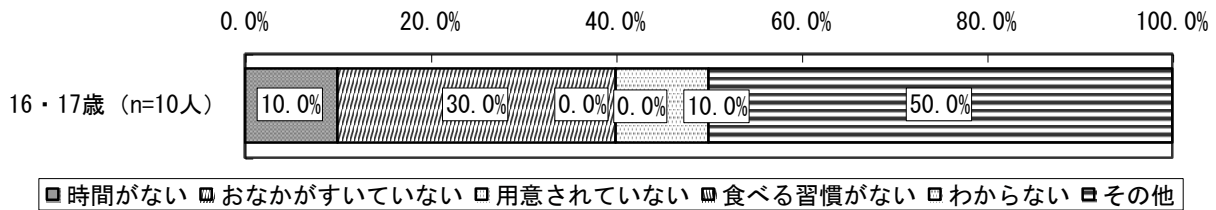
16・17歳 8. 毎日夕食を食べない理由

問8. 問7で2～5のいずれかに○をした方※にお聞きします。

毎日夕食を食べない最も大きな理由はなんですか。(あてはまるもの1つだけに○)

夕食を食べない日がある16・17歳についてその理由をみると、以下のとおりとなっています。

図：毎日夕食を食べない理由（16・17歳）



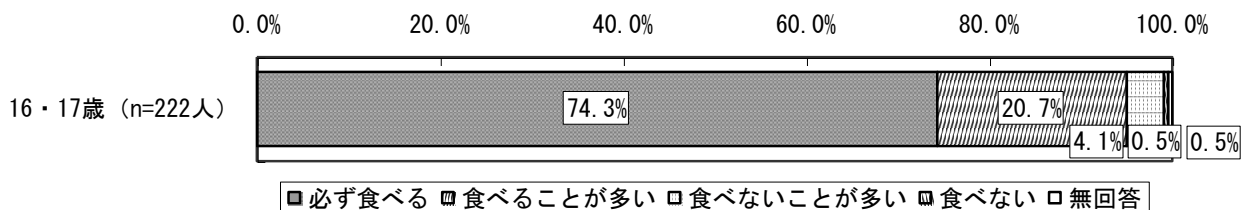
※問8の質問中、「問7で2～5のいずれかに○をした方」とは夕食の頻度について「週に4～5日は食べる」「週に2～3日は食べる」「週に1日は食べる」「ほとんど食べない」のいずれかに回答した人のことです。

16・17歳 9. 休日の昼食の頻度

問9. あなたは、学校や仕事がお休みの日に昼食を食べますか（夏休みなどの長期のお休みの日も含みます）(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳の休日の昼食の頻度をみると、「必ず食べる」が74.3%、「食べることが多い」が20.7%、「食べないことが多い」が4.1%となっています。

図：休日の昼食の頻度（16・17歳）



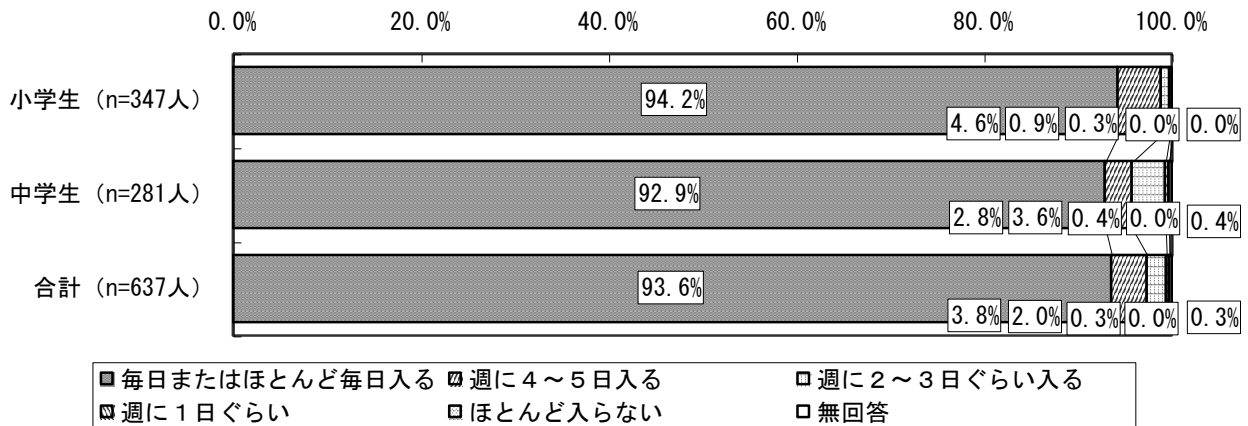
小・中学生 10. 入浴頻度

問 10. あなたは、週にどのくらい、お風呂（シャワーのみの場合も含みます）に入りますか。
（あてはまるもの1つだけに○）

小・中学生の入浴頻度をみると、「毎日またはほとんど毎日入る」が93.6%、「週に4～5日入る」が3.8%、「週に2～3日ぐらい入る」が2.0%となっています。

小学生と中学生の比較では、ほとんど差が見られません。

図：入浴頻度（小・中学生）

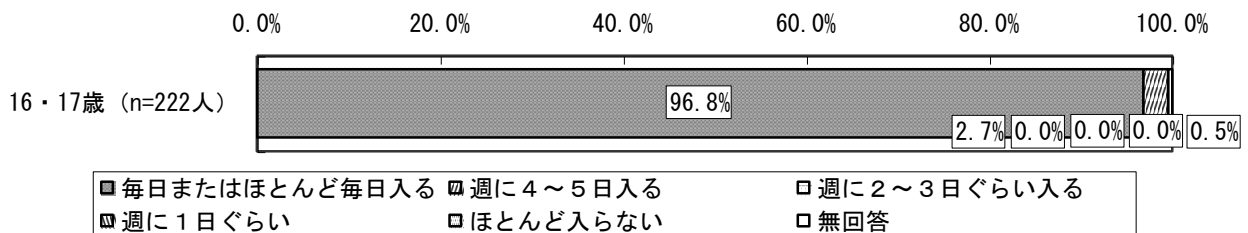


16・17歳 10. 入浴頻度

問 10. あなたは、週にどのくらい、お風呂（シャワーのみの場合も含みます）に入りますか。
（あてはまるもの1つだけに○）

16・17歳の入浴頻度をみると、「毎日またはほとんど毎日入る」が96.8%、「週に4～5日入る」が2.7%となっています。

図：入浴頻度（16・17歳）



保護者 20. 子どもの通学状況

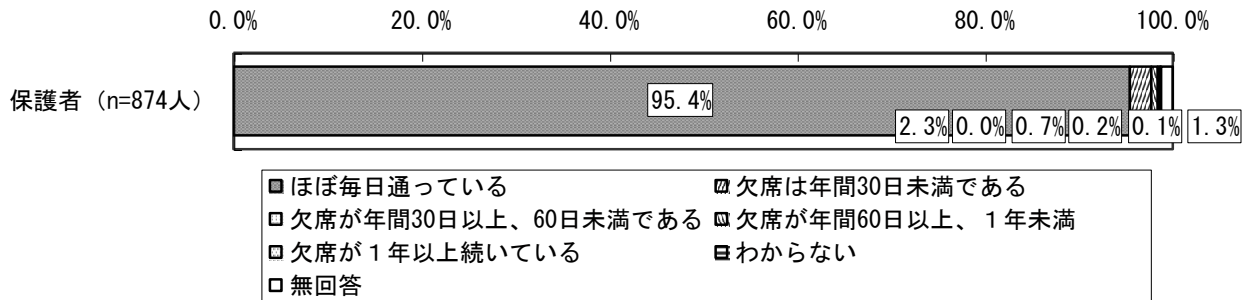
問 20. 現在、お子さんが学校に通われている方にお聞きします。

お子さんの通学状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください。

(あてはまるもの1つだけに○)

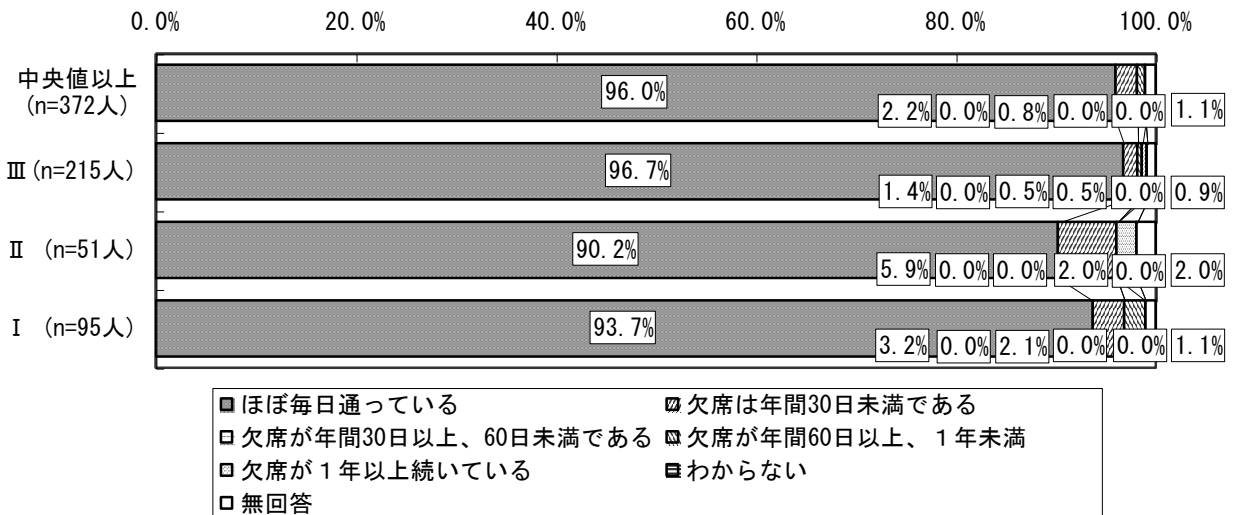
子どもの通学状況を見ると、「ほぼ毎日通っている」が95.4%と9割以上を占めています。

図：子どもの通学状況（保護者）



困窮度別にみると、困窮度Ⅰと困窮度Ⅱの困窮度が高い世帯は「ほぼ毎日通っている」が僅かですが少なくなっています。

図：困窮度別・子どもの通学状況（保護者）



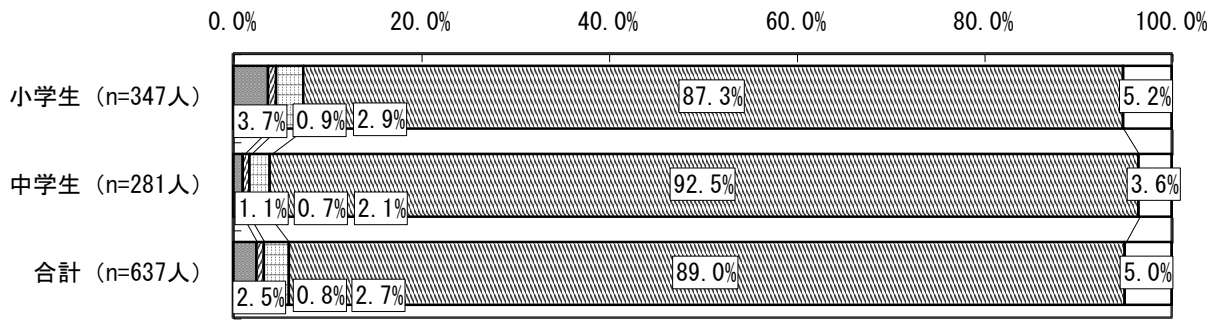
小・中学生 11. 遅刻の頻度

問 11. あなたは、週にどのくらい学校に遅刻することがありますか。
 (あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生の遅刻の頻度をみると、「遅刻はしない」が 89.0%、「週に1日ぐらい」が 2.7%、「毎日またはほとんど毎日」が 2.5%となっています。

小学生と中学生の比較では、ほとんど差が見られません。

図：遅刻の頻度（小・中学生）



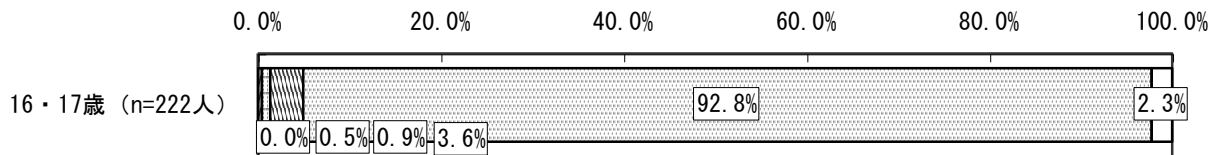
■ 毎日またはほとんど毎日 □ 週に2~3日ぐらい □ 週に1日ぐらい ■ 遅刻はしない □ 無回答

16・17歳 11. 遅刻の頻度

問 11. あなたは、学校や職場に遅刻することがありますか。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳の遅刻の頻度をみると、「遅刻はしない」が 92.8%となっています。

図：遅刻の頻度（16・17歳）



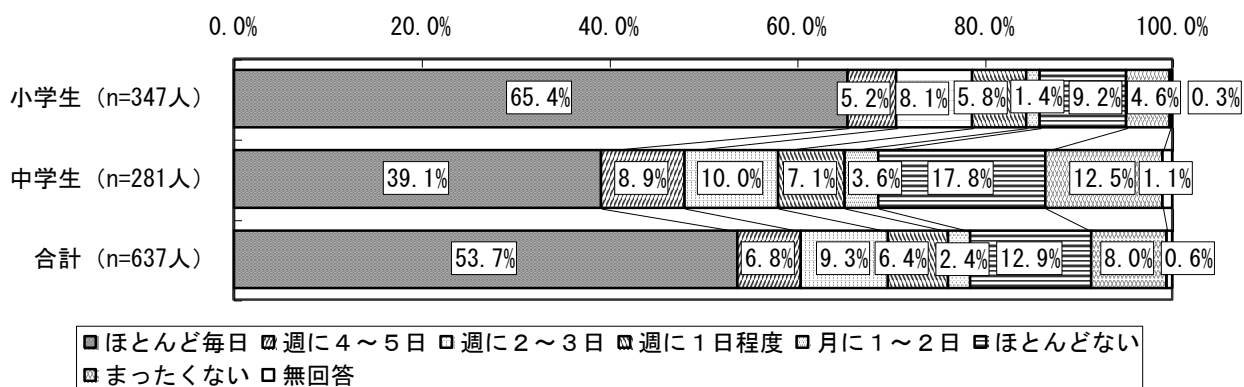
■ 毎日またはほとんど毎日 □ 週に4~5日 □ 週に2~3日ぐらい □ 週に1日ぐらい □ 遅刻はしない □ 無回答

小・中学生 12-A. おうちの大人と一緒に朝食を食べるか
 問 12A. おうちの大人の人と一緒に朝食を食べていますか。
 (あてはまるもの一つだけに○をつけてください)

小・中学生がおうちの大人と一緒に朝食を食べるかをみると、「ほとんど毎日」が 53.7%、「ほとんどない」が 12.9%、「週に 2～3 日」が 9.3%となっています。「ほとんど毎日」と「無回答」を除くと 45.8%となっており、4 割以上の子どもはおうちの大人と一緒に朝食を食べない日があります。また、「週に 1 日程度」「月に 1～2 日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は 29.7%となっており、約 3 割の子どもはほぼ毎日おうちの大人と朝食を食べていません。

小学生と中学生の比較では、「ほとんど毎日」が小学生は 65.4%、中学生は 39.1%と中学生になると「おうちの大人と一緒に朝食を食べる」割合が少なくなっています。

図：おうちの大人と朝食を食べるか（小・中学生）

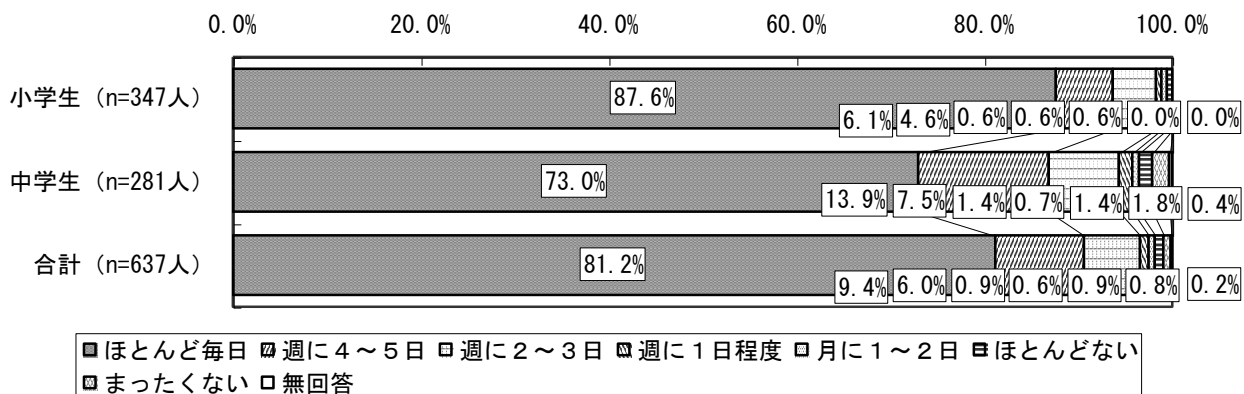


小・中学生 12-B. おうちの大人と一緒に夕食を食べるか
 問 12B. おうちの大人の人と一緒に夕食を食べていますか。
 (あてはまるもの一つだけに○をつけてください)

小・中学生がおうちの大人と一緒に夕食を食べるかをみると、「ほとんど毎日」が 81.2%、「週に 4～5 日」が 9.4%、「週に 2～3 日」が 6.0%となっています。「ほとんど毎日」と「無回答」を除くと、18.6%となっており、約 2 割の子どもはおうちの大人と一緒に夕食を食べない日があります。

小学生と中学生の比較では、朝食と同様に、「ほとんど毎日」が小学生は 87.6%、中学生は 73.0%と中学生の方が少なくなっています。

図：おうちの大人と一緒に夕食を食べるか（小・中学生）



小・中学生 12-C. おうちの大人に朝起こされるか

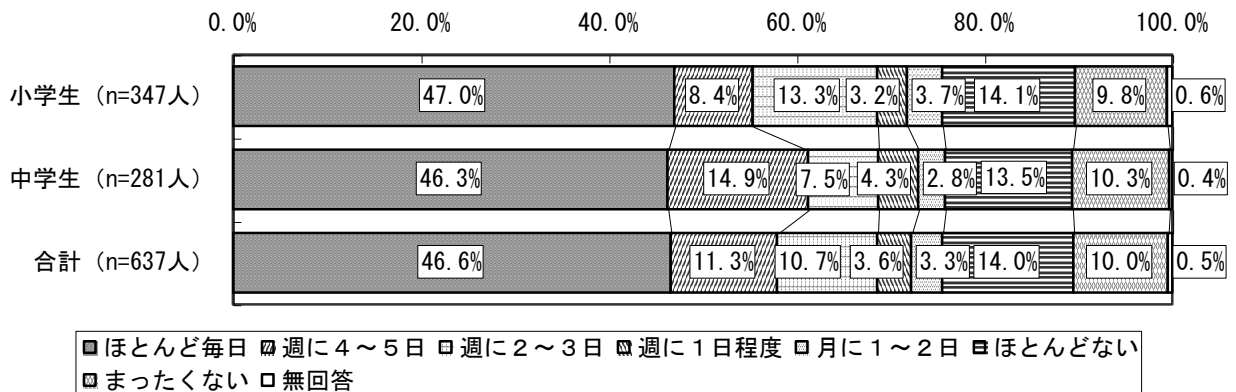
問 12C. おうちの大人の人に朝起こしてもらいますか。

(あてはまるもの一つだけに○をつけてください)

小・中学生がおうちの大人に朝起こされるかをみると、「ほとんど毎日」が46.6%、「ほとんどない」が14.0%、「週に4～5日」が11.3%となっています。「週に1日程度」「月に1～2日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は30.9%となっており、ほぼ毎日自分で起きられる子どもは約3割となっています。

小学生と中学生の比較では、ほとんど差が見られません。

図：おうちの大人に朝起こされるか（小・中学生）



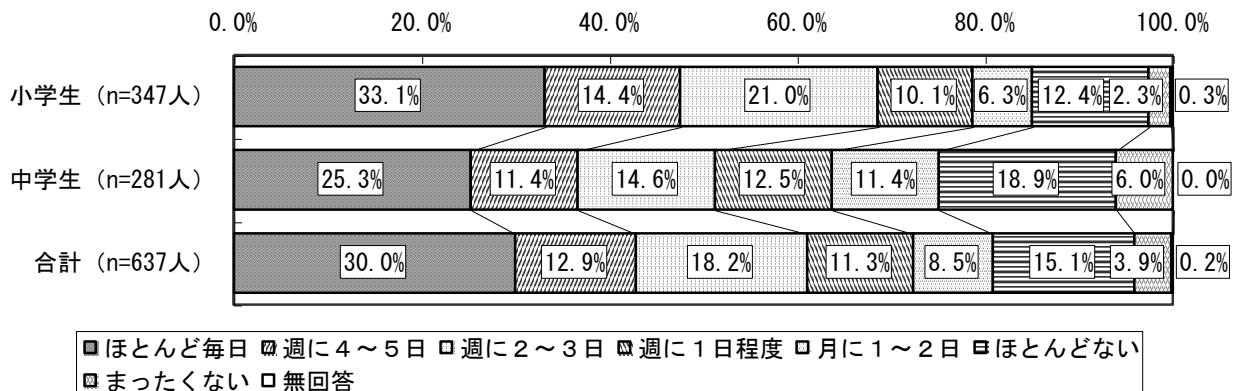
小・中学生 12-D. おうちの手伝いをするか

問 12D. おうちの手伝いをしていますか。(あてはまるもの一つだけに○をつけてください)

小・中学生がおうちの手伝いをするかをみると、「ほとんど毎日」が30.0%、「週に2～3日」が18.2%、「ほとんどない」が15.1%となっています。「週に1日程度」「月に1～2日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は38.8%となっており、おうちのお手伝いをあまりしない子どもは約4割となっています。

小学生と中学生の比較では、小学生の方が多少、「おうちの手伝いをする」傾向が見られます。

図：おうちの手伝いをするか（小・中学生）



小・中学生 12-E. おうちの大人の人に勉強をみてもらうか

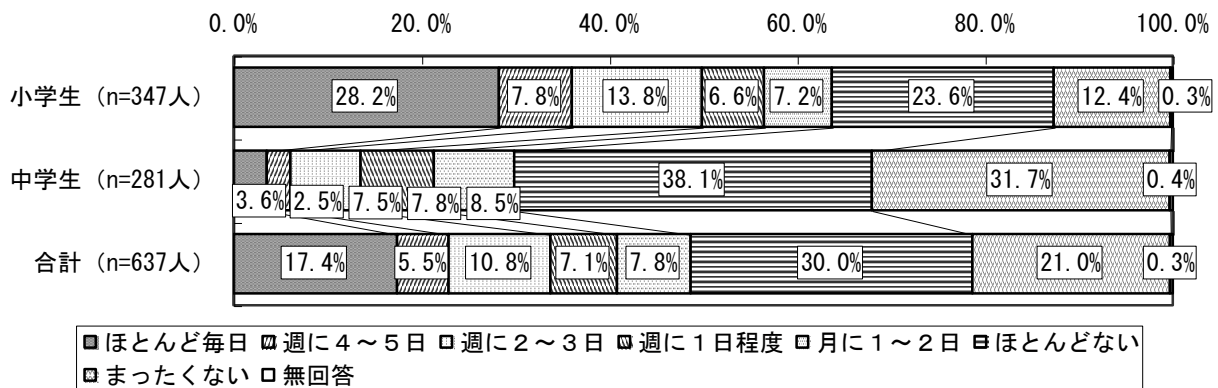
問 12E. おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらいますか。

（あてはまるもの 1 つだけに○をつけてください）

おうちの大人の人に勉強をみてもらうかをみると、「ほとんどない」が 30.0%、「まったくない」が 21.0%、「ほとんど毎日」が 17.4%となっています。「週に 1 日程度」「月に 1～2 日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は 65.9%となっており、おうちの大人の人にあまり勉強をみてもらわない小・中学生は 6 割以上となっています。

中学生は「ほとんどない」と「まったくない」を合わせると 69.8%となっており、約 7 割はおうちの大人の人にあまり勉強をみてもらわないと回答しています。

図：おうちの大人の人に勉強をみてもらうか（小・中学生）



小・中学生 12-F. おうちの大人の人と学校の話をするか

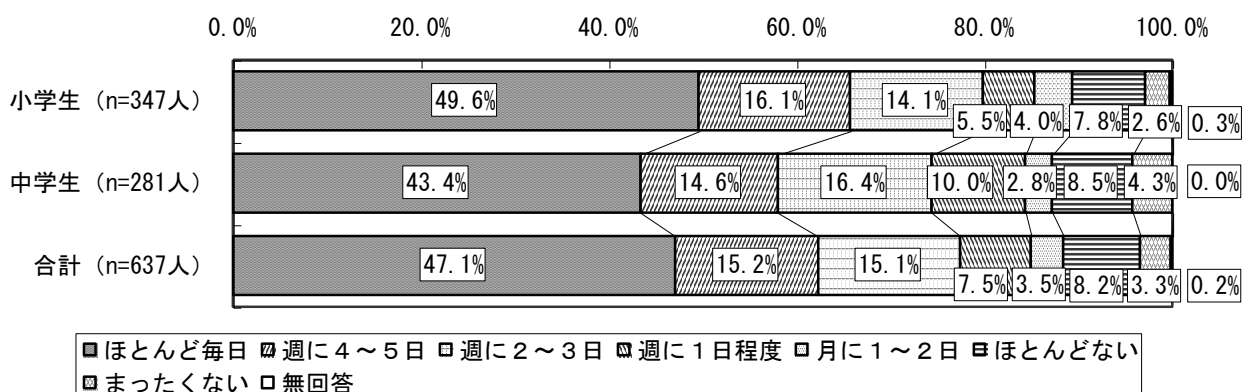
問 12F. おうちの大人の人と学校でのできごとについて話しますか。

（あてはまるもの 1 つだけに○をつけてください）

おうちの大人の人と学校の話をするかをみると、「ほとんど毎日」が 47.1%、「週に 4～5 日」が 15.2%、「週に 2～3 日」が 15.1%となっています。「週に 1 日程度」「月に 1～2 日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は 22.5%となっており、おうちの大人の人とあまり学校の話をしていない子どもは約 2 割となっています。

小学生と中学生の比較では、「ほとんど毎日」が小学生は 49.6%、中学生は 43.4%となり中学生の方が「おうちの大人の人と学校の話をする」割合が少し少なくなっています。

図：おうちの大人の人と学校の話をするか（小・中学生）



小・中学生 12-G. おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

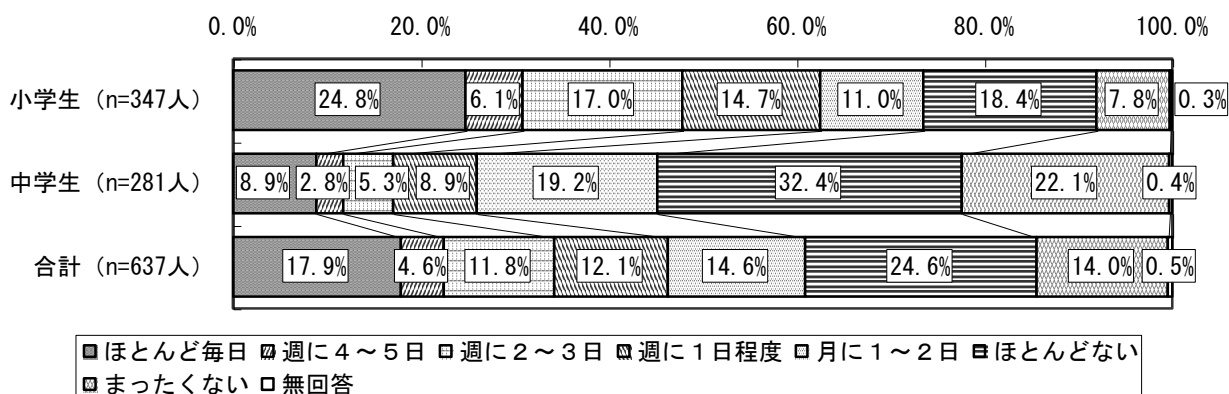
問 12G. おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりしますか。

(あてはまるもの 1 つだけに○をつけてください)

おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかをみると、「ほとんどない」が 24.6%、「ほとんど毎日」が 17.9%、「月に 1～2 日」が 14.6%となっています。「週に 1 日程度」「月に 1～2 日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は 65.3%となっており、おうちの大人の人とあまり遊んだり、体を動かしたりしない子どもは 6 割以上となっています。

小学生と中学生の比較では、「週に 1 日程度」「月に 1～2 日」「ほとんどない」「まったくない」の合計について、小学生は 51.9%、中学生は 82.6%となり、中学生の方がより「おうちの大人の人とあまり遊んだり、体を動かしたりしない」割合がかなり多くなっています。

図：おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか（小・中学生）



小・中学生 12-H. おうちの大人の人と社会のできごとについて話すか

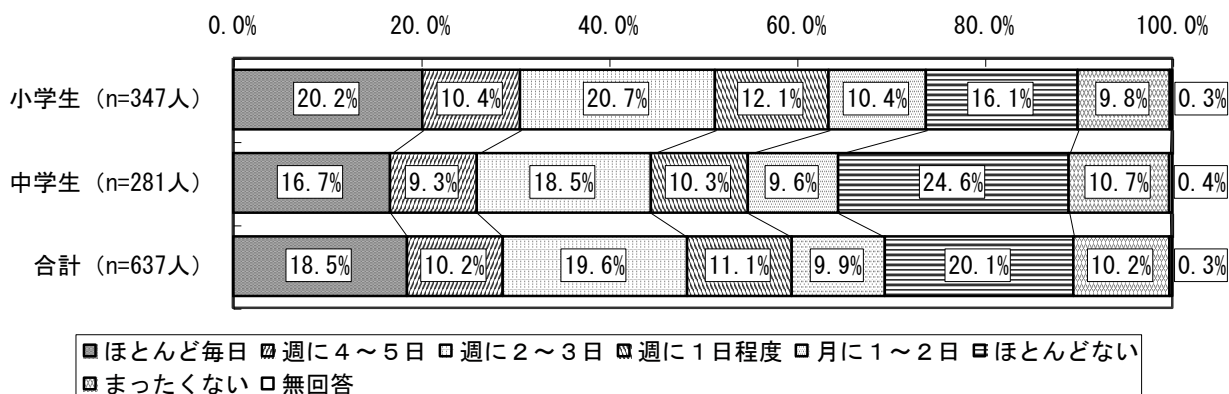
問 12H. おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話をしますか。

(あてはまるもの 1 つだけに○をつけてください)

おうちの大人の人と社会のできごとについて話すかをみると、「ほとんどない」が 20.1%、「週に 2～3 日」が 19.6%、「ほとんど毎日」が 18.5%となっています。「週に 1 日程度」「月に 1～2 日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は 51.3%となっており、おうちの大人の人とあまり社会のできごとについて話さない子どもは約 5 割となっています。

小学生と中学生の比較では、「週に 1 日程度」「月に 1～2 日」「ほとんどない」「まったくない」の合計について、小学生は 48.4%、中学生は 55.2%となり、中学生の方が「おうちの大人の人とあまり社会のできごとについて話さない」割合が少し多くなります。

図：おうちの大人の人と社会のできごとについて話すか（小・中学生）



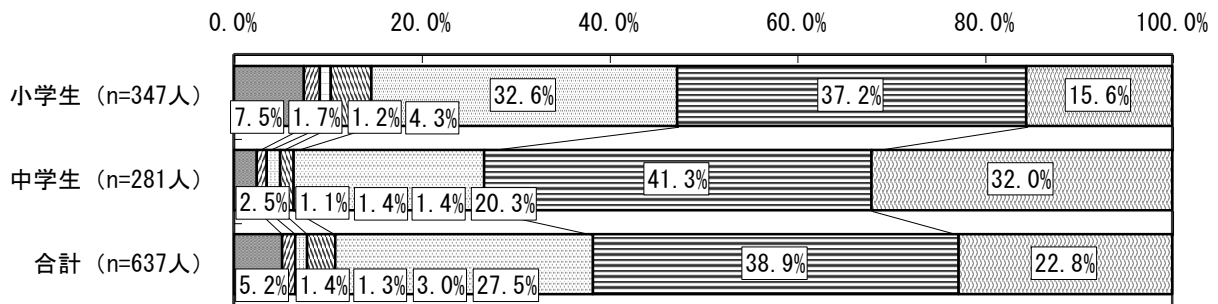
小・中学生 12-I. おうちの大人の人と文化活動をするか

問 12 I. おうちの大人の人と文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をしますか。（あてはまるもの 1 つだけに○をつけてください）

おうちの大人の人と文化活動をするかをみると、「ほとんどない」が 38.9%、「月に 1～2 日」が 27.5%、「まったくない」が 22.8%となっています。「月に 1～2 日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は 89.2%となっており、おうちの大人の人とあまり文化活動をしない子どもは約 9 割となっています。

小学生と中学生の比較では、「月に 1～2 日」「ほとんどない」「まったくない」の合計について、小学生は 85.4%、中学生は 93.6%となり、中学生の方が「おうちの大人の人とあまり文化活動をしない」割合がより多くなっています。

図：おうちの大人の人と文化活動をするか（小・中学生）



■ほとんど毎日 ▨週に 4～5 日 □週に 2～3 日 ▩週に 1 日程度 □月に 1～2 日 ▨ほとんどない □まったくない

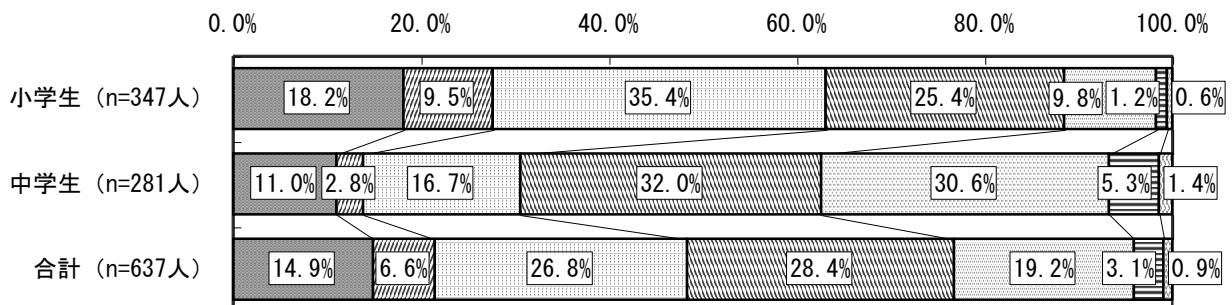
小・中学生 12-J. おうちの大人の人と一緒に外出するか

問 12 J. おうちの大人の人と一緒に外出しますか。（散歩する、買い物に出かける、外食をするなど）（あてはまるもの 1 つだけに○をつけてください）

おうちの大人の人と一緒に外出するかをみると、「週に 1 日程度」が 28.4%、「週に 2～3 日」が 26.8%、「月に 1～2 日」が 19.2%となっています。「月に 1～2 日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は 23.2%となっており、おうちの大人の人とあまり外出をしない子どもは約 2 割となっています。

小学生と中学生の比較では、「月に 1～2 日」「ほとんどない」「まったくない」の合計について、小学生は 11.6%、中学生は 37.3%となり、中学生の方が「おうちの大人の人とあまり外出をしない」割合が多くなっています。

図：おうちの大人の人と一緒に外出するか（小・中学生）



■ほとんど毎日 ▨週に 4～5 日 □週に 2～3 日 ▩週に 1 日程度 □月に 1～2 日 ▨ほとんどない □まったくない

16・17歳 12-A. おうちの大人と朝食を食べるか

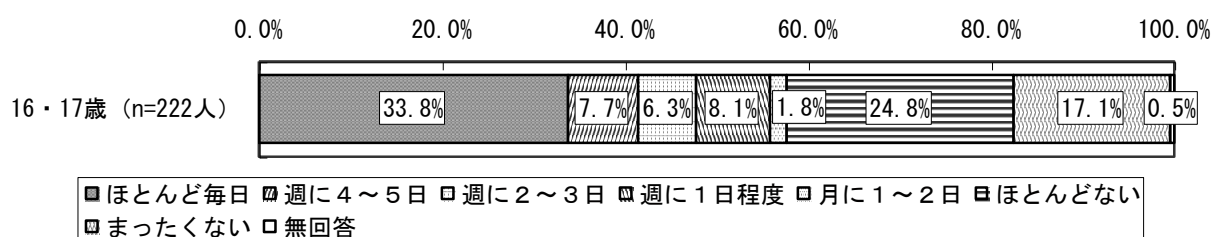
問 12A. おうちの大人の人と一緒に朝食を食べていますか。

(あてはまるもの1つだけに○をつけてください)

16・17歳のおうちの大人と朝食を食べるかをみると、「ほとんど毎日」が33.8%、「ほとんどない」が24.8%、「まったくない」が17.1%となっています。

「ほとんど毎日」が最も高い比率である一方で、「ほとんどない」が2番目に高い比率となっています。「ほとんど毎日」と「無回答」を除くと65.8%となっており、6割以上の16・17歳はおうちの大人と一緒に朝食を食べない日があります。また、「週に1日程度」「月に1～2日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は51.8%となっており、約5割の16・17歳はほぼ毎日おうちの大人と朝食を食べていません。

図：おうちの大人と朝食を食べるか（16・17歳）



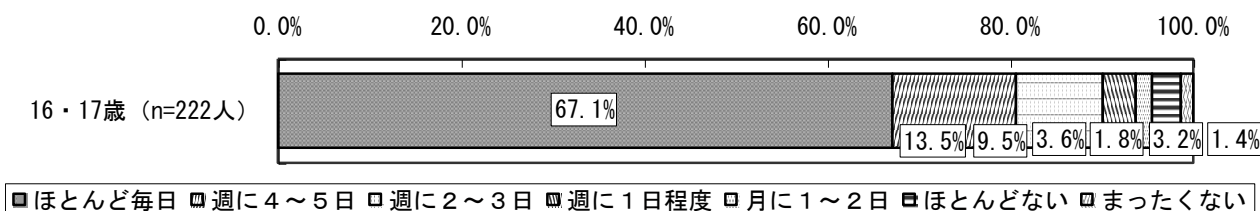
16・17歳 12-B. おうちの大人と夕食を食べるか

問 12B. おうちの大人の人と一緒に夕食を食べていますか。

(あてはまるもの1つだけに○をつけてください)

16・17歳のおうちの大人と夕食を食べるかをみると、「ほとんど毎日」が67.1%、「週に4～5日」が13.5%、「週に2～3日」が9.5%となっています。「ほとんど毎日」を除くと33.0%となっており、3割以上の16・17歳はおうちの大人と一緒に夕食を食べない日があります。また、「週に1日程度」「月に1～2日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は10.0%となっており、1割の16・17歳はほぼ毎日おうちのおとなと夕食を食べていません。

図：おうちの大人と夕食を食べるか（16・17歳）



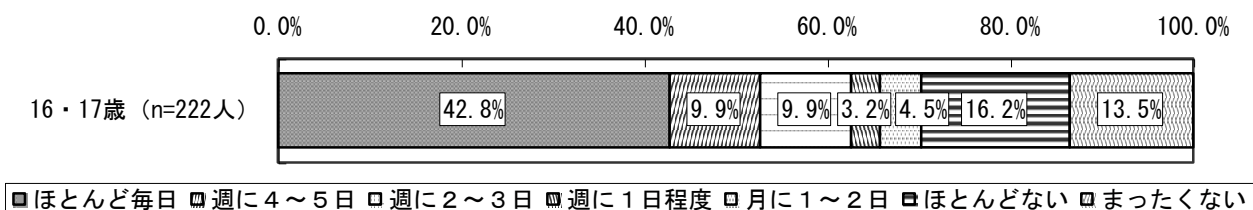
16・17歳 12-C. おうちの大人に朝起こされるか

問 12C. おうちの大人の人に朝起こしてもらいますか。

(あてはまるもの一つだけに○をつけてください)

16・17歳のおうちの大人に朝起こされるかをみると、「ほとんど毎日」が42.8%、「ほとんどない」が16.2%、「まったくない」が13.5%となっています。「週に1日程度」「月に1～2日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は37.4%となっており、ほぼ毎日自分で起きられる16・17歳は約4割となっています。

図：おうちの大人に朝起こされるか（16・17歳）

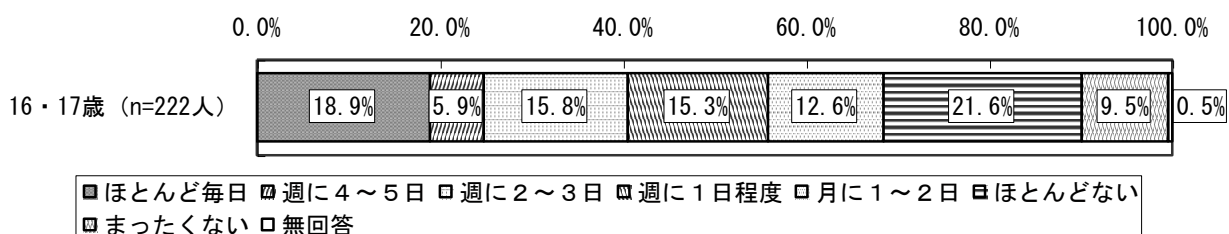


16・17歳 12-D. おうちの手伝いをするか

問 12D. おうちの手伝いをしていますか。(あてはまるもの一つだけに○をつけてください)

16・17歳のおうちの手伝いをするかをみると、「ほとんどない」が21.6%、「ほとんど毎日」が18.9%、「週に2～3日」が15.8%となっています。「週に1日程度」「月に1～2日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は59.0%となっており、おうちのお手伝いをあまりしない人は約6割となっています。

図：おうちの手伝いをするか（16・17歳）



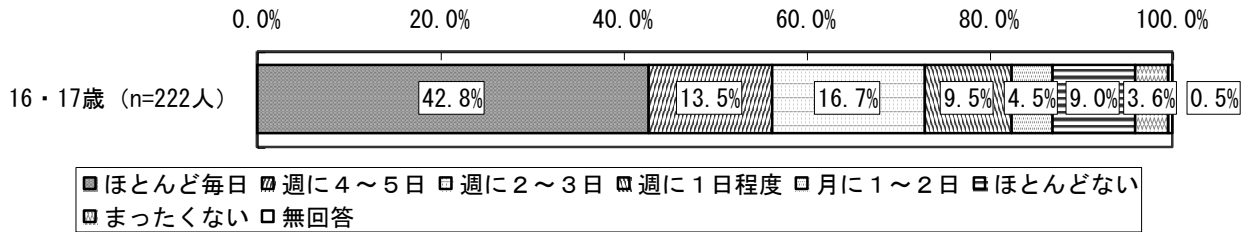
16・17歳 12-E. おうちの大人の人と学校や職場の話をするか

問 12E. おうちの大人の人と学校や職場でのできごとについて話しますか。

(あてはまるもの1つだけに○をつけてください)

16・17歳のおうちの大人の人と学校や職場の話をするかをみると、「ほとんど毎日」が42.8%、「週に2～3日」が16.7%、「週に4～5日」が13.5%となっています。「週に1日程度」「月に1～2日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は26.6%となっており、おうちの大人の人とあまり学校や職場の話をしていない人は2割以上となっています。

図：おうちの大人の人と学校や職場の話をするか（16・17歳）



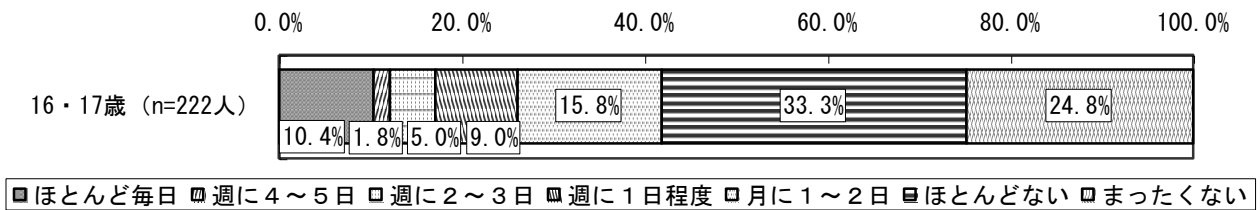
16・17歳 12-F. おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

問 12F. おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりしますか。

(あてはまるもの1つだけに○をつけてください)

16・17歳のおうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかをみると、「ほとんどない」が33.3%、「まったくない」が24.8%、「月に1～2日」が15.8%となっています。「週に1日程度」「月に1～2日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は82.9%となっており、おうちの大人の人とあまり遊んだり、体を動かしたりしない人は約8割となっています。

図：おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか（16・17歳）



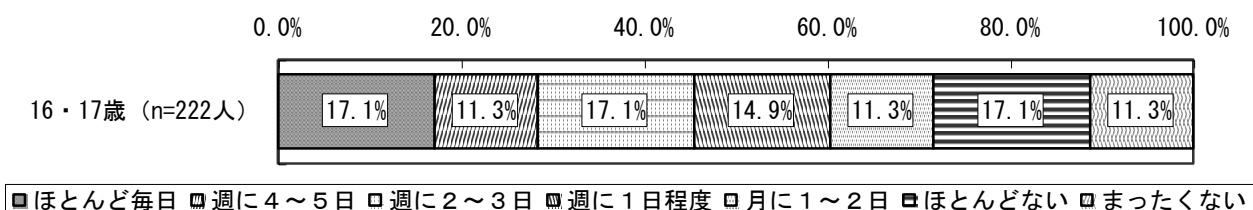
16・17歳 12-G. おうちの大人のひとと社会のできごとについて話すか

問 12G. おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話をしますか。

(あてはまるもの1つだけに○をつけてください)

16・17歳のおうちの大人のひとと社会のできごとについて話すかをみると、「ほとんど毎日」と「週に2～3日」と「ほとんどない」が17.1%、「週に1日程度」が14.9%、「週に4～5日」と「月に1～2日」と「まったくない」が11.3%となっています。「週に1日程度」「月に1～2日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は54.6%となっており、おうちの大人のひととあまり社会のできごとについて話さない人は5割以上となっています。

図：おうちの大人のひとと社会のできごとについて話すか（16・17歳）

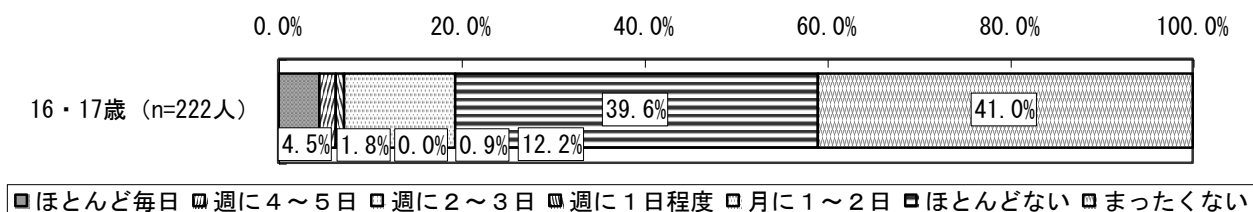


16・17歳 12-H. おうちの大人のひとと文化活動をするか

問 12H. おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をしますか。（あてはまるもの1つだけに○をつけてください）

16・17歳のおうちの大人のひとと文化活動をするかをみると、「まったくない」が41.0%、「ほとんどない」が39.6%、「月に1～2日」が12.2%となっています。「週に1日程度」「月に1～2日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は93.7%となっており、おうちの大人のひととあまり文化活動をしていない人は9割以上となっています。

図：おうちの大人のひとと文化活動をするか（16・17歳）

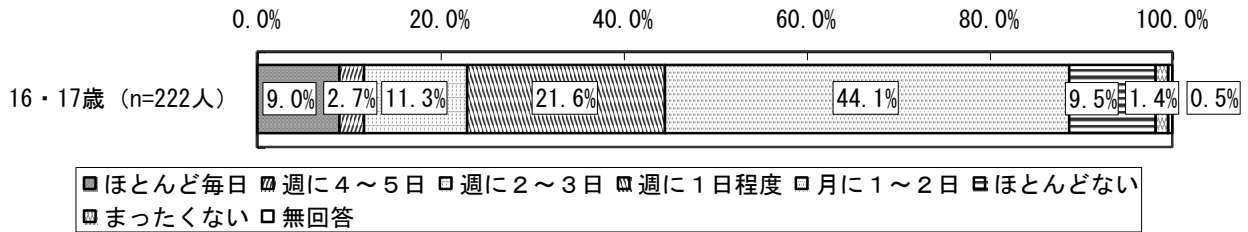


16・17歳 12-1. おうちの大人の人と一緒に外出するか

問 12 I. おうちの大人の人と一緒に外出しますか。(散歩する、買い物に出かける、外食をするなど) (あてはまるもの1つだけに○をつけてください)

16・17歳のおうちの大人の人と一緒に外出するかをみると、「月に1～2日」が44.1%、「週に1日程度」が21.6%、「週に2～3日」が11.3%となっています。「週に1日程度」「月に1～2日」「ほとんどない」「まったくない」の合計は76.6%となっており、おうちの大人の人とあまり外出しない人は7割以上となっています。

図：おうちの大人の人と一緒に外出するか（16・17歳）



小・中学生 13. 楽しいと感じるとき

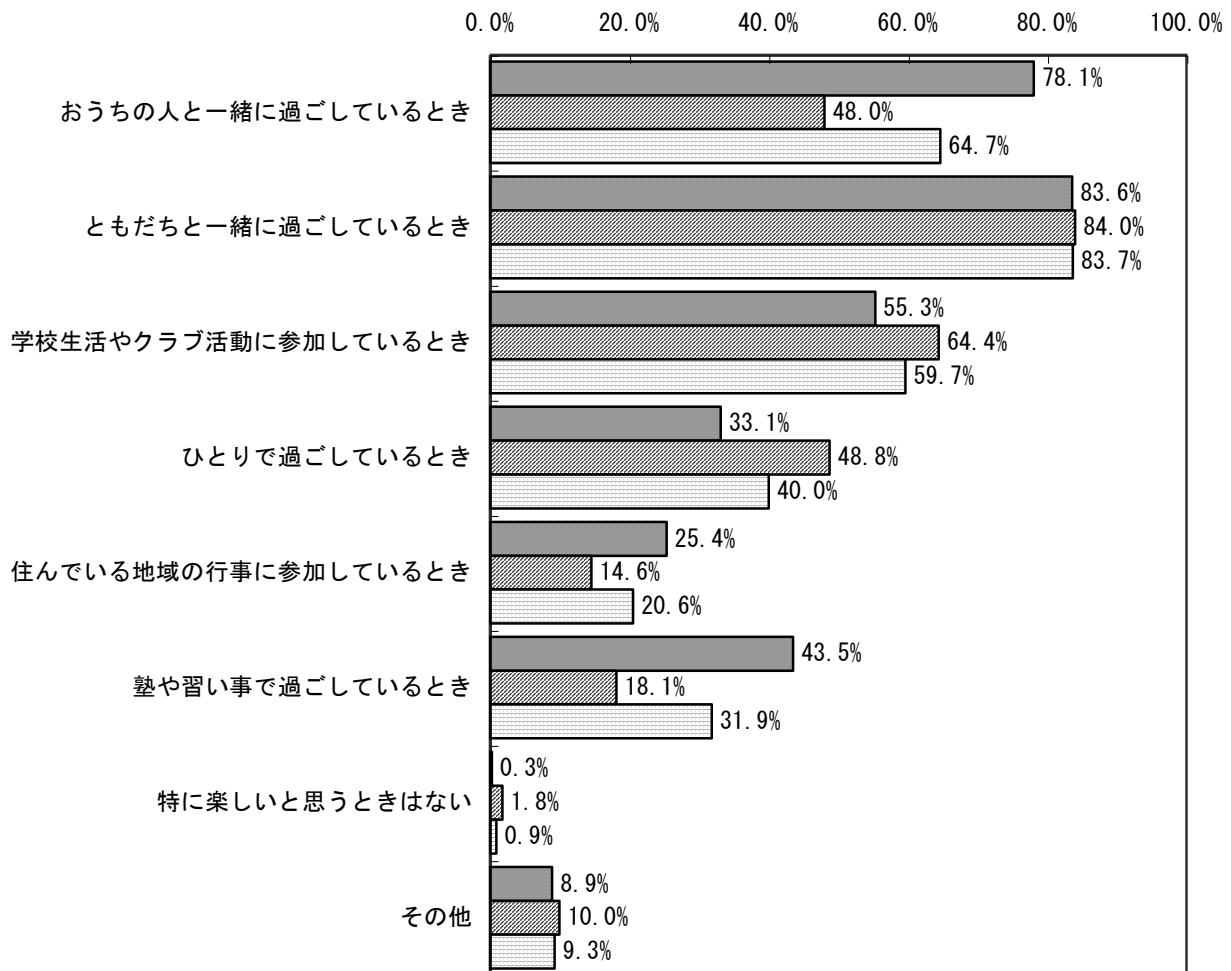
問 13. あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

小・中学生の楽しいと感じるときをみると、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が 83.7%、「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が 64.7%、「学校生活やクラブ活動に参加しているとき」が 59.7%となっています。

小学生と中学生の比較では、小学生は「おうちの人と一緒に過ごしているとき」の 78.1%や「塾や習い事で過ごしているとき」の 43.5%が多く、中学生は「ひとりで過ごしているとき」の 48.8%や「学校生活やクラブ活動に参加しているとき」の 64.4%が多いのに特徴が見られます。

図：楽しいと感じるとき（小・中学生）



■小学生 (n=347人) ■中学生 (n=281人) □合計 (n=637人)

16・17歳 13. 楽しいと感じるとき

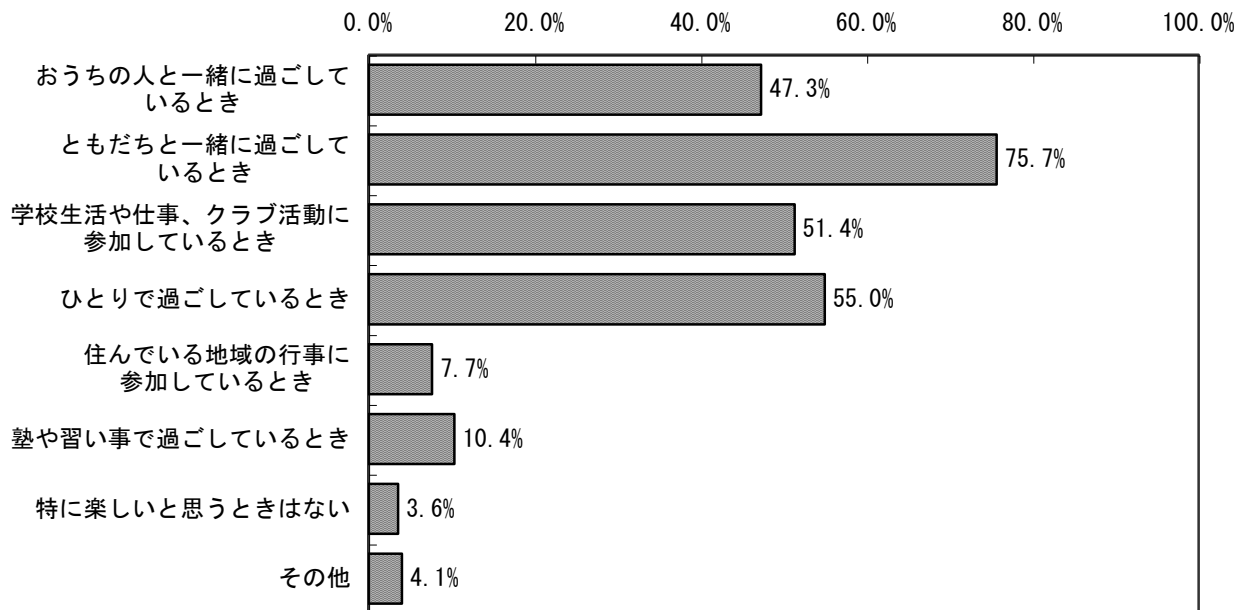
問 13. あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

16・17歳の楽しいと感じるときをみると、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が75.7%、「ひとりで過ごしているとき」が55.0%、「学校生活や仕事、クラブ活動に参加しているとき」が51.4%となっています。

図：楽しいと感じるとき（16・17歳）

16・17歳（n=222人）



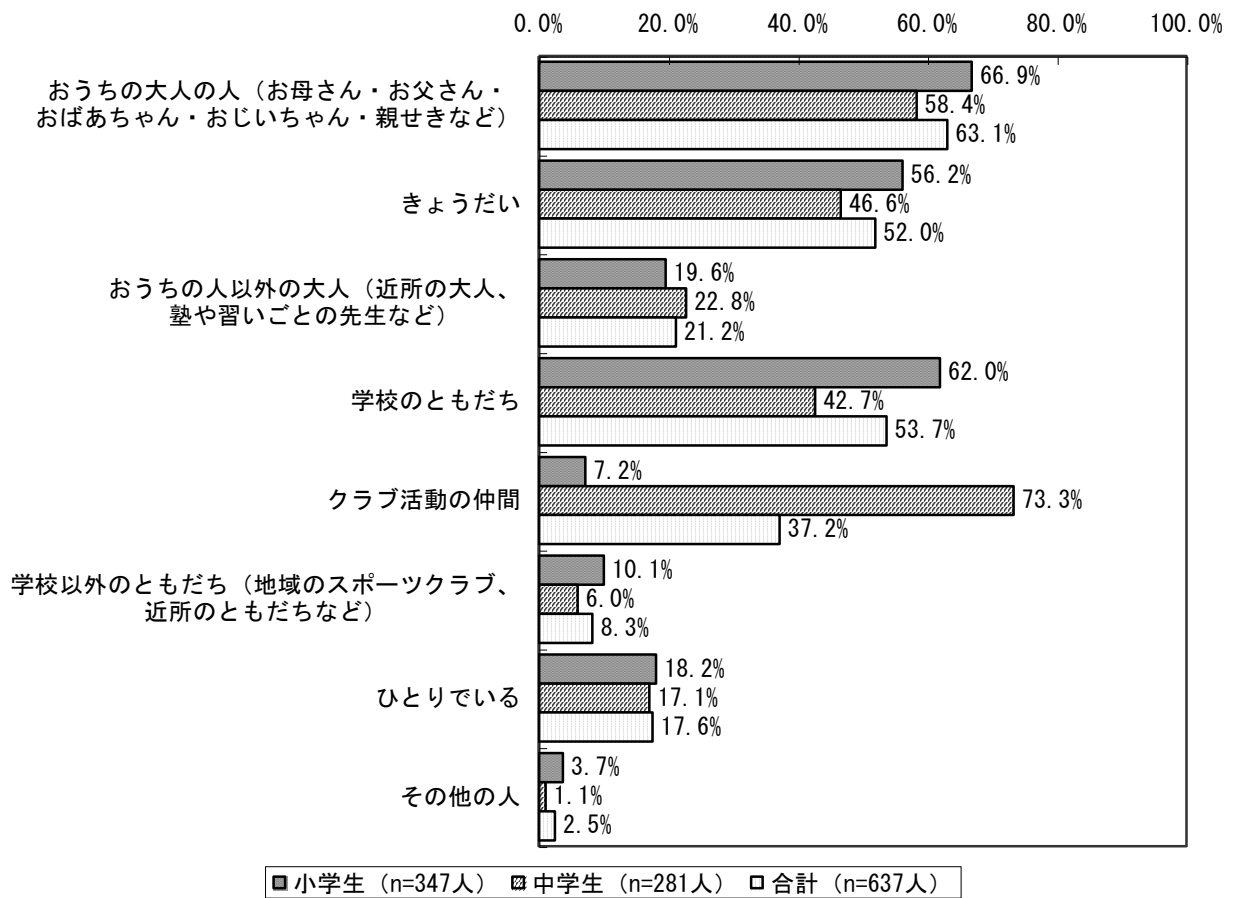
小・中学生 14. 放課後に一緒に過ごす人

問 14. あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後に、だれと過ごしますか。
（あてはまるものすべてに○）

小・中学生の放課後に一緒に過ごす人を見ると、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が 63.1%、「学校のともだち」が 53.7%、「きょうだい」が 52.0% となっています。

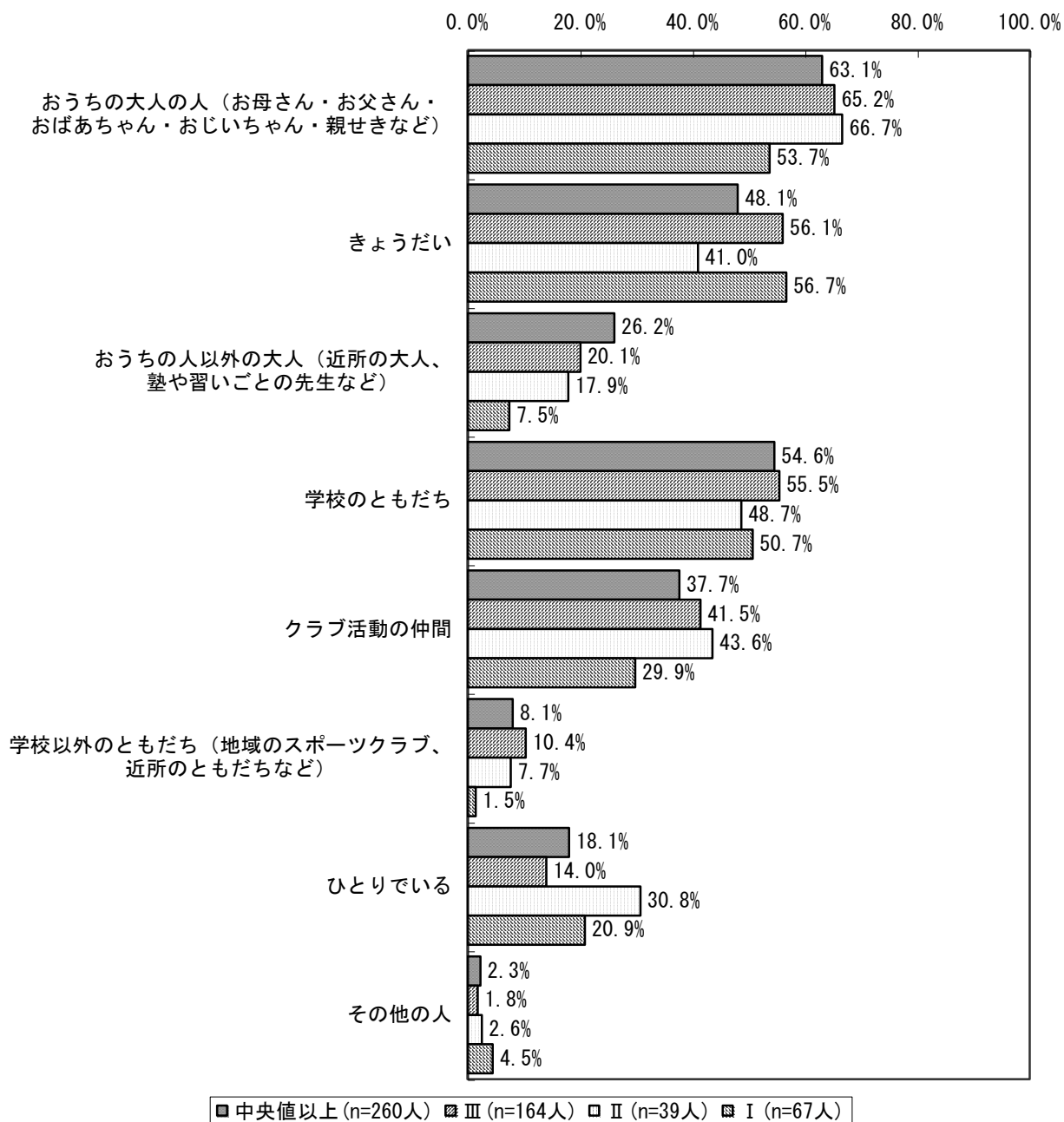
小学生は「学校のともだち」の 62.0%が多く、中学生は「クラブ活動の仲間」の 73.3%が多くなっています。

図：放課後に一緒に過ごす人（小・中学生）



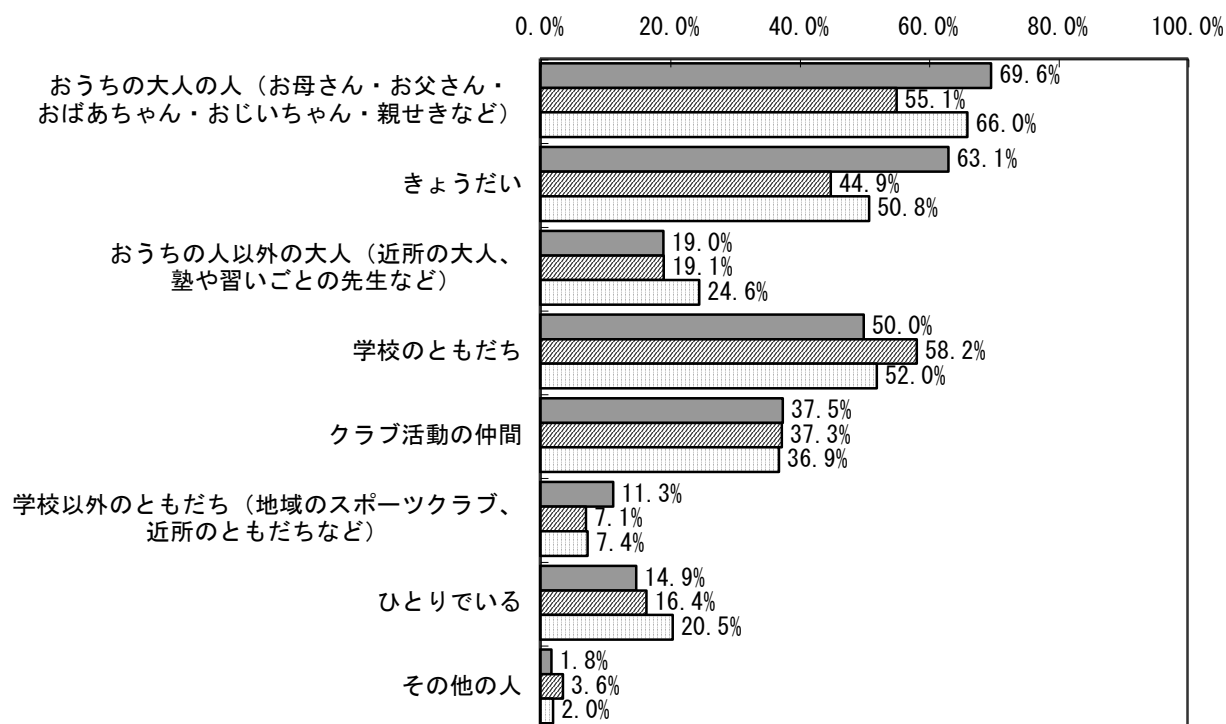
困窮度別にみると、「ひとりである」は困窮度Ⅱで30.8%、困窮度Ⅰで20.9%となっており、困窮度の高い世帯の小・中学生は放課後にひとりである割合が多くなっています。

図：困窮度別・放課後に一緒に過ごす人（小・中学生）



福祉事務所管内別にみると、東福祉事務所管内と西福祉事務所管内では「おうちの大人の人」が最も多く、東福祉事務所管内では 69.6%となっていますが、中福祉事務所管内では「学校のともだちが」58.2%と最も多くなっています。また、東福祉事務所管内では「きょうだい」が 63.1%と多くなっています。「ひとりである」は西福祉事務所管内では 20.5%となっています。

図：福祉事務所管内別・放課後に一緒に過ごす人（小・中学生）



■ 東福祉事務所管内 (n=168人) ■ 中福祉事務所管内 (n=225人) □ 西福祉事務所管内 (n=244人)

小・中学生 15. 放課後に過ごす場所

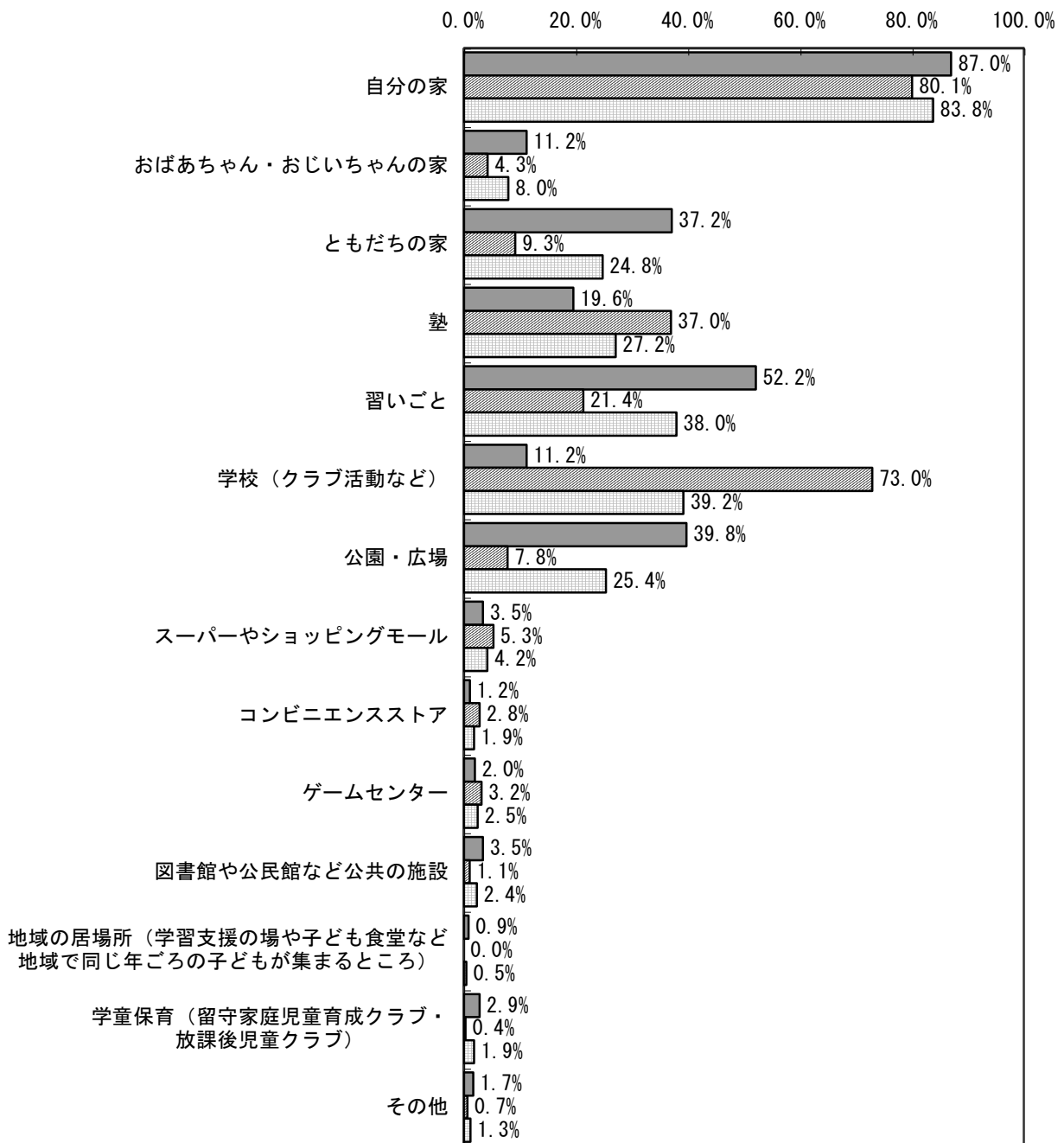
問 15. あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。

（あてはまるものすべてに○）

小・中学生の放課後に過ごす場所をみると、「自分の家」が 83.8%、「学校（クラブ活動など）」が 39.2%、「習いごと」が 38.0%となっています。

「自分の家」を除くと、小学生は「習いごと」が 52.2%と最も多く、次いで「公園・広場」が 39.8%、「ともだちの家」が 37.2%となっています。中学生は「学校（クラブ活動など）」が 73.0%と最も多く、次いで「塾」が 37.0%となっています。

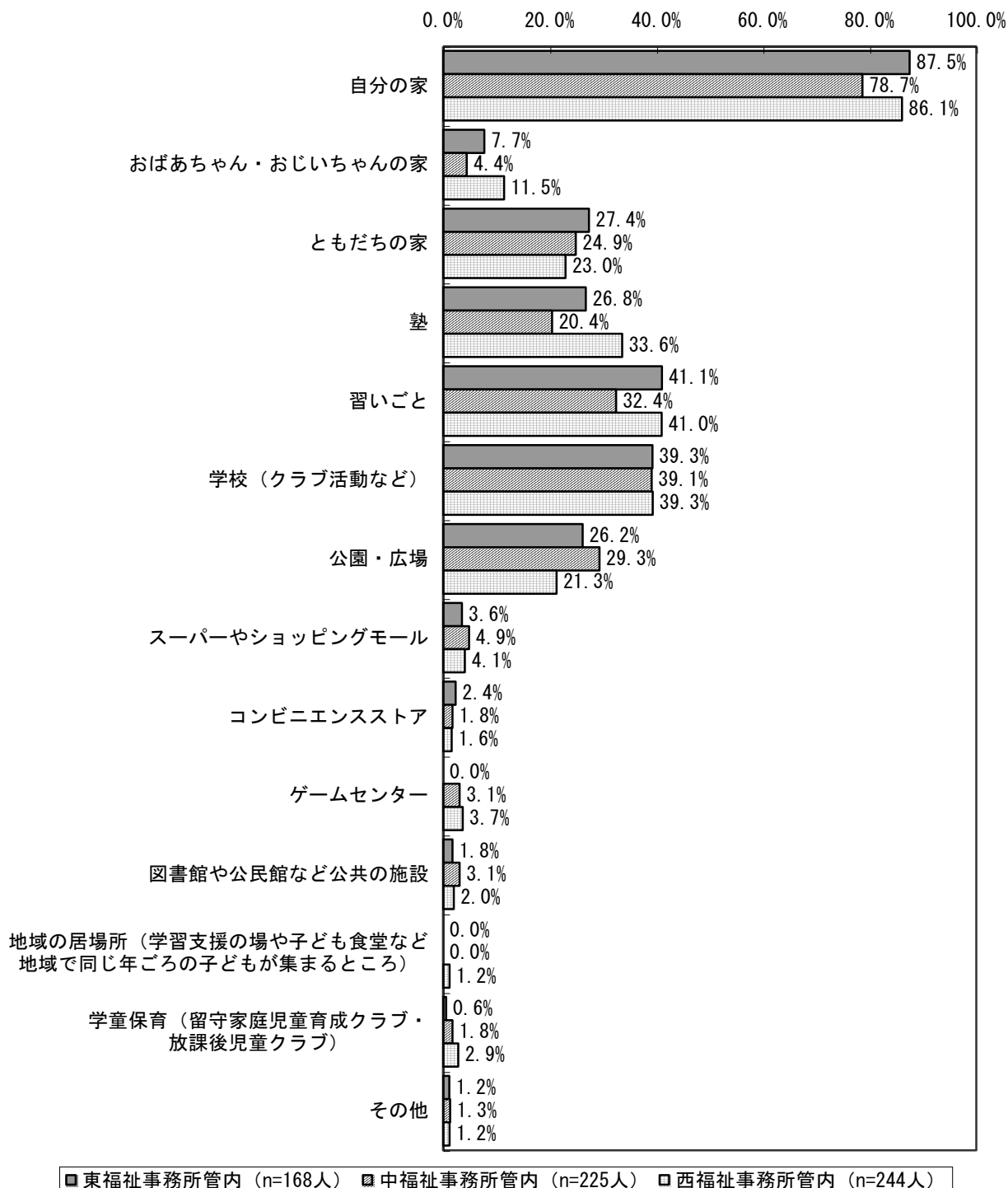
図：放課後に過ごす場所



■小学生 (n=347人) ■中学生 (n=281人) □合計 (n=637人)

福祉事務所管内別にみると、東福祉事務所管内と西福祉事務所管内では「自分の家」が9割近くを占めていますが、中福祉事務所管内は8割未満と少なくなっており、「公園・広場」や「スーパーやショッピングモール」、「図書館や公民館など公共の施設」が相対的に多くなっています。西福祉事務所管内は「地域の居場所」や「学童保育」で過ごしている小・中学生が相対的に多くなっています。

図：福祉事務所管内別・放課後に過ごす場所



16・17歳 14. 放課後・就業後一緒に過ごす人

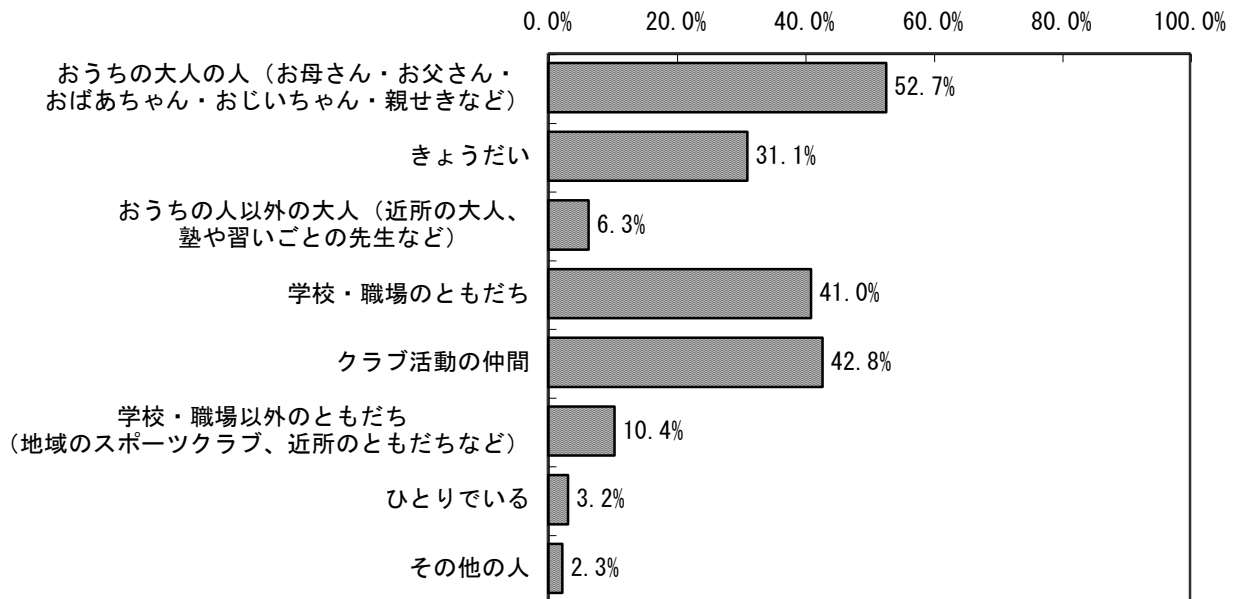
問 14. あなたは、ふだんの放課後・就業後、主にだれと過ごしますか。

(あてはまるものすべてに○)

16・17歳の放課後・就業後一緒に過ごす人を見ると、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が52.7%、「クラブ活動の仲間」が42.8%、「学校・職場のともだち」が41.0%となっています。

図：放課後・就業後一緒に過ごす人（16・17歳）

16・17歳（n=222人）



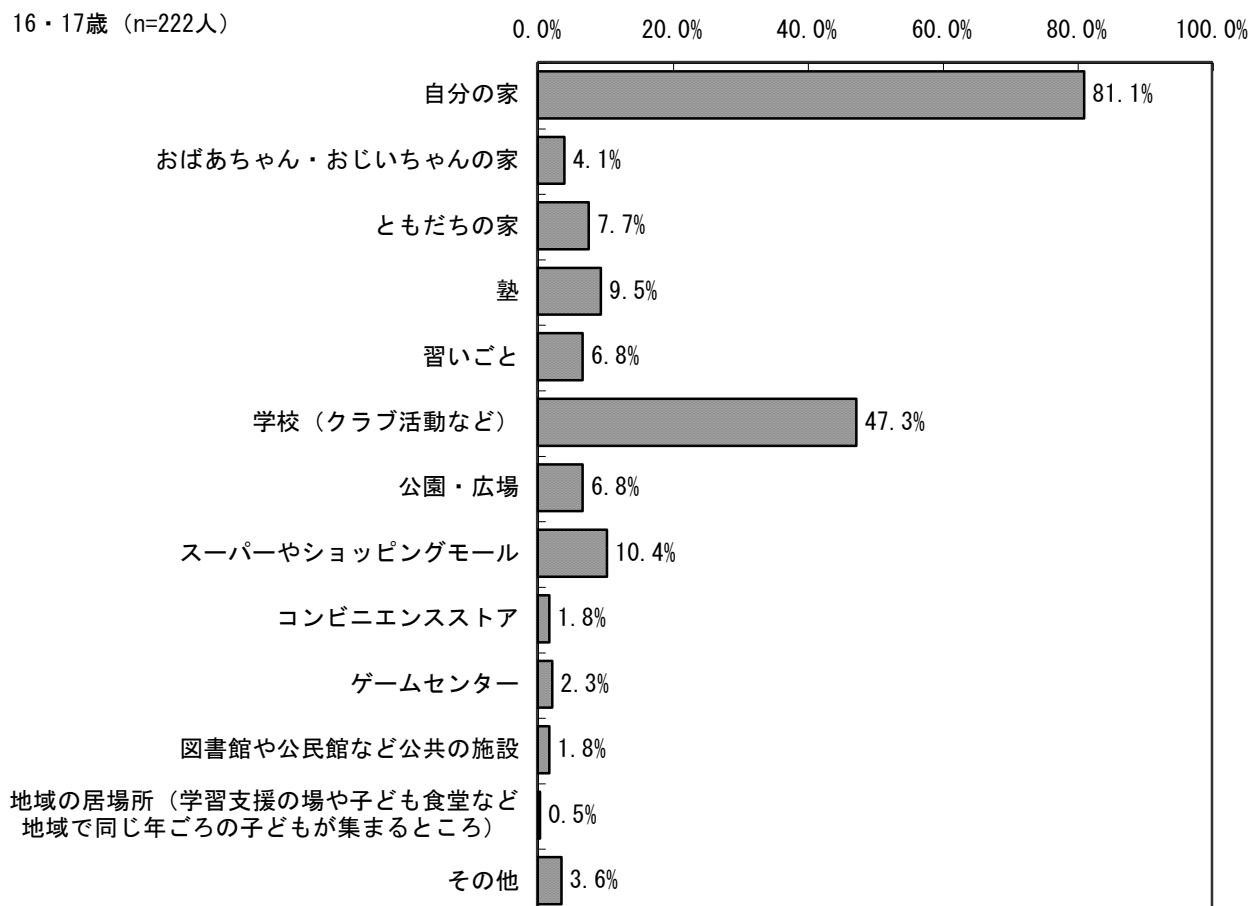
16・17歳 15. 放課後・就業後過ごす場所

問 15. あなたは、ふだんの放課後・就業後に、主にどこで過ごしますか。

(あてはまるものすべてに○)

16・17歳の放課後・就業後過ごす場所をみると、「自分の家」が81.1%、「学校（クラブ活動など）」が47.3%、「スーパーやショッピングモール」が10.4%となっています。

図：放課後・就業後過ごす場所（16・17歳）



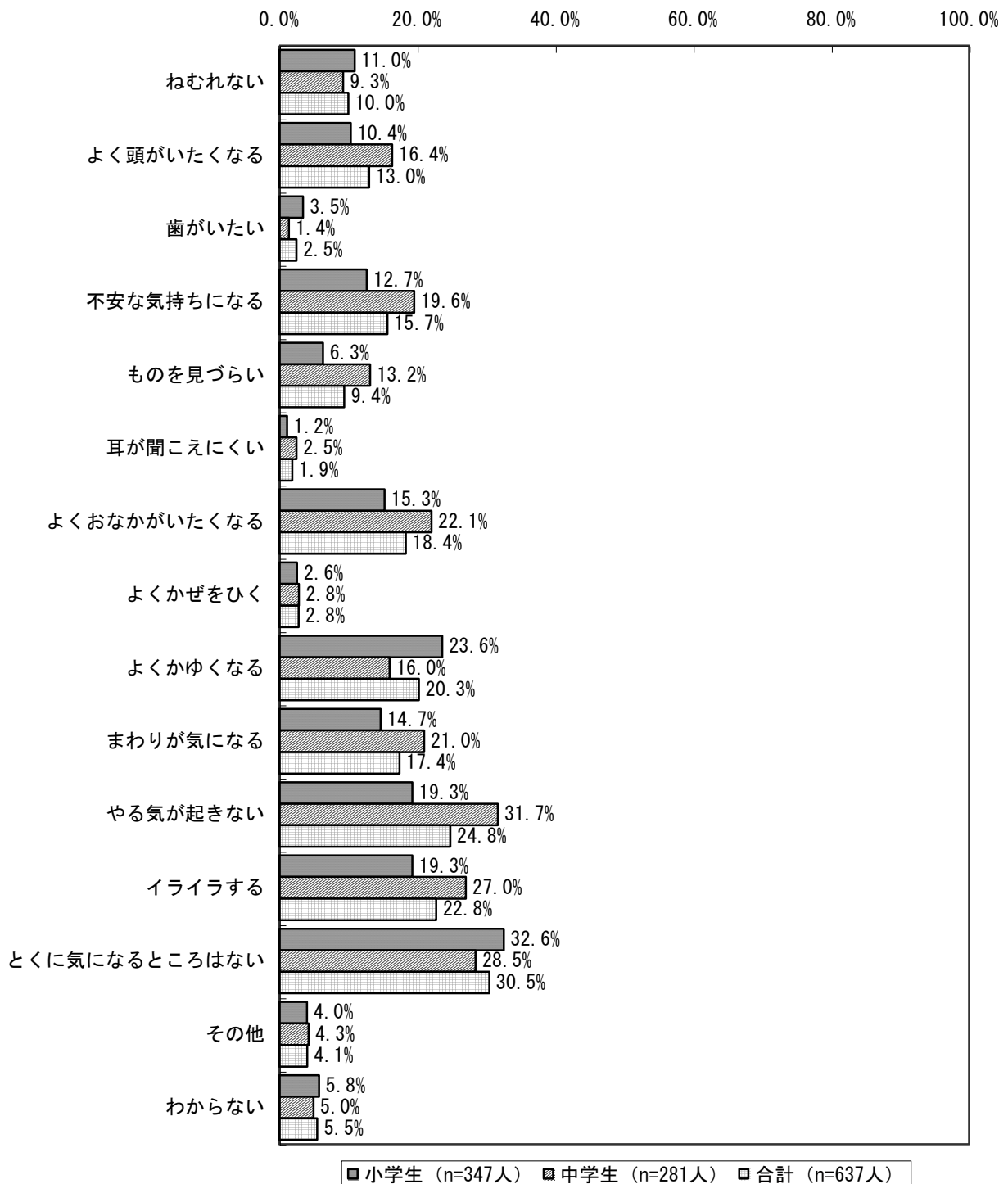
小・中学生 32. 体や気持ちで気になること

問 32. あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

小・中学生の体や気持ちで気になることをみると、「とくに気になるところはない」が 30.5%と最も多くなっています。「とくに気になるところはない」を除くと、「やる気が起きない」が 24.8%と最も多く、次いで「イライラする」が 22.8%、「よくかゆくなる」が 20.3%となっています。

小学生と中学生の比較では、小学生は「よくかゆくなる」の 23.6%が多く、中学生は「やる気が起きない」の 31.7%や「イライラする」の 27.0%、「よくおなかがいたくなる」の 22.1%などが多いのに特徴が見られます。

図：体や気持ちで気になること（小・中学生）



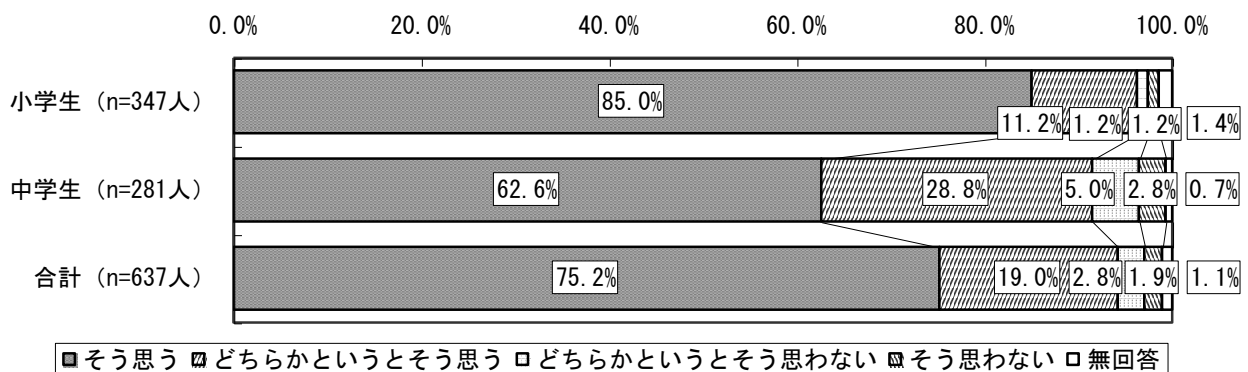
小・中学生 38. 家庭の居心地

問 38. あなたは、自分のおうちは居心地がいいと感じますか。(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生の家庭での居心地をみると、「そう思う」が75.2%、「どちらかというと思う」が19.0%、「どちらかというと思わない」が2.8%となっており、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合計した比率は94.2%となっています。

「そう思う」が小学生は85.0%であるのに対して、中学生は62.6%となっており、より肯定的に捉えている中学生は少なくなっていますが、「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計では小学生が96.2%、中学生が91.4%となっており、どちらも9割以上が家庭は居心地がよいと感じています。

図：家庭での居心地（小・中学生）



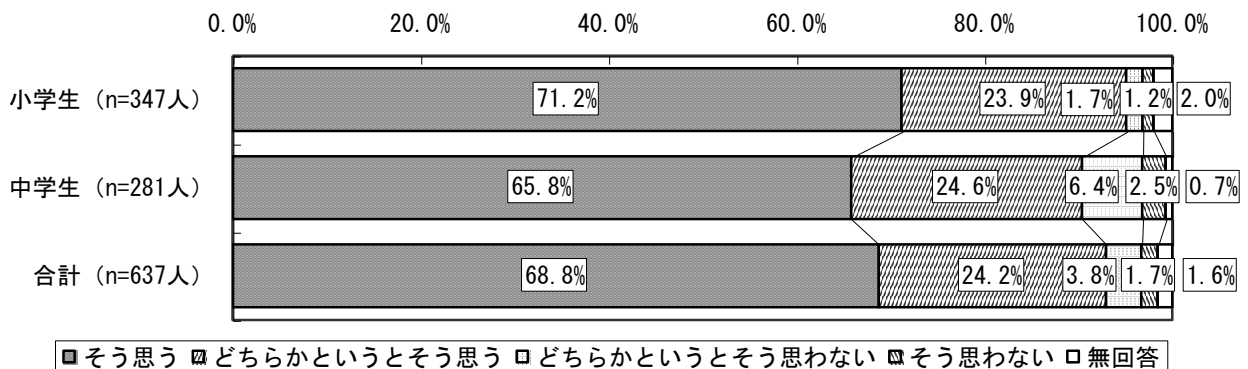
小・中学生 39. 幸せかどうか

問 39. あなたは、自分が幸せだと思いますか。(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生について自分が幸せかどうかをみると、「そう思う」が68.8%、「どちらかというと思う」が24.2%、「どちらかというと思わない」が3.8%となっており、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合計した比率は93.0%となっています。

小学生と中学生の比較では、「そう思う」が小学生は71.2%、中学生は65.8%となり、中学生の方が「自分が幸せだと思う」割合が少し少なくなっています。

図：幸せかどうか（小・中学生）

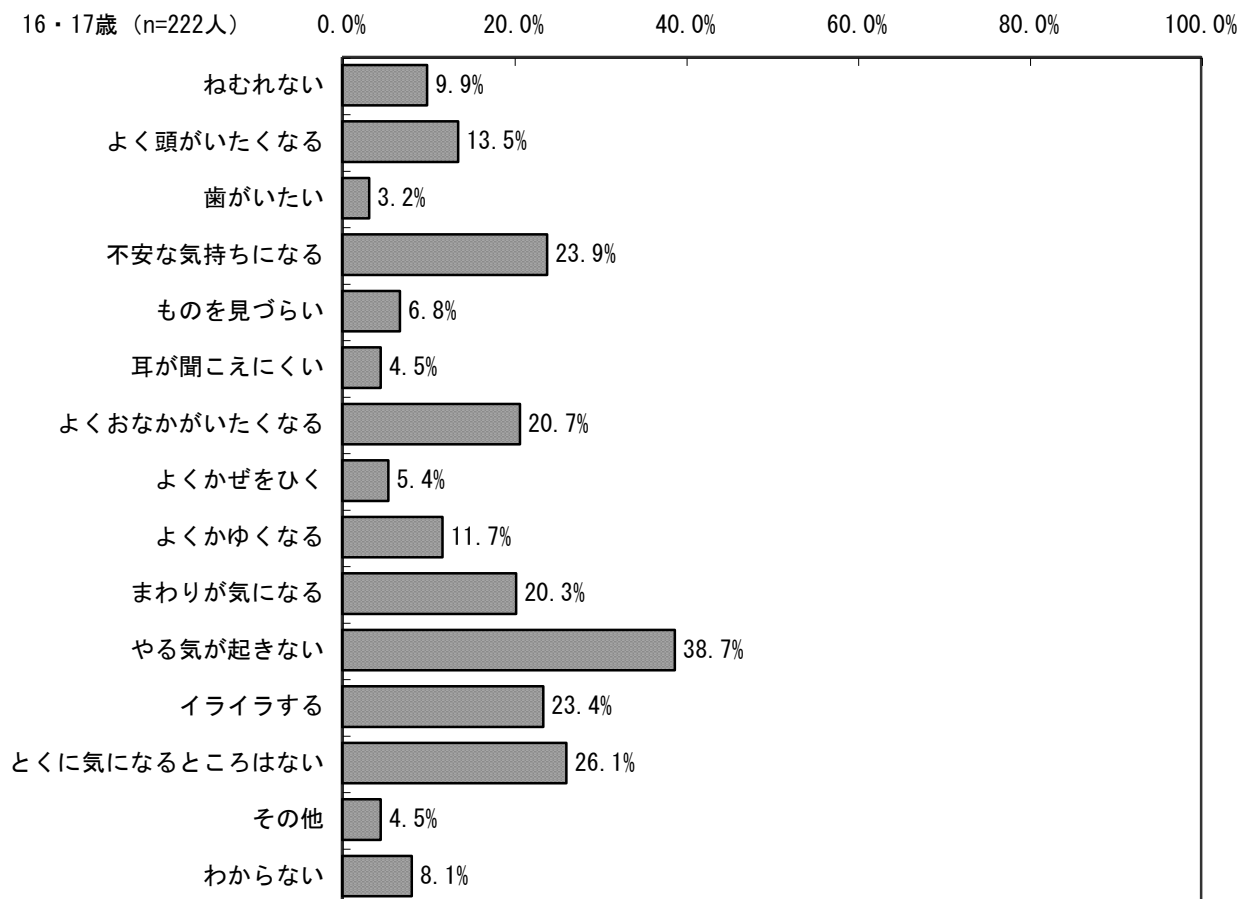


16・17歳 30. 体や気持ちで気になること

問 30. あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

16・17歳の体や気持ちで気になることをみると、「やる気が起きない」が38.7%、「とくに気になるところはない」が26.1%、「不安な気持ちになる」が23.9%となっています。

図：体や気持ちで気になること（16・17歳）

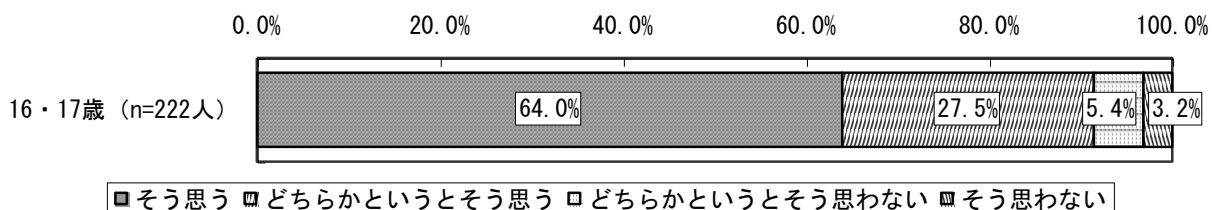


16・17歳 37. 家庭の居心地

問 37. あなたは、自分のおうちは居心地がいいと感じますか。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳の家庭の居心地をみると、「そう思う」が64.0%、「どちらかというと思う」が27.5%、「どちらかというと思わない」が5.4%となっており、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合計した比率は91.5%となっています。

図：家庭の居心地（16・17歳）

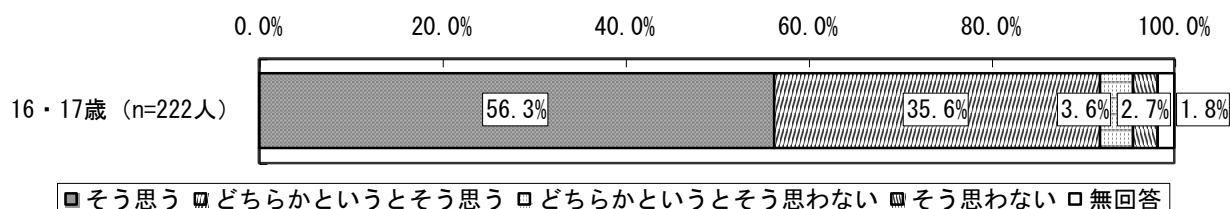


16・17歳 41. 幸せかどうか

問 41. あなたは、自分は幸せだと思いますか。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳について自分が幸せかどうかをみると、「そう思う」が56.3%、「どちらかというと思う」が35.6%となっており、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合計した比率は91.9%となっています。

図：幸せかどうか（16・17歳）

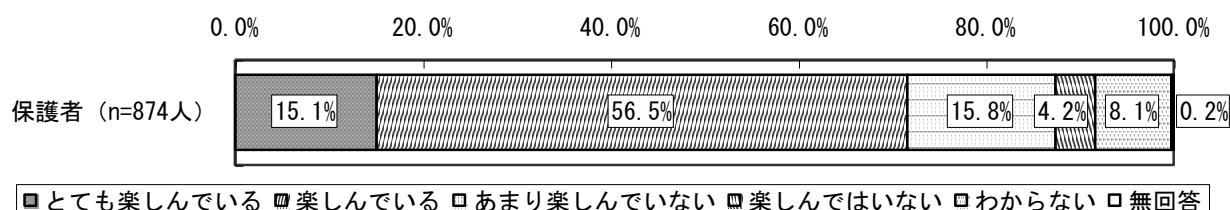


保護者 24-1. 生活を楽しんでいるか

問 24 (1). 生活を楽しんでいますか。(仕事や家事、育児など)(あてはまるもの1つだけに○)

保護者について生活を楽しんでいるかをみると、「楽しんでいる」が56.5%、「あまり楽しんでいない」が15.8%、「とても楽しんでいる」が15.1%となっています。「とても楽しんでいる」と「楽しんでいる」の合計は71.6%となっています。

図：生活を楽しんでいるか（保護者）

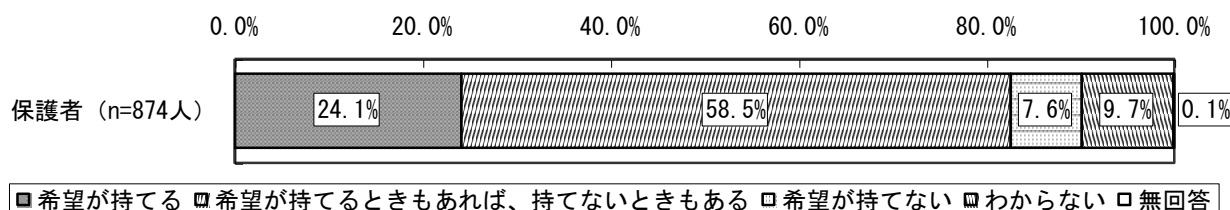


保護者 24-2. 将来に対して希望を持っているか

問 24 (2). 将来に対して希望を持っていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

保護者について将来に対して希望を持っているかをみると、「希望が持てる」と「希望が持てる」と「希望が持てる」と「希望が持てる」と「希望が持てる」が58.5%、「希望が持てる」が24.1%、「わからない」が9.7%となっています。

図：将来に対して希望を持っているか（保護者）

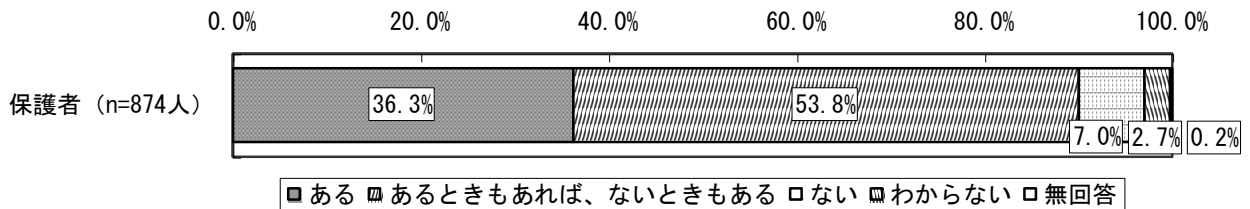


保護者 24-3. ストレスを発散できるもの

問 24 (3). ストレスを発散できるものがありますか。(あてはまるもの1つだけに○)

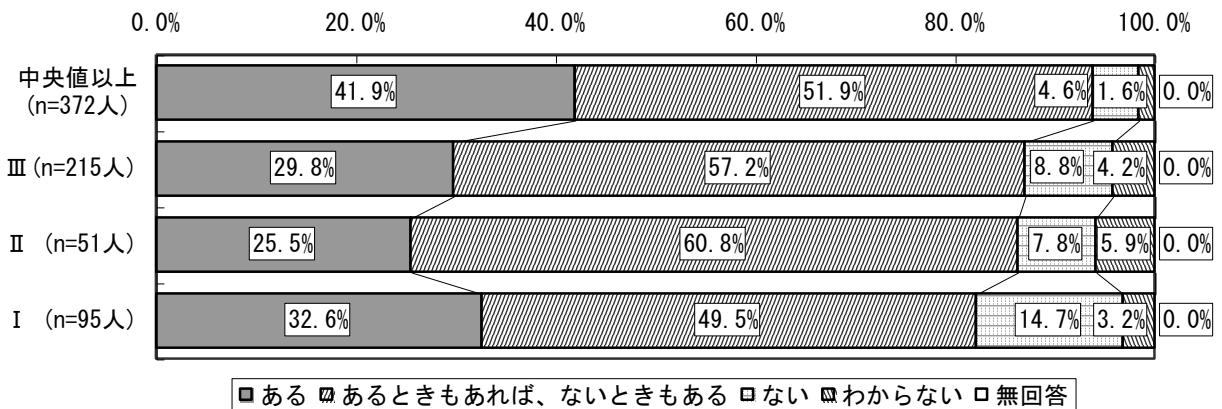
保護者についてストレスを発散できるものをみると、「あるときもあれば、ないときもある」が53.8%、「ある」が36.3%、「ない」が7.0%となっています。

図：ストレスを発散できるもの（保護者）



困窮度別にみると、「ある」と「あるときもあれば、ないときもある」の合計は、困窮度が高い世帯ほど少なくなっています。

図：困窮度別・ストレスを発散できるもの（保護者）

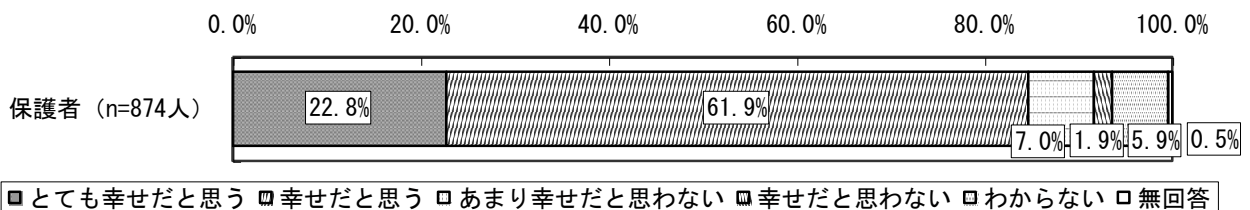


保護者 24-4. 幸せかどうか

問 24 (4). あなたは、自分が幸せだと思いますか。(あてはまるもの1つだけに○)

保護者について幸せかどうかをみると、「幸せだと思う」が61.9%、「とても幸せだと思う」が22.8%、「あまり幸せだと思わない」が7.0%となっており、「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」を合計した比率は84.7%となっています。

図：幸せかどうか（保護者）

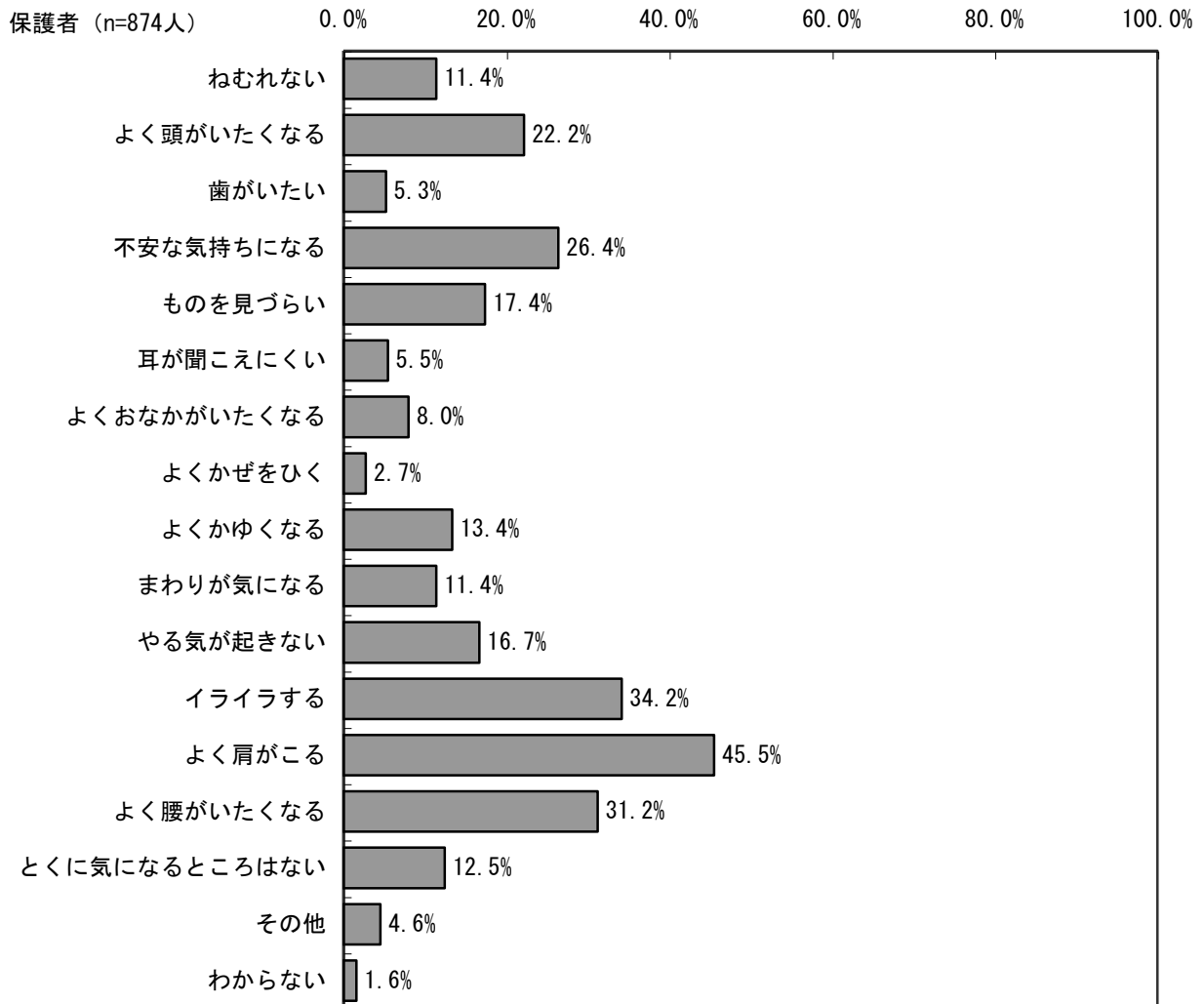


保護者 25. 体や気持ちで気になること

問 25. あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

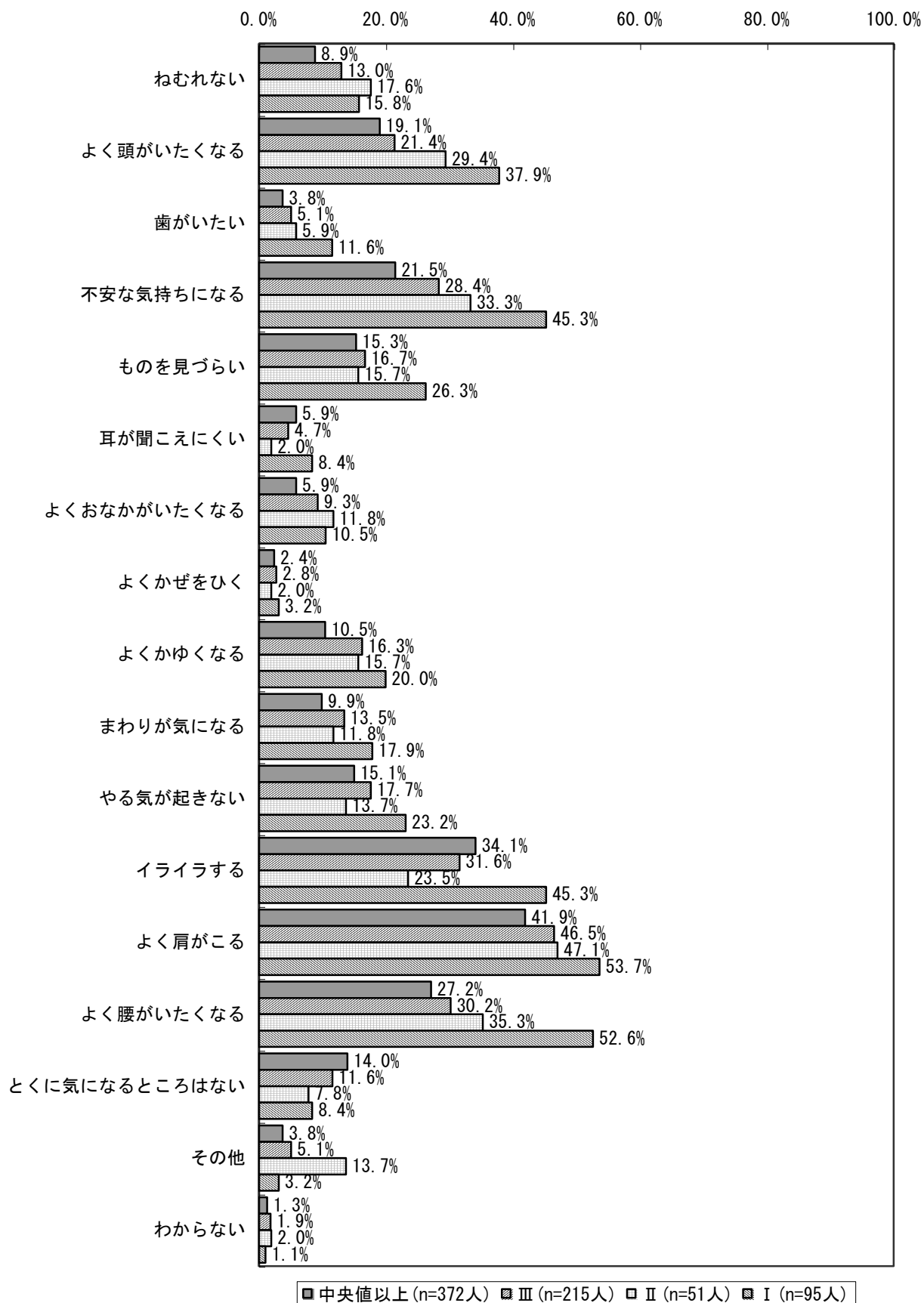
保護者について体や気持ちで気になることをみると、「よく肩がこる」が45.5%、「イライラする」が34.2%、「よく腰がいたくなる」が31.2%となっています。

図：体や気持ちで気になること（保護者）



困窮度別にみると、困窮度が高い世帯の保護者ほど、「よく肩がこる」や「よく腰がいたくなる」、「不安な気持ちになる」などが多くなっています。

図：困窮度別・体や気持ちで気になること（保護者）



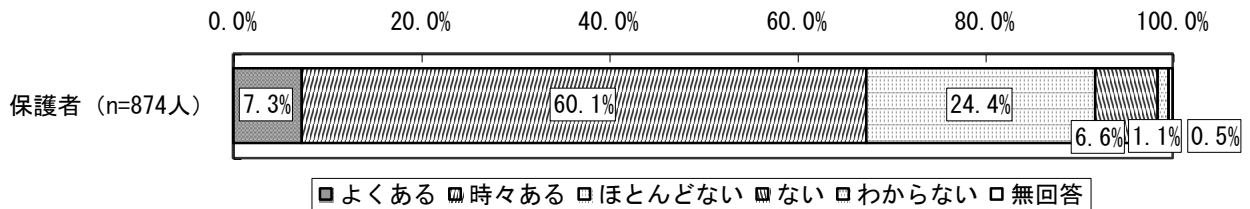
保護者 26. 不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

問 26. 不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことがありますか。

(あてはまるもの1つだけに○)

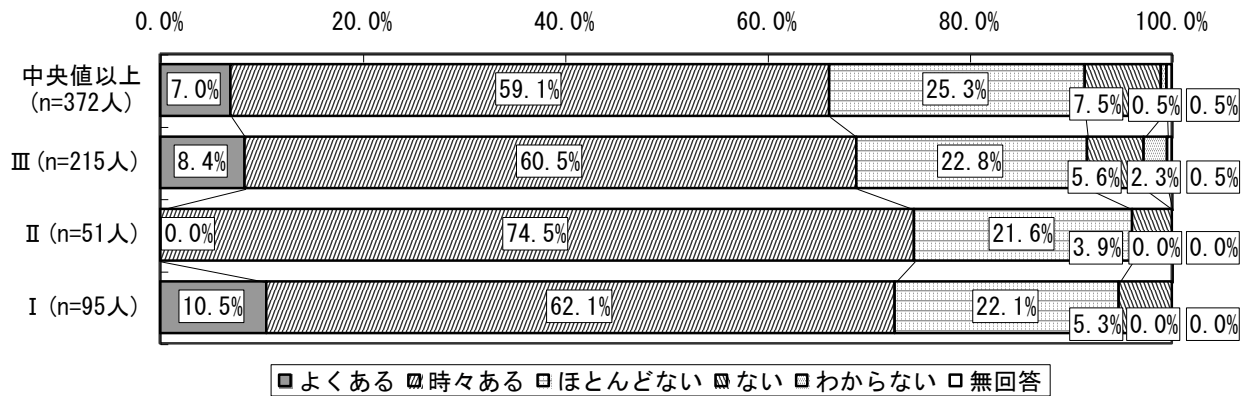
保護者について不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことがあるかをみると、「時々ある」が60.1%、「ほとんどない」が24.4%、「よくある」が7.3%となっています。「よくある」と「時々ある」の合計は67.4%となっています。

図：不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと（保護者）



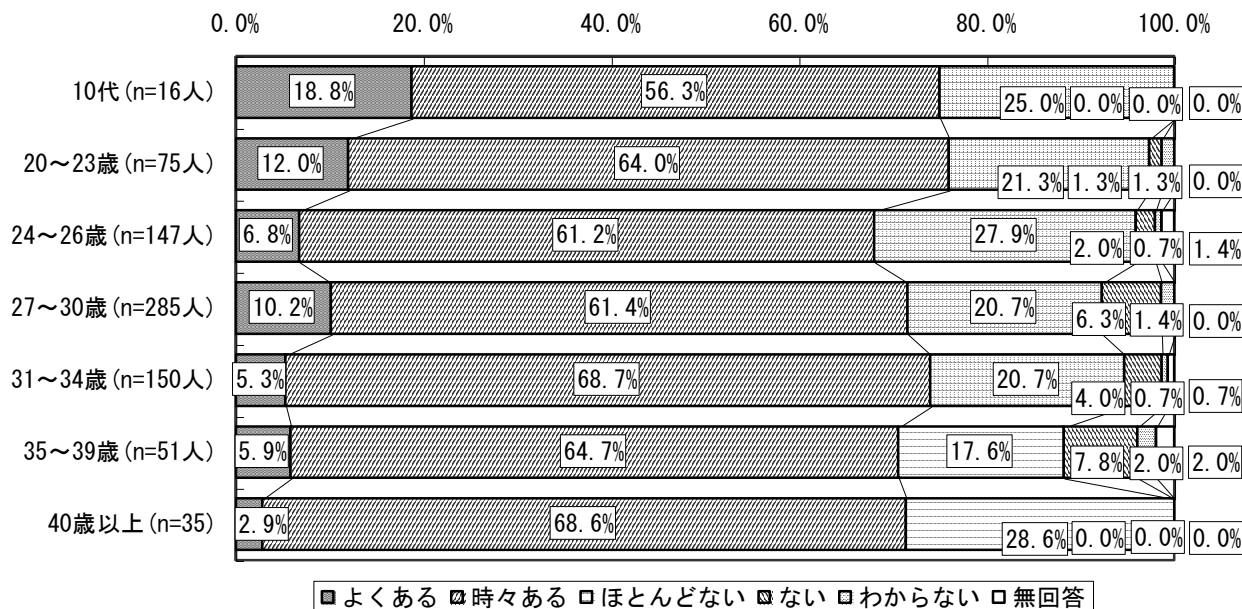
困窮度別にみると、「よくある」と「時々ある」の合計は困窮度Ⅱの世帯が74.5%と最も多く、次いで困窮度Ⅰの世帯が72.6%となっています。なお、「よくある」は困窮度Ⅰの世帯が10.5%と最も多く、約1割を占めています。

図：困窮度別・不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと（保護者）



初めて親となった年齢別にみると、「よくある」と「時々ある」の合計は20～23歳が76.0%と最も多く、次いで10代が75.1%、31～34歳が74.0%となっています。なお、「よくある」は10代が18.8%と最も多く、約2割を占めています。

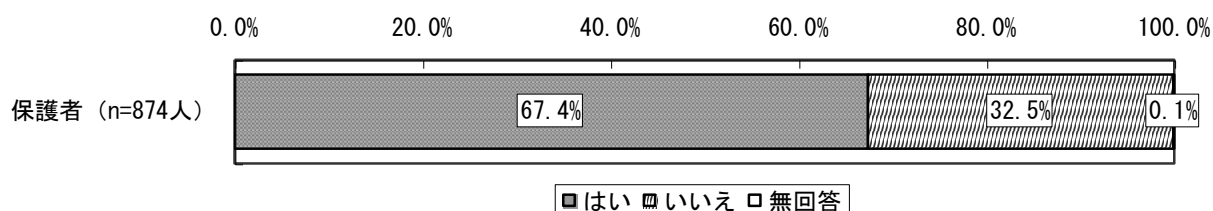
図：初めて親となった年齢別・不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと（保護者）



保護者 27. 定期的な健康診断の受診
 問 27. あなたは、定期的に健康診断を受けていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

保護者の定期的な健康診断の受診をみると、「はい」が67.4%、「いいえ」が32.5%となっています。

図：定期的な健康診断の受診（保護者）



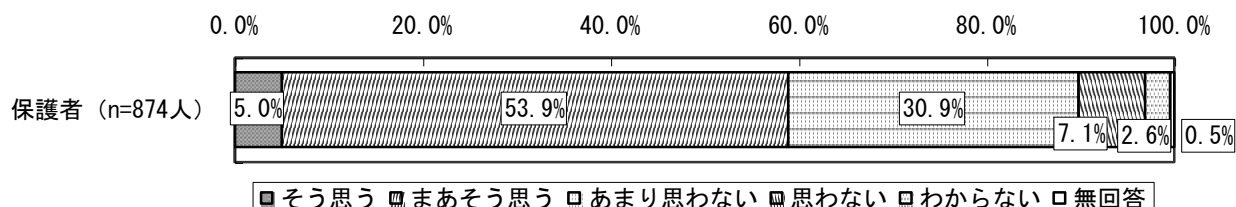
保護者 28-A. 自分が立てた目標や計画はうまくできる自信がある

問 28A. 自分が立てた目標や計画はうまくできる自信がある。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

保護者について自分が立てた目標や計画はうまくできる自信があるかをみると、「まあそう思う」が53.9%、「あまり思わない」が30.9%「思わない」が7.1%となっています。「そう思う」と「まあそう思う」の合計は58.9%となっています。

図：自分が立てた目標や計画はうまくできる自信がある（保護者）



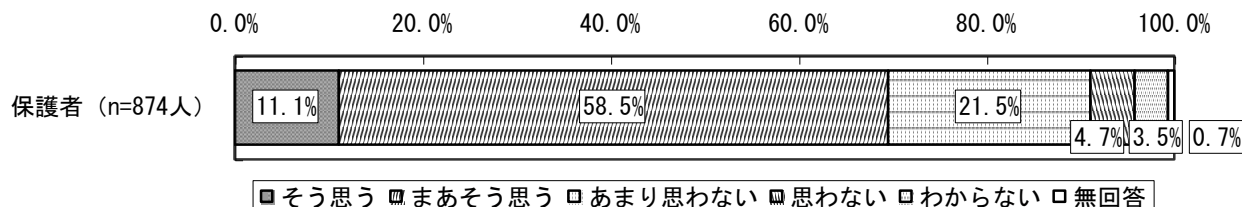
保護者 28-B. はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続ける

問 28B. はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続ける。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

保護者についてはじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続けられるのかをみると、「まあそう思う」が58.5%、「あまり思わない」が21.5%、「そう思う」が11.1%となっています。「そう思う」と「まあそう思う」の合計は69.6%となっています。

図：はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続ける（保護者）

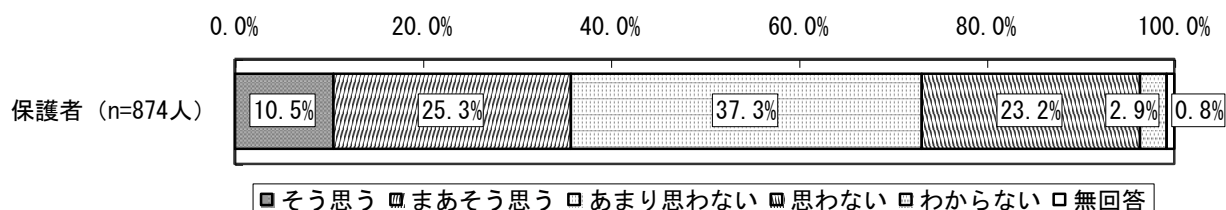


保護者 28-C. 人の集まりの中では、うまくふるまえない

問 28C. 人の集まりの中では、うまくふるまえない。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

保護者について人の集まりの中では、うまくふるまえないと思うかをみると、「あまり思わない」が37.3%、「まあそう思う」が25.3%、「思わない」が23.2%となっています。「そう思う」と「まあそう思う」の合計は35.8%となっています。

図：人の集まりの中では、うまくふるまえない（保護者）

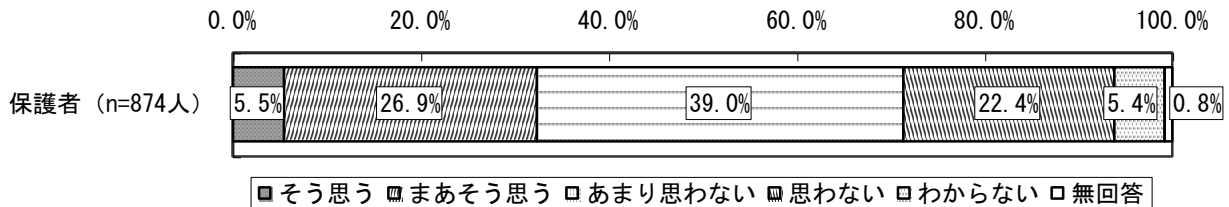


保護者 28-D. 自分から友だちを作るのがうまい

問 28D. 私は自分から友だちを作るのがうまい。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

保護者について自分から友だちを作るのがうまいと思うかを見ると、「あまり思わない」が 39.0%、「まあそう思う」が 26.9%、「思わない」が 22.4%となっています。「そう思う」と「まあそう思う」の合計は 32.4%となっています。

図：自分から友だちを作るのがうまい（保護者）



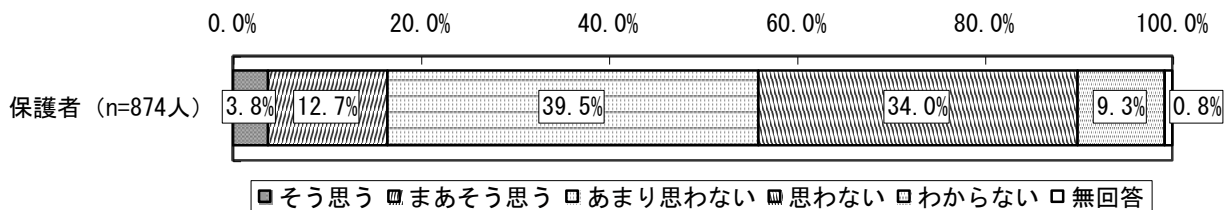
保護者 28-E. 人生で起きる問題の多くは自分では解決できない

問 28E. 人生で起きる問題の多くは、自分では解決できない。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

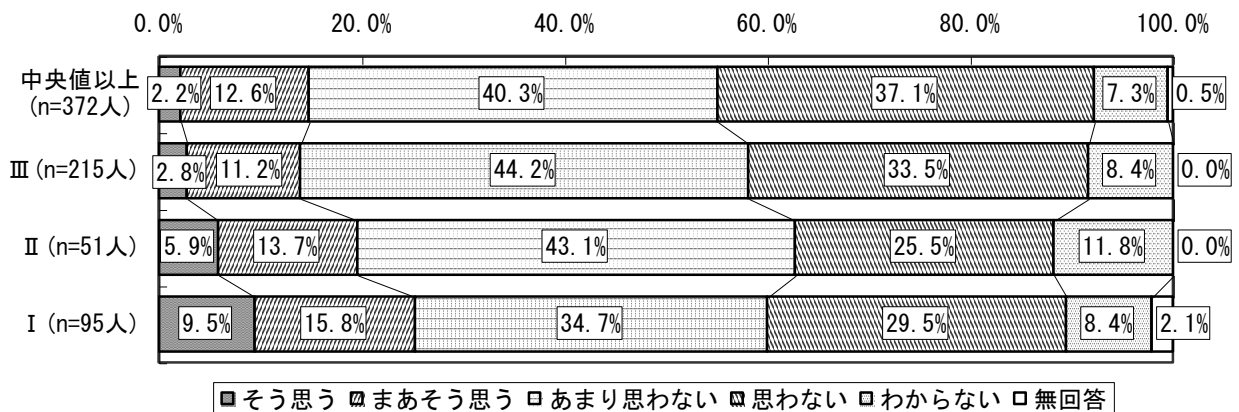
保護者について人生で起きる問題の多くは自分では解決できないと思うかを見ると、「あまり思わない」が 39.5%、「思わない」が 34.0%、「まあそう思う」が 12.7%となっています。「そう思う」と「まあそう思う」の合計は 16.5%となっています。

図：人生で起きる問題の多くは自分では解決できない（保護者）



困窮度別にみると、困窮度が高い世帯の保護者ほど「そう思う」と「まあそう思う」の合計が多くなっています。

図：困窮度別・人生で起きる問題の多くは自分では解決できない（保護者）



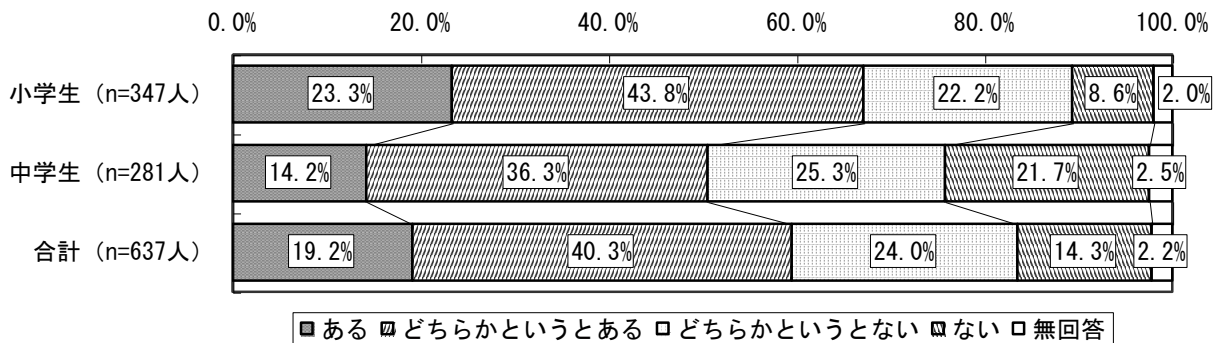
小・中学生 34-1. 自信があるか

問 34 (1). 自分に自信がある。(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生について自分に自信があるかをみると、「どちらかというところある」が40.3%、「どちらかというところない」が24.0%、「ある」が19.2%となっています。「ある」と「どちらかというところある」の合計は59.5%となっています。

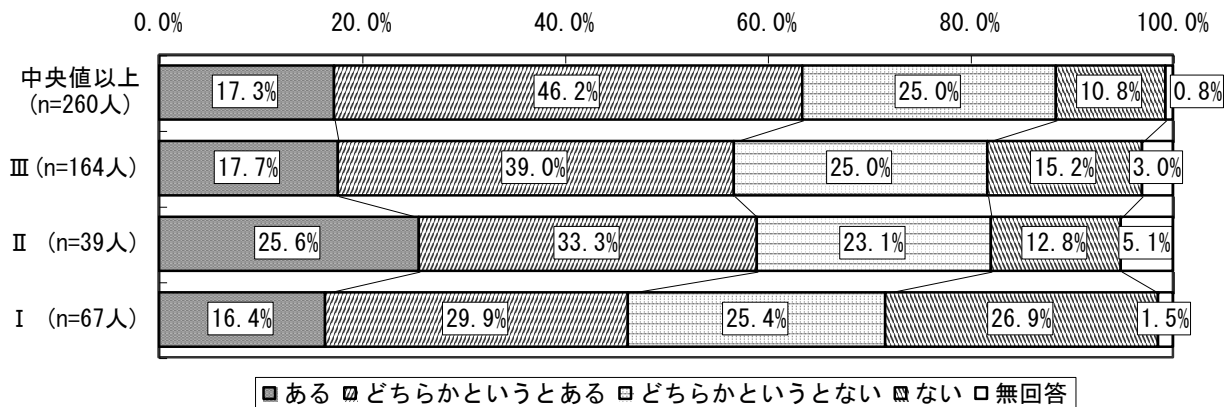
「ある」と「どちらかというところある」の合計は、小学生は67.1%、中学生は50.5%と中学生のほうが自分に自信がある割合が少なくなっています。

図：自信があるか（小・中学生）



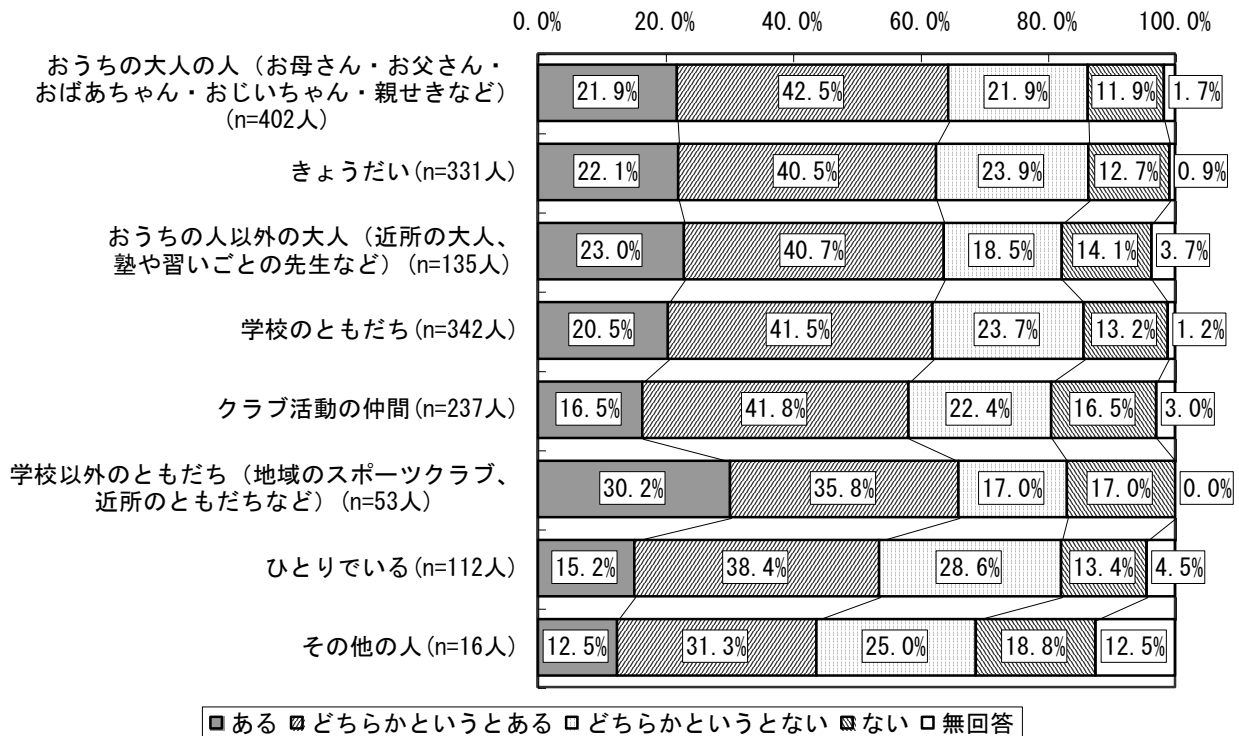
困窮度別にみると、困窮度Ⅰの世帯の子どもでは「ない」と「どちらかというところない」の合計が52.3%と、過半数が自分に自信がないと回答しています。

図：困窮度別・自信があるか（小・中学生）



放課後に一緒に過ごしている人と自信の関係をみると、「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」と過ごしている小・中学生は、「ある」と「どちらかというところある」の合計が66.0%と最も多くなっています。「ひとりである」という小・中学生は「ない」と「どちらかというところない」の合計が42.0%と最も多くなっています。

図：放課後に誰と過ごしているか（複数回答） × 自信があるか（小・中学生）



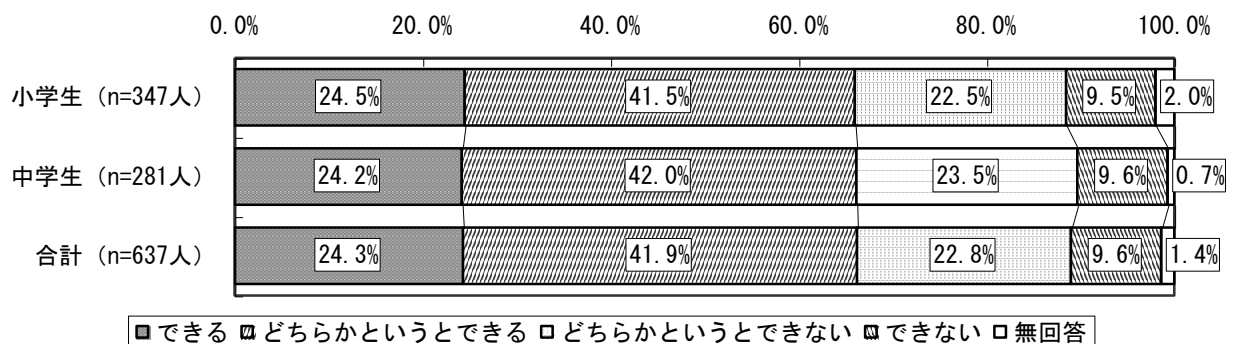
小・中学生 34-2. 考えをはっきり相手に伝えることができる

問 34 (2). 自分の考えをはっきり相手につたえることができる。(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生について考えをはっきり相手に伝えることができるかをみると、「どちらかというところできる」が41.9%、「できる」が24.3%、「どちらかというところできない」が22.8%となっています。「できる」と「どちらかというところできる」の合計は66.2%となっています。

小学生と中学生の比較では、ほとんど差が見られません。

図：考えをはっきり相手に伝えることができるか（小・中学生）



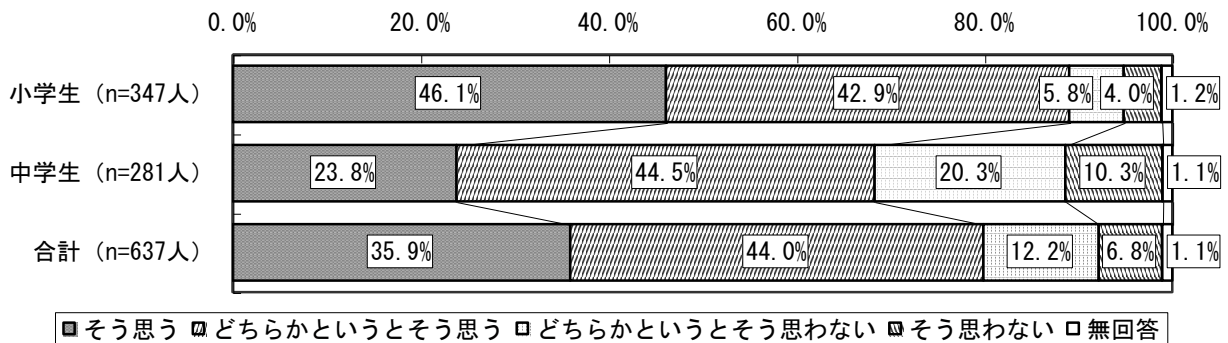
小・中学生 34-3. 大人への信用

問 34 (3). 大人は信用できる。(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生について大人への信用をみると、「どちらかというと思う」が44.0%、「そう思う」が35.9%、「どちらかというと思わない」が12.2%となっています。「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計は79.9%となっています。

小学生と中学生の比較では、「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計は、小学生は89.0%、中学生は68.3%となり、中学生の方が「大人は信用できる」割合が少なくなっています。

図：大人への信用（小・中学生）



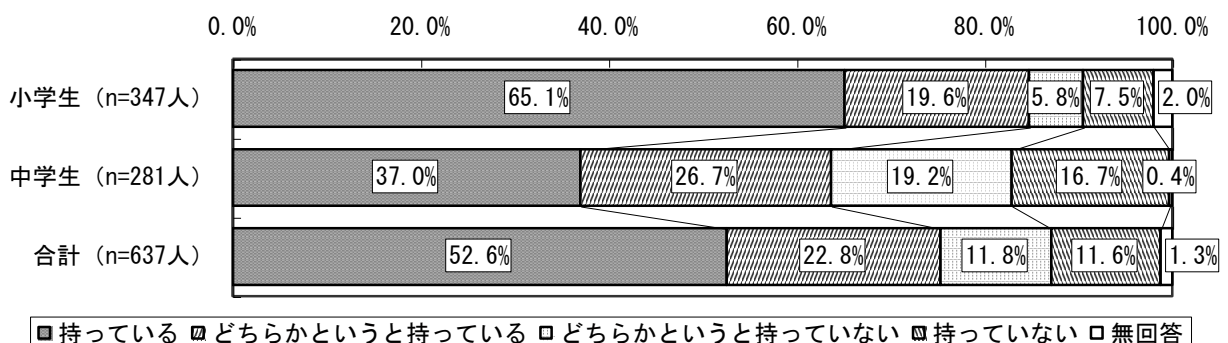
小・中学生 34-4. 自分の将来の夢や目標を持っているか

問 34 (4). 自分の将来の夢や目標を持っている。(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生について自分の将来の夢や目標を持っているかをみると、「持っている」が52.6%、「どちらかというと思っている」が22.8%、「どちらかというと思っていない」が11.8%となっています。夢や目標を持っている子ども（「持っている」と「どちらかというと思っている」の合計）は75.4%となっています。

小学生と中学生の比較では、夢や目標を持っている子どもの割合は、小学生は84.7%、中学生は63.7%となり、中学生の方が少なくなっています。

図：自分の将来の夢や目標を持っているか（小・中学生）



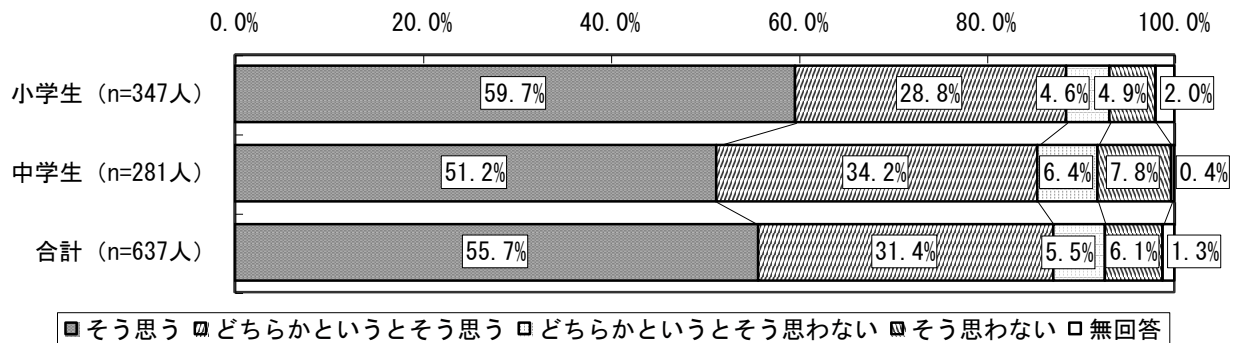
小・中学生 34-5. 将来のためのがんばり

問 34 (5). 将来のためにも、今、がんばりたいと思う。(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生について将来のためのがんばりをみると、「そう思う」が55.7%、「どちらかというと思う」が31.4%、「そう思わない」が6.1%となっています。「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計は87.1%となっています。

小学生と中学生の比較では、「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計は、小学生は88.5%、中学生は85.4%となり、大差はありません。

図：将来のためのがんばり（小・中学生）



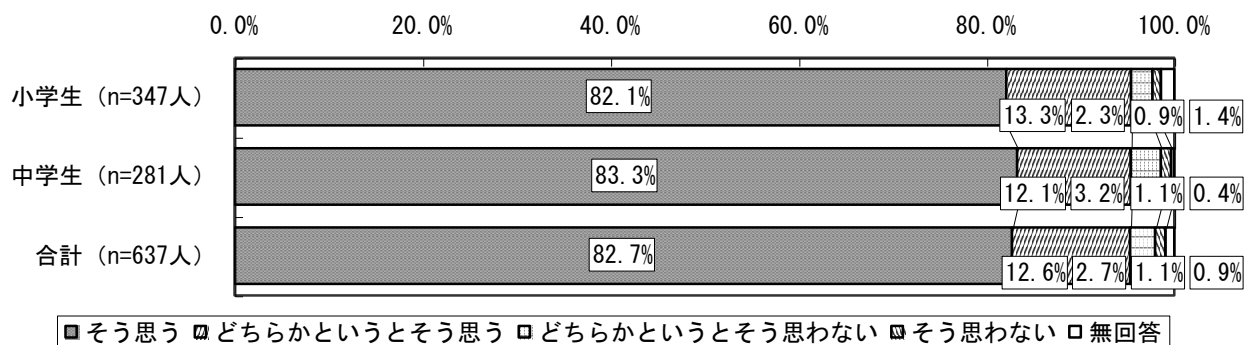
小・中学生 34-6. 将来の労働意欲

問 34 (6). 将来、働きたいと思う。(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生について将来の労働意欲をみると、「そう思う」が82.7%、「どちらかというと思う」が12.6%、「どちらかというと思わない」が2.7%となっています。「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計は95.3%となっています。

小学生と中学生の比較では、ほとんど差は見られません。

図：将来の労働意欲（小・中学生）

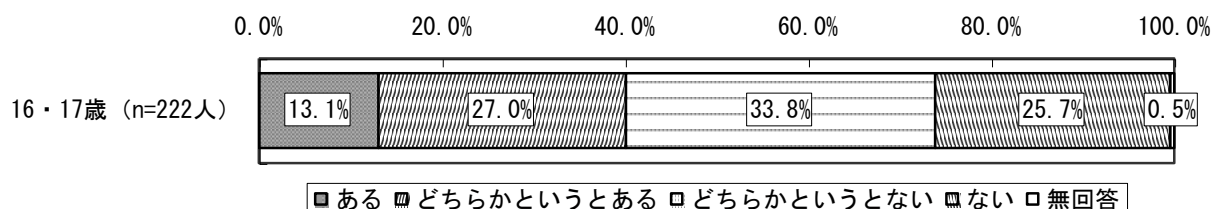


16・17歳 32-1. 自信があるか

問 32 (1). 自分に自信がある。(あてはまるもの1つだけに○)

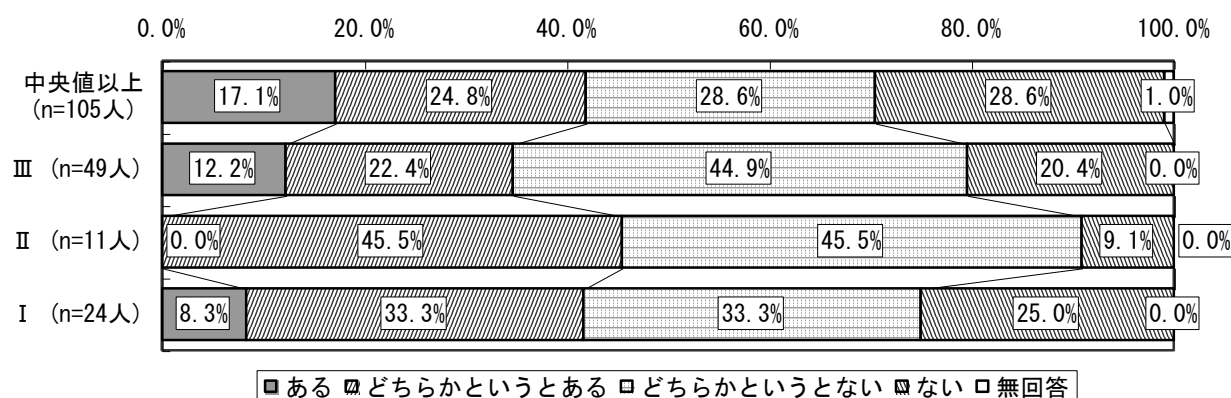
16・17歳について自分に自信があるかをみると、「どちらかというとない」が33.8%、「どちらかというところある」が27.0%、「ない」が25.7%となっています。「ある」と「どちらかというところある」の合計は40.1%となっています。

図：自信があるか (16・17歳)



困窮度別にみると、自分に自信が「ある」16・17歳は中央値以上の世帯と困窮度Ⅲの世帯では1割を超えていますが、困窮度Ⅱ以下では1割未満と少なくなっています。

図：困窮度別・自信があるか (16・17歳)

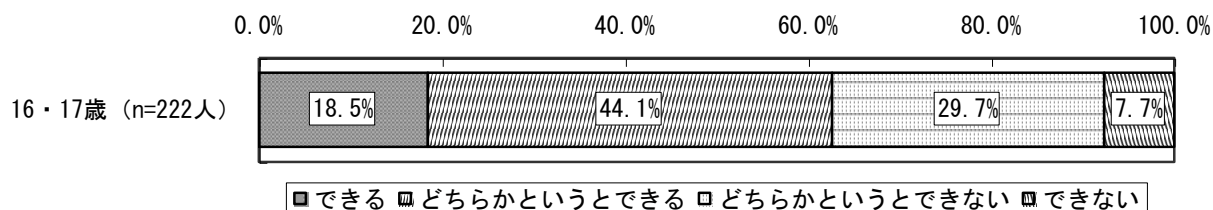


16・17歳 32-2. 考えをはっきり相手に伝えることができる

問 32 (2). 自分の考えをはっきり相手につたえることができる。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳について考えをはっきり相手に伝えることができるかをみると、「どちらかというところできる」が44.1%、「どちらかというところできない」が29.7%、「できる」が18.5%となっています。「できる」と「どちらかというところできる」の合計は62.6%となっています。

図：考えをはっきり相手に伝えることができるか (16・17歳)

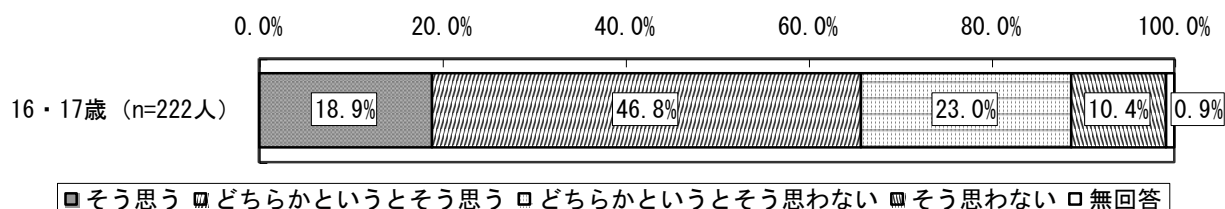


16・17歳 32-3. 大人への信用

問 32 (3). 大人は信用できる。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳について大人への信用をみると、「どちらかというと思う」が46.8%、「どちらかというと思わない」が23.0%、「そう思う」が18.9%となっています。「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計は65.7%となっています。

図：大人への信用 (16・17歳)

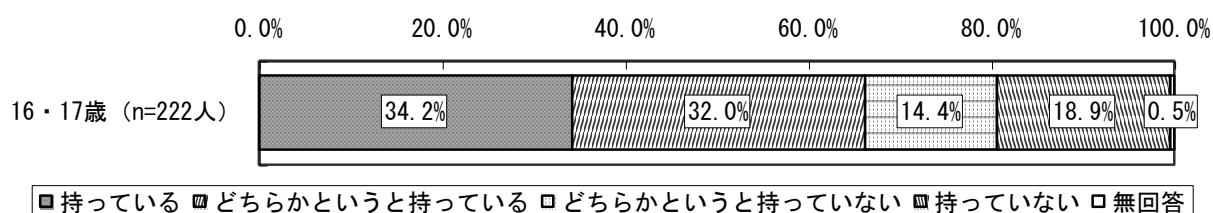


16・17歳 32-4. 自分の将来の夢や目標を持っているか

問 32 (4). 自分の将来の夢や目標を持っている。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳について自分の将来の夢や目標を持っているかをみると、「持っている」が34.2%、「どちらかというを持っている」が32.0%、「持っていない」が18.9%となっています。「持っている」と「どちらかというを持っている」の合計は66.2%となっています。

図：自分の将来の夢や目標を持っているか (16・17歳)

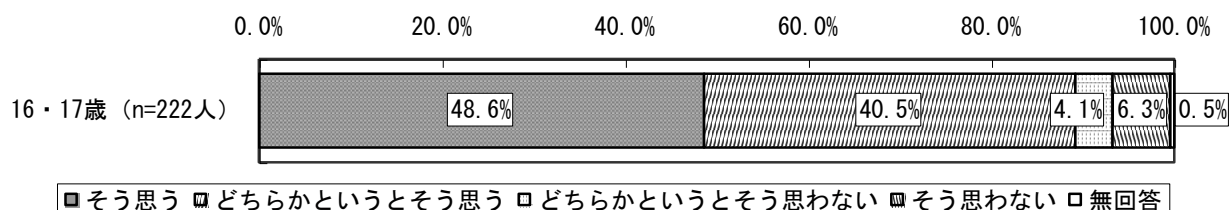


16・17歳 32-5. 将来のためのがんばり

問 32 (5). 将来のためにも、今、がんばりたいと思う。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳について将来のためのがんばりをみると、「そう思う」が48.6%、「どちらかというと思う」が40.5%、「そう思わない」が6.3%となっています。「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計は89.1%となっています。

図：将来のためのがんばり (16・17歳)



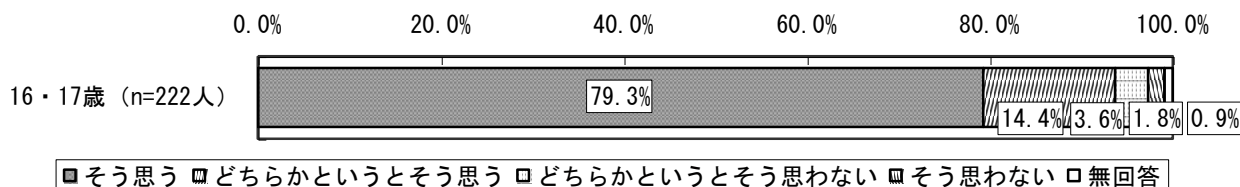
16・17歳 32-6. 将来の労働意欲

問 32 (6). 将来、(すでに働いている人は今後も)、働きたいと思う。

(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳について将来の労働意欲をみると、「そう思う」が79.3%、「どちらかというと思う」が14.4%、「どちらかというと思わない」が3.6%となっています。「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計は93.7%となっています。

図：将来の労働意欲 (16・17歳)

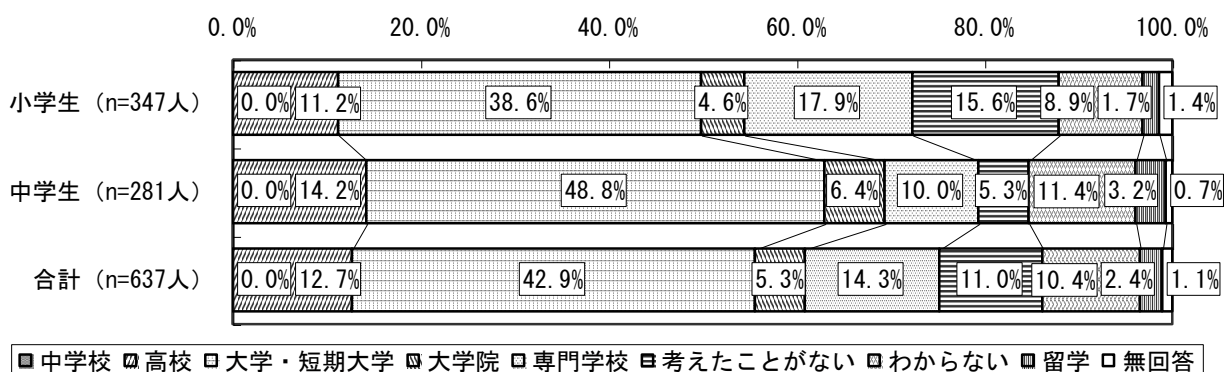


小・中学生 35. 進路の希望

問 35. あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。(あてはまるもの1つだけに○)

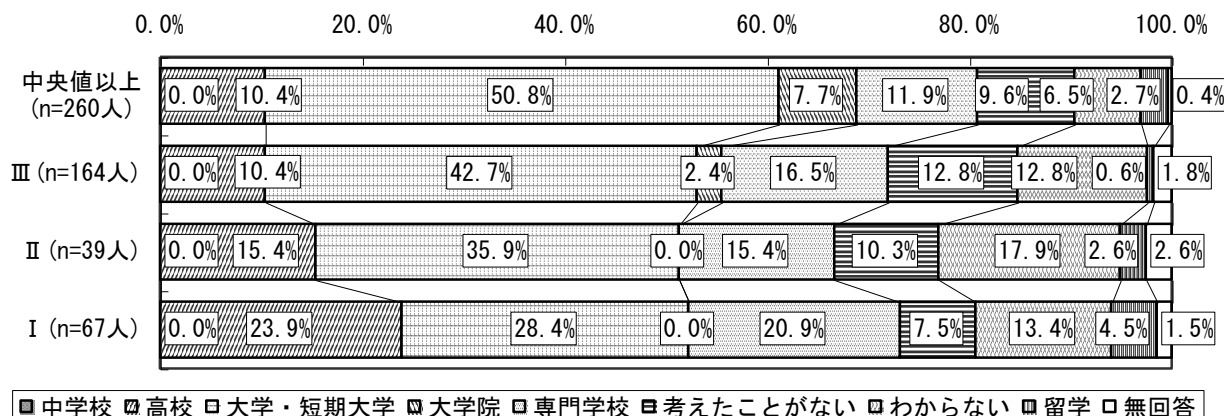
小・中学生の進路の希望をみると、「大学・短期大学」が42.9%、「専門学校」が14.3%、「高校」が12.7%となっています。「大学・短期大学」が小学生は38.6%、中学生は48.8%となり、中学生の「大学・短期大学」希望が多くなっています。

図：進路の希望 (小・中学生)



困窮度別にみると、困窮度が高い世帯の小・中学生ほど「大学・短期大学」や「大学院」が少なくなっています。困窮度Ⅰでは「高校」と「専門学校」が2割を超えています。

図：困窮度別・進路の希望 (小・中学生)



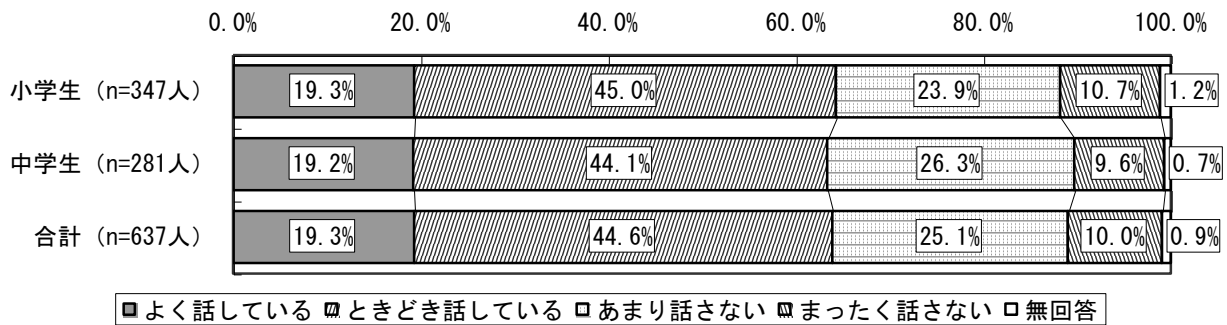
小・中学生 36. 将来の夢を大人と話し合うか

問 36. あなたは、将来の夢や目標について、おうちの大人の人と話し合うことはありますか。
(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生について将来の夢を大人と話し合うかをみると、「ときどき話している」が44.6%、「あまり話さない」が25.1%、「よく話している」が19.3%となっています。「よく話している」と「時々話している」の合計は63.9%となっています。

小学生と中学生の比較では、ほとんど差が見られません。

図：将来の夢を大人と話し合うか（小・中学生）



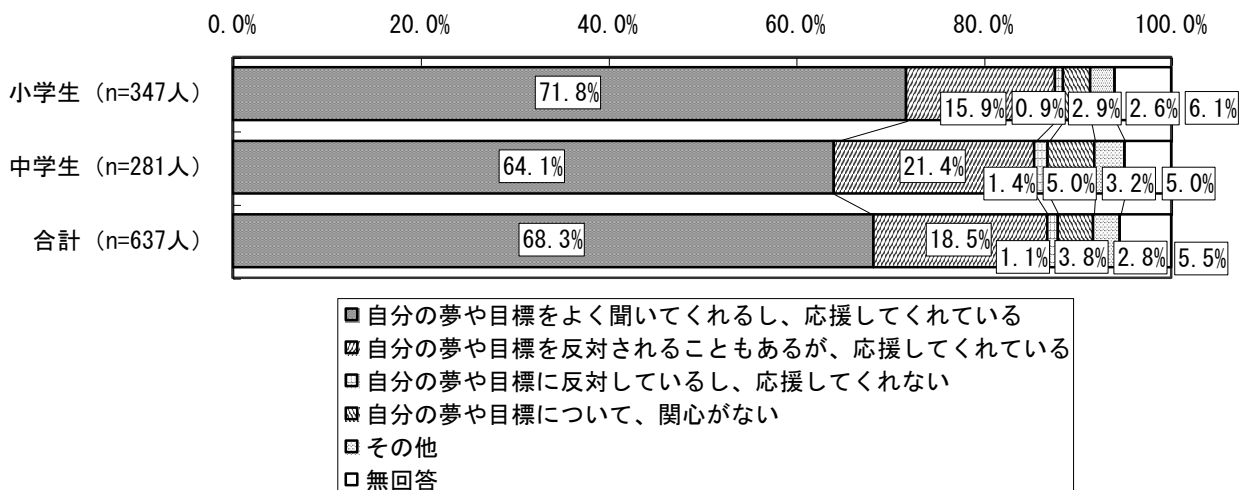
小・中学生 37. 将来について大人がどう考えていると思うか

問 37. あなたの将来のことについて、おうちの大人の人はどうのように考えていると思いますか。
(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生の将来について大人がどう考えていると思うかをみると、「自分の夢や目標をよく聞いてくれるし、応援してくれている」が68.3%、「自分の夢や目標を反対されることもあるが、応援してくれている」が18.5%、「自分の夢や目標について、関心がない」が3.8%となっています。「自分の夢や目標をよく聞いてくれるし、応援してくれている」と「自分の夢や目標を反対されることもあるが、応援してくれている」を合計した比率が86.8%となっており、応援してくれていると感じている子どもが多くなっています。

小学生と中学生の比較では、「自分の夢や目標をよく聞いてくれるし、応援してくれている」について、小学生は71.8%、中学生は64.7%となり、中学生の方が「自分の夢や目標をよく聞いてくれるし、応援してくれている」割合が少なくなっています。

図：将来について大人がどう考えていると思うか（小・中学生）

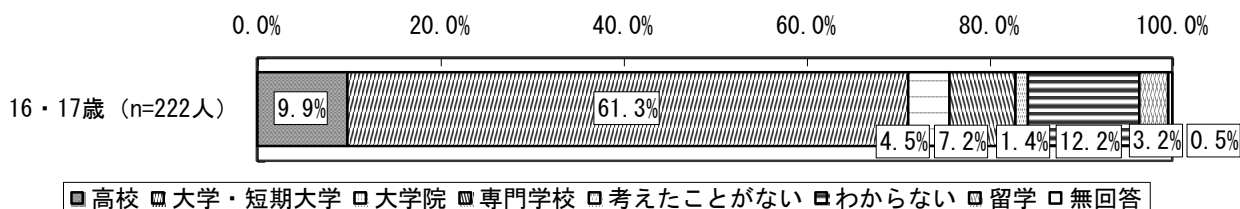


16・17歳 33. 進路の希望

問 33. あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。(あてはまるもの1つだけに○)

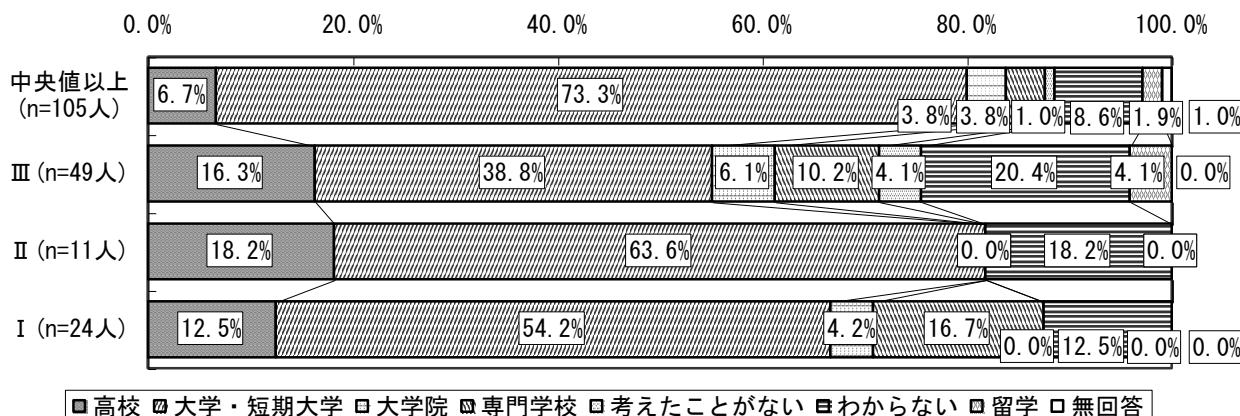
16・17歳の進路の希望をみると、「大学・短期大学」が61.3%、「わからない」が12.2%、「高校」が9.9%となっています。

図：進路の希望（16・17歳）



困窮度別にみると、中央値以上の世帯では「大学・短期大学」が約7割と多くなっていますが、中央値未満の世帯では中央値以上の世帯に比べて「高校」や「わからない」が多く、「大学・短期大学」は少なくなっています。

図：困窮度別・進路の希望（16・17歳）

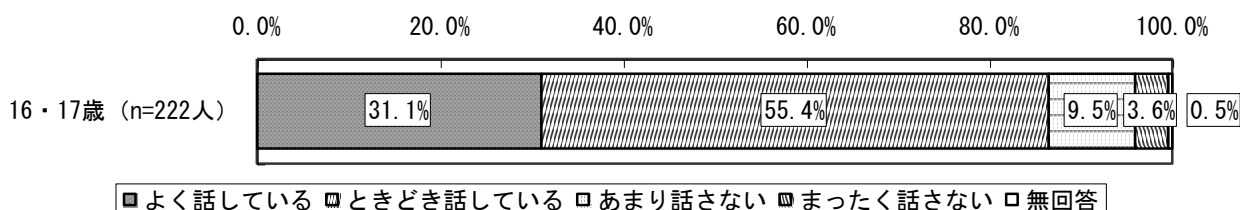


16・17歳 34. 進路について大人と話し合うか

問 34. あなたは、将来の進路の希望（就職や進学）について、おうちの大人の人と話し合うことはありますか。(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳の進路について大人と話し合うかをみると、「ときどき話している」が55.4%、「よく話している」が31.1%、「あまり話さない」が9.5%となっています。「よく話している」と「ときどき話している」を合計した比率が86.5%となっており、進路について保護者と話し合っている16・17歳が多くなっています。

図：進路について大人と話し合うか（16・17歳）



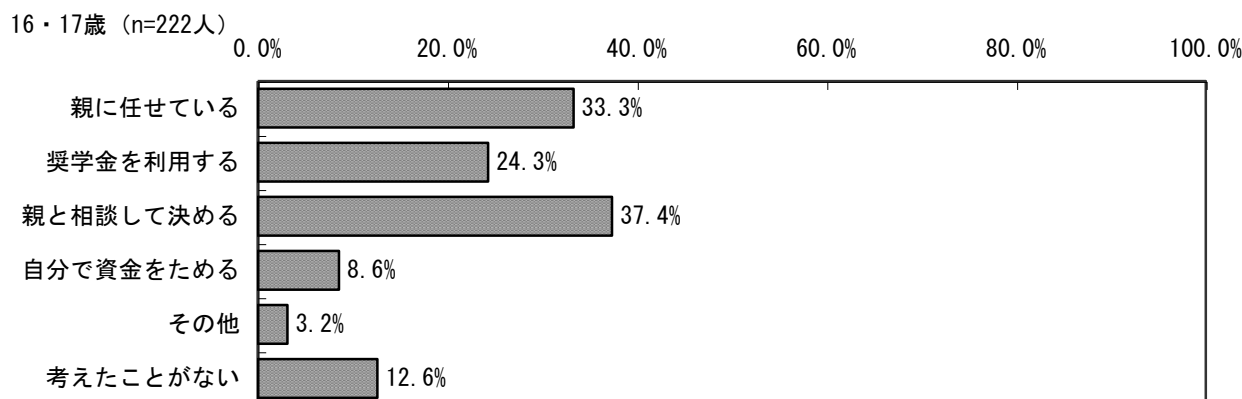
16・17歳 35. 進学費用

問 35. あなたは、大学等への進学費用（学費）について、どのように考えていますか。

（あてはまるものすべてに○）

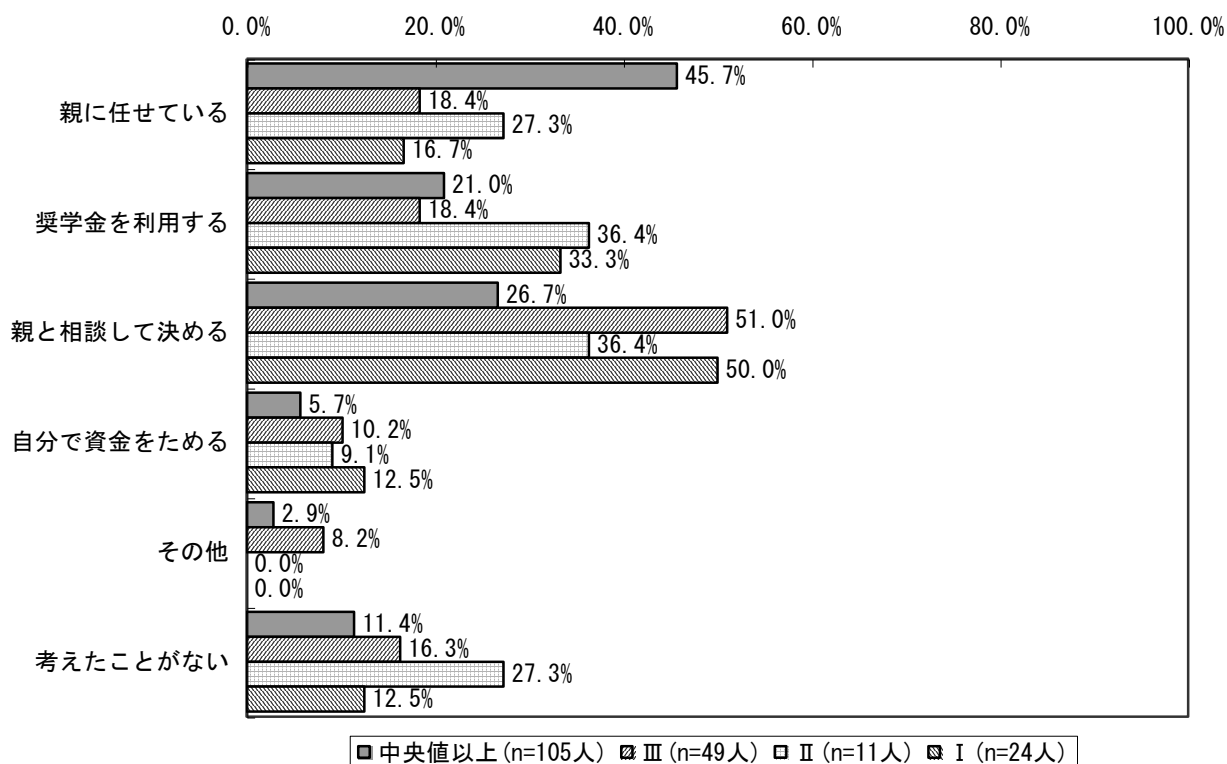
16・17歳の進学費用をみると、「親と相談して決める」が37.4%、「親に任せている」が33.3%、「奨学金を利用する」が24.3%となっています。

図：進学費用（16・17歳）



困窮度別にみると、中央値以上の世帯では「親に任せている」が最も多く、それ以外の世帯では「親と相談して決める」が多くなっています。「奨学金を利用する」は困窮度Ⅰ・Ⅱの世帯では3割以上と多くなっています。

図：困窮度別・進学費用（16・17歳）

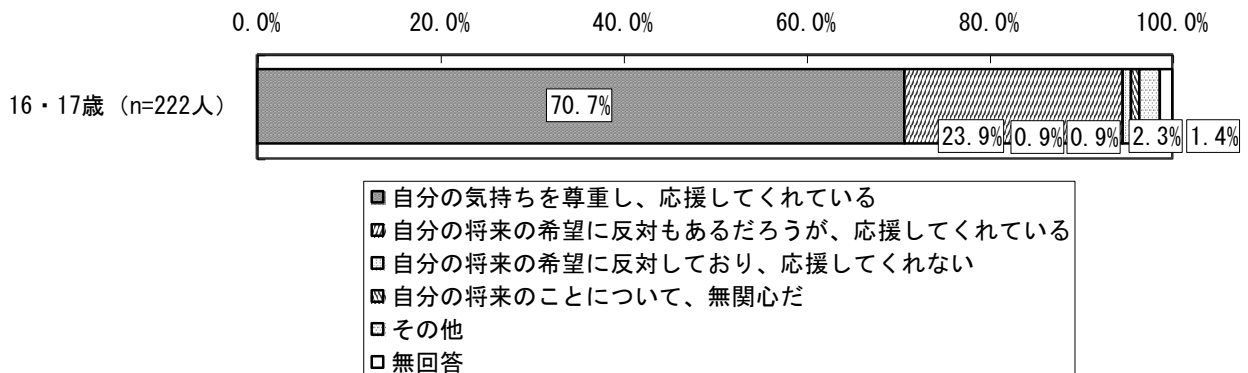


16・17歳 36. 将来について大人がどう考えていると思うか

問 36. あなたの将来のことについて、おうちの大人の人はどう考えていると思いますか。
(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳の将来について大人がどう考えていると思うかをみると、「自分の気持ちを尊重し、応援してくれている」が70.7%、「自分の将来の希望に反対もあるだろうが、応援してくれている」が23.9%となっています。「自分の気持ちを尊重し、応援してくれている」と「自分の将来の希望に反対もあるだろうが、応援してくれている」を合計した比率が94.6%となっており、保護者から応援されていると感じている16・17歳が多くなっています。

図：将来について大人がどう考えていると思うか（16・17歳）



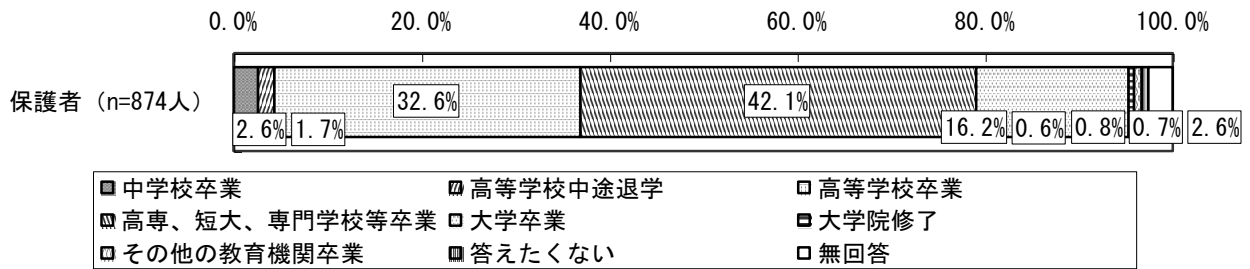
(3) 教育環境

保護者 8. 母親の最終学歴

問 8. お子さんのお母さんの最後に通った学校を教えてください。(あてはまるもの 1 つだけに○)

保護者の最終学歴をみると母親では、「高専、短大、専門学校等卒業」が 42.1%、「高等学校卒業」が 32.6%、「大学卒業」が 16.2%となっています。

図：母親の最終学歴（保護者）

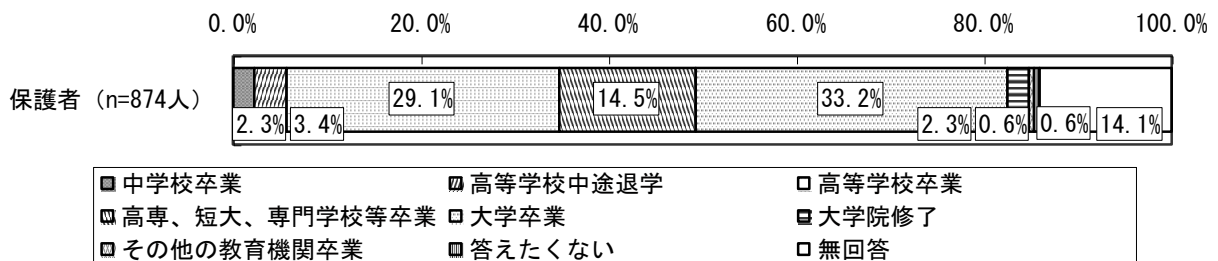


保護者 8. 父親の最終学歴

問 8. お子さんのお父さんの最後に通った学校を教えてください。(あてはまるもの 1 つだけに○)

保護者の最終学歴をみると父親では、「大学卒業」が 33.2%、「高等学校卒業」が 29.1%「高専、短大、専門学校等卒業」が 14.5%となっています。

図：父親の最終学歴（保護者）

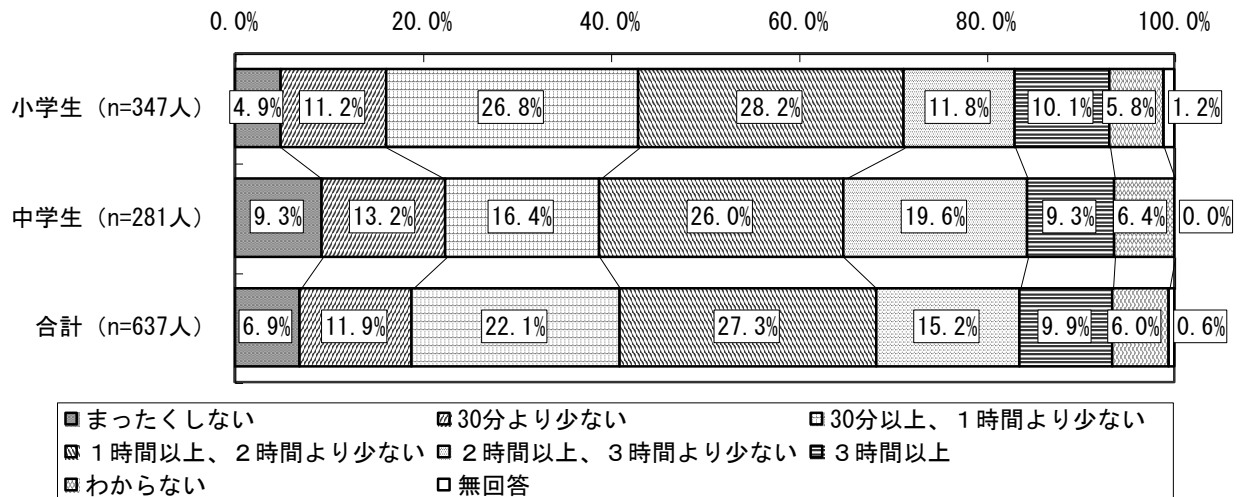


小・中学生 19. 授業以外の勉強時間

問 19. あなたは、学校のある日、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(塾などの時間も含まれます。)(あてはまるもの1つだけに○)

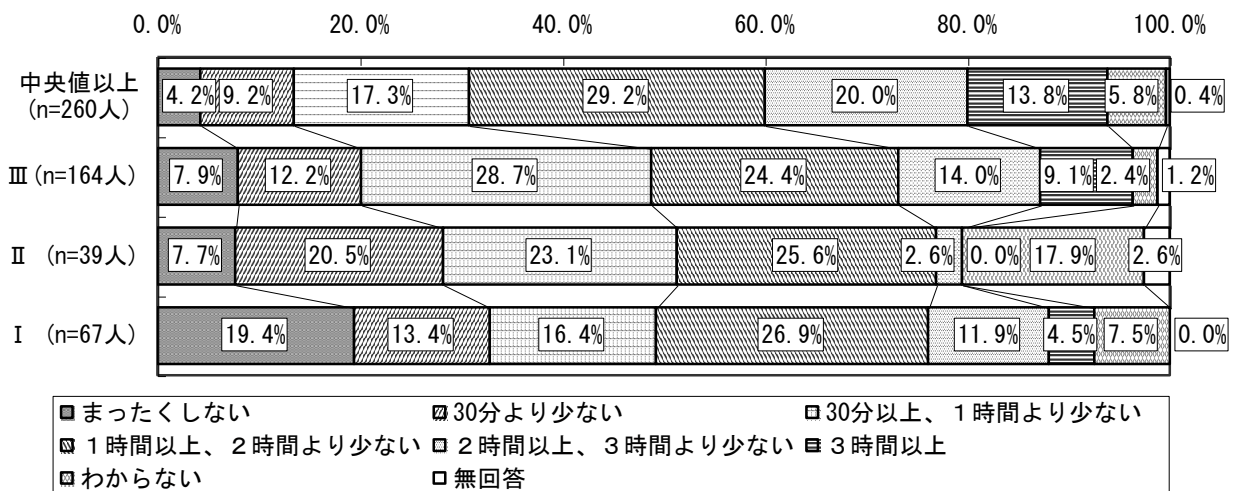
小・中学生の授業以外の勉強時間をみると、「1時間以上、2時間より少ない」が27.3%、「30分以上、1時間より少ない」が22.1%、「2時間以上、3時間より少ない」が15.2%となっています。「まったくしない」という子どもは6.9%となっており、小学生は4.9%、中学生は9.3%となっています。

図：授業以外の勉強時間（小・中学生）



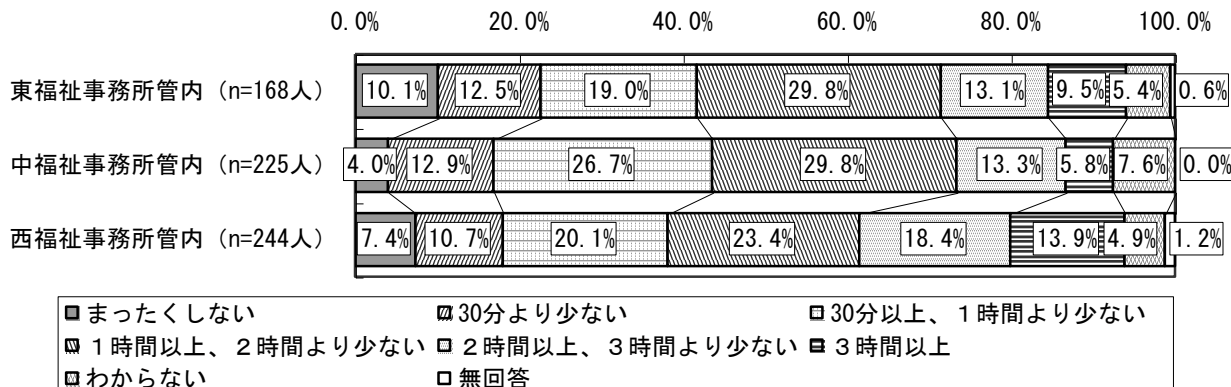
困窮度別にみると、勉強時間が30分未満の小・中学生は困窮度が高いほど多くなっており、困窮度Ⅰでは32.8%、困窮度Ⅱでは28.2%となっています。また、困窮度Ⅰでは「まったくしない」が19.4%であり、約2割を占めています。

図：困窮度別・授業以外の勉強時間（小・中学生）



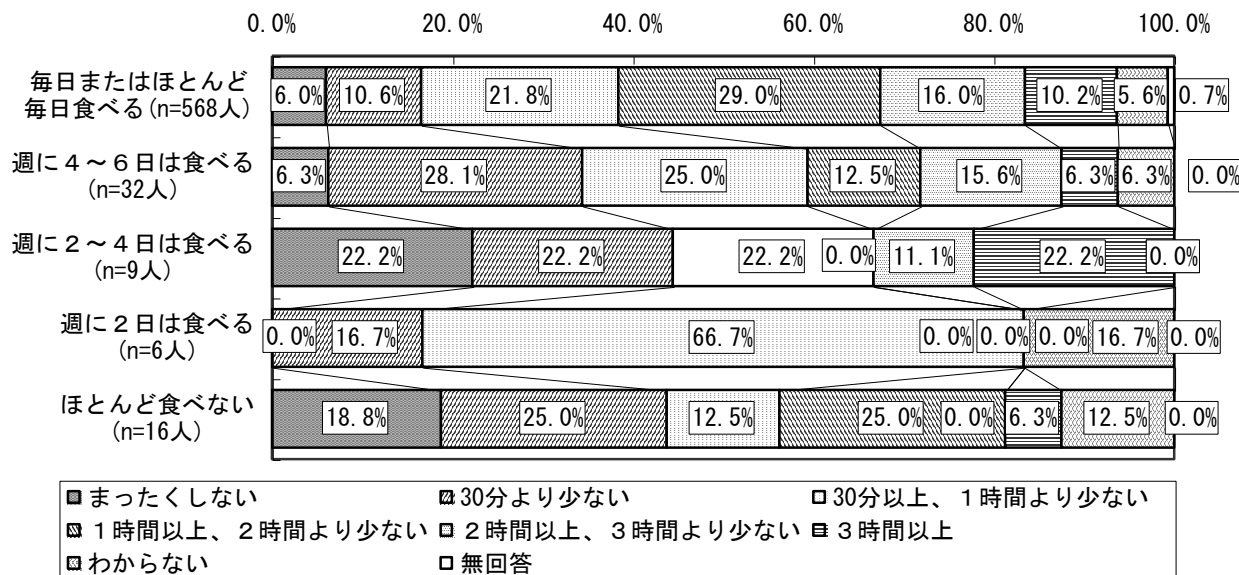
福祉事務所管内別にみると、勉強時間が30分未満の小・中学生は東福祉事務所管内では22.6%と2割を超えており、他に比べて多くなっています。

図：福祉事務所管内別・授業以外の勉強時間（小・中学生）



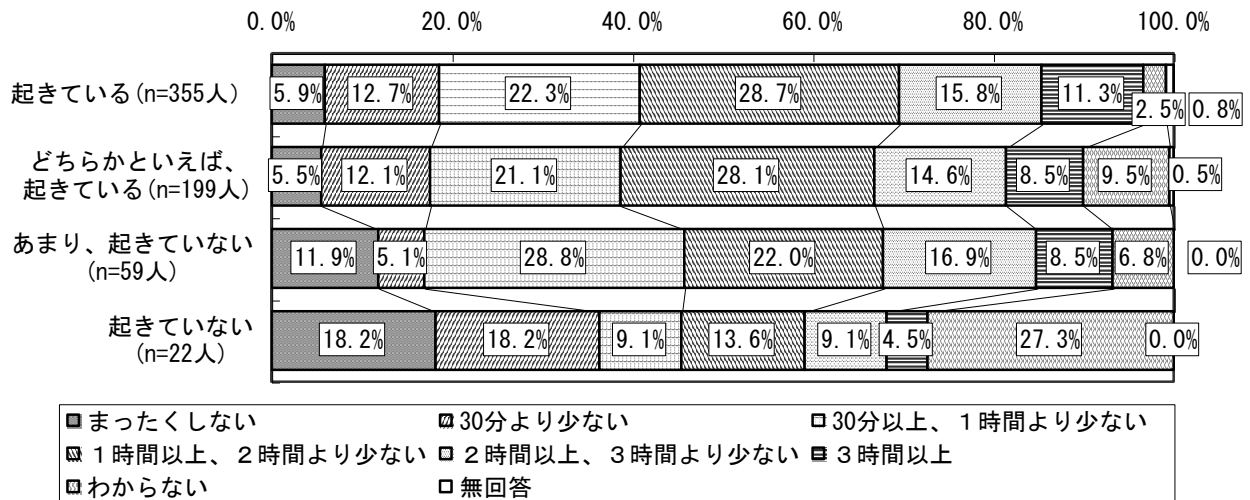
朝食の摂取状況と授業以外の勉強時間の関連をみると、「毎日またはほとんど毎日食べる」と答えた小・中学生は、「1時間以上、2時間より少ない」や「2時間以上、3時間より少ない」が多く、勉強時間が長くなる傾向があります。

図：朝食を食べているか×授業以外の勉強時間（小・中学生）



平日の起床状況と授業以外の勉強時間の関連をみると、「起きていない」と答えた小・中学生は「まったくしていない」が多く、勉強時間が少なくなっています。

図：平日決まった時間に起床しているか×授業以外の勉強時間（小・中学生）



小・中学生 20. 学校の勉強の理解度

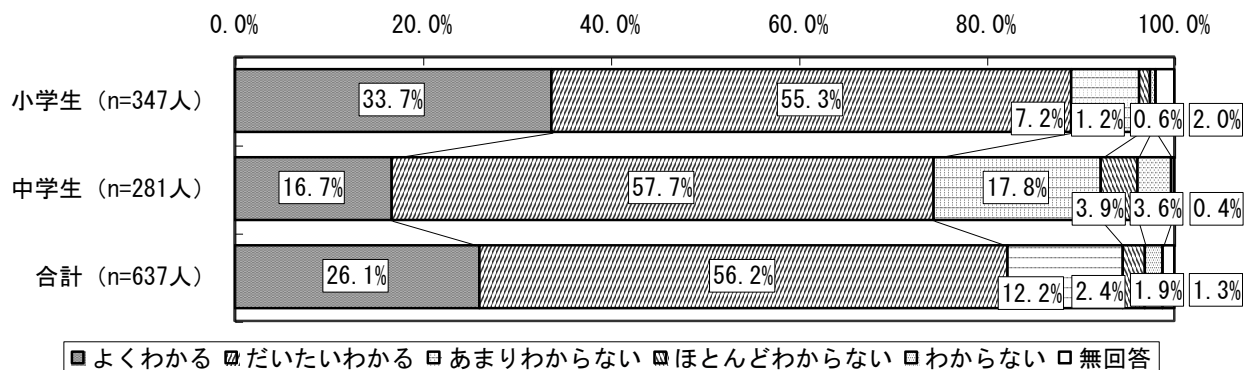
問 20. 学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。

(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生の学校の勉強の理解度をみると、「だいたいわかる」が56.2%、「よくわかる」が26.1%、「あまりわからない」が12.2%となっており、「よくわかる」と「だいたいわかる」を合計した比率が82.3%となっています。

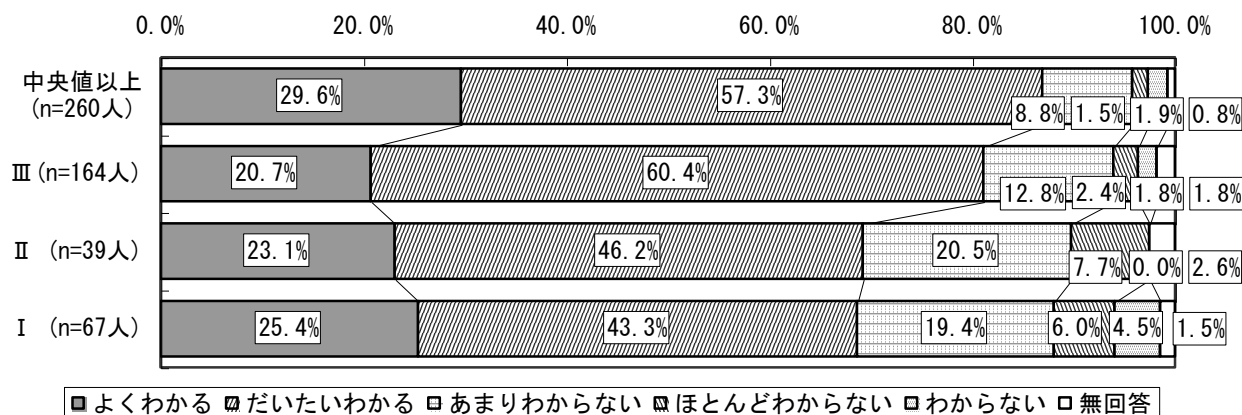
「よくわかる」と「だいたいわかる」を合計した比率は、小学生は89.0%、中学生は74.4%と中学生のほうが少なく、「学校の勉強の理解度」は中学生のほうが低くなっています。

図：学校の勉強の理解度（小・中学生）



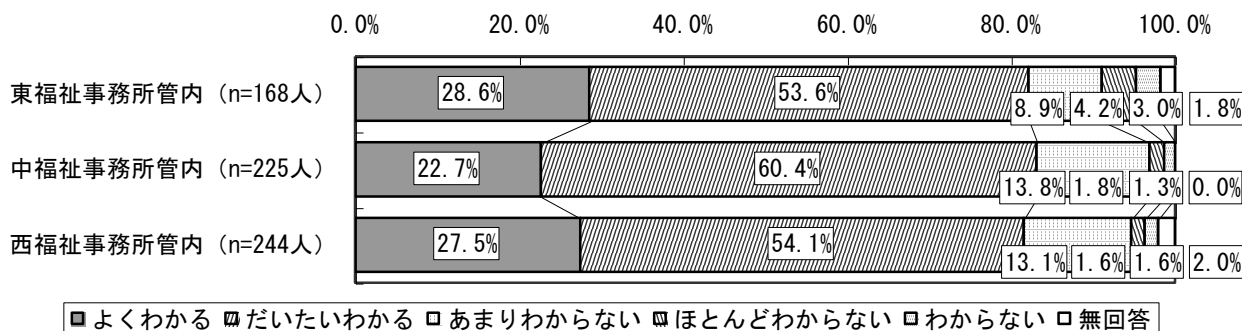
困窮度別にみると、困窮度が高い世帯の小・中学生ほど「よくわかる」と「だいたいわかる」の合計が少なくなる傾向があります。

図：困窮度別・学校の勉強の理解度（小・中学生）



福祉事務所管内別にみると、「よくわかる」と「だいたいわかる」の合計はどの管内でも8割以上でほぼ同程度となっていますが、「よくわかる」は中福祉事務所管内が他に比べてやや少なくなっています。

図：福祉事務所管内別・学校の勉強の理解度（小・中学生）



小・中学生 21. 学校の勉強がわからないときの対処

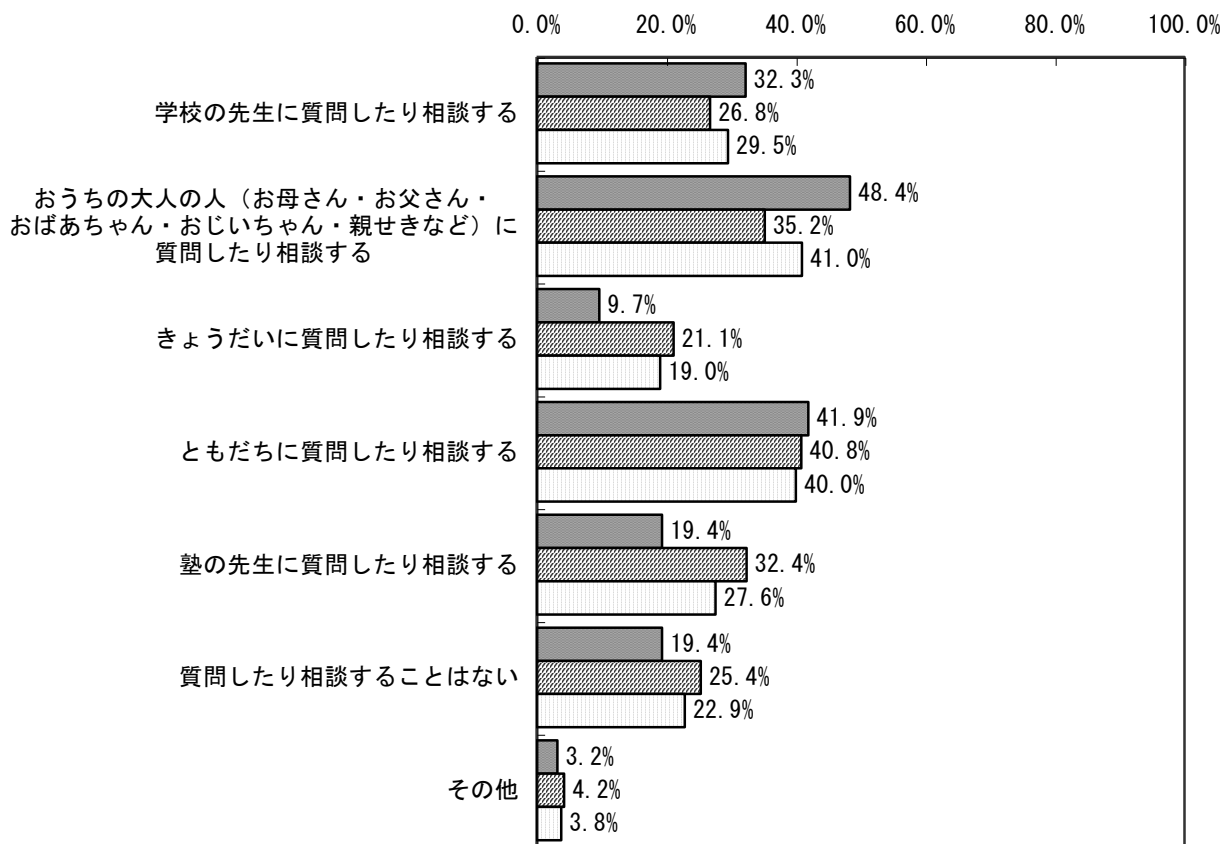
問 21. 問 20 で 3～5 のどれかに○をした方※にお聞きします。

学校の勉強がわからないとき、どうしていますか。(あてはまるものすべてに○)

小・中学生について学校の勉強がわからないときの対処をみると、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）に質問したり相談する」が 41.0%、「ともだちに質問したり相談する」が 40.0%、「学校の先生に質問したり相談する」が 29.5%となっています。

小学生は「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）に質問したり相談する」が 48.4%で最も多く、中学生は「ともだちに質問したり相談する」が 40.8%で最も多くなっています。

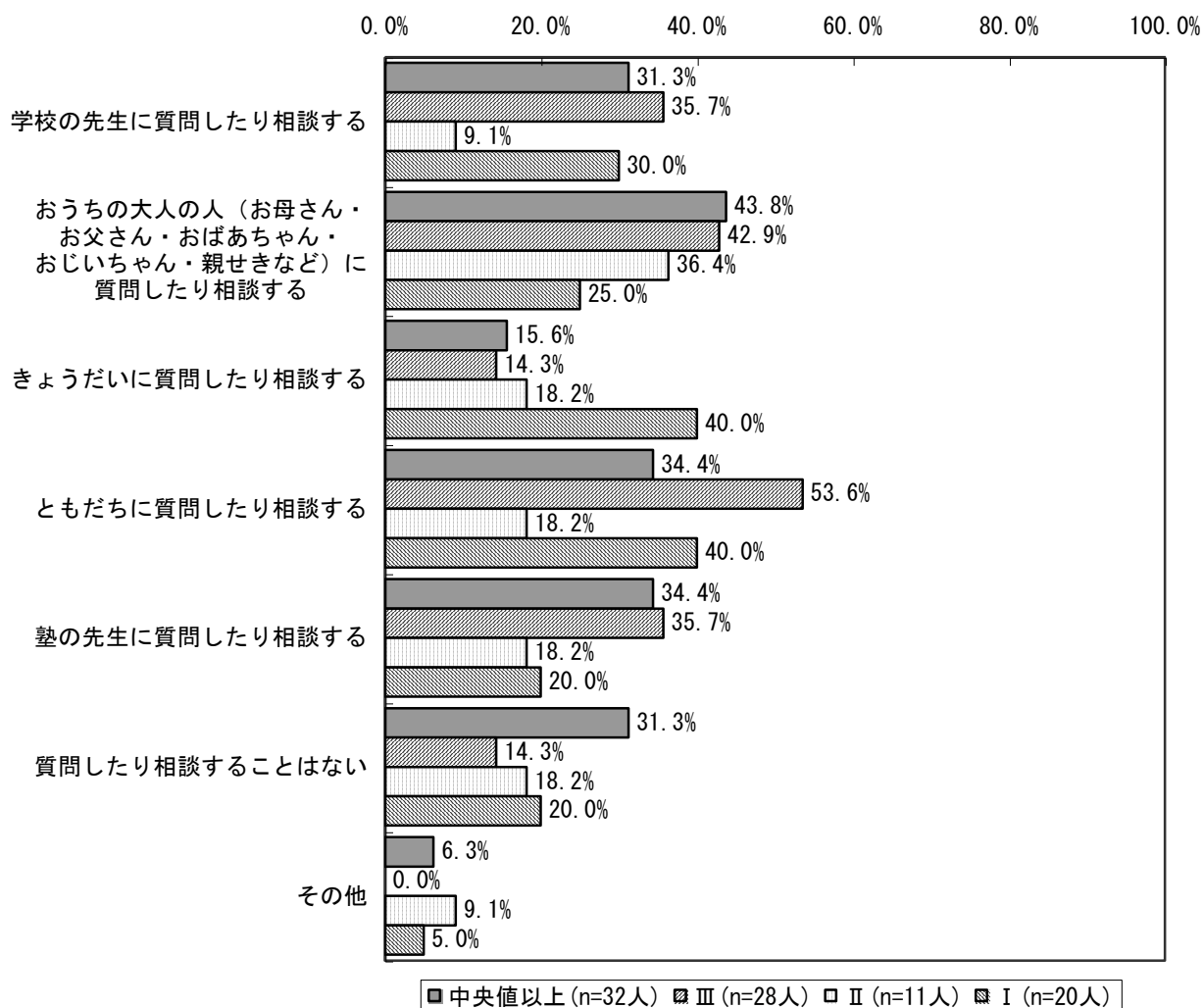
図：学校の勉強がわからないときの対処（小・中学生）



■小学生 (n=31人) ■中学生 (n=71人) □合計 (n=105人)

困窮度別にみると、困窮度Ⅰの世帯では「ともだちに質問したり相談する」と「きょうだいに質問したり相談する」がともに40.0%と最も多く、困窮度Ⅱの世帯では「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）に質問したり相談したりする」が36.4%と最も多くなっています。困窮度Ⅲの世帯では「ともだちに質問したり相談する」が53.6%となっており、半数を超えて最も多くなっています。

図：困窮度別・学校の勉強がわからないときの対処（小・中学生）



※問 21 の質問中、「問 20 で 3～5 のどれかに○をした方」とは学校の勉強の理解度について「あまりわからない」「ほとんどわからない」「わからない」のいずれかに回答した人のことです。

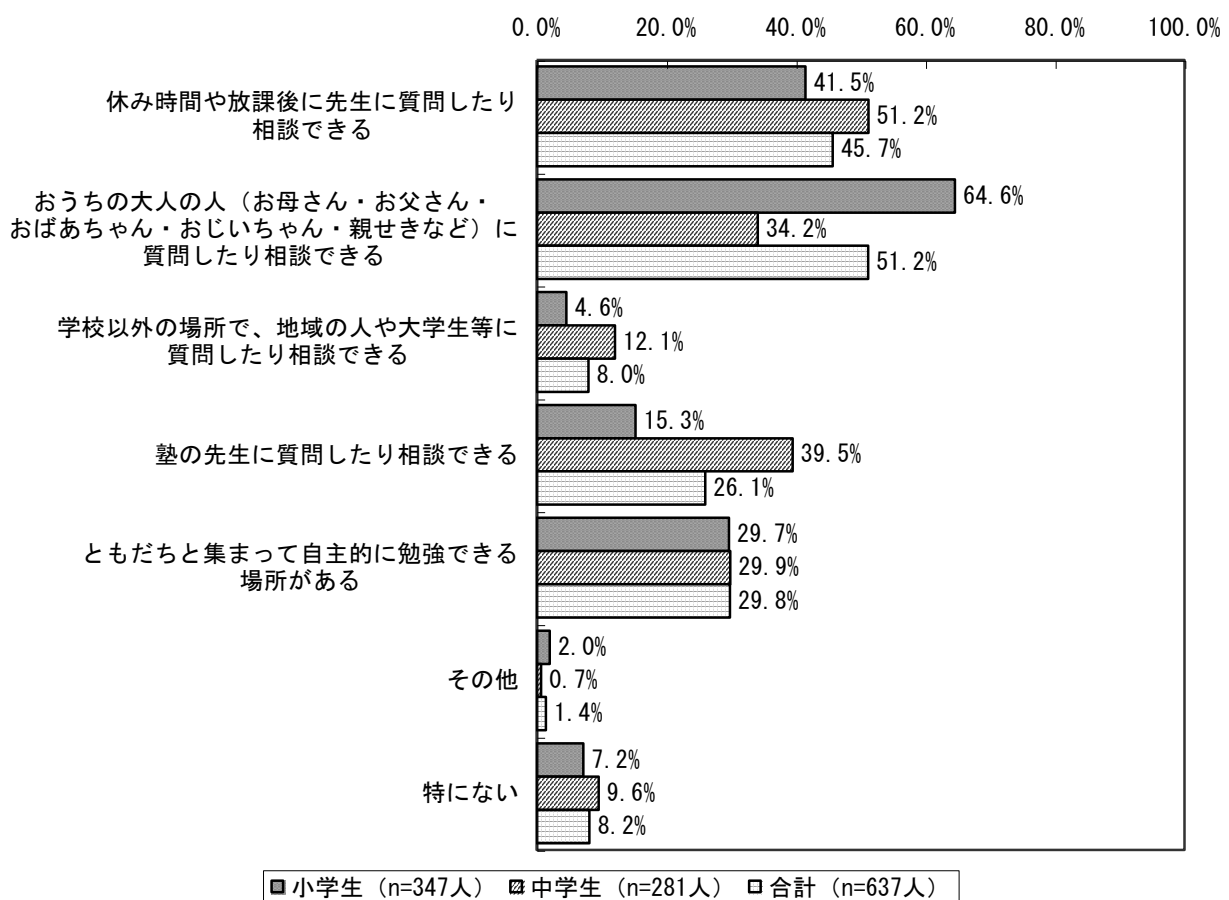
小・中学生 22. 学校の勉強がわからないときにあればいいもの

問 22. あなたは、学校の勉強がわからないとき、どのようなことがあればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

小・中学生について学校の勉強がわからないときにあればいいと思うものをみると、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）に質問したり相談できる」が51.2%、「休み時間や放課後に先生に質問したり相談できる」が45.7%、「ともだちと集まって自主的に勉強できる場所がある」が29.8%となっています。

小学生は「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）に質問したり相談できる」が64.6%で最も多く、中学生は「休み時間や放課後に先生に質問したり相談できる」が51.2%で最も多くなっています。

図：学校の勉強がわからないときにあればいいもの（小・中学生）



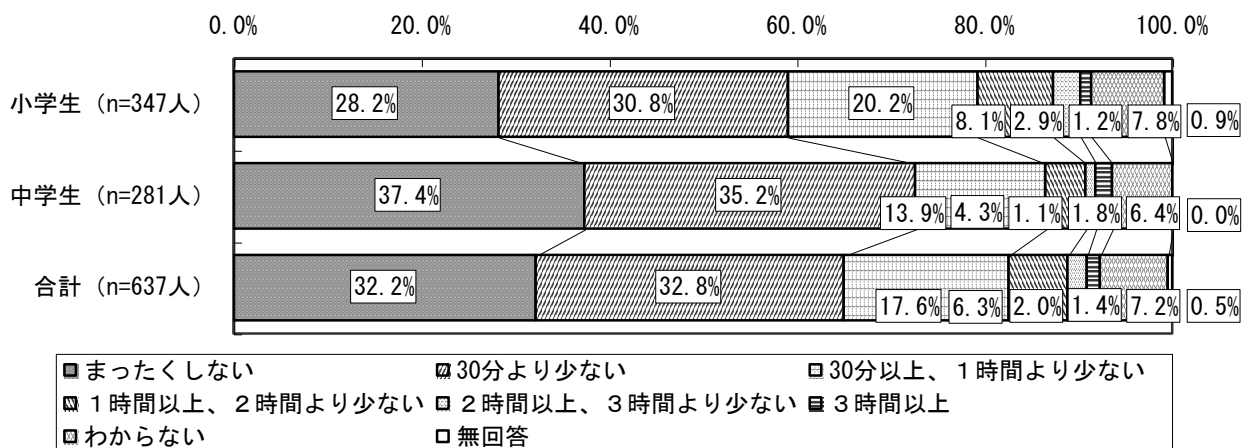
小・中学生 23. 読書時間

問 23. あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。
 (教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます。)(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生の読書時間をみると、「30分より少ない」が32.8%、「まったくしない」が32.2%、「30分以上、1時間より少ない」が17.6%となっています。1日あたりの読書時間が30分未満(「まったくしない」と「30分より少ない」の合計)の子どもは65.0%となっています。

小学生と中学生の比較では、1日あたりの読書時間が30分未満の子どもは、小学生は59.0%、中学生は72.6%となっており、「学校の授業時間以外の読書時間」が少ない子どもは中学生の方が多くなっています。

図：読書時間(小・中学生)



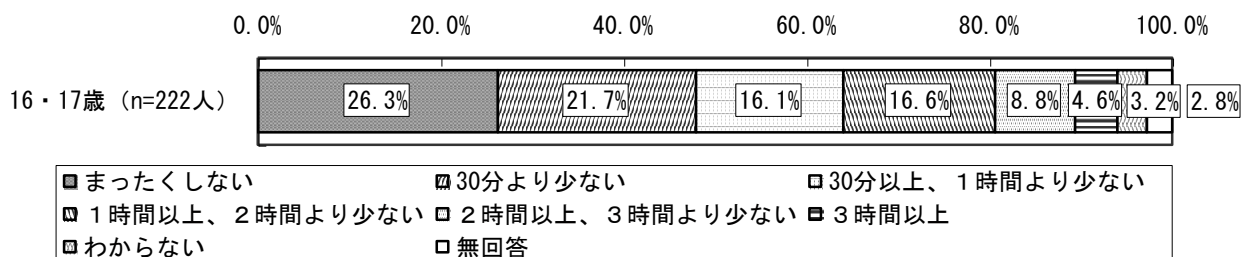
16・17歳 16. 授業以外の勉強時間

問 16. あなたは、学校のある日、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
 (塾などの時間も含まれます。)(あてはまるもの1つだけに○)

※この設問は、16・17歳のうち、現在学校(通信制、定時制を含む)に通っている子どもが対象です。

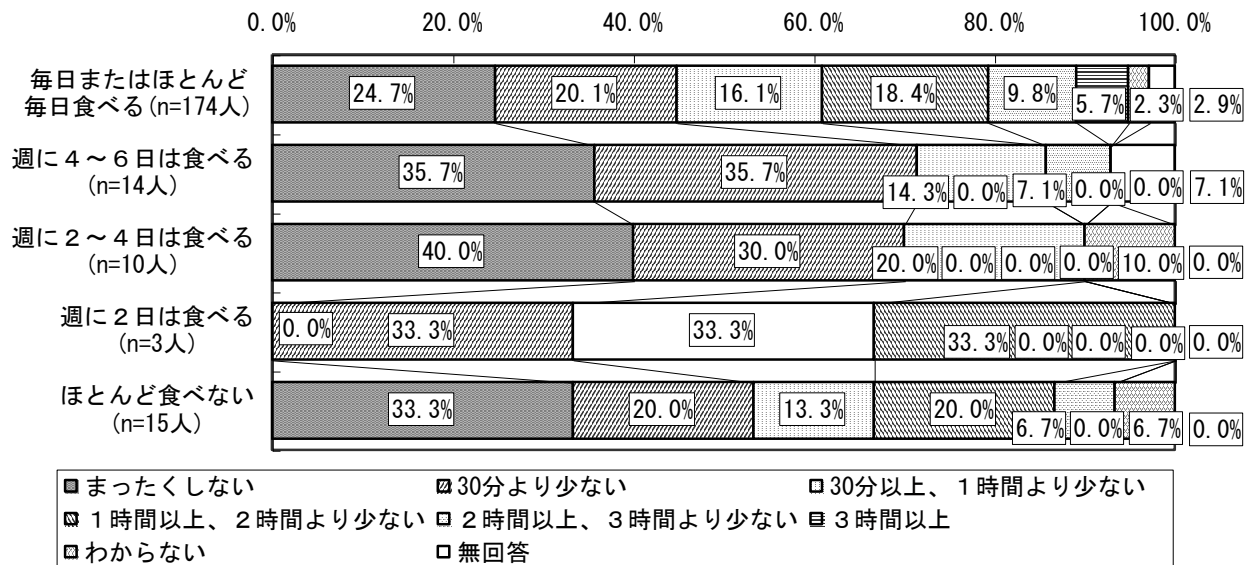
16・17歳の授業以外の勉強時間をみると、「まったくしない」が26.3%、「30分より少ない」が21.7%、「1時間以上、2時間より少ない」が16.6%となっています。

図：授業以外の勉強時間(16・17歳)



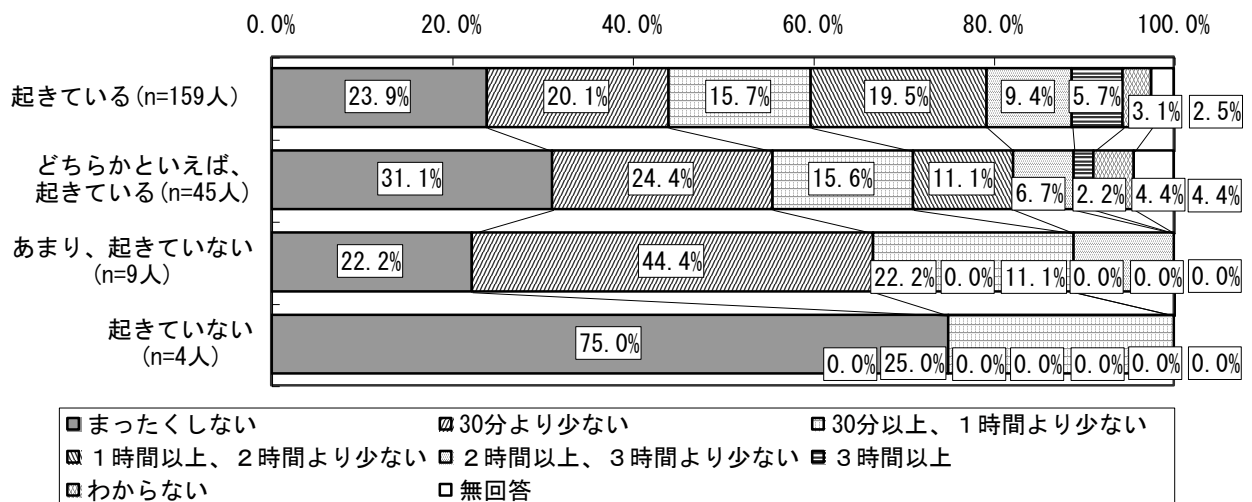
朝食の摂取状況と授業以外の勉強時間の関係を見ると、「毎日またはほとんど毎日食べる」では2時間以上勉強する16・17歳が15.5%となっています。朝食を食べないことがある場合、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている16・17歳に比べて勉強時間が短い傾向にあります。

図：朝食を食べているか × 授業以外の勉強時間（16・17歳）



平日の起床状況と授業以外の勉強時間の関係を見ると、平日決まった時間に「起きていない」と答えた16・17歳は「まったくしない」が7割以上となっており、「起きています」と答えた16・17歳ほど勉強時間が多くなっています。

図：平日決まった時間に起床しているか × 授業以外の勉強時間（16・17歳）



16・17歳 17. 学校の勉強の理解度

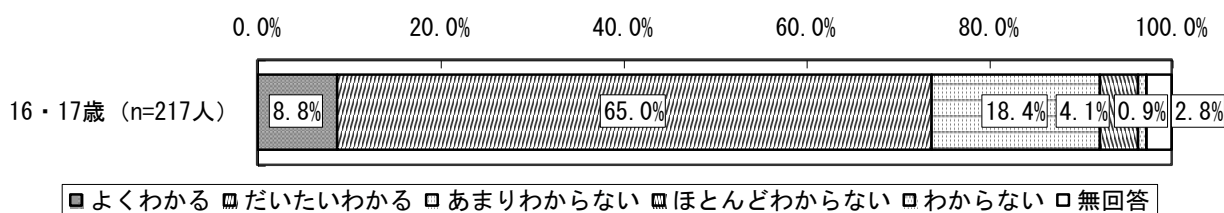
問 17. 学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。

(あてはまるもの1つだけに○)

※この設問は、16・17歳のうち、現在学校（通信制、定時制を含む）に通っている子どもが対象です。

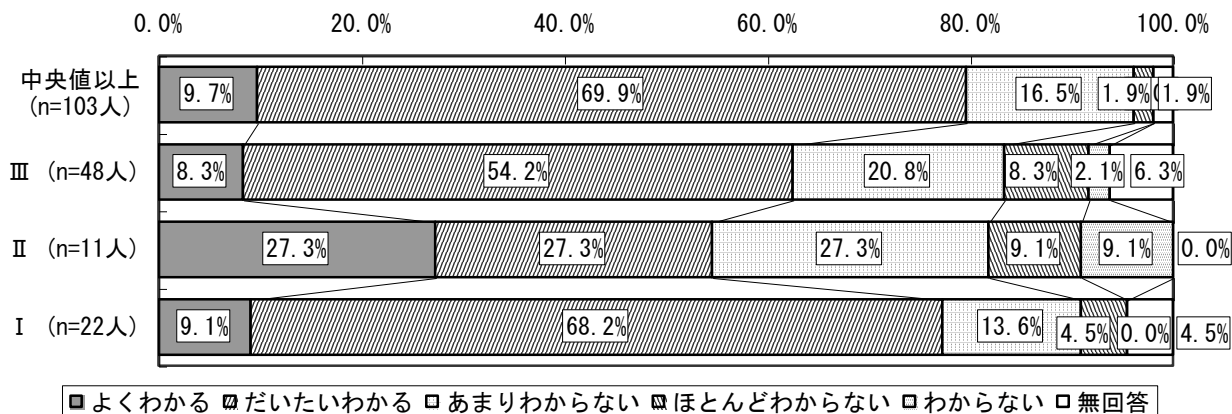
16・17歳の学校の勉強の理解度をみると、「だいたいわかる」が65.0%、「あまりわからない」が18.4%、「よくわかる」が8.8%となっており、「よくわかる」と「だいたいわかる」を合計した比率が73.8%となっています。

図：学校の勉強の理解度（16・17歳）



困窮度別にみると、困窮度Ⅱは「よくわかる」が27.3%となっていますが、「よくわかる」と「だいたいわかる」の合計をみると、困窮度Ⅰを除いて困窮度が上がるにつれて少なくなり、「あまりわからない」、「ほとんどわからない」、「わからない」が多くなっています。一方、困窮度Ⅰでは「よくわかる」または「だいたいわかる」と答えた割合は中央値以上の世帯と同程度となっています。

図：困窮度別・学校の勉強の理解度（16・17歳）



16・17歳 18. 学校の勉強がわからないときの対処

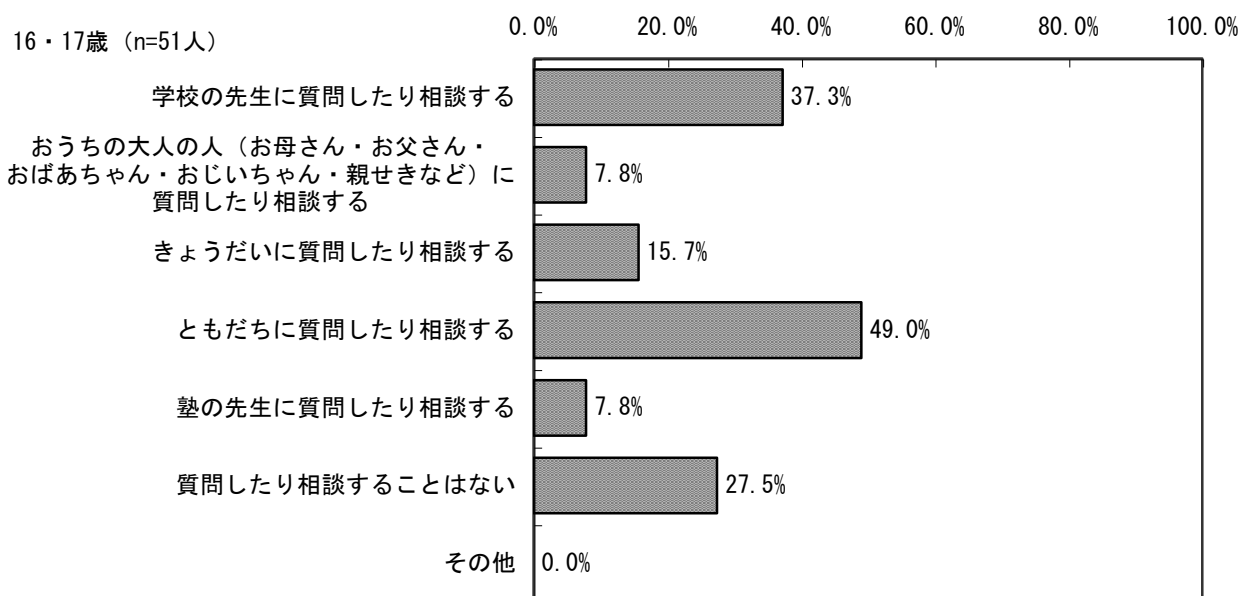
問 18. 問 17 で 3～5 のいずれかに○をした方※にお聞きします。

学校の勉強がわからないとき、誰に質問したり相談したりしますか。(あてはまるものすべてに○)

※この設問は、16・17歳のうち、現在学校(通信制、定時制を含む)に通っている子どもが対象です。

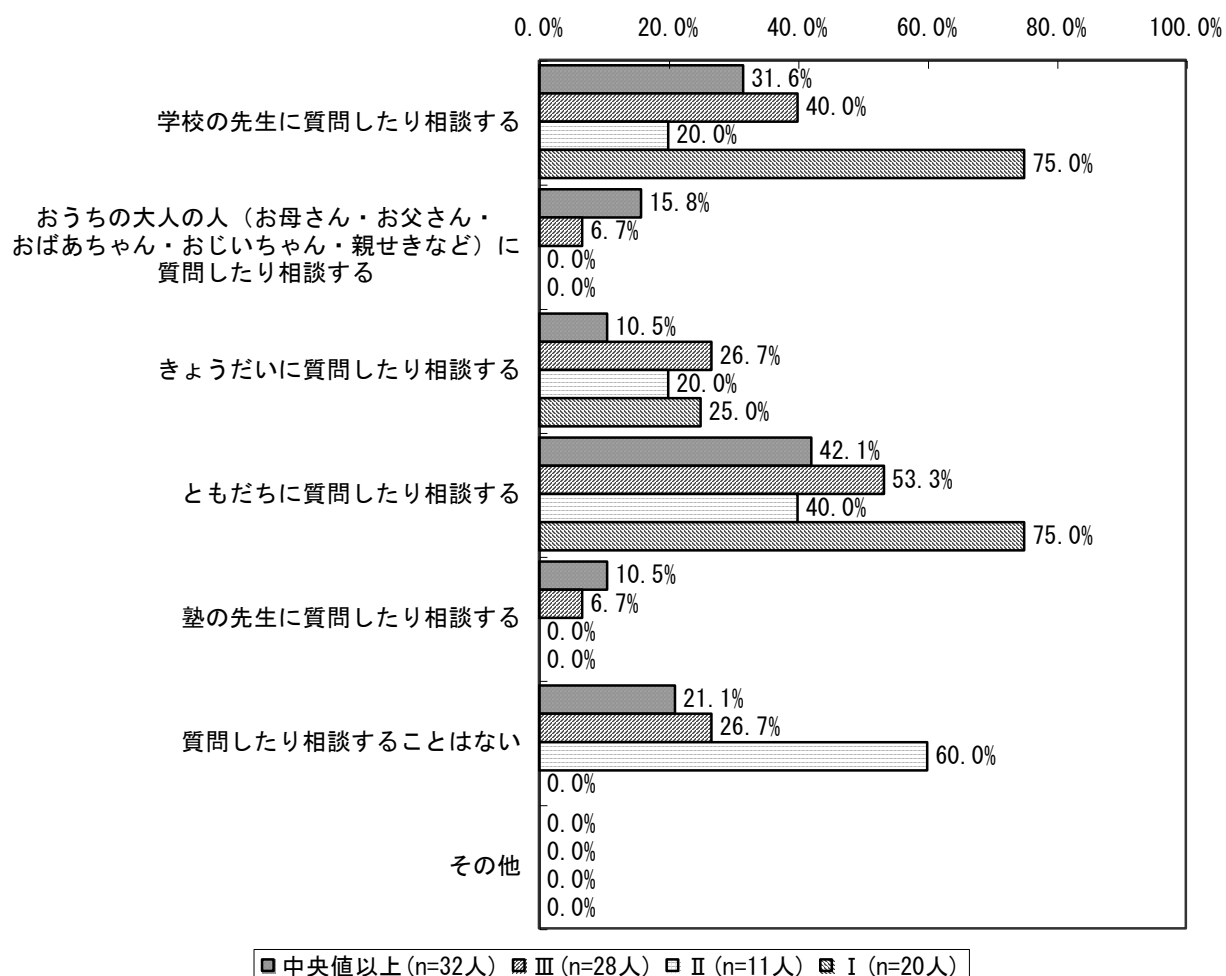
16・17歳の学校の勉強がわからないときの対処をみると、「ともだちに質問したり相談する」が49.0%、「学校の先生に質問したり相談する」が37.3%、「質問したり相談することはない」が27.5%となっています。

図：学校の勉強がわからないときの対処（16・17歳）



困窮度別にみると、困窮度Ⅰの世帯では「学校の先生に質問したり相談する」や「ともだちに質問したり相談する」が多く、困窮度Ⅱの世帯では「質問したり相談することはない」が多くなっています。

図：困窮度別・学校の勉強がわからないときの対処（16・17歳）



※問 18 の質問中、「問 17 で 3～5 のいずれかに○をした方」とは学校の勉強の理解度について「あまりわからない」「ほとんどわからない」「わからない」のいずれかに回答した人のことです。

16・17歳 19. 学校の勉強がわからないときにあればいいもの

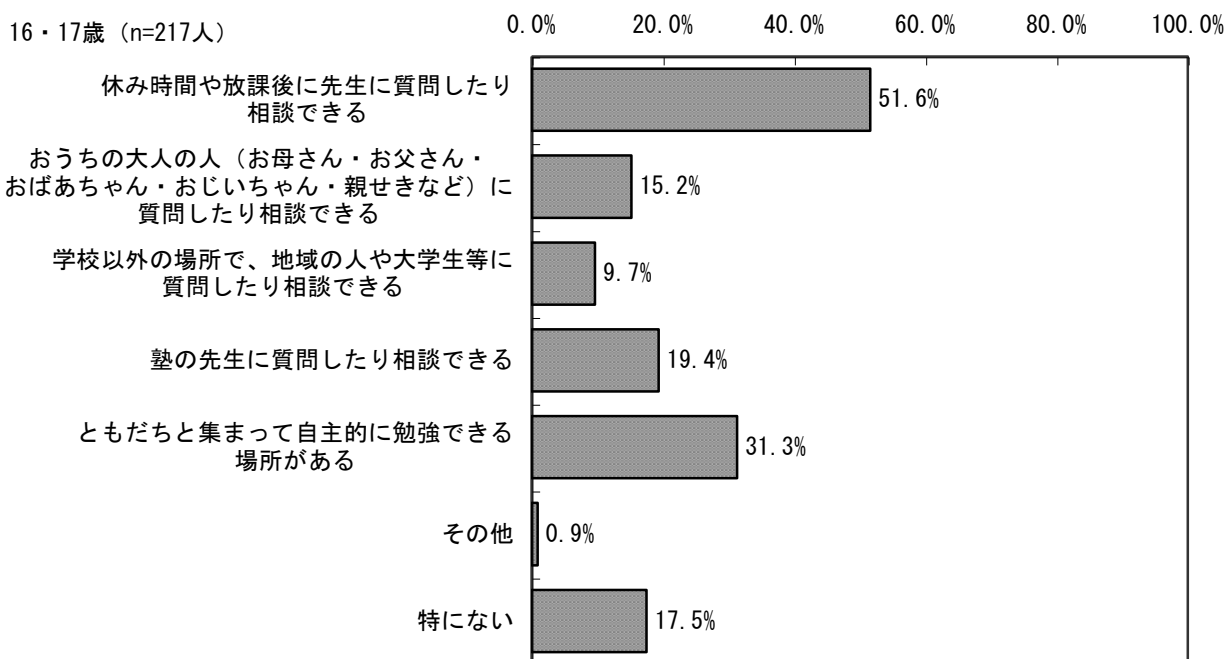
問 19. あなたは、学校の勉強がわからないとき、どのようなことがあればよいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

※この設問は、16・17歳のうち、現在学校（通信制、定時制を含む）に通っている子どもが対象です。

16・17歳の学校の勉強がわからないときにあればいいものをみると、「休み時間や放課後に先生に質問したり相談できる」が51.6%、「ともだちと集まって自主的に勉強できる場所がある」が31.3%、「塾の先生に質問したり相談できる」が19.4%となっています。

図：学校の勉強がわからないときにあればいいもの（16・17歳）



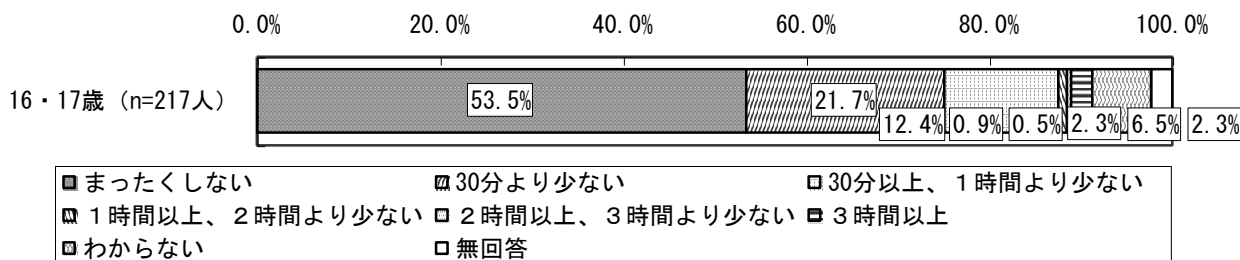
16・17歳 20. 読書時間

問 20. あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか。

(教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます。)(あてはまるもの1つだけに○)

16・17歳の読書時間をみると「まったくしない」が53.5%、「30分より少ない」が21.7%、「30分以上、1時間より少ない」が12.4%となっています。1日あたりの読書時間が30分未満（「まったくしない」と「30分より少ない」の合計）の人は75.2%となっています。

図：読書時間（16・17歳）

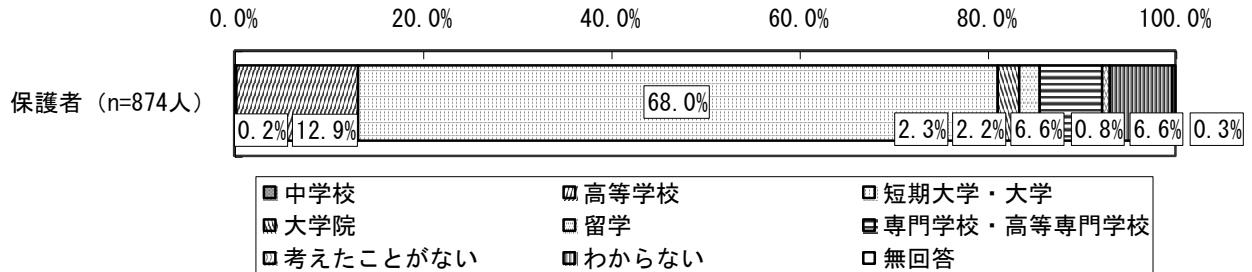


保護者 15. 子どもの進学の希望

問 15. あなたは、お子さんの進学についてどこまで希望されていますか。
 (あてはまるもの1つだけに○)

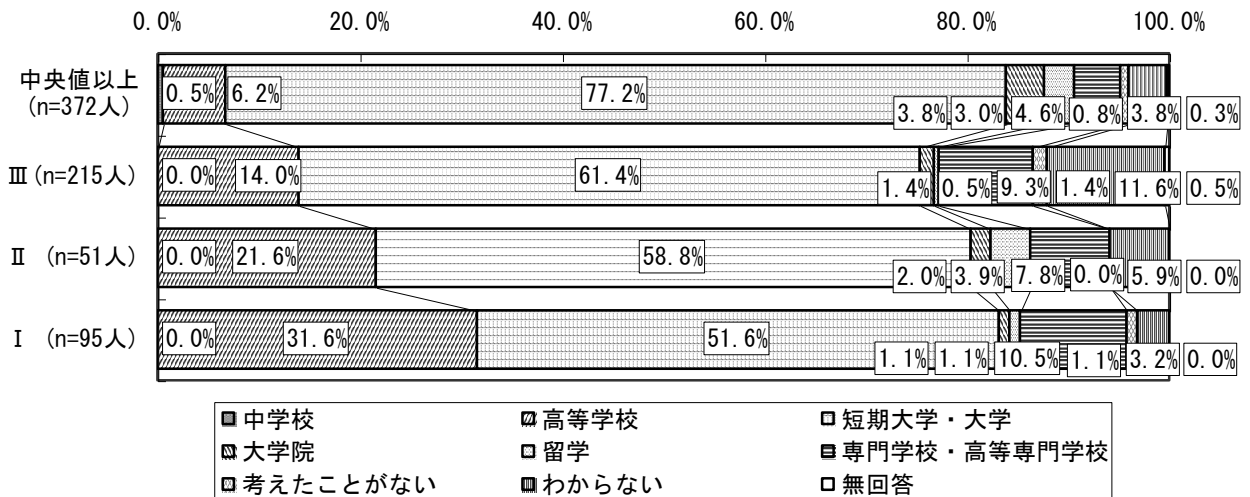
保護者について、子どもの進学の希望をみると、「短期大学・大学」が68.0%、「高等学校」が12.9%、「専門学校・高等専門学校」が6.6%となっています。

図：子どもの進学の希望（保護者）



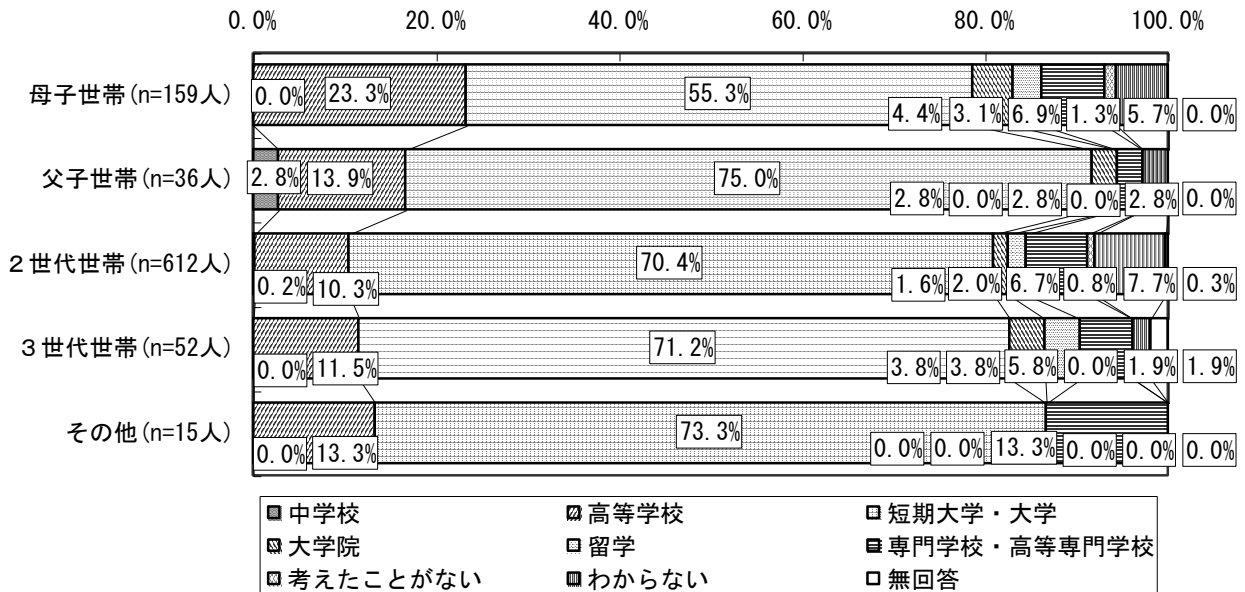
困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「短期大学・大学」が少なくなり、「高等学校」が多くなっています。

図：困窮度別・子どもの進学の希望（保護者）



世帯類型別にみると、父子世帯、2世代世帯、3世代世帯では「短期大学・大学」が7割以上となっていますが、母子世帯では6割未満となっています。母子世帯では「高等学校」がそれ以外の世帯よりも多く、23.3%となっています。

図：世帯類型別・子どもの進学の希望（保護者）



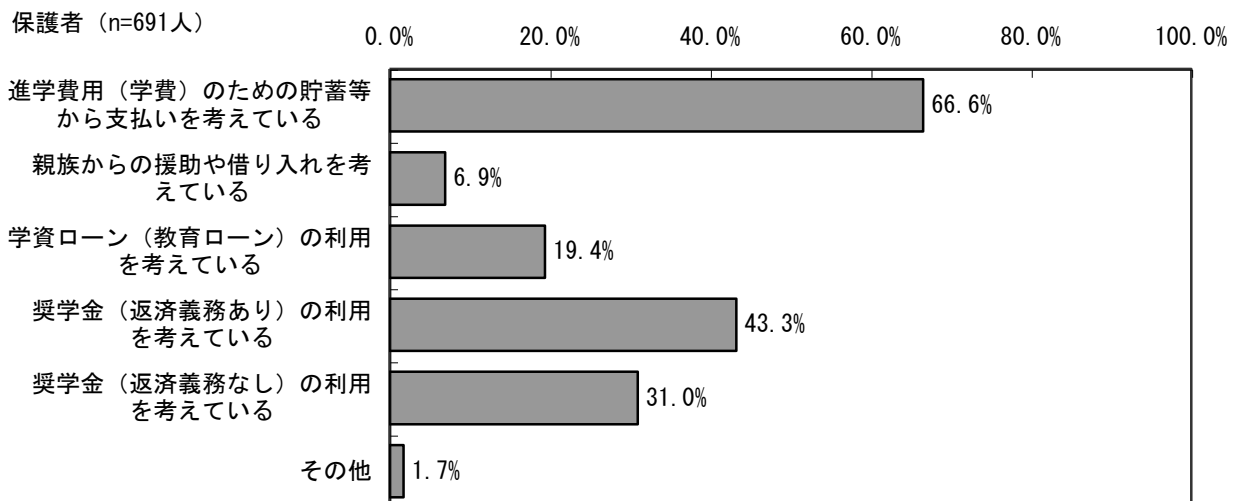
保護者 16. 進学費用

問 16. 問 15 で 3～6 に ○ を した 方* に お 聞 き し ま す。

あなたは、お子さんの大学等への進学費用（学費）について、主にどのようにお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

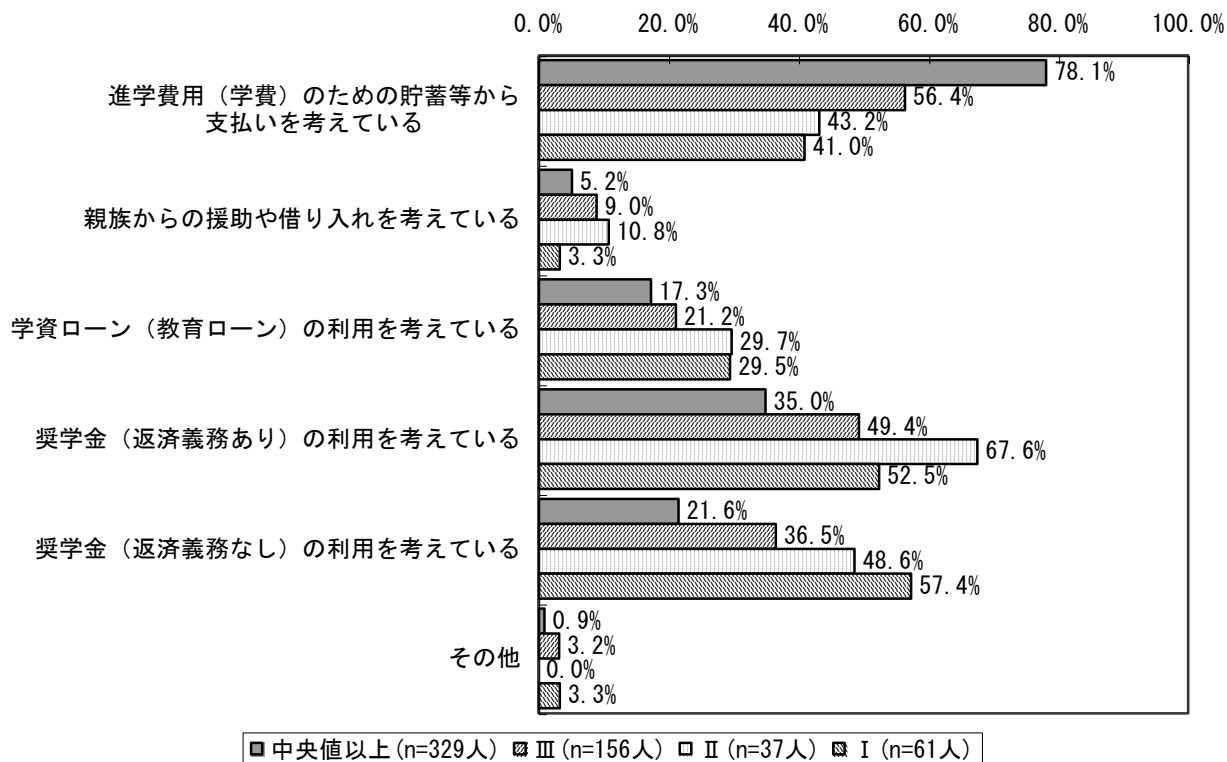
保護者について子どもの進学費用の考えをみると、「進学費用（学費）のための貯蓄等から支払いを考えている」が 66.6%、「奨学金（返済義務あり）の利用を考えている」が 43.3%、「奨学金（返済義務なし）の利用を考えている」が 31.0%となっています。

図：進学費用（保護者）



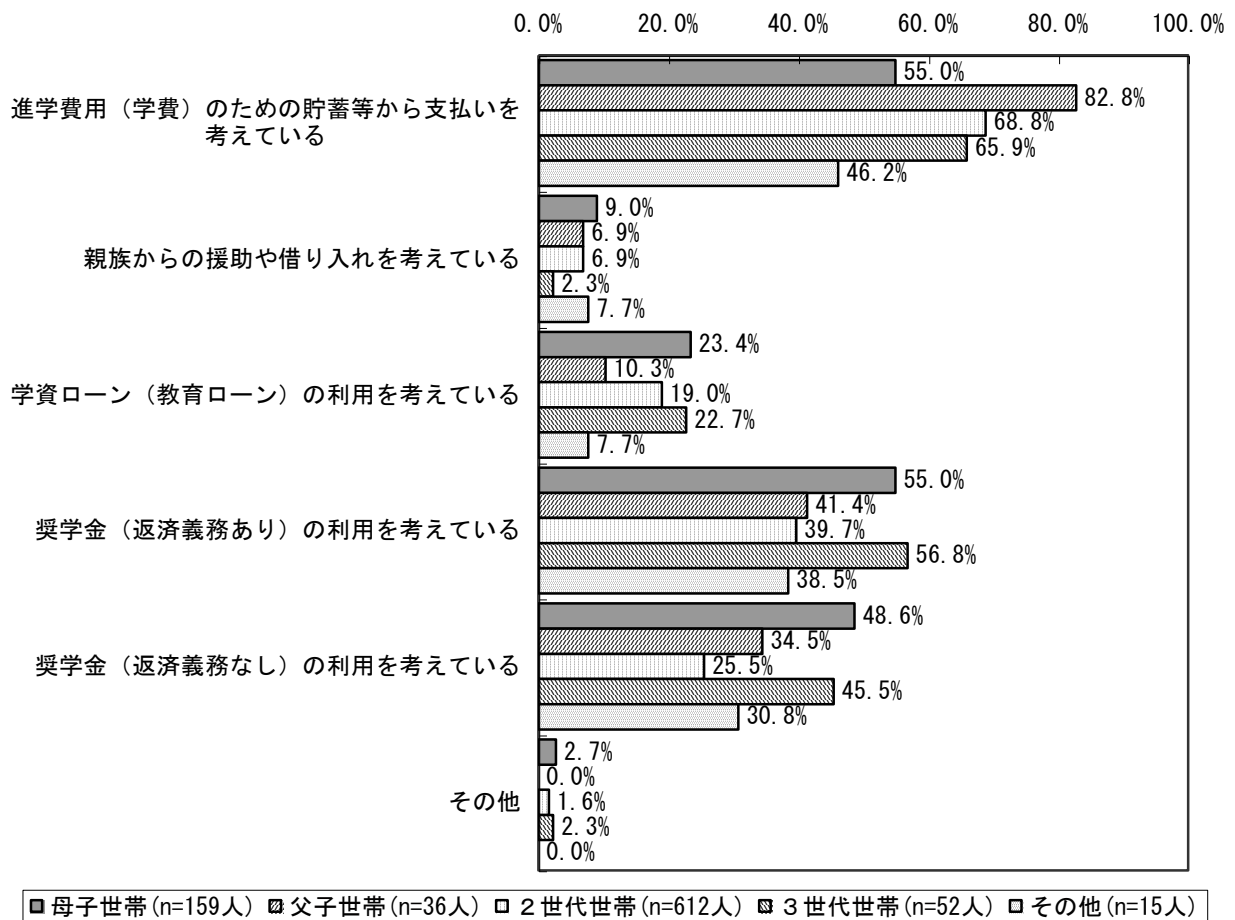
困窮度別にみると、困窮度が高い世帯になるほど、「進学費用（学費）のための貯蓄等から支払いを考えている」が少なくなり、「奨学金（返済義務なし）の利用を考えている」や「学資ローン（教育ローン）の利用を考えている」が多くなっています。

図：困窮度別・進学費用（保護者）



世帯類型別にみると、母子世帯では「進学費用（学費）のための貯蓄等から支払いを考えている」と「奨学金（返済義務あり）の利用を考えている」が共に55.0%となっており、返済義務のない奨学金も合わせると奨学金の利用を考えている人が他の世帯よりも多くなっています。

図：世帯類型別・進学費用（保護者）



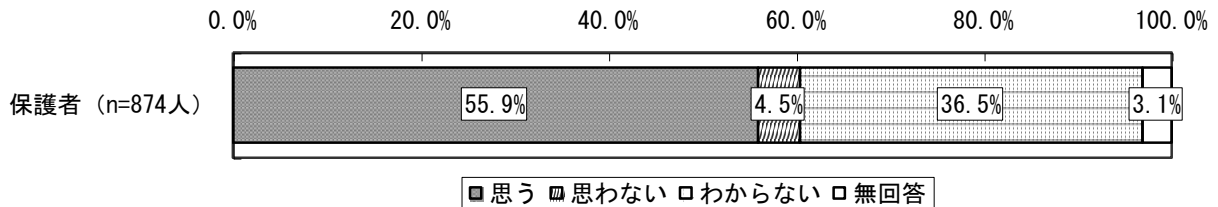
※問 16 の質問中、「問 15 で 3～6 に○をした方」とは子どもの進学の希望について「短期大学・大学」「大学院」「留学」「専門学校・高等専門学校」のいずれかを回答した人のことです。

保護者 17. 子どもの進路が希望通りになると思うか

問 17. あなたは、お子さんが希望どおりの学校まで進むことになると思いますか。
(あてはまるもの1つだけに○)

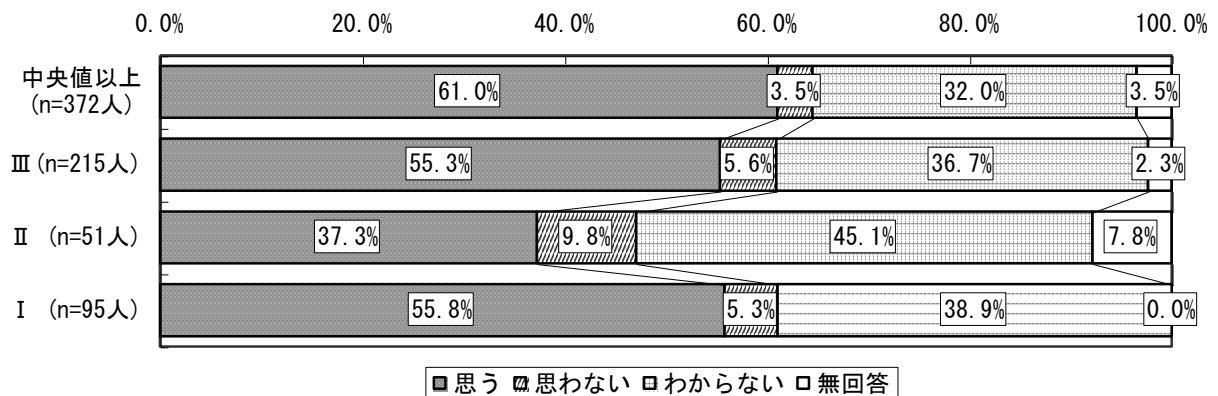
保護者について、子どもの進路が希望通りになると思うかをみると、「思う」が55.9%、「わからない」が36.5%、「思わない」が4.5%となっています。

図：子どもの進路が希望通りになると思うか（保護者）



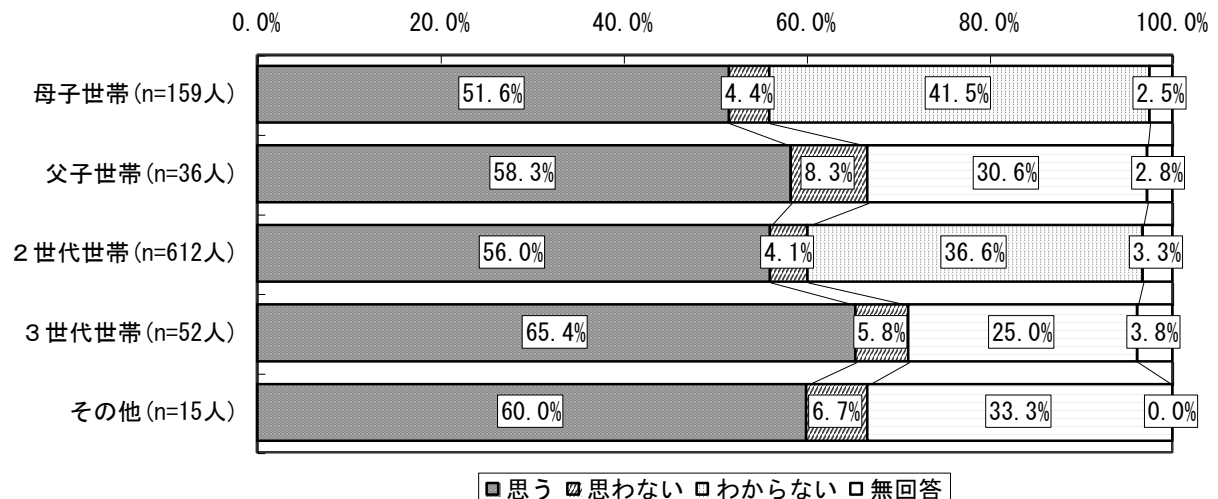
困窮度別にみると、中央値未満の世帯では中央値以上の世帯に比べて「思う」が少なく、「わからない」が多くなっています。

図：困窮度別・子どもの進路が希望通りになると思うか（保護者）



世帯類型別にみると、母子世帯ではその他の世帯に比べて「思う」が少なく、「わからない」が多くなっています。

図：世帯類型別・子どもの進路が希望通りになると思うか（保護者）



保護者 18. 子どもが希望通りの進学をしない理由

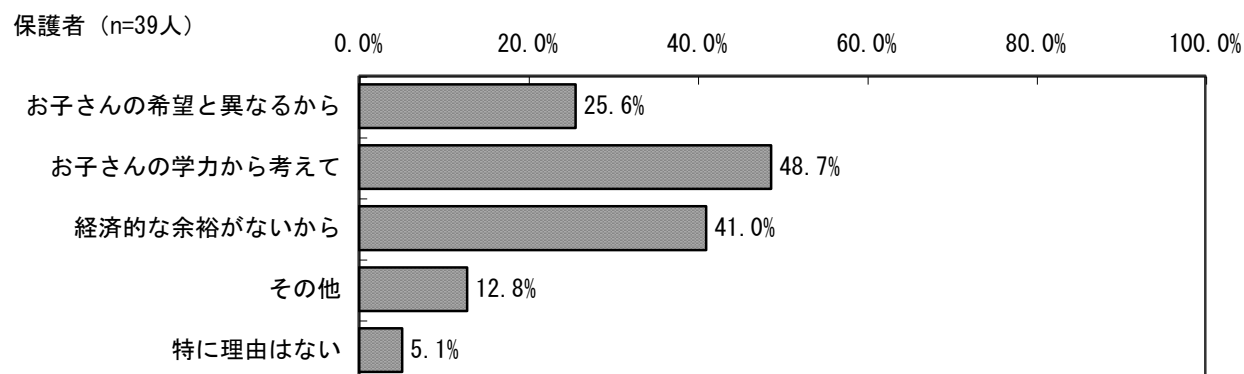
問 18. 問 17 で 2 に ○ を した 方* にお 聞 き し ま す。

お 子 さ ん が 希 望 ど お り の 学 校 ま で 進 ま な い と 思 う 理 由 を 教 え て 下 さ い。

(あてはまるものすべてに○)

保護者について、子どもが希望通りの進学をしない理由をみると、「お子さんの学力から考えて」が 48.7%、「経済的な余裕がないから」が 41.0%、「お子さんの希望と異なるから」が 25.6%となっています。

図：子どもが希望通りの進学をしない理由（保護者）



※問 18 の 質 問 中、「問 17 で 2 に ○ を した 方」とは 子 ど も の 進 路 が 希 望 通 り に な る と 思 う か に つ い て「思 わ な い」に 回 答 し た 人 の こ と で す。

(4) 社会環境

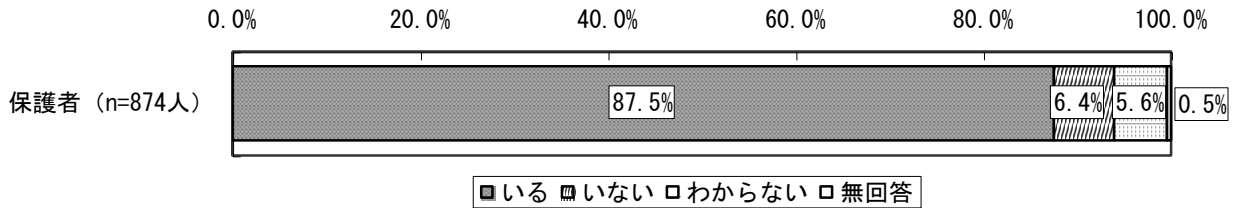
保護者 22-A. 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

問 22. 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人はいますか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

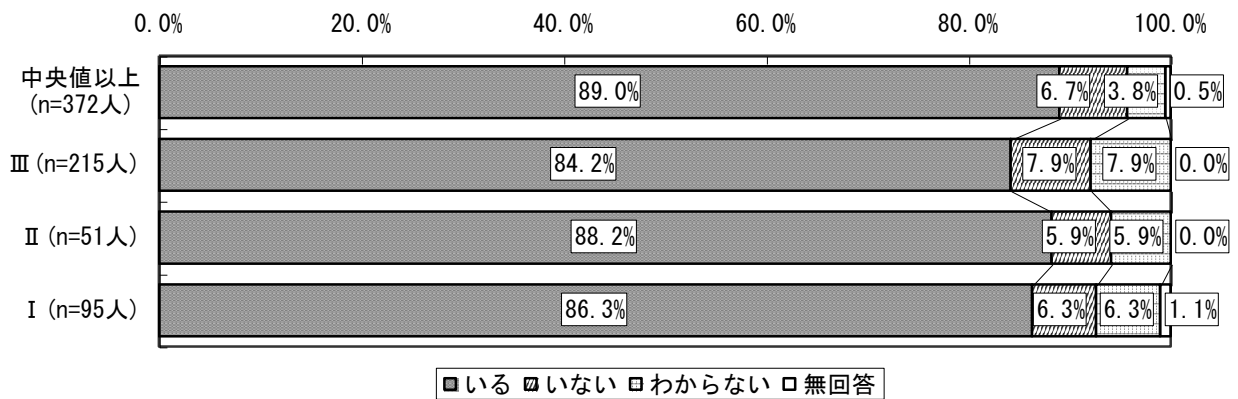
保護者について心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人をみると、「いる」が87.5%、「いない」が6.4%、「わからない」が5.6%となっています。

図：心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人（保護者）



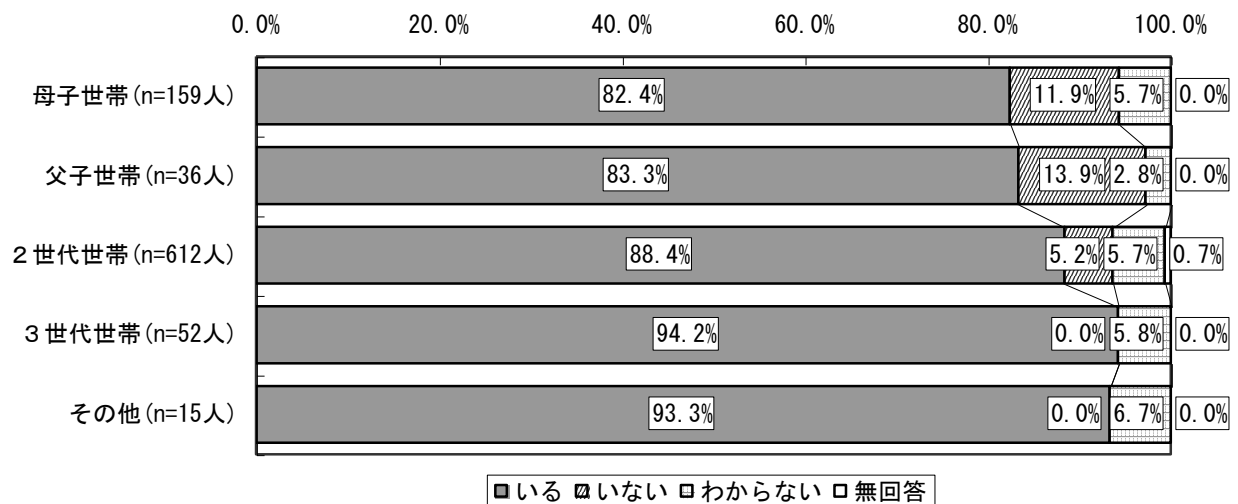
困窮度別にみると、いずれの世帯の保護者も「いる」が8割を超えており、あまり差がみられません。

図：困窮度別・心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人（保護者）



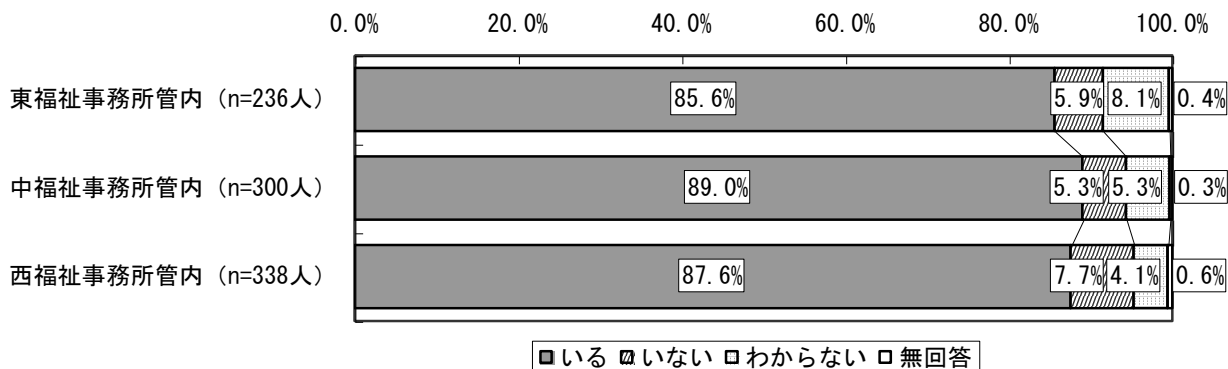
世帯類型別にみると、母子世帯と父子世帯では「いない」が約1割となっています。

図：世帯類型別・心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人（保護者）



福祉事務所管内別にみると、いずれの事務所管内でも「いる」が8割を超えています。

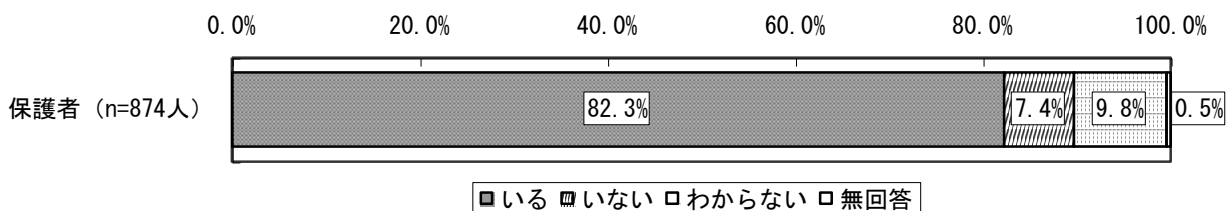
図：福祉事務所管内別・心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人（保護者）



保護者 22-B. あなたの気持ちを察して思いやってくれる人
 問 22-B. あなたの気持ちを察して思いやってくれる人はいますか。
 （あてはまるもの1つに○をつけてください）

保護者についてあなたの気持ちを察して思いやってくれる人を見ると、「いる」が82.3%、「わからない」が9.8%、「いない」が7.4%となっています。

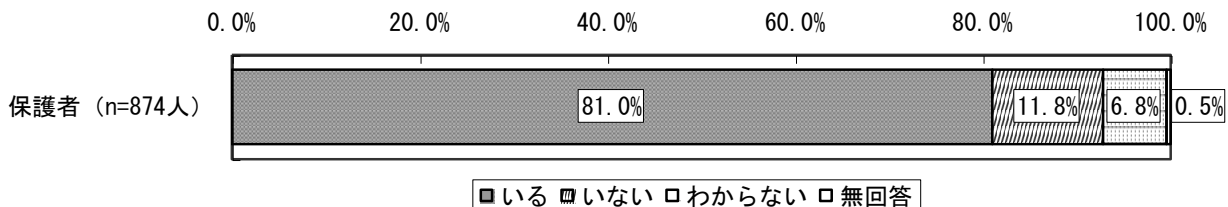
図：あなたの気持ちを察して思いやってくれる人（保護者）



保護者 22-C. 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人
 問 22. 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人はいますか。
 （あてはまるもの1つに○をつけてください）

保護者について趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人を見ると、「いる」が81.0%、「いない」が11.8%、「わからない」が6.8%となっています。

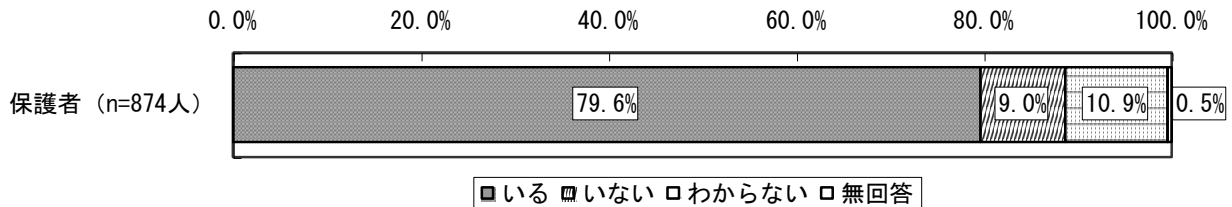
図：趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人（保護者）



保護者 22-D. 子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人
 問 22D. 子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人はいますか。
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

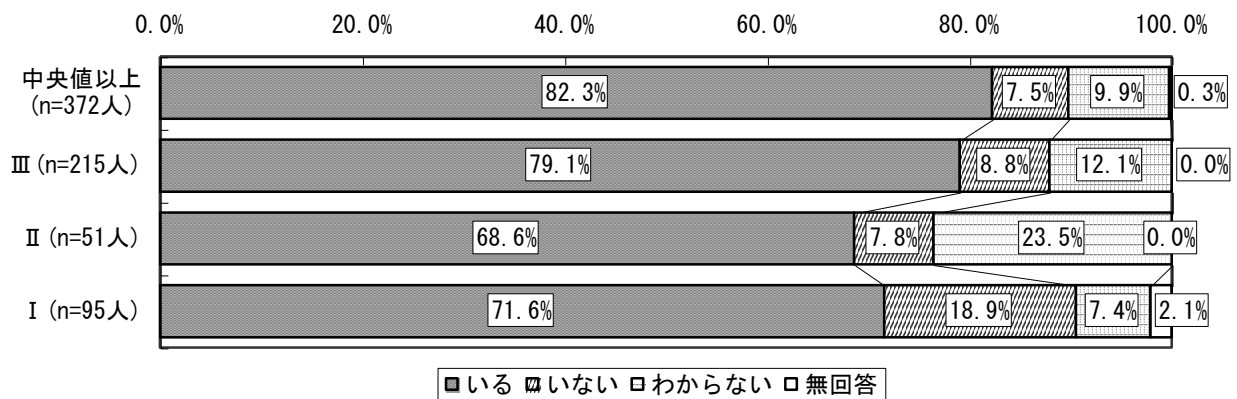
保護者の子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人をみると、「いる」が79.6%、「わからない」が10.9%、「いない」が9.0%となっています。

図：子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人（保護者）



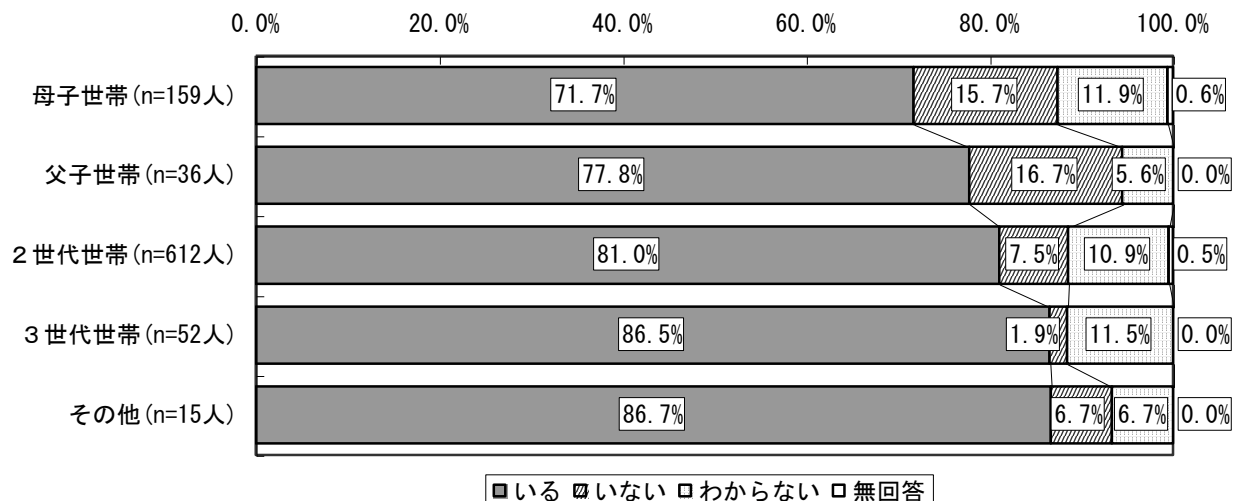
困窮度別にみると、「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」について、中央値以上と困窮度Ⅲの世帯では「いる」がそれぞれ約8割となっていますが、困窮度ⅠまたはⅡの世帯ではそれぞれ約7割となっており、困窮度Ⅰの世帯では「いない」が約2割を占めています。

図：困窮度別・子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人（保護者）



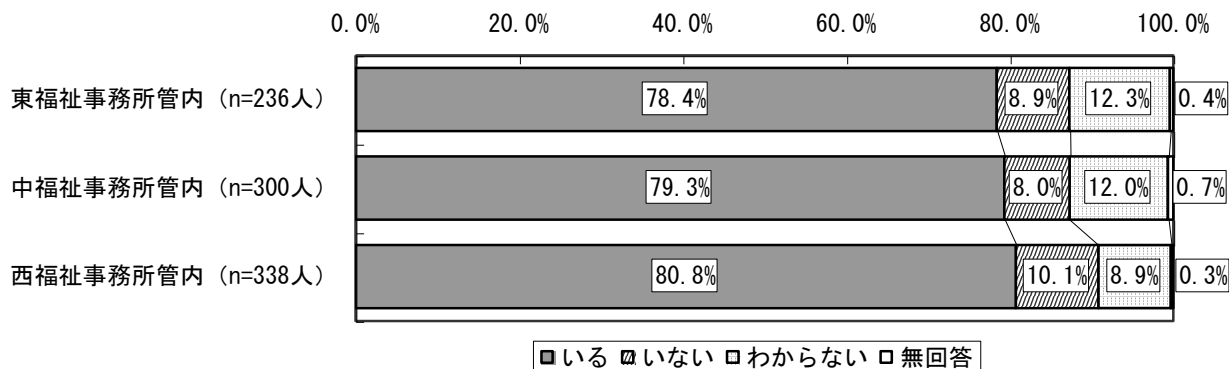
世帯類型別にみると、母子世帯と父子世帯では「いない」が2割弱となっています。

図：世帯類型別・子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人（保護者）



福祉事務所管内別にみると、「いる」はいずれの管内でも約8割となっています。

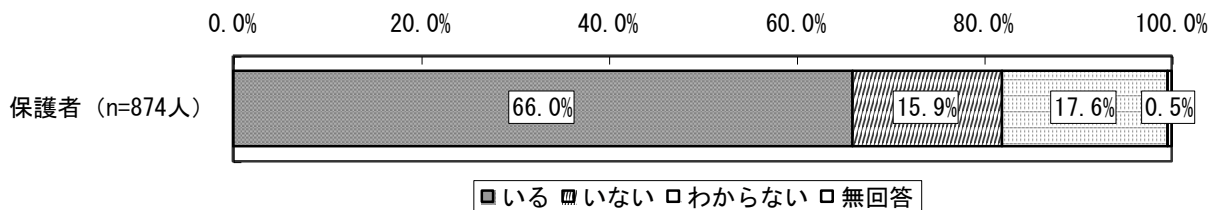
図：福祉事務所管内別・子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人（保護者）



保護者 22-E. 子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）
 問 22E. 子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）はいますか。
 （あてはまるもの1つに○をつけてください）

保護者について子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）をみると、「いる」が66.0%、「わからない」が17.6%、「いない」が15.9%となっています。

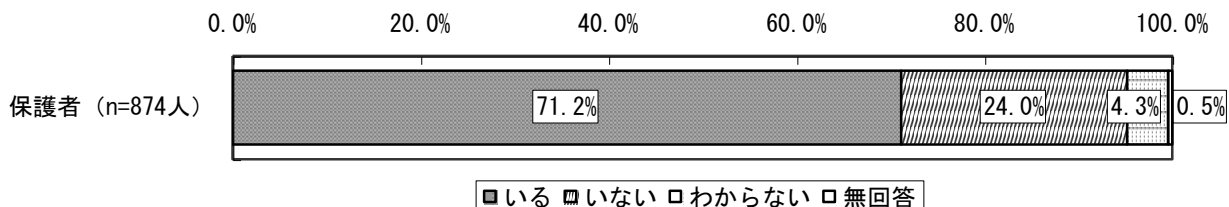
図：子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）（保護者）



保護者 22-F. 子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人
 問 22F. 子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人はいますか。
 （あてはまるもの1つに○をつけてください）

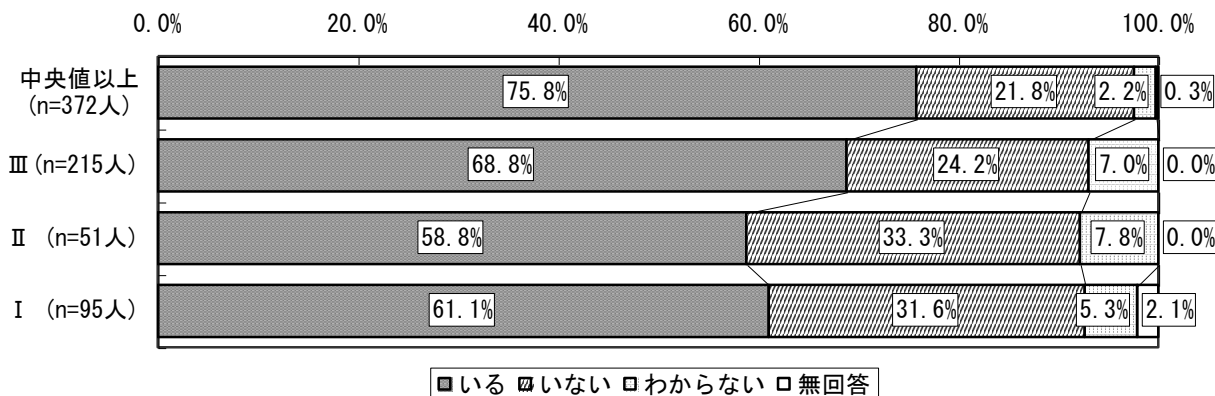
保護者について子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人をみると、「いる」が71.2%、「いない」が24.0%となっています。

図：子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人（保護者）



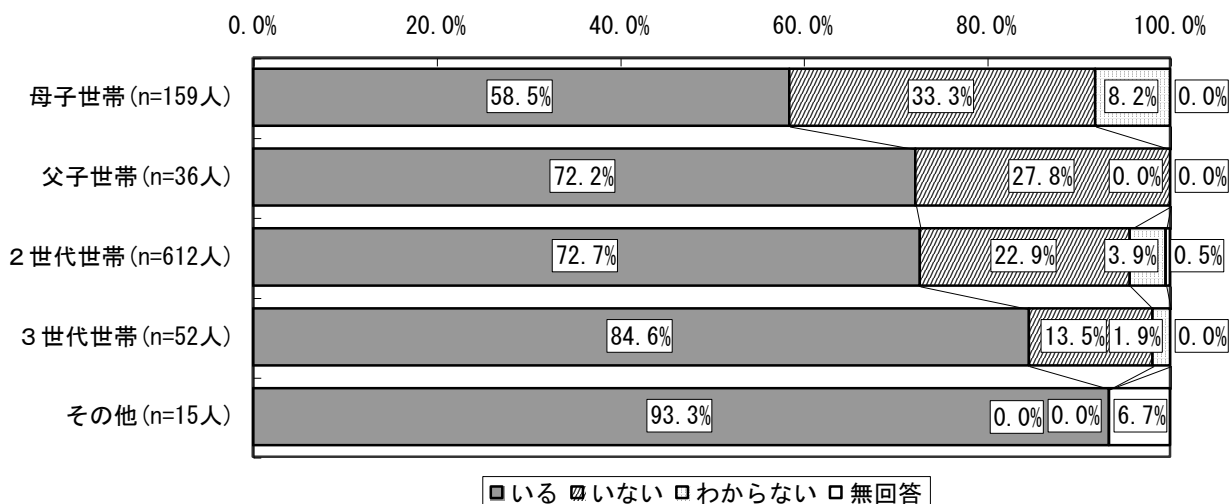
困窮度別にみると、困窮度Ⅰと困窮度Ⅱの世帯では「いない」が約3割となっています。

図：困窮度別・子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人（保護者）



世帯類型別にみると、母子世帯と父子世帯では「いない」が約3割となっており、2世代世帯でも約2割を占めています。

図：世帯類型別・子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人（保護者）

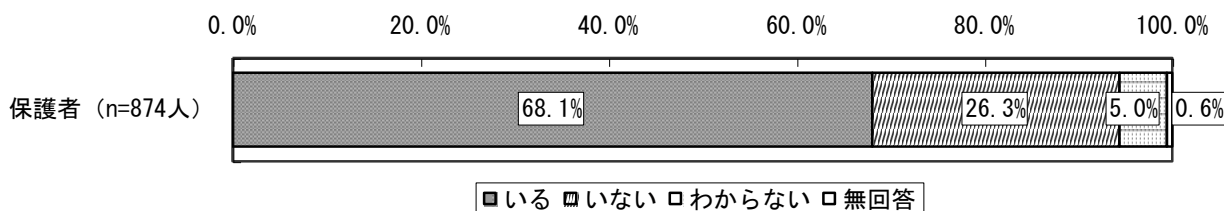


保護者 22-G. 留守を頼める人

問 22G. 留守を頼める人はいますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

保護者について留守を頼める人をみると、「いる」が68.1%、「いない」が26.3%、「わからない」が5.0%となっています。

図：留守を頼める人（保護者）

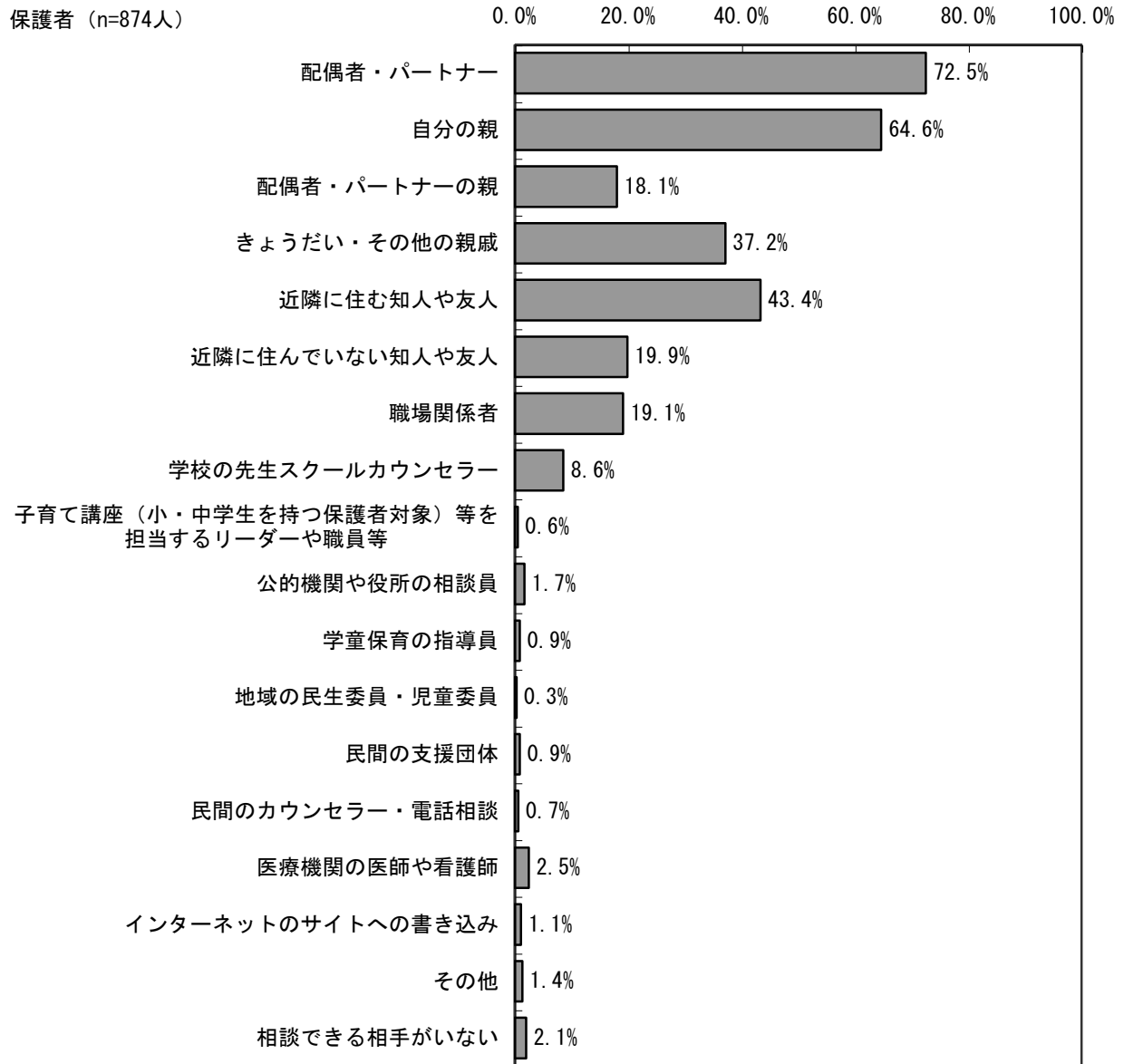


保護者 23. 困ったときの相談先

問 23. あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください)

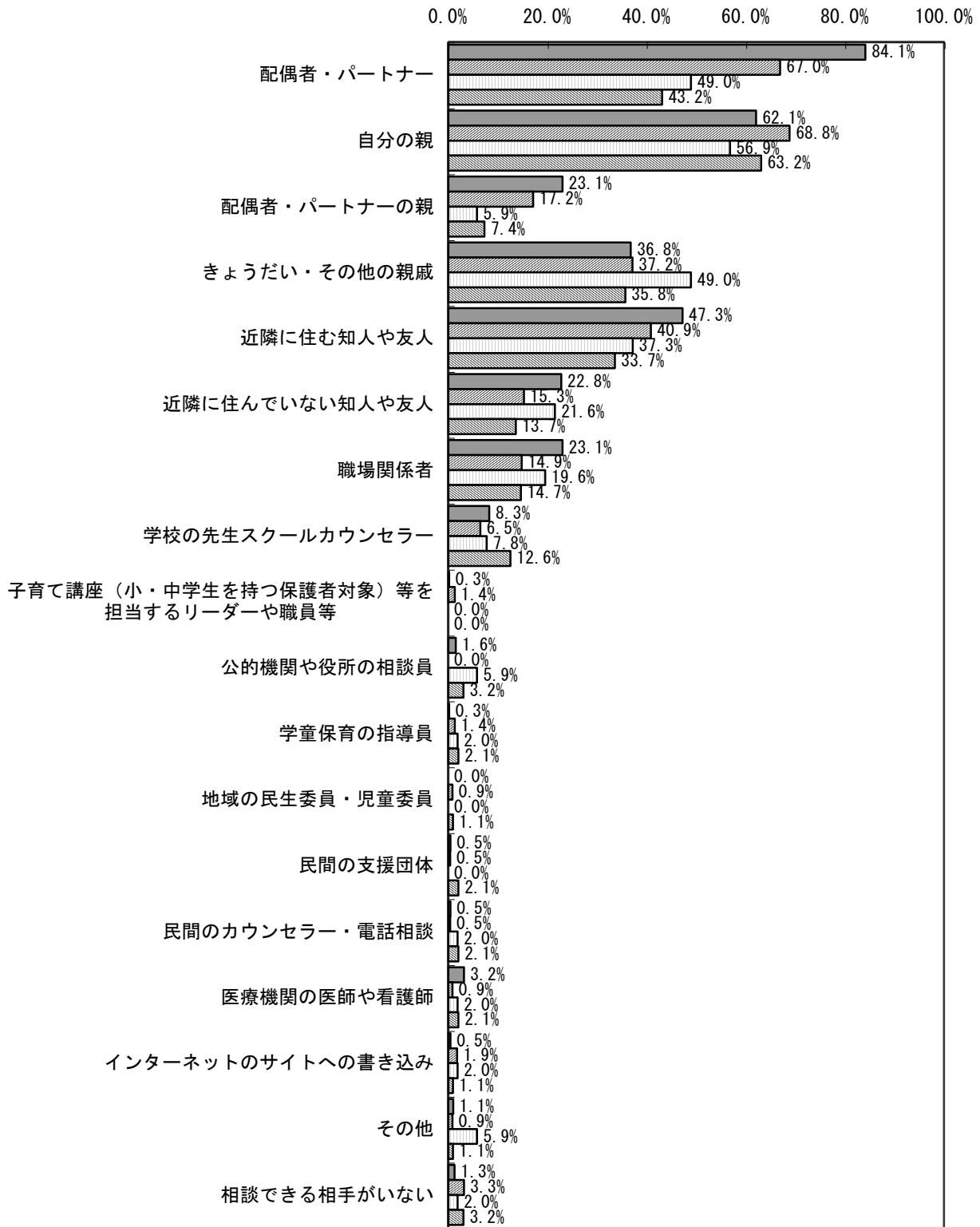
保護者について困ったときの相談先をみると、「配偶者・パートナー」が72.5%、「自分の親」が64.6%、「近隣に住む知人や友人」が43.4%となっており、親族へ相談する人が多くなっています。一方、「公的機関や役所の相談員」は1.7%と少なくなっています。

図：困ったときの相談先（保護者）



困窮度別にみると、中央値以上の世帯では「配偶者・パートナー」が84.1%と最も多く、「自分の親」よりも22ポイント多くなっています。一方で、中央値未満の世帯では「配偶者・パートナー」よりも「自分の親」に相談する人が多く、困窮度Ⅰの世帯では「自分の親」が63.2%と最も多くなっており、「配偶者・パートナー」よりも20ポイント多くなっています。「公的機関や役所の相談員」は困窮度Ⅱの世帯では5.9%、困窮度Ⅰの世帯では3.2%となっています。

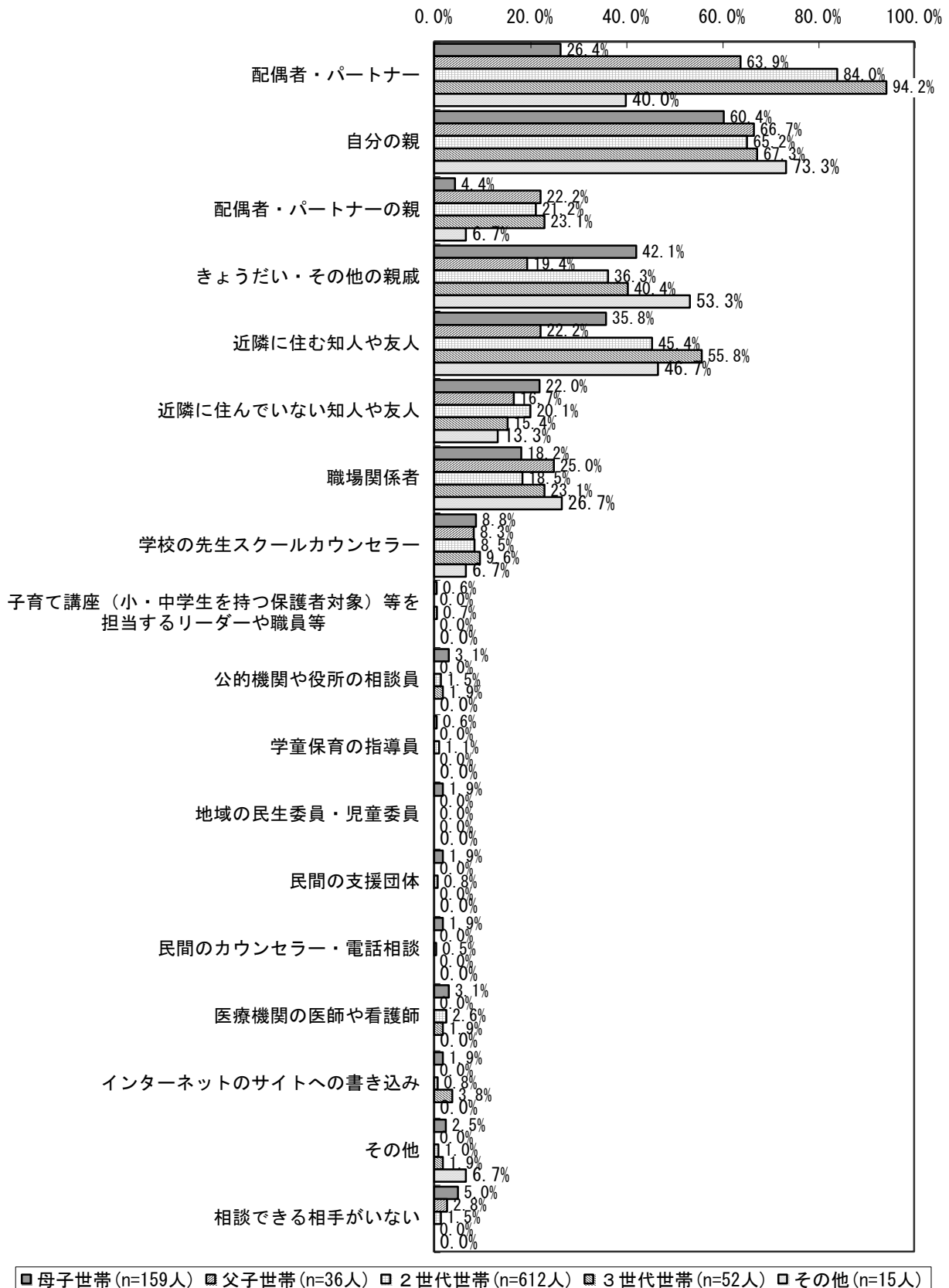
図：困窮度別・困ったときの相談先（保護者）



■ 中央値以上 (n=372人) ■ Ⅲ (n=215人) □ Ⅱ (n=51人) ■ Ⅰ (n=95人)

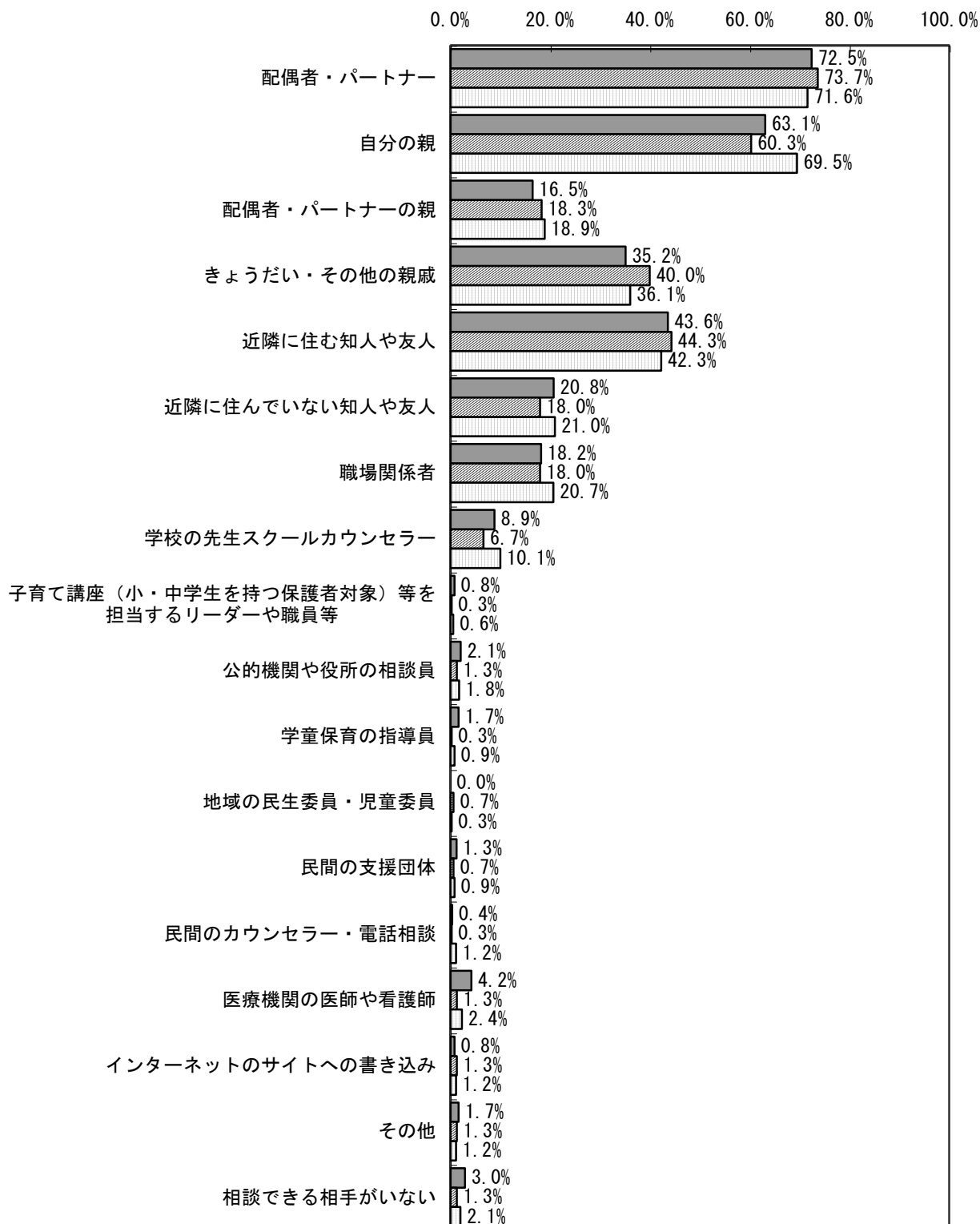
世帯類型別にみると、母子世帯と父子世帯では「近隣に住む知人や友人」が2世代世帯と3世代世帯に比べて少なくなっています。父子世帯では「職場関係者」が3割弱と多くなっています。「公的機関や役所の相談員」は母子世帯では3.1%、父子世帯では0.0%となっています。

図：世帯類型別・困ったときの相談先（保護者）



福祉事務所管内別にみると、「自分の親」は西福祉事務所管内では 69.5%と他に比べてやや多くなっています。また、「相談できる相手がない」は東福祉事務所管内で相対的に多くなっています。

図：福祉事務所管内別・困ったときの相談先（保護者）



■ 東福祉事務所管内 (n=236人) ■ 中福祉事務所管内 (n=300人) □ 西福祉事務所管内 (n=338人)

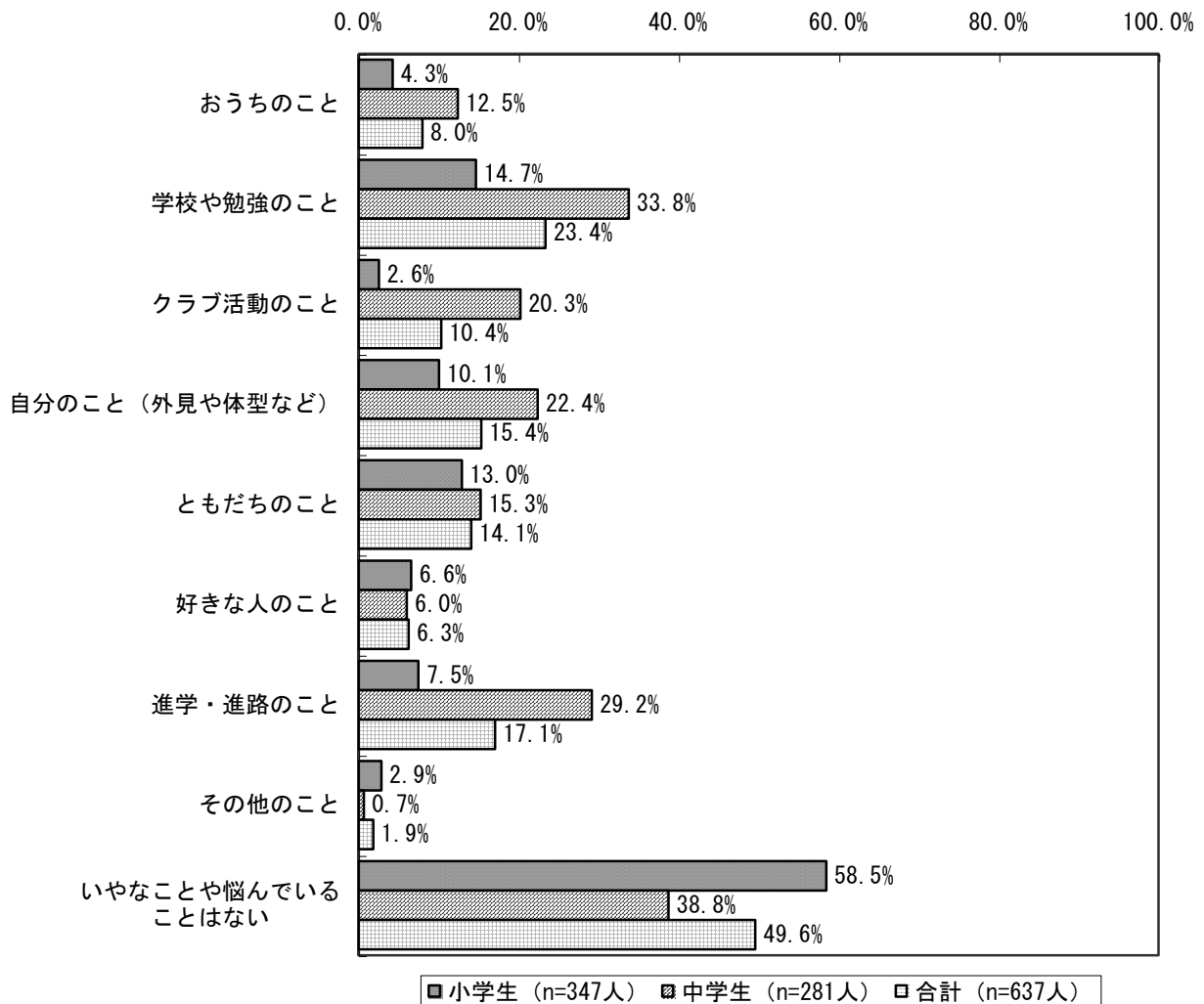
小・中学生 28. 現在の悩み

問 28. 今、あなたは、いやなことや悩んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

小・中学生の現在の悩みをみると、「いやなことや悩んでいることはない」が 49.6%と最も多くなっています。「いやなことや悩んでいることはない」を除くと、「学校や勉強のこと」が 23.4%と最も多く、次いで「進学・進路のこと」が 17.1%、「自分のこと（外見や体型など）」が 15.4%となっています。

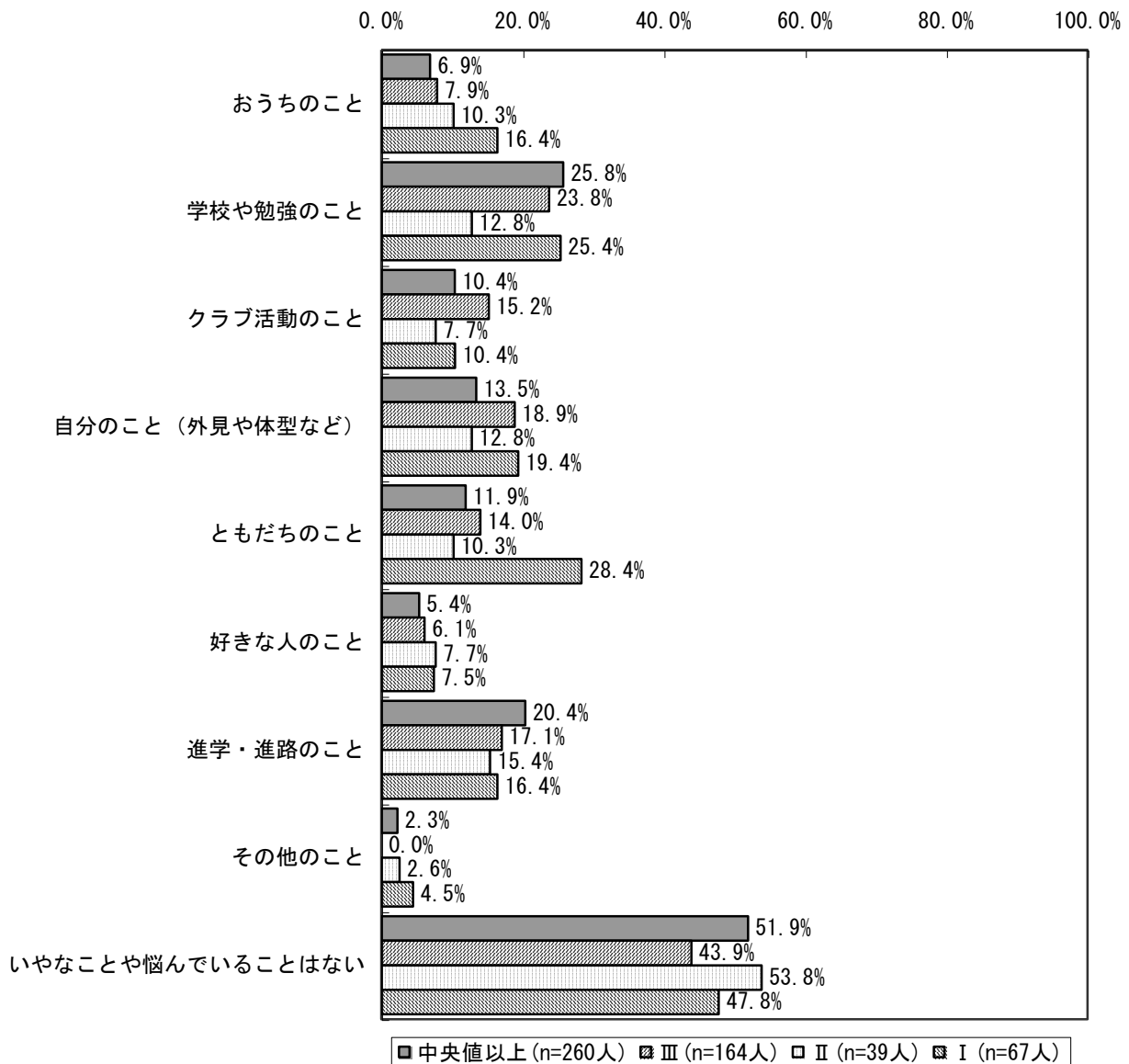
小学生は「いやなことや悩んでいることはない」が 58.5%と最も多く、過半数以上となります。中学生も同様に「いやなことや悩んでいることはない」が 38.8%と最も多くなっていますが2割近く少なくなり、「学校や勉強のこと」の 33.8%や「進学・進路のこと」の 29.2%、「自分のこと（外見や体型など）」の 22.4%、「クラブ活動のこと」の 20.3%などが多くなる特徴が見られます。

図：現在の悩み（小・中学生）



困窮度別にみると、困窮度Ⅰの世帯では「ともだちのこと」が28.4%となっており、他の世帯に比べて多くなっています。また、困窮度ⅠとⅡの世帯では「おうちのこと」についていやなことや悩んでいることがある小・中学生が1割以上おり、困窮度Ⅰの世帯では16.4%となっています。また、「自分のこと（外見や体型など）」については困窮度ⅠとⅢの世帯が約2割を占めています。中央値以上の世帯では「学校や勉強のこと」、「進学・進路のこと」が多くなっています。

図：困窮度別・現在の悩み（小・中学生）



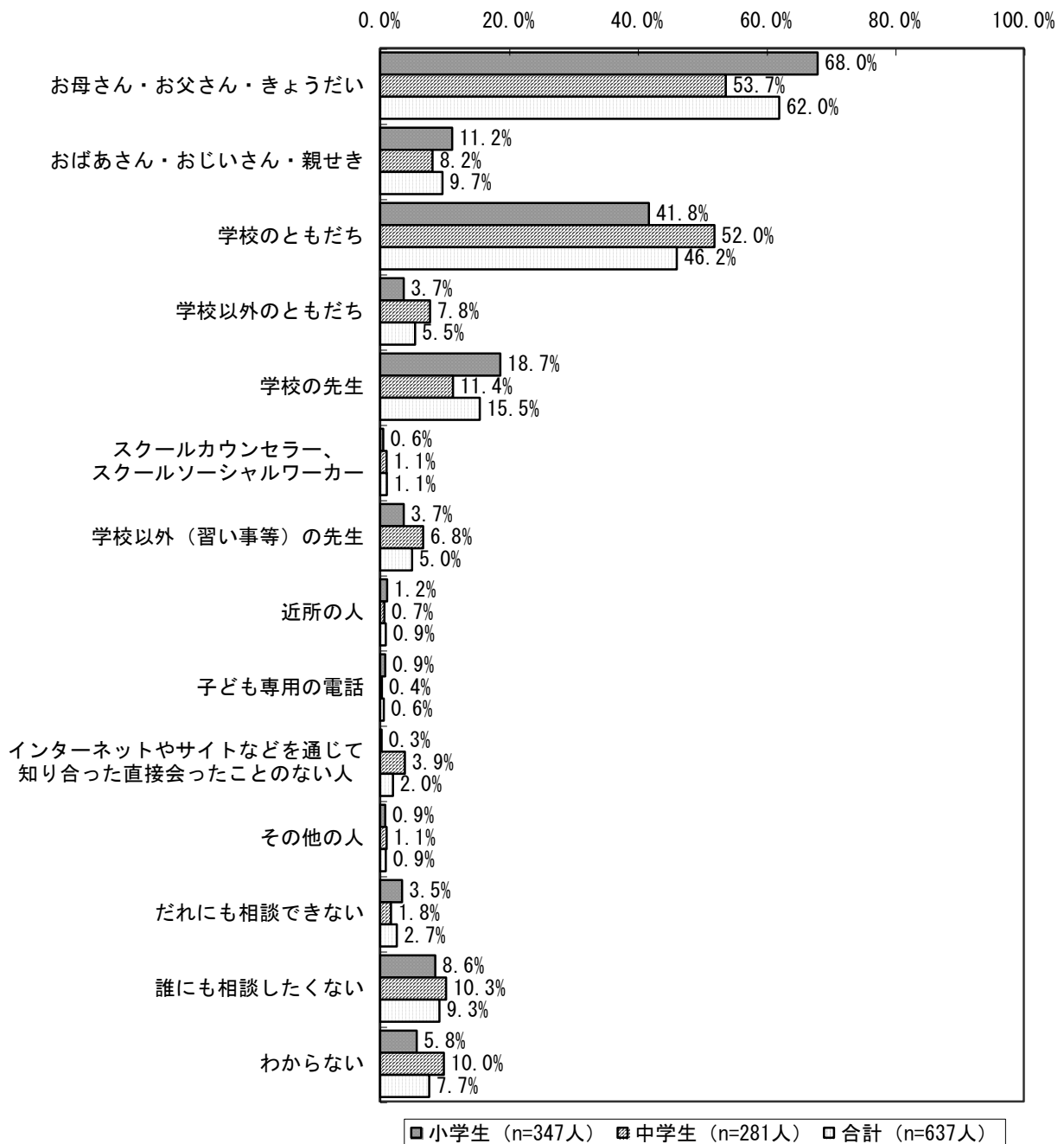
小・中学生 29. 相談相手

問 29. あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。
 (だれに話しますか。)(あてはまるものすべてに○)

小・中学生の相談相手を見ると、「お母さん・お父さん・きょうだい」が62.0%、「学校のともだち」が46.2%、「学校の先生」が15.5%となっています。

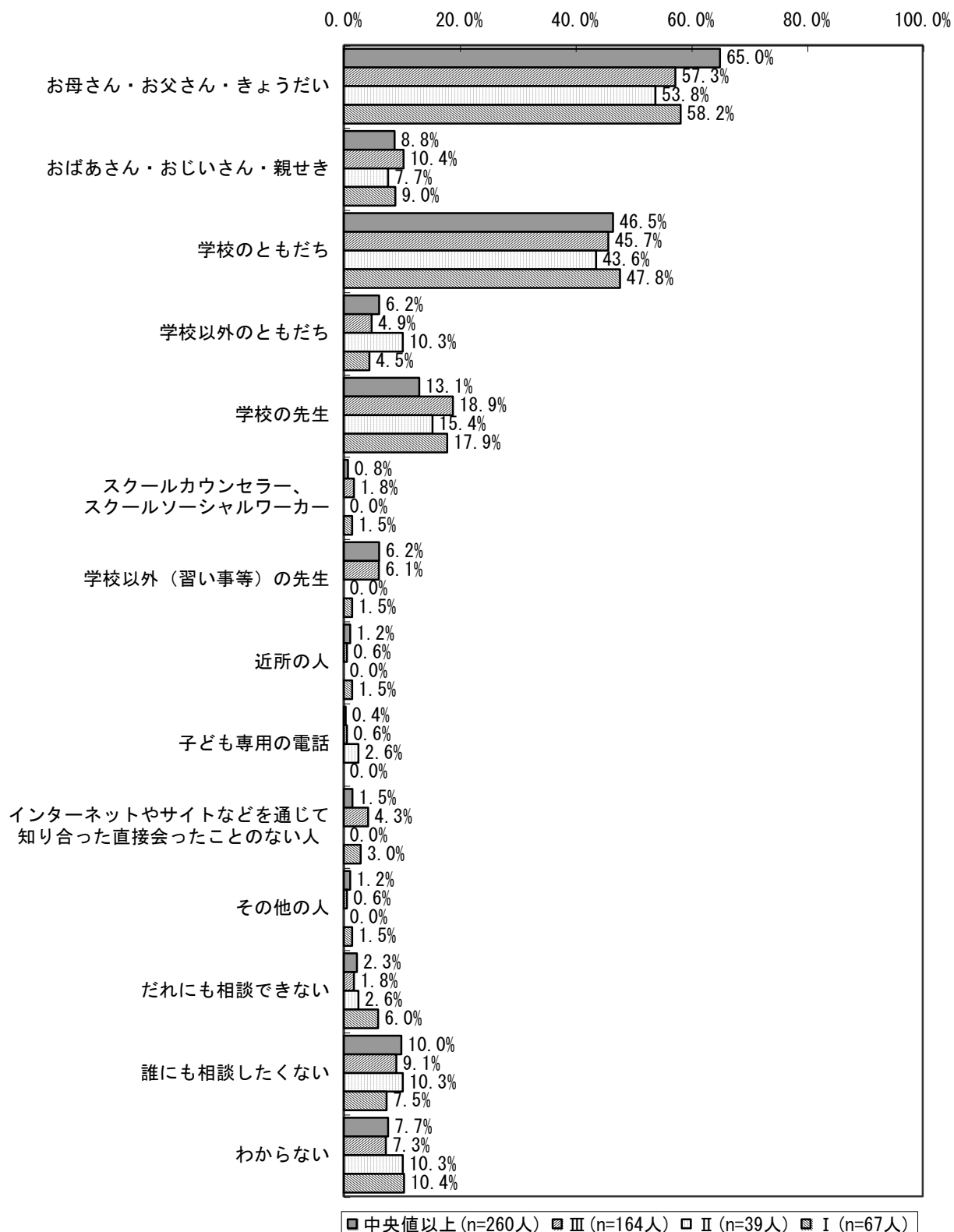
「お母さん・お父さん・きょうだい」が小学生は68.0%、中学生は53.7%と最も多くなっていますが、中学生のほうが少なくなっています。一方、「学校のともだち」が小学生は41.8%、中学生は52.0%と中学生のほうが多くなっています。小学生より中学生の方がともだちに相談していることがわかります。「学校の先生」は小学生は18.7%、中学生は11.4%となっています。

図：相談相手（小・中学生）



困窮度別にみると、いずれの世帯も「お母さん・お父さん・きょうだい」が最も多くなっていますが、中央値以上の世帯では7割弱を占めているのに対し、中央値未満の世帯では6割未満と少なくなっています。中央値未満の世帯では「学校の先生」に相談する子どもが中央値以上の世帯に比べると多くなっています。「誰にも相談したくない」という子どもは、困窮度に関わらずいずれの世帯でも1割程度存在しています。

図：困窮度別・相談相手（小・中学生）



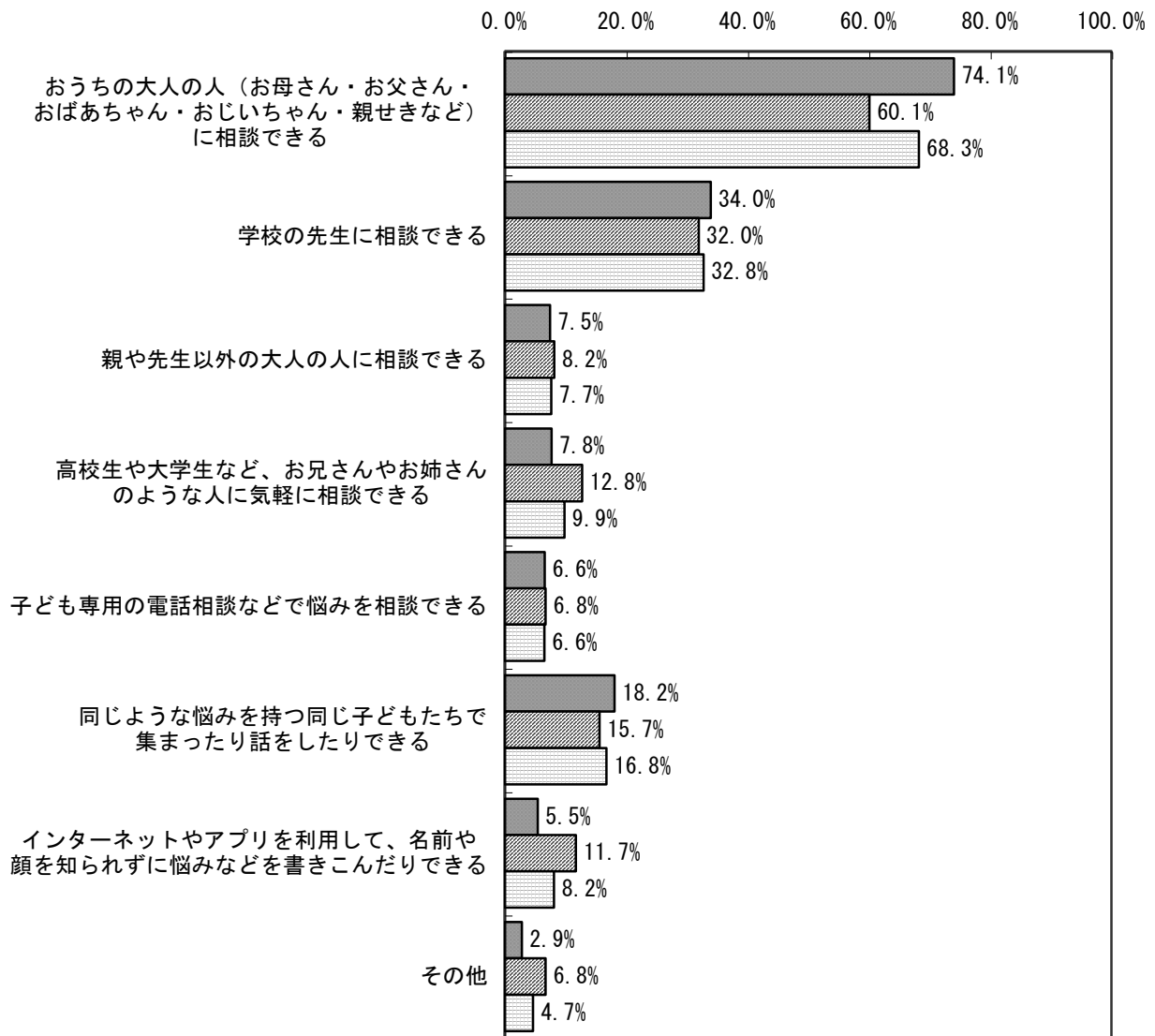
小・中学生 30. 嫌なことや悩んでいるときにしたいこと

問 30. あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、どのようなことができるかと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

小・中学生について嫌なことや悩んでいるときにしたいことをみると、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）に相談できる」が 68.3%、「学校の先生に相談できる」が 32.8%、「同じような悩みを持つ子どもたちで集まったり話をしたりできる」が 16.8% となっており、身近な大人に相談したい小・中学生が多くなっています。

「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）に相談できる」が小学生は 74.1%、中学生は 60.1%と中学生のほうが少なくなっています。

図：嫌なことや悩んでいるときにしたいこと（小・中学生）



■ 小学生 (n=347人) ■ 中学生 (n=281人) □ 合計 (n=637人)

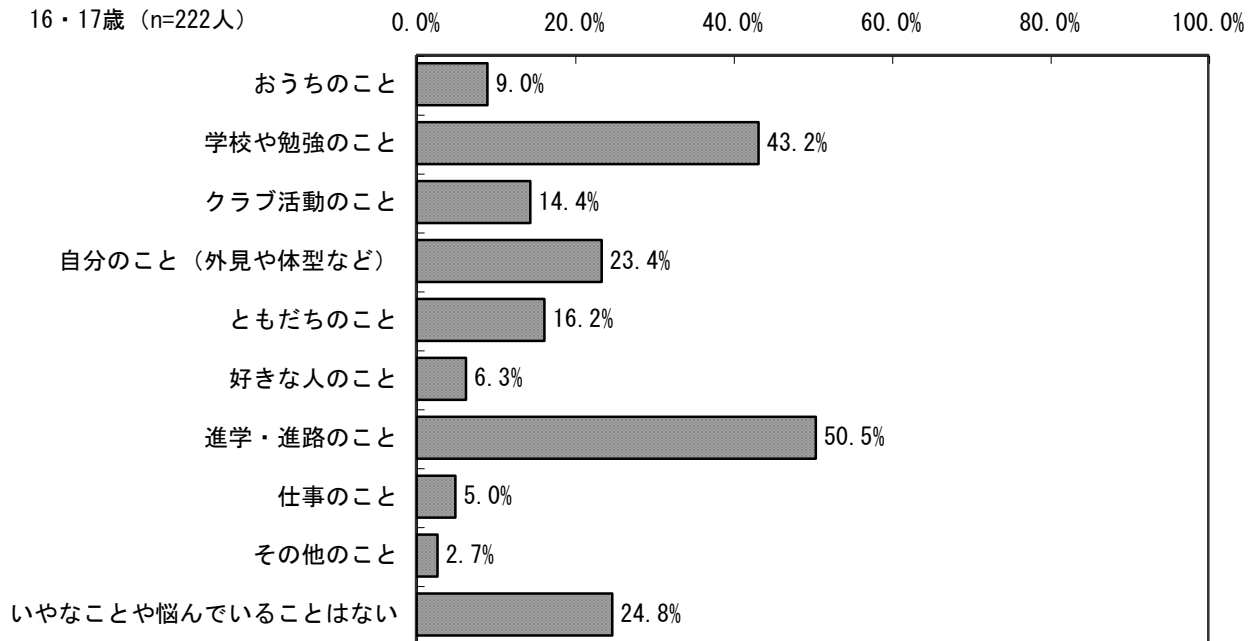
16・17歳 26. 現在の悩み

問 26. 今、あなたは、いやなことや悩んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

16・17歳の現在の悩みをみると「進学・進路のこと」が50.5%、「学校や勉強のこと」が43.2%、「いやなことや悩んでいることはない」が24.8%となっています。

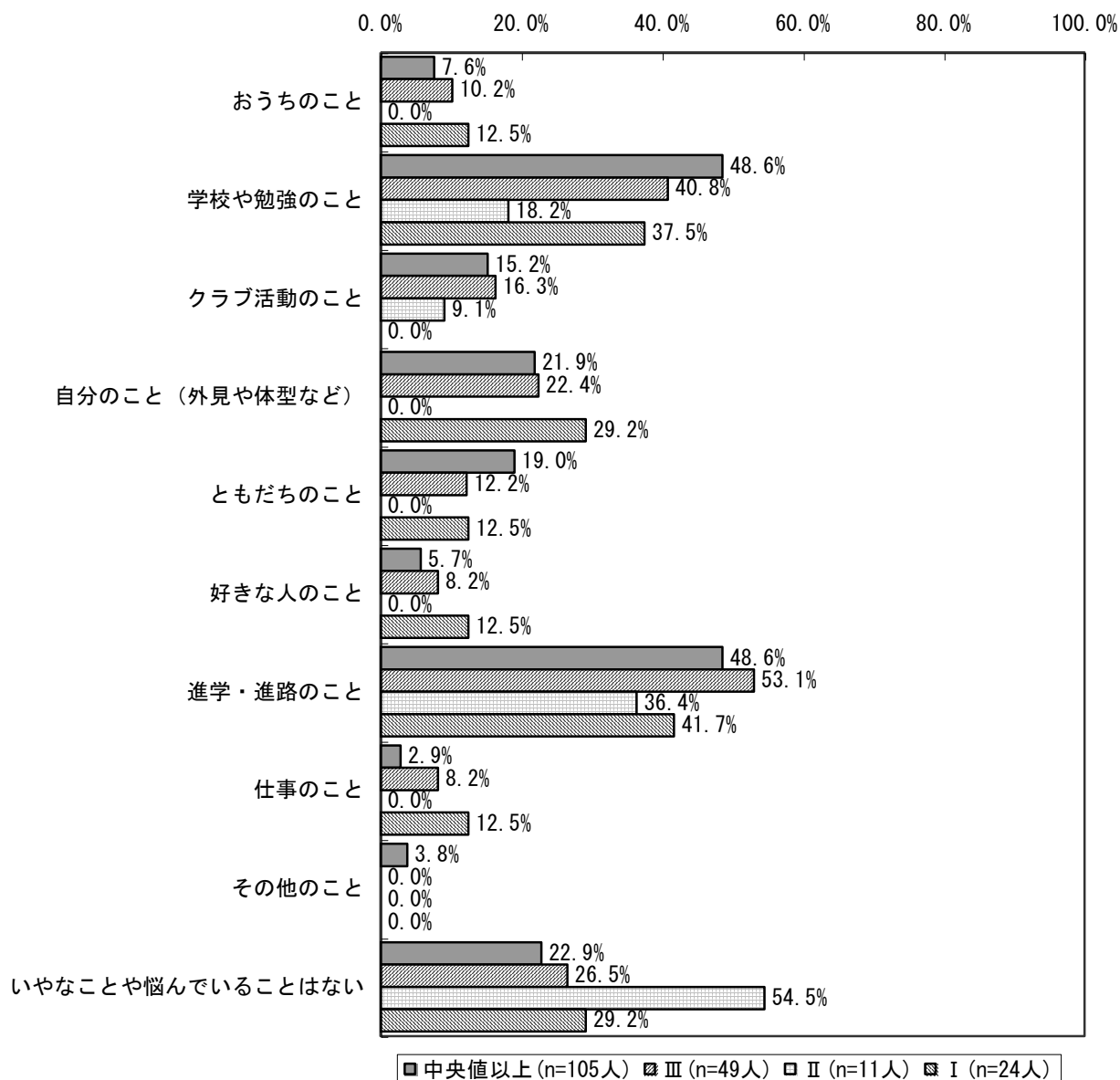
16・17歳は小・中学生に比べ、勉強や進路の悩みの比率が高くなっています。

図：現在の悩み（16・17歳）



困窮度別にみると、困窮度Ⅰの世帯では「自分のこと（外見や体型など）」についていやなことや悩んでいることがある16・17歳が約3割となっています。また、「おうちのこと」や「仕事のこと」については困窮度Ⅰと困窮度Ⅲの世帯で約1割となっています。中央値以上の世帯では「学校や勉強のこと」、「進学・進路のこと」が多くなっています。

図：困窮度別・現在の悩み（16・17歳）

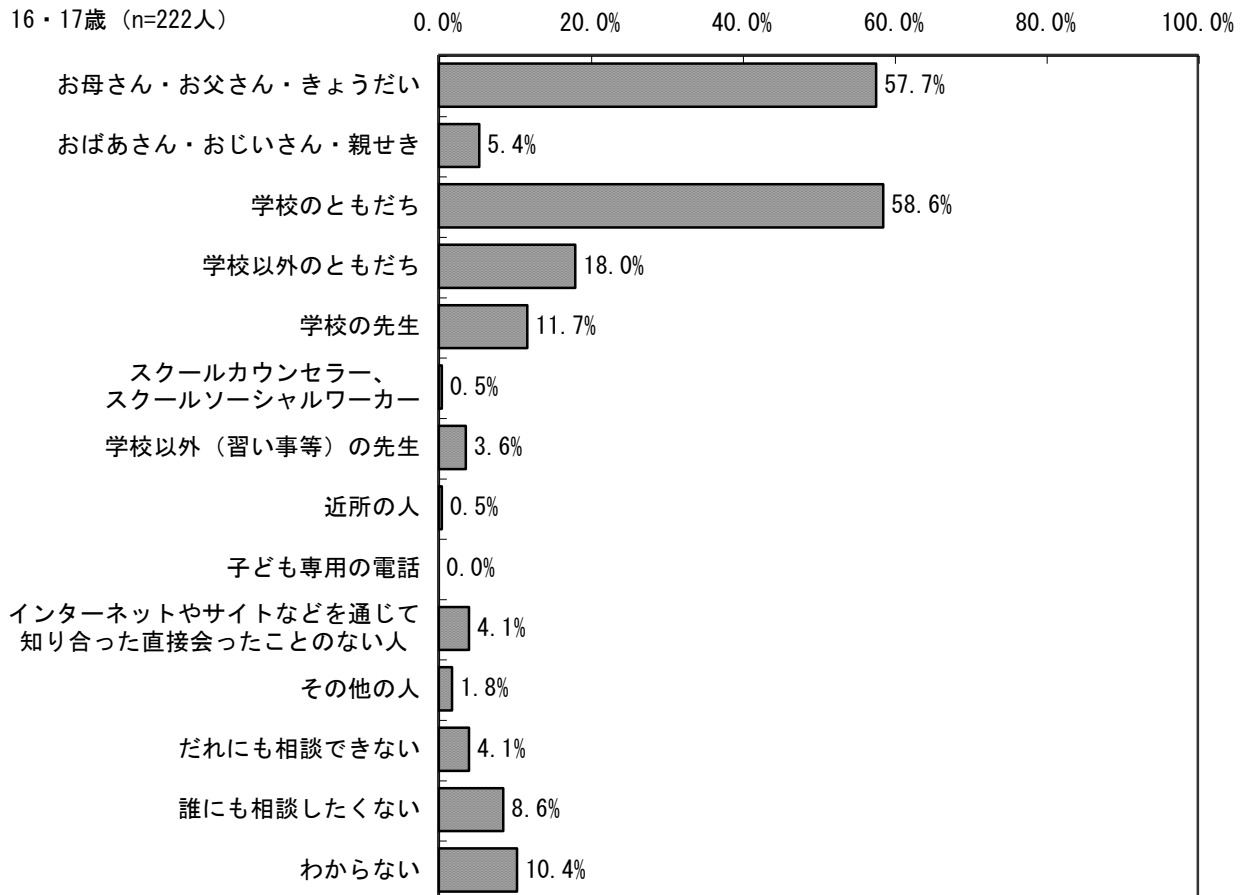


16・17歳 27. 相談相手

問 27. あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。
(だれに話しますか。)(あてはまるものすべてに○)

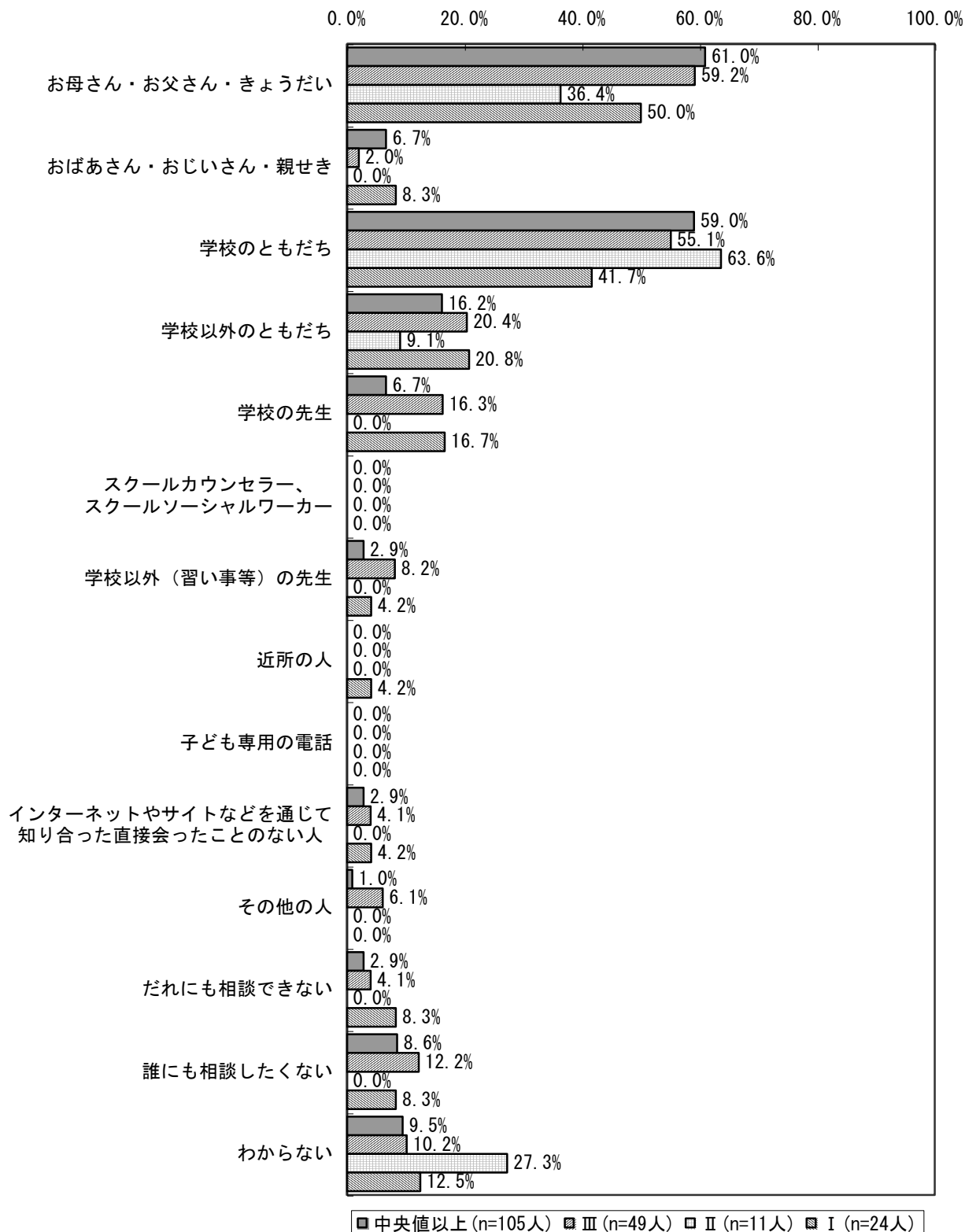
16・17歳の相談相手を見ると、「学校のともだち」が58.6%、「お母さん・お父さん・きょうだい」が57.7%、「学校以外のともだち」が18.0%となっています。

図：相談相手（16・17歳）



困窮度別にみると、困窮度Ⅱの世帯を除いて「お母さん・お父さん・きょうだい」が最も多くなっていますが、困窮度Ⅲと中央値以上の世帯が約6割となっているのに対して、困窮度Ⅰの世帯は5割と少なくなっています。困窮度Ⅱの世帯では「学校のともだち」が63.6%と最も多くなっています。困窮度Ⅰと困窮度Ⅲの世帯では「学校以外のともだち」や「学校の先生」に相談する16・17歳が約2割となっており、中央値以上の世帯に比べて多くなっています。「誰にも相談したくない」という16・17歳は、困窮度Ⅱを除いて、いずれの世帯でも1割程度存在しています。

図：困窮度別・相談相手（16・17歳）

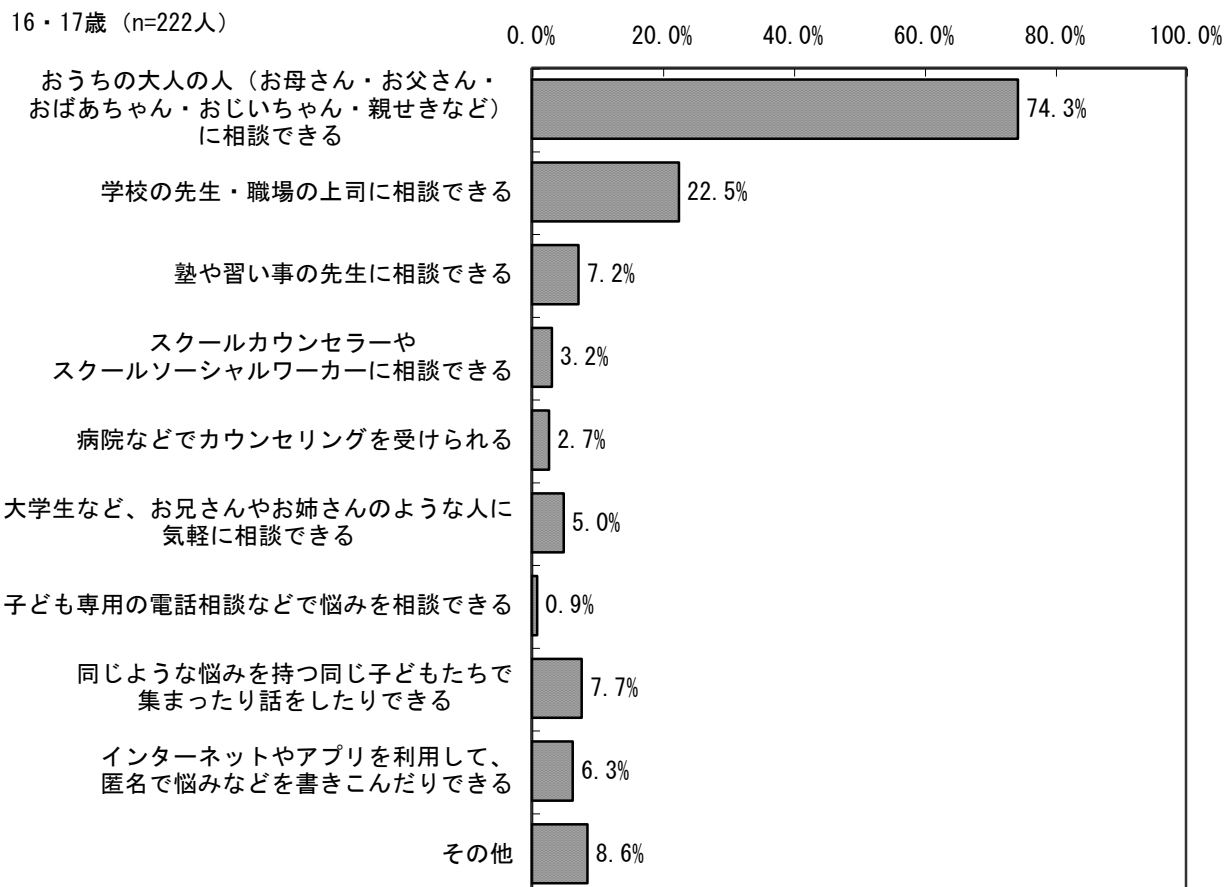


16・17歳 28. 嫌なことや悩んでいるときにしたいこと

問 28. あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、どのようなことができるとういと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

16・17歳について嫌なことや悩んでいるときにしたいことをみると、「その他」を除いて、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）に相談できる」が74.3%、「学校の先生・職場の上司に相談できる」が22.5%、「同じような悩みを持つ同じ子どもたちで集まったり話をしたりできる」が7.7%となっており、身近な大人に相談したい16・17歳が多くなっています。

図：嫌なことや悩んでいるときにしたいこと（16・17歳）



小・中学生 31-A. 助けてくれる人

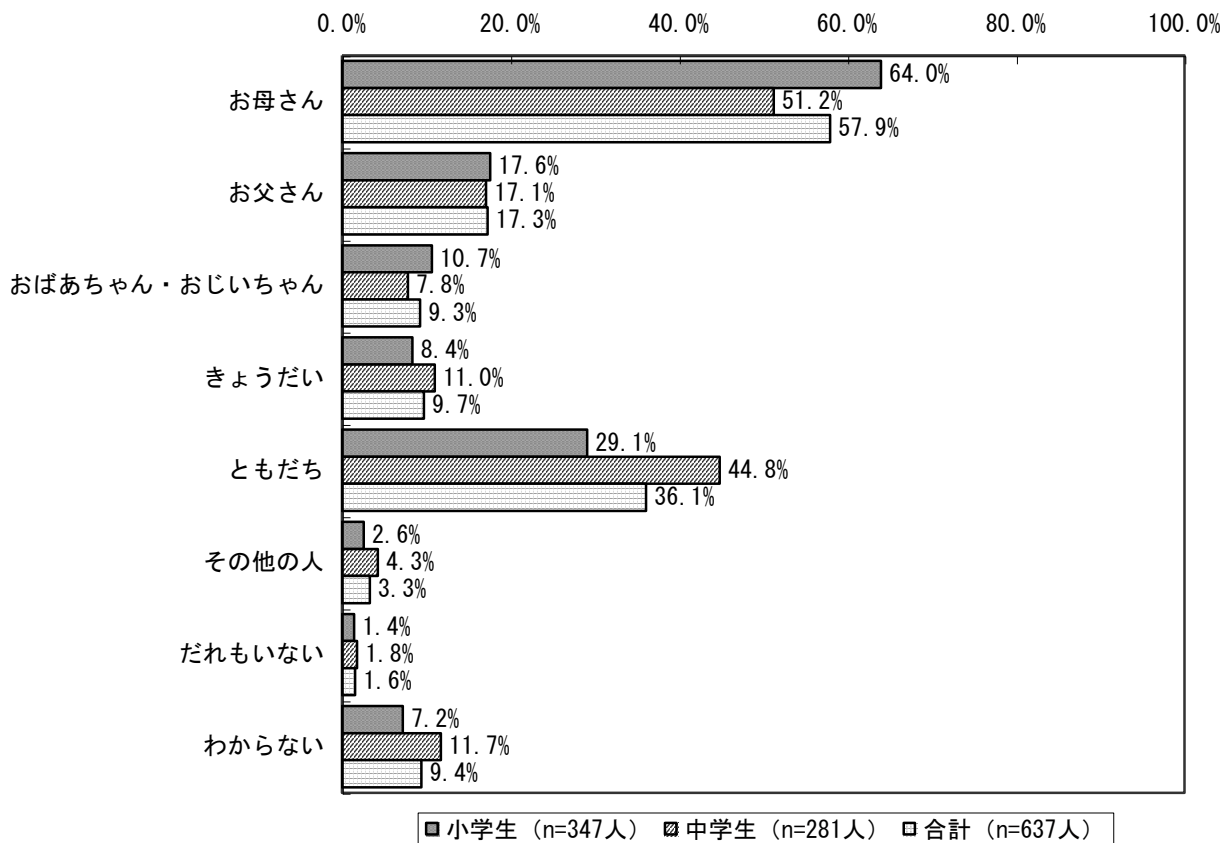
問 31-A. あなたが、何かに失敗したときに、たすけてくれる人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

小・中学生について失敗したときに助けてくれる人をみると、「お母さん」が57.9%、「ともだち」が36.1%、「お父さん」が17.3%となっています。

小学生と中学生の比較では、「お母さん」は小学生が64.0%、中学生が51.2%と中学生の方が少なく、「ともだち」は小学生が29.1%、中学生が44.8%と中学生の方が多くなっています。なお、「お父さん」は小学生・中学生共に17%程度で、差は見られません。

図：助けてれる人（小・中学生）



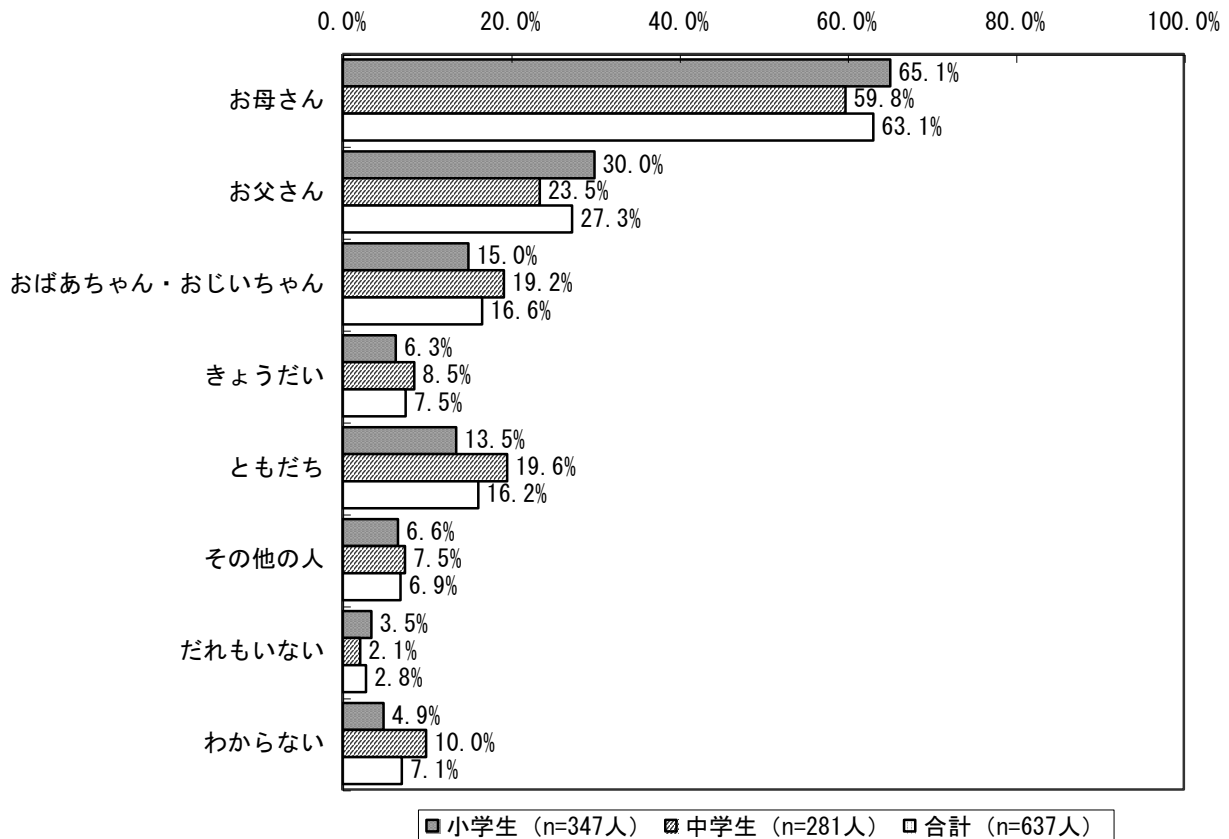
小・中学生 31-B. 頑張ったときにほめてくれる人

問 31-B. あなたが、勉強やスポーツでがんばったときにほめてくれる人はだれですか。
(あてはまるもの1つに○をつけてください)

小・中学生について頑張ったときにほめてくれる人をみると「お母さん」が63.1%、「お父さん」が27.3%、「おばあちゃん・おじいちゃん」が16.6%となっています。

小学生と中学生の比較では、「お母さん」は小学生が65.1%、中学生が59.8%と中学生の方が少し少なく、「お父さん」も小学生が30.0%、中学生が23.5%と中学生の方が少なくなっています。

図：頑張ったときにほめてくれる人（小・中学生）



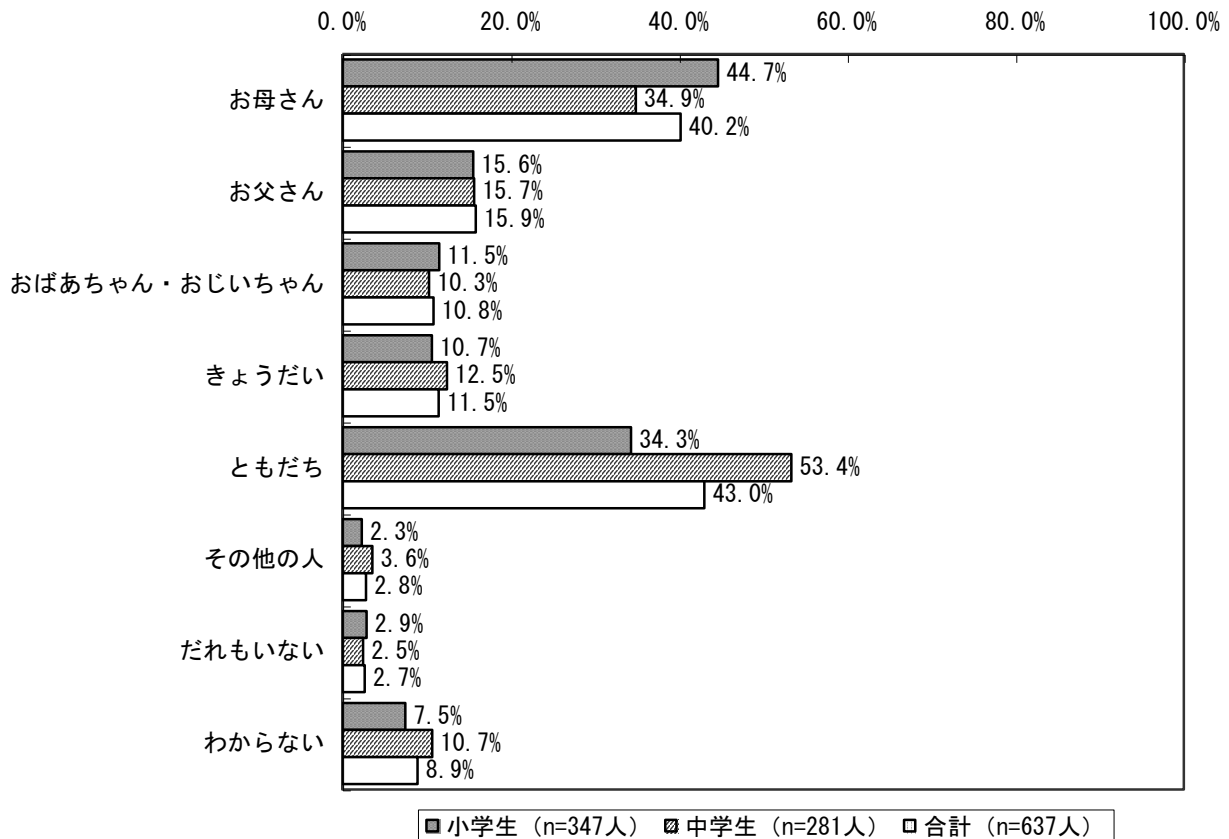
小・中学生 31-C. 一人でできないときに手伝ってくれる人

問 31-C. ひとりでは、できないことがあったときには、気持ちよく手伝ってくれる人はだれですか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

小・中学生について一人でできないときに手伝ってくれる人をみると、「ともだち」が43.0%、「お母さん」が40.2%、「お父さん」が15.9%となっています。

小学生と中学生の比較では、小学生は「お母さん」の44.7%が最も多く、中学生は、「ともだち」の53.4%が最も多くなっています。

図：一人でできないときに手伝ってくれる人（小・中学生）



小・中学生 31-D. 気持ちを理解してくれる人

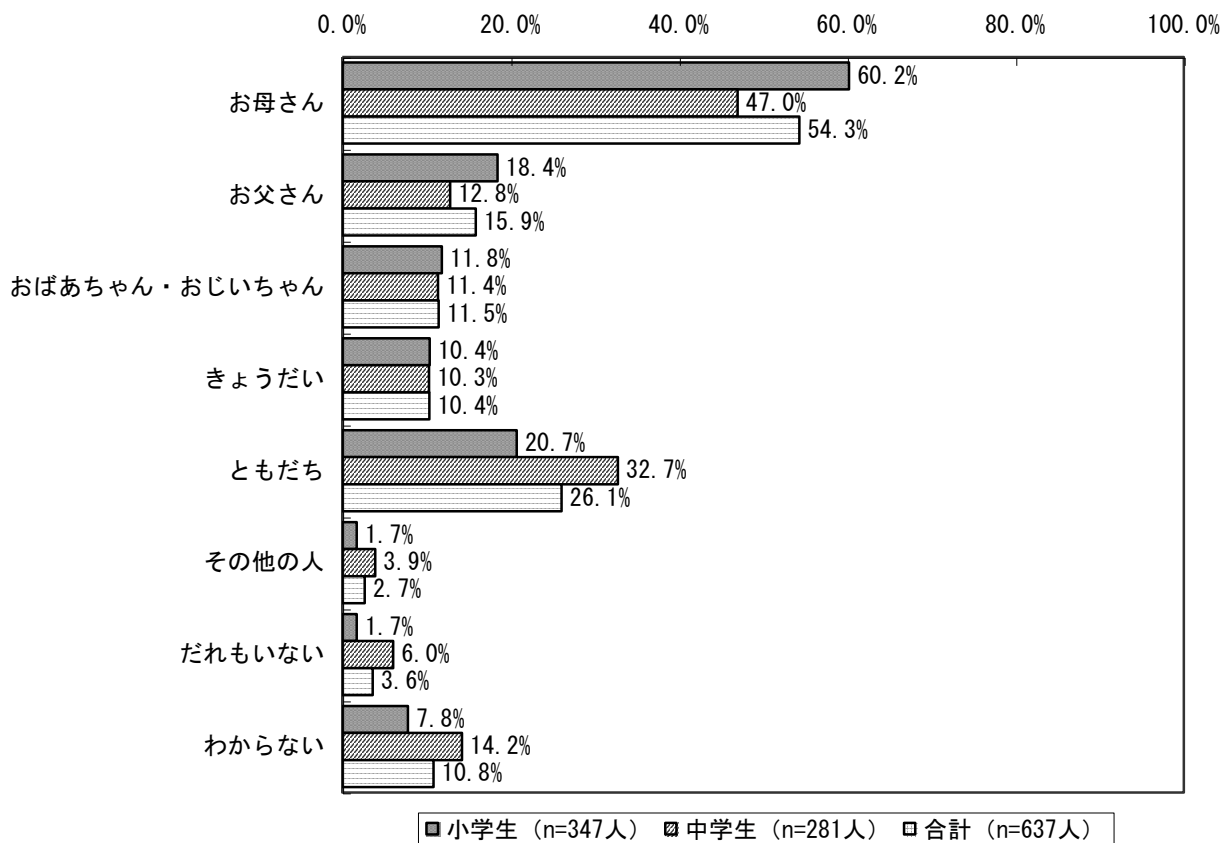
問 31-D. ふだんから、あなたの気持ちをよくわかってきている人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

小・中学生について気持ちを理解してくれる人を見ると、「お母さん」が54.3%、「ともだち」が26.1%、「お父さん」が15.9%となっています。

小学生と中学生の比較では、「お母さん」は小学生が60.2%、中学生は47.0%と中学生の方が少なく、「ともだち」は小学生が20.7%、中学生が32.7%と中学生の方が多くなっています。「お父さん」は小学生が18.4%、中学生が12.8%となっています。

図：気持ちを理解してくれる人（小・中学生）



小・中学生 31-E. 信じてくれる人

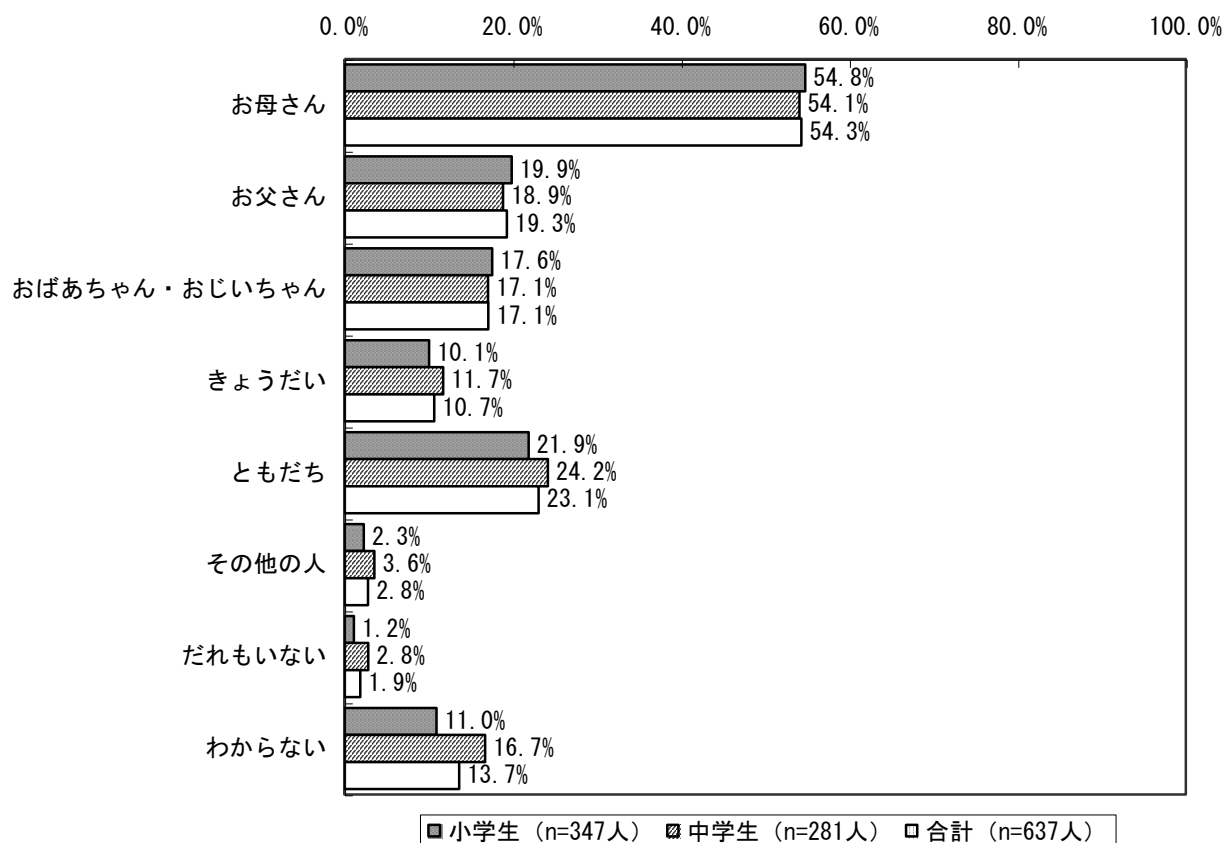
問 31-E. いつでも、あなたのことを信じてくれる人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

小・中学生について自分を信じてくれる人をみると、「お母さん」が54.3%、「ともだち」が23.1%、「お父さん」が19.3%となっています。

小学生と中学生の比較では、ほとんど差が見られません。

図：信じてくれる人（小・中学生）



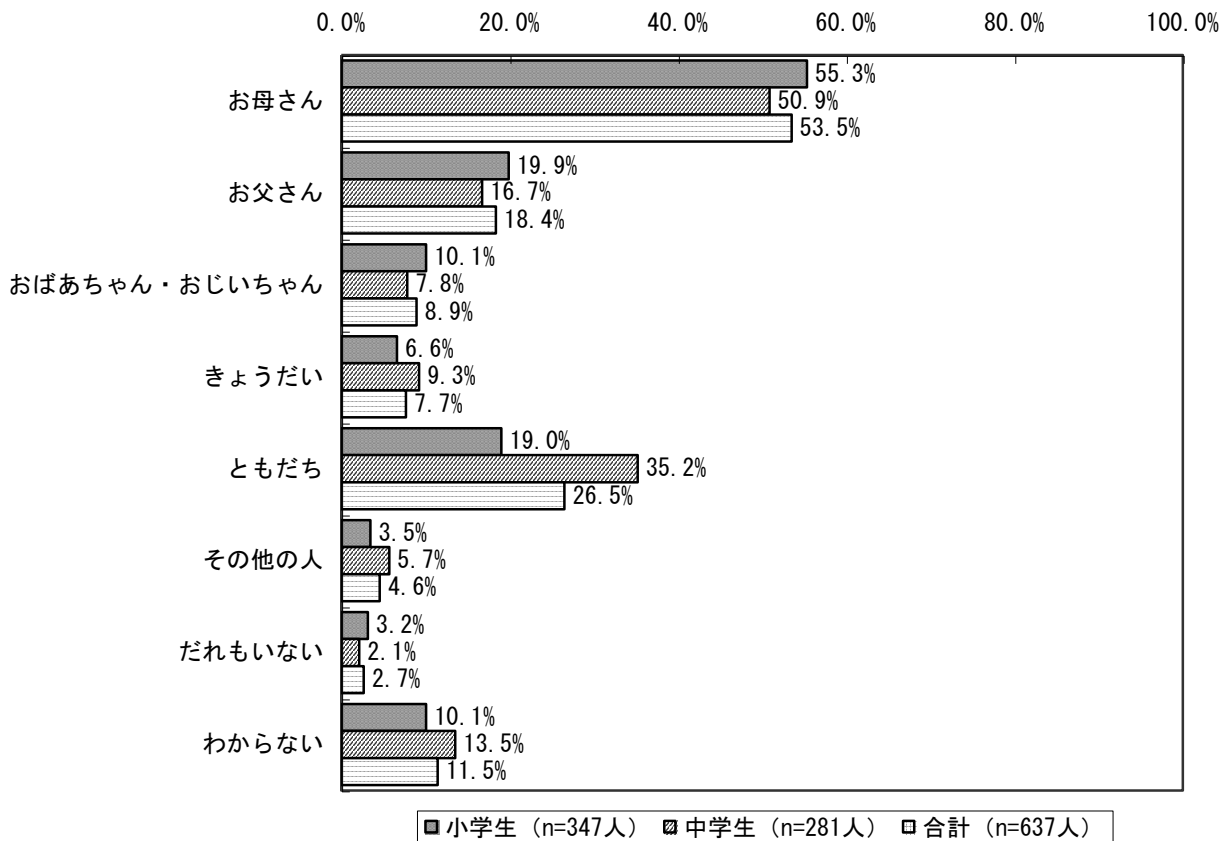
小・中学生 31-F. 悩んだときの対処を教えてください

問 31-F. あなたが悩んでいるときに、どうしたらよいか教えてくれる人はだれですか。
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

小・中学生について悩んだときの対処を教えてくださいと、「お母さん」が53.5%、「ともだち」が26.5%、「お父さん」が18.4%となっています。

小学生と中学生の比較では、「お母さん」は小学生が55.3%、中学生は50.9%と中学生の方が少し少なく、「ともだち」は小学生が19.0%、中学生が35.2%と中学生の方が多くなっています。「お父さん」は小学生が19.9%、中学生が16.7%となっています。

図：悩んだときの対処を教えてください (小・中学生)



小・中学生 31-G. 良いところ、良くないところをわかってくれる人

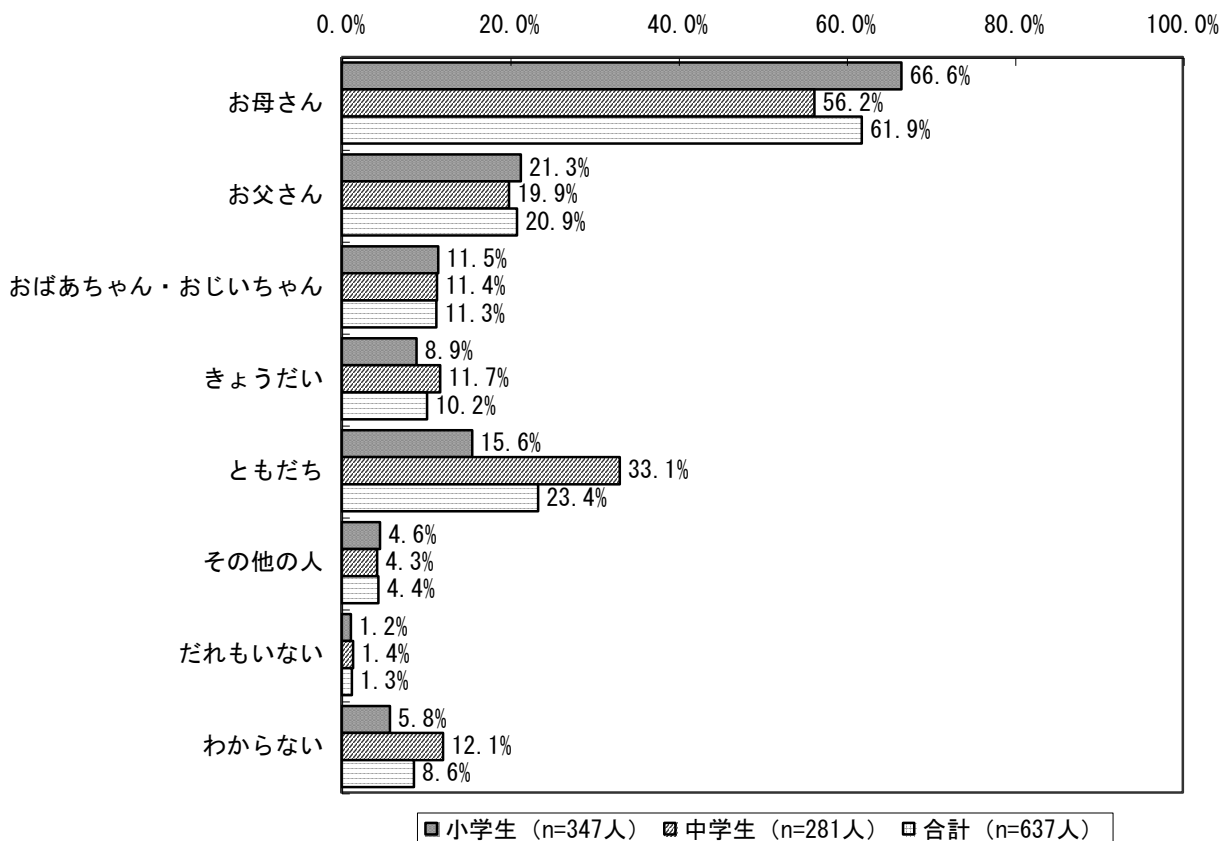
問 31-G. あなたの良いところも、良くないところもよくわかってくれる人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

小・中学生について自分の良いところ、良くないところをわかってくれる人をみると、「お母さん」が61.9%、「ともだち」が23.4%、「お父さん」が20.9%となっています。

小学生と中学生の比較では、「お母さん」は小学生が66.6%、中学生は56.2%と中学生の方が少なく、「ともだち」は小学生が15.6%、中学生が33.1%と中学生の方が多くなっています。「お父さん」は小学生が21.3%、中学生が19.9%となっています。

図：良いところ、良くないところをわかってくれる人（小・中学生）



小・中学生 31-H. 大切にしてくれる人

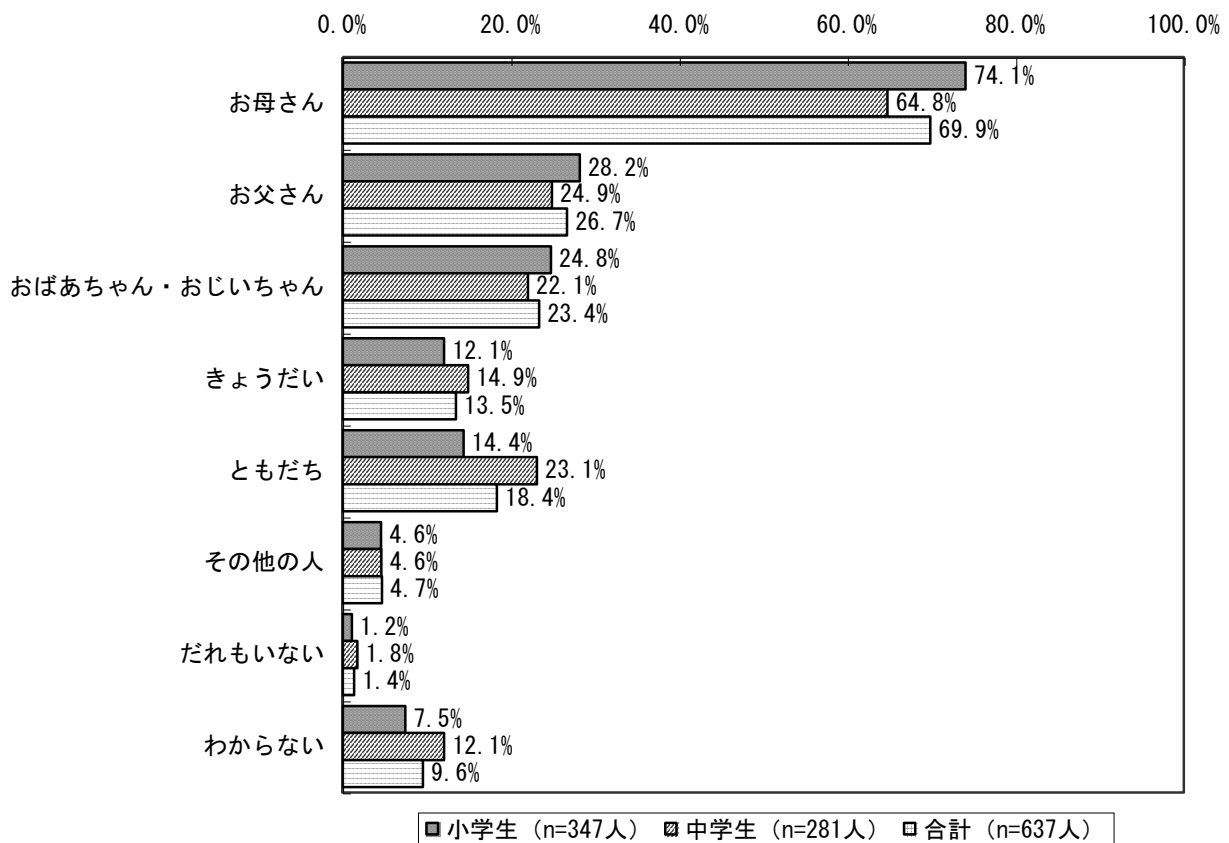
問 31-H. あなたのことをとても大切にしてくれる人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

小・中学生について自分を大切にしてくれる人を見ると、「お母さん」が69.9%、「お父さん」が26.7%、「おばあちゃん・おじいちゃん」が23.4%となっています。

小学生と中学生の比較では、「お母さん」は小学生が74.1%、中学生は64.8%、「お父さん」は小学生が28.2%、中学生は24.9%、「おばあちゃん・おじいちゃん」は小学生が24.8%、中学生が22.1%と中学生の方が少なくなっています。

図：大切にしてくれる人（小・中学生）



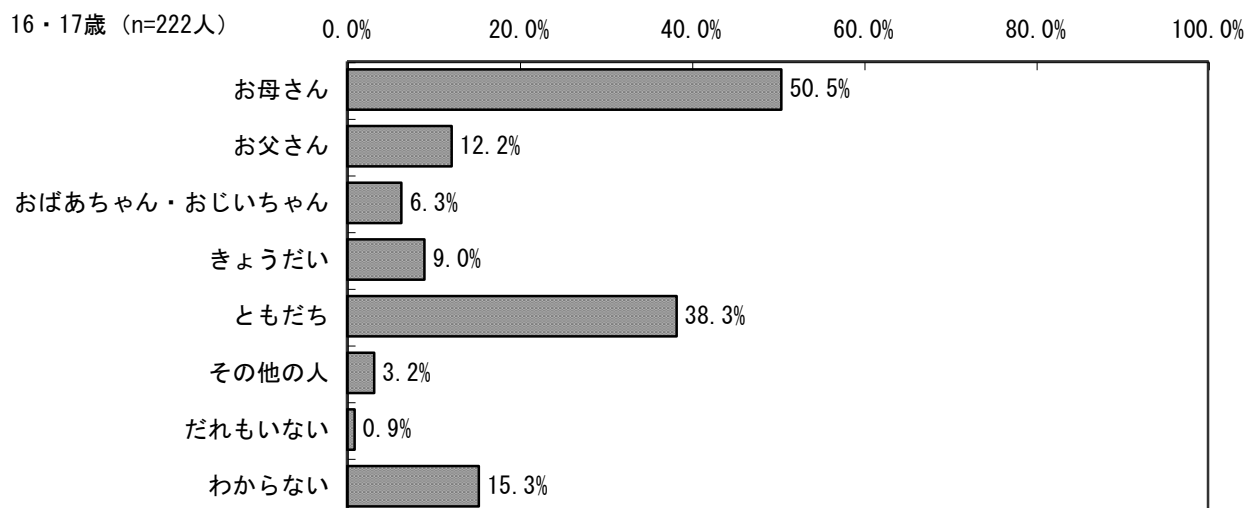
16・17歳 29-A. 助けてくれる人

問 29-A. あなたが、何かに失敗したときに、たすけてくれる人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

16・17歳について失敗したときに助けてくれる人をみると、「お母さん」が50.5%、「ともだち」が38.3%、「わからない」が15.3%となっています。

図：助けてくれる人（16・17歳）



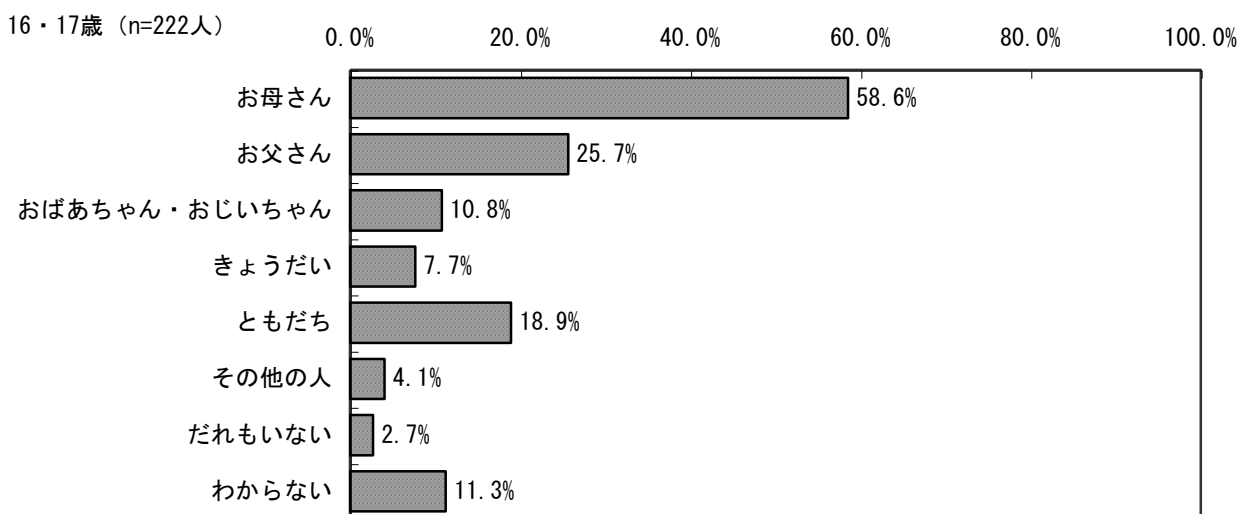
16・17歳 29-B. 頑張ったときにほめてくれる人

問 29-B. あなたが、勉強やスポーツでがんばったときにほめてくれる人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

16・17歳について頑張ったときにほめてくれる人をみると、「お母さん」が58.6%、「お父さん」が25.7%、「ともだち」が18.9%となっています。

図：頑張ったときにほめてくれる人（16・17歳）

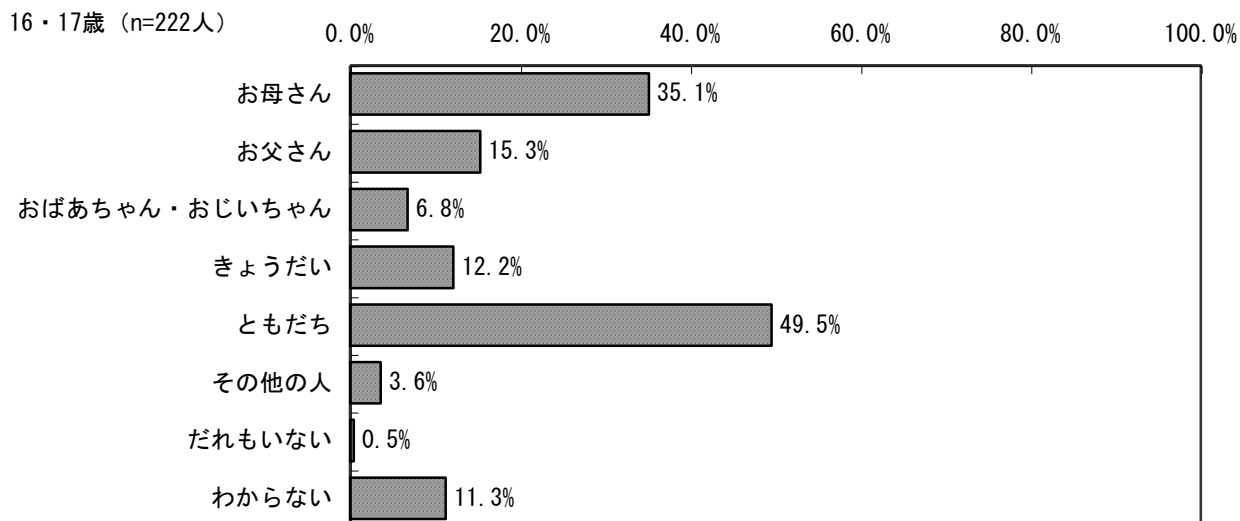


16・17歳 29-C. 一人でできないときに手伝ってくれる人

問 29-C. ひとりでは、できないことがあったときには、気持ちよく手伝ってくれる人はだれですか。(あてはまるもの1つに○をつけてください)

16・17歳について一人でできないときに手伝ってくれる人をみると、「ともだち」が49.5%、「お母さん」が35.1%、「お父さん」が15.3%となっています。

図：一人でできないときに手伝ってくれる人（16・17歳）



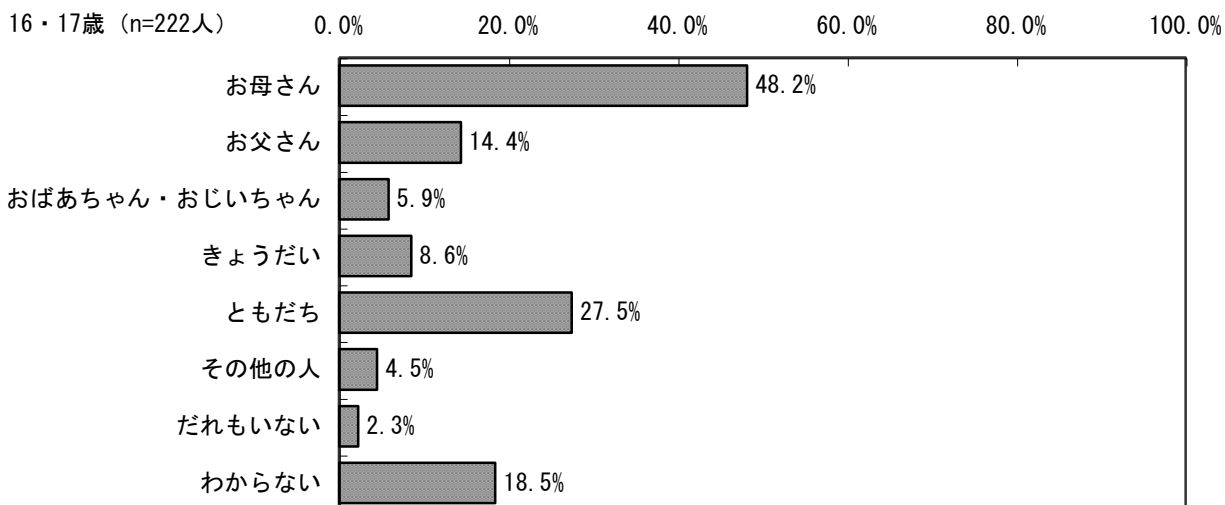
16・17歳 29-D. 気持ちを理解してくれる人

問 29-D. ふだんから、あなたの気持ちをよくわかってきている人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

16・17歳について気持ちを理解してくれる人をみると、「お母さん」が48.2%、「ともだち」が27.5%、「わからない」が18.5%となっています。

図：気持ちを理解してくれる人（16・17歳）



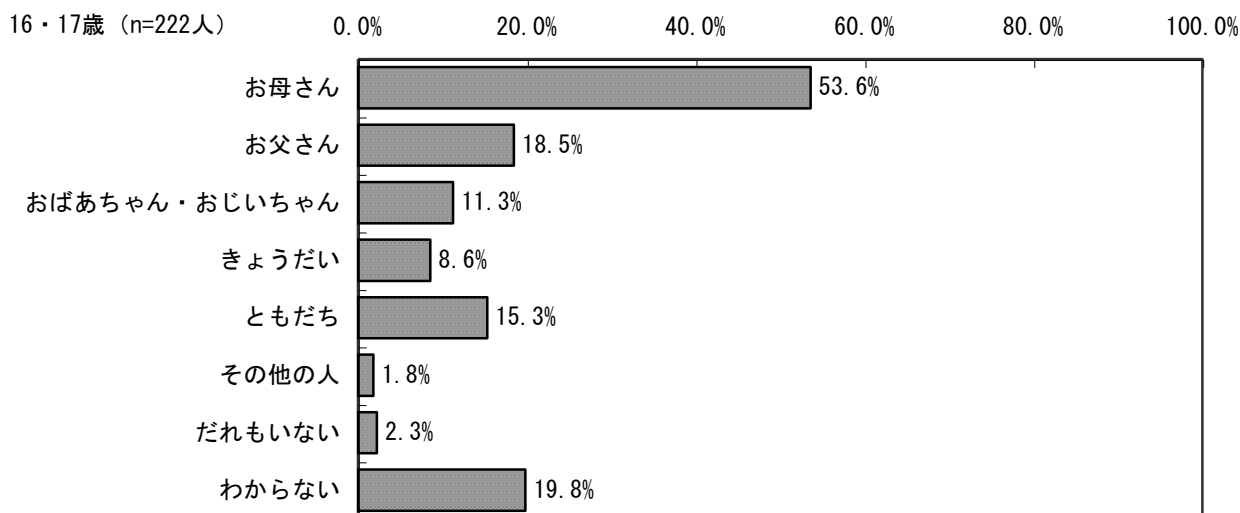
16・17歳 29-E. 信じてくれる人

問 29-E. いつでも、あなたのことを信じてくれる人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

16・17歳について自分を信じてくれる人をみると、「お母さん」が53.6%、「わからない」が19.8%、「お父さん」が18.5%となっています。

図：信じてくれる人（16・17歳）



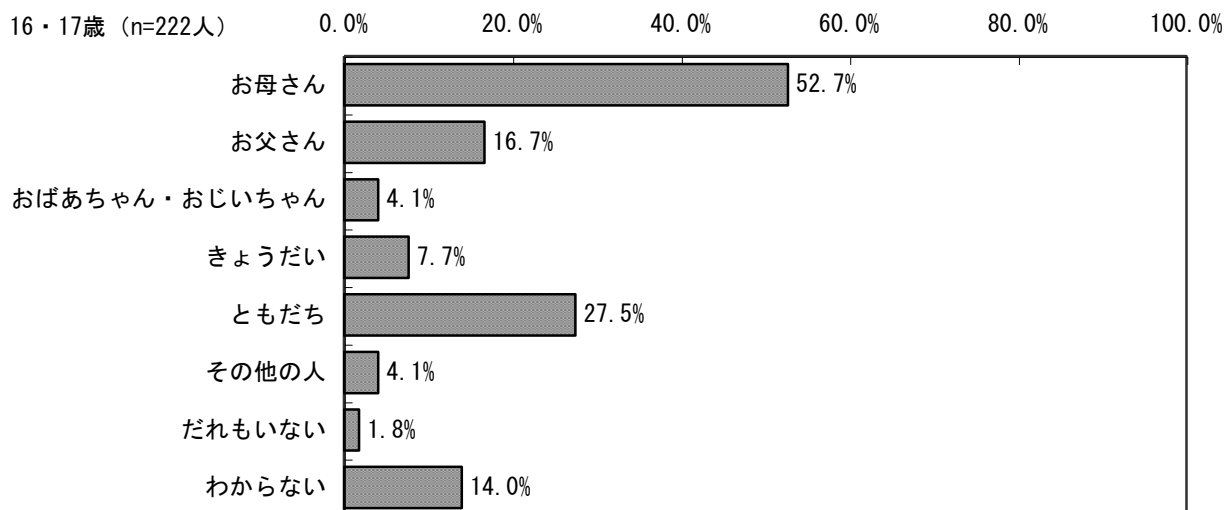
16・17歳 29-F. 悩んだときの対処を教えてくれる人

問 29-F. あなたが悩んでいるときに、どうしたらよいか教えてくれる人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

16・17歳について悩んだときの対処を教えてくれる人をみると、「お母さん」が52.7%、「ともだち」が27.5%、「お父さん」が16.7%となっています。

図：悩んだときの対処を教えてくれる人（16・17歳）



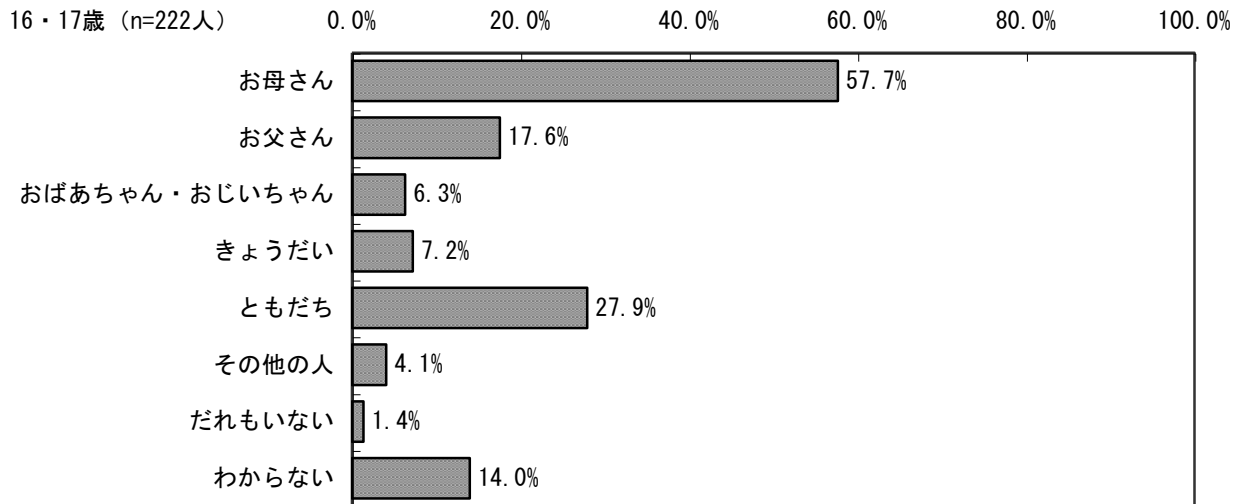
16・17歳 29-G. 良いところ、良くないところをわかってくれる人

問 29-G. あなたの良いところも、良くないところもよくわかってくれる人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

16・17歳について自分の良いところ、良くないところをわかってくれる人をみると、「お母さん」が57.7%、「ともだち」が27.9%、「お父さん」が17.6%となっています。

図：良いところ、良くないところをわかってくれる人（16・17歳）



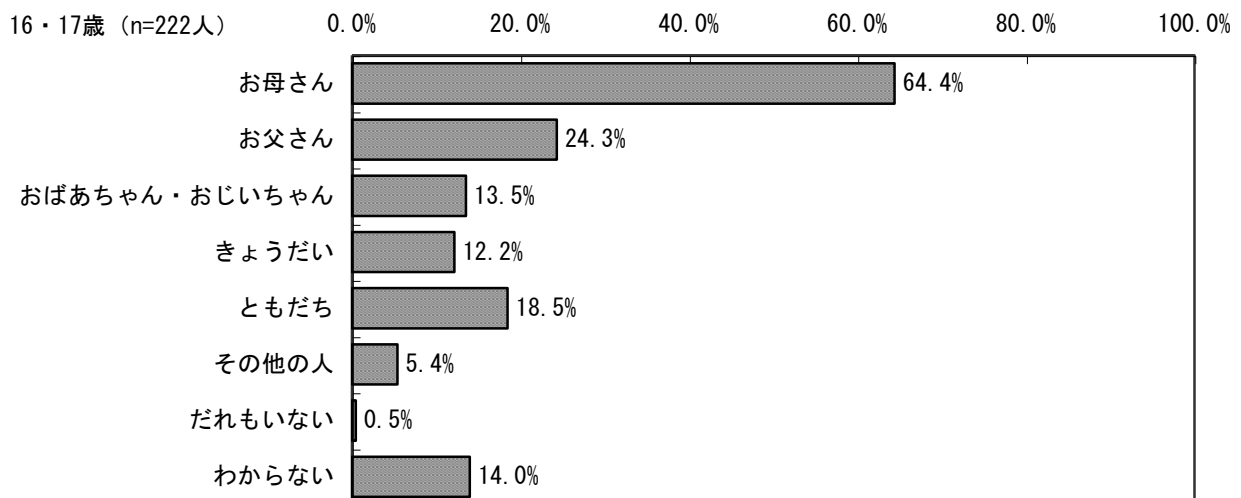
16・17歳 29-H.大切にしてくれる人

問 29-H. あなたのことをとても大切にしてくれる人はだれですか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

16・17歳について自分を大切にしてくれる人をみると、「お母さん」が64.4%、「お父さん」が24.3%、「ともだち」が18.5%となっています。

図：大切にしてくれる人（16・17歳）

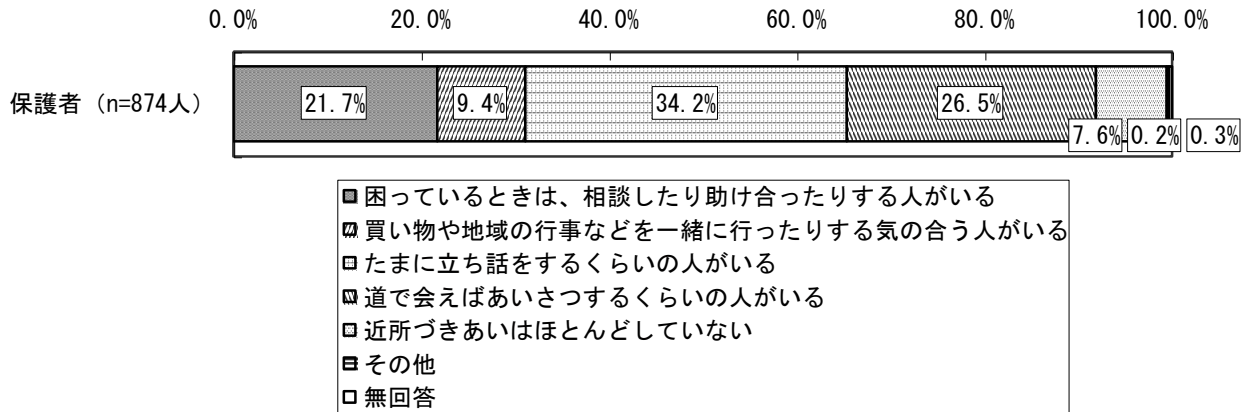


保護者 29. 近所づきあいの程度

問 29. 近所づきあいをどの程度されていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

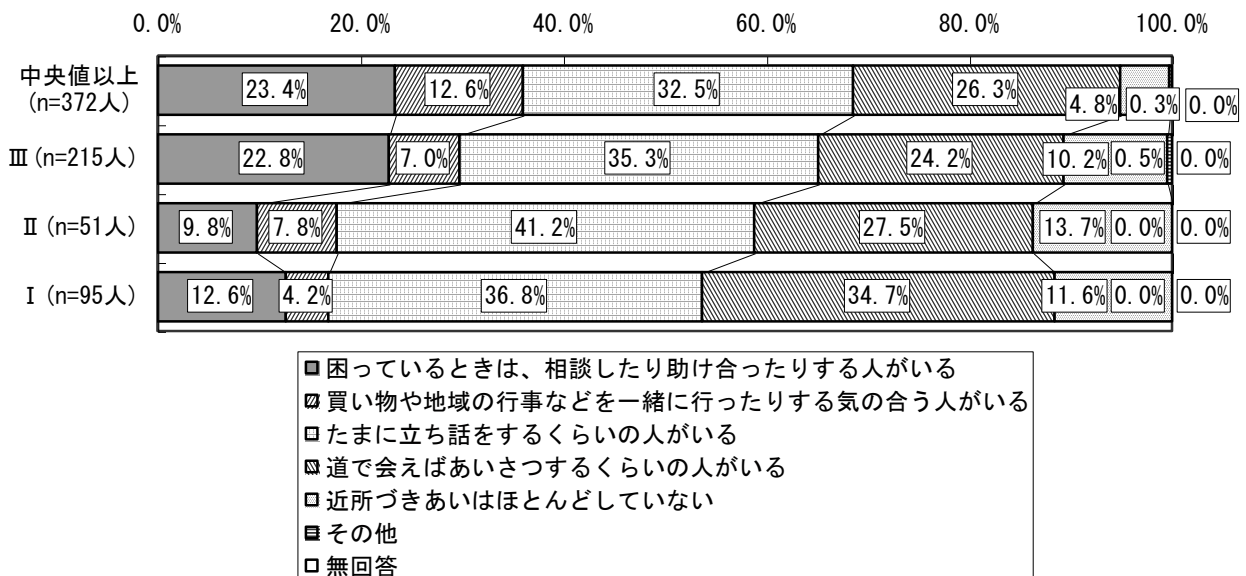
保護者について近所づきあいの程度をみると、「たまに立ち話をするくらいの人がある」が 34.2%、「道で会えばあいさつするくらいの人がある」が 26.5%、「困っているときは、相談したり助け合ったりする人がある」が 21.7%となっています。

図：近所づきあいの程度（保護者）



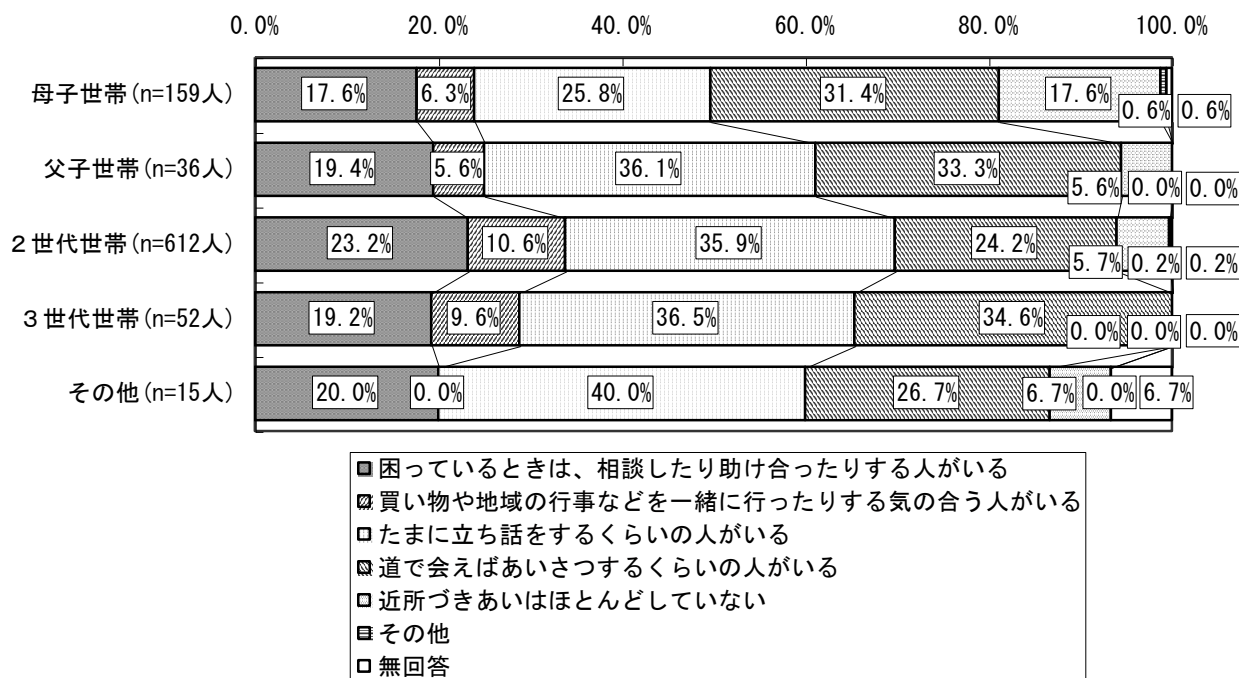
困窮度別にみると、困窮度ⅠまたはⅡの世帯で「近所づきあいはほとんどしていない」が多く、「困っているときは、相談したり助け合ったりする人がある」が少なくなっています。

図：困窮度別・近所づきあいの程度（保護者）



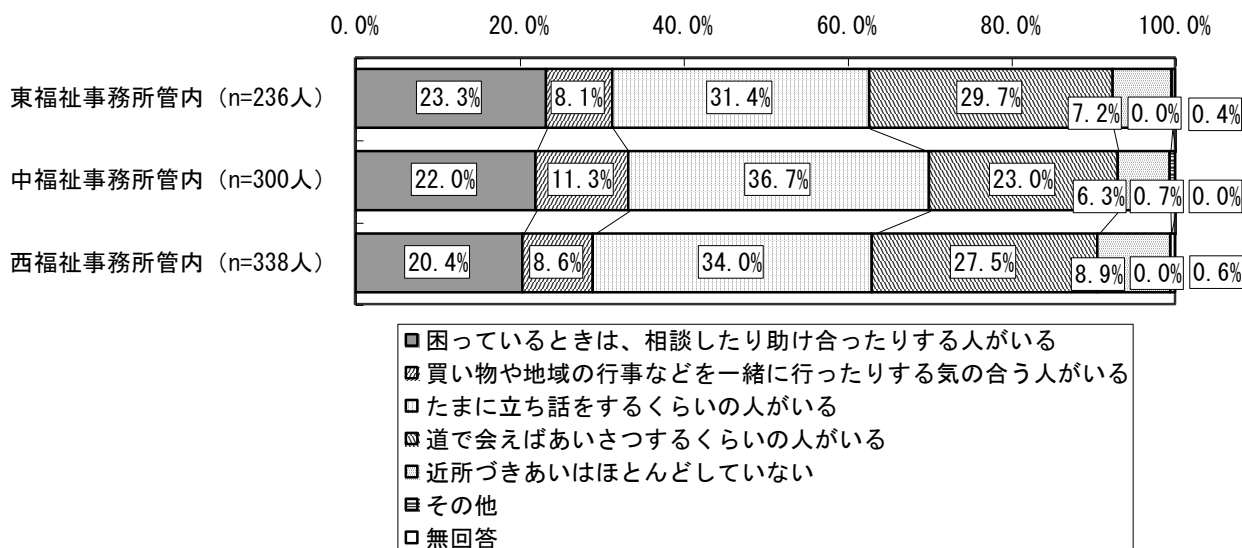
世帯類型別にみると、母子世帯では「近所づきあいはほとんどしていない」が17.6%と約2割を占めています。

図：世帯類型別・近所づきあいの程度（保護者）



福祉事務所管内別にみると、「近所づきあいはほとんどしていない」は西福祉事務所管内では8.9%となっており、1割近くを占めています。

図：福祉事務所管内別・近所づきあいの程度（保護者）

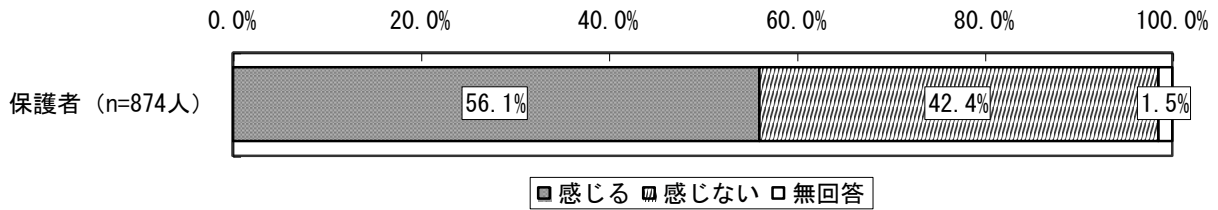


保護者 30. 社会に支えられている感覚

問 30. あなたは、地域の人に（もしくは社会で）支えられていると感じますか。
（あてはまるもの1つだけに○）

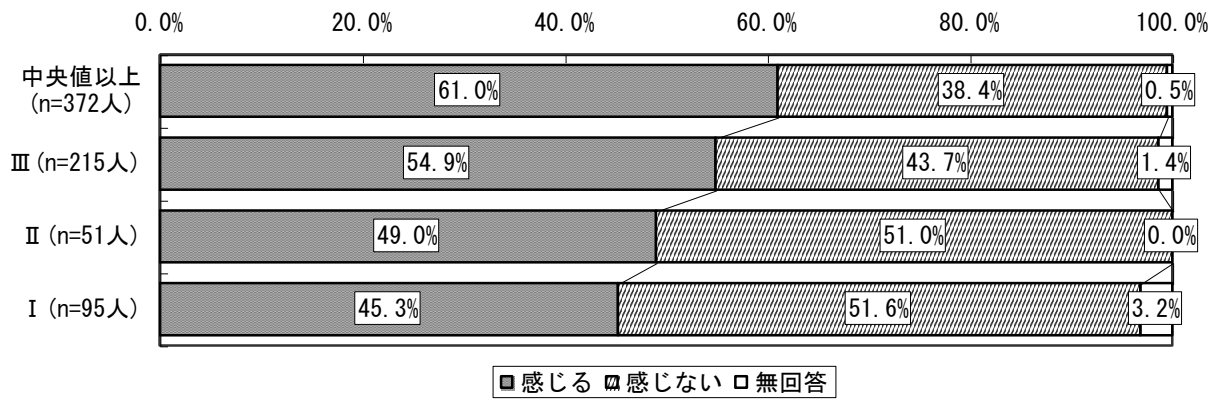
保護者について社会に支えられている感覚をみると、「感じる」が 56.1%となっており、6割弱を占めています。

図：社会に支えられている感覚（保護者）



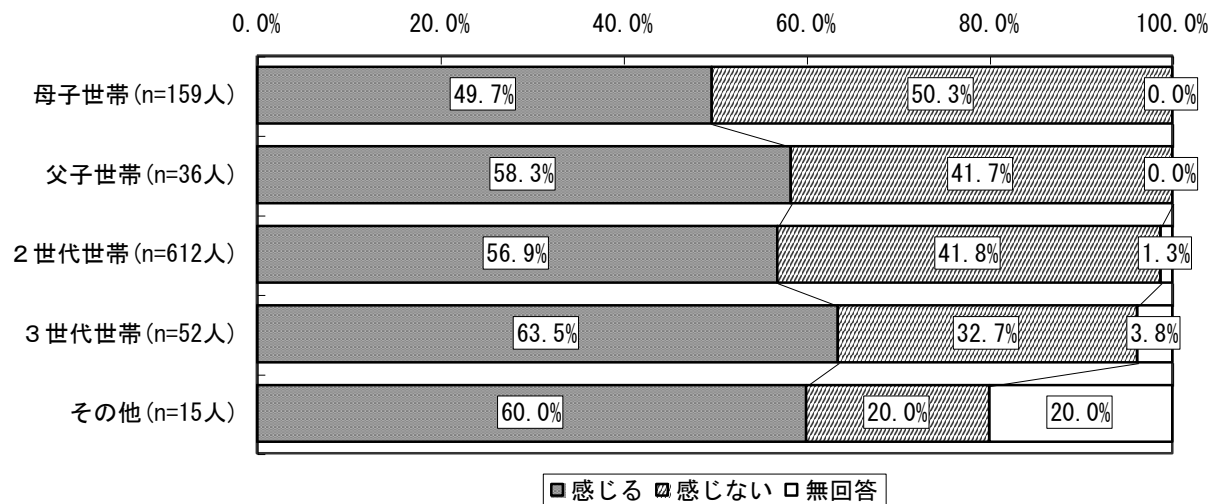
困窮度別にみると、困窮度が高い世帯の保護者ほど、「感じる」が少なくなっています。

図：困窮度別・社会に支えられている感覚（保護者）



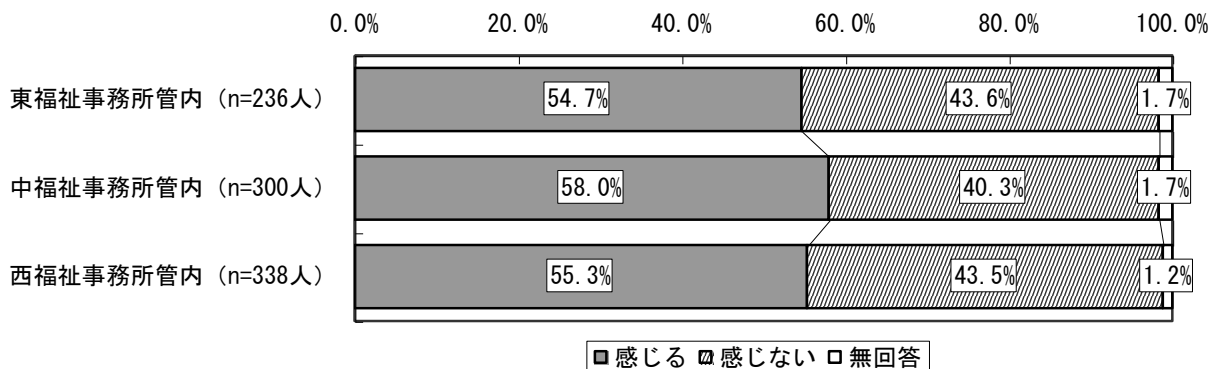
世帯類型別にみると、母子世帯では「感じない」が「感じる」を上回り、約5割となっています。

図：世帯類型別・社会に支えられている感覚（保護者）



福祉事務所管内別にみると、それぞれの福祉事務所管内で「感じる」が約5割となっています。

図：福祉事務所管内別・社会に支えられる感覚（保護者）



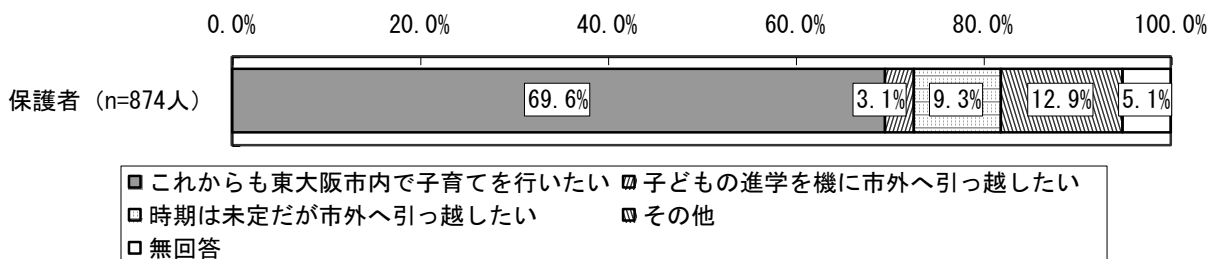
保護者 31. 東大阪市での子育ての意向

問 31. 東大阪市での子育てについて、今後の意向をお聞かせください。

（あてはまるもの1つだけに○をつけて理由もご記入ください）

保護者の東大阪市での子育ての意向をみると、「これからも東大阪市内で子育てを行いたい」が69.6%、「時期は未定だが市外へ引っ越したい」が9.3%、「子どもの進学を機に市外へ引っ越したい」が3.1%となっています。

図：東大阪市での子育ての意向（保護者）



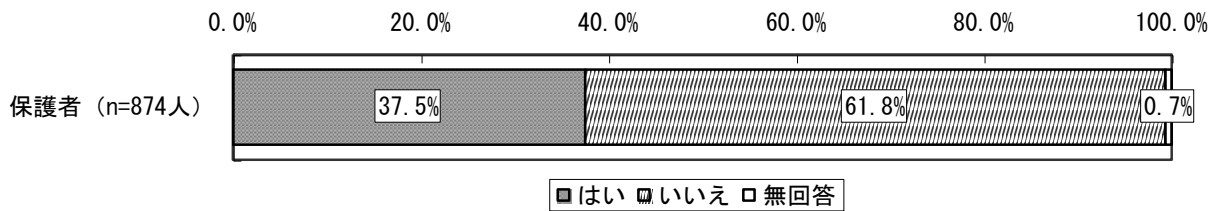
保護者 32. 地域活動への所属

問 32. あなたは、地域で行うスポーツクラブや趣味のサークル、市民団体、町内会・自治会などの組織に所属していますか。所属している方はその数も教えてください。

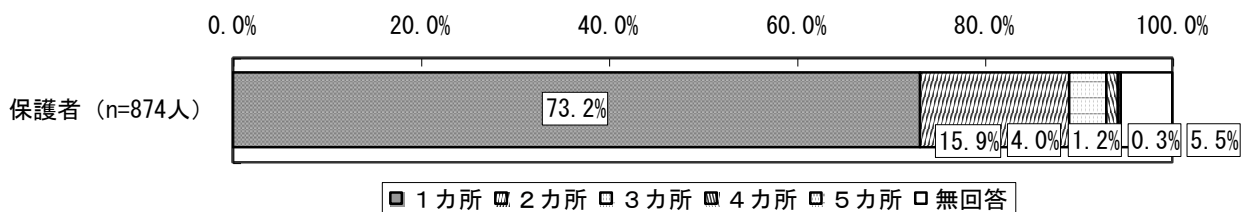
(あてはまるもの1つだけに○をつけてください)

保護者の地域活動への所属をみると、「いいえ」が61.8%、「はい」が37.5%となっています。地域活動に所属している人について、所属数をみると「1カ所」が73.2%、「2カ所」が15.9%、「3カ所」が4.0%となっています。

図：地域活動への所属（保護者）



図：所属数（保護者）

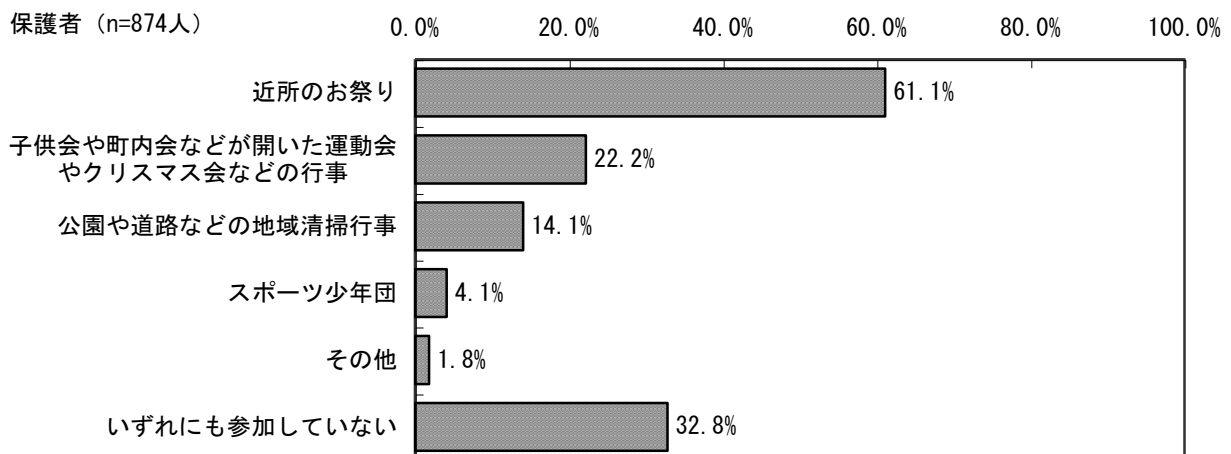


保護者 33. 地域イベントへの参加

問 33. あなたのお子さんは、過去1年間で次のような地域イベントや活動に参加したことがありますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

保護者について地域イベントへの子どもの参加をみると、「近所のお祭り」が61.1%、「いずれにも参加していない」が32.8%、「子供会や町内会などが開いた運動会やクリスマス会などの行事」が22.2%となっています。

図：地域イベントへの参加（保護者）



(5) 子どもの居場所づくり

【子どもの居場所】

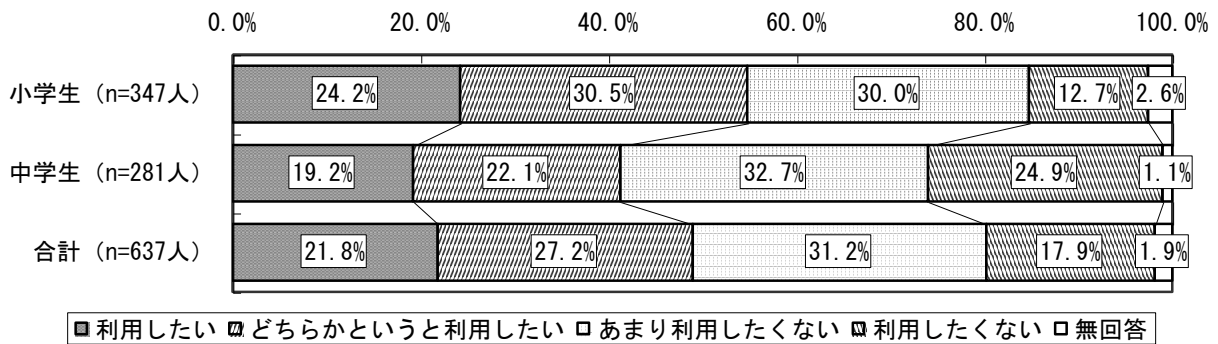
小・中学生 16. 家の近くの居場所の利用

問 16. あなたは、自宅や学校以外の場所で、無料で、ボランティアの方などと気を使わずに落ち着いて過ごせる場所があれば、利用したいと思いますか。(あてはまるもの1つだけに○)

小・中学生について家の近くの無料で過ごせる場所の利用をみると、「あまり利用したくない」が31.2%、「どちらかという利用したい」が27.2%、「利用したい」が21.8%となっており、利用意向がある小・中学生（「利用したい」と「どちらかという利用したい」の合計）は49.0%となっています。

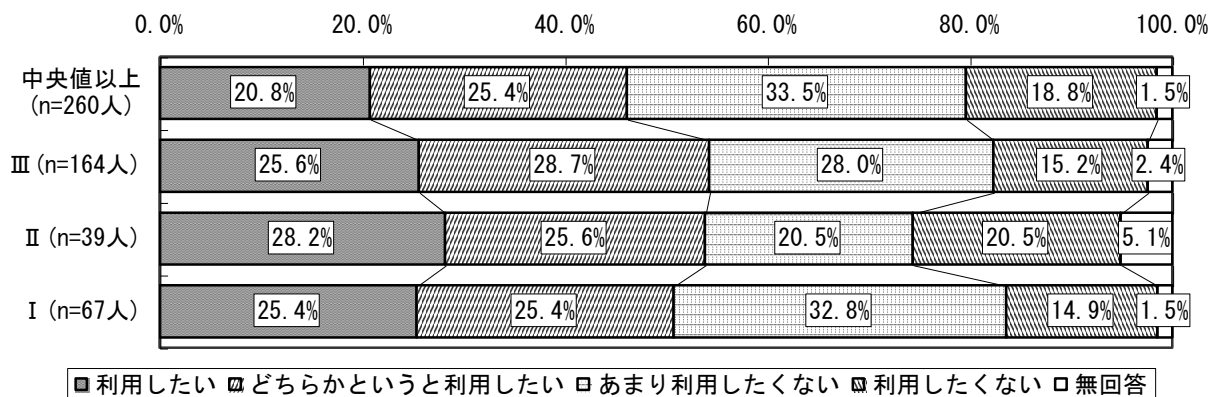
利用意向がある小学生は54.7%、中学生は41.3%と中学生のほうが少なくなっています。

図：家の近くの居場所の利用（小・中学生）



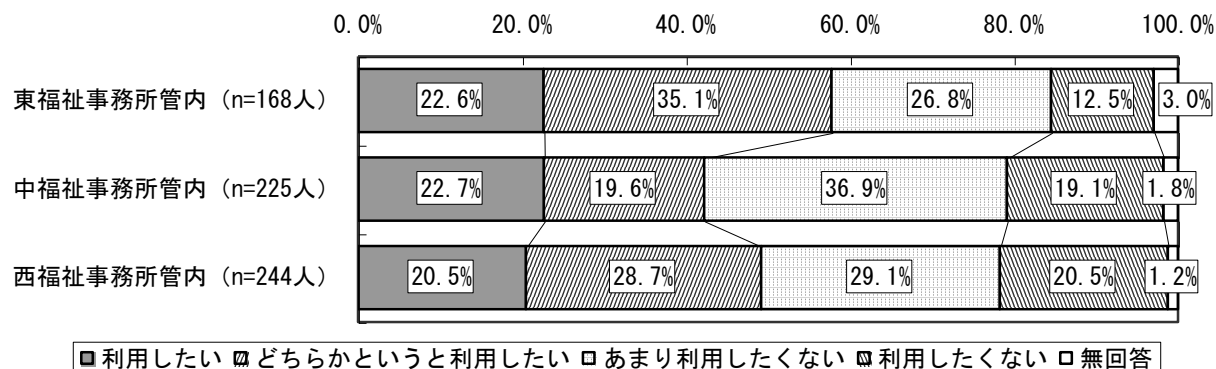
困窮度別にみると、家の近くの居場所の利用意向がある小・中学生は中央値以上では5割未満ですが、困窮度Ⅰ～Ⅲの世帯では5割以上となっています。

図：困窮度別・家の近くの居場所の利用（小・中学生）



福祉事務所管内別にみると、利用意向がある小・中学生は東福祉事務所管内が 57.7%となっており、最も多くなっています。

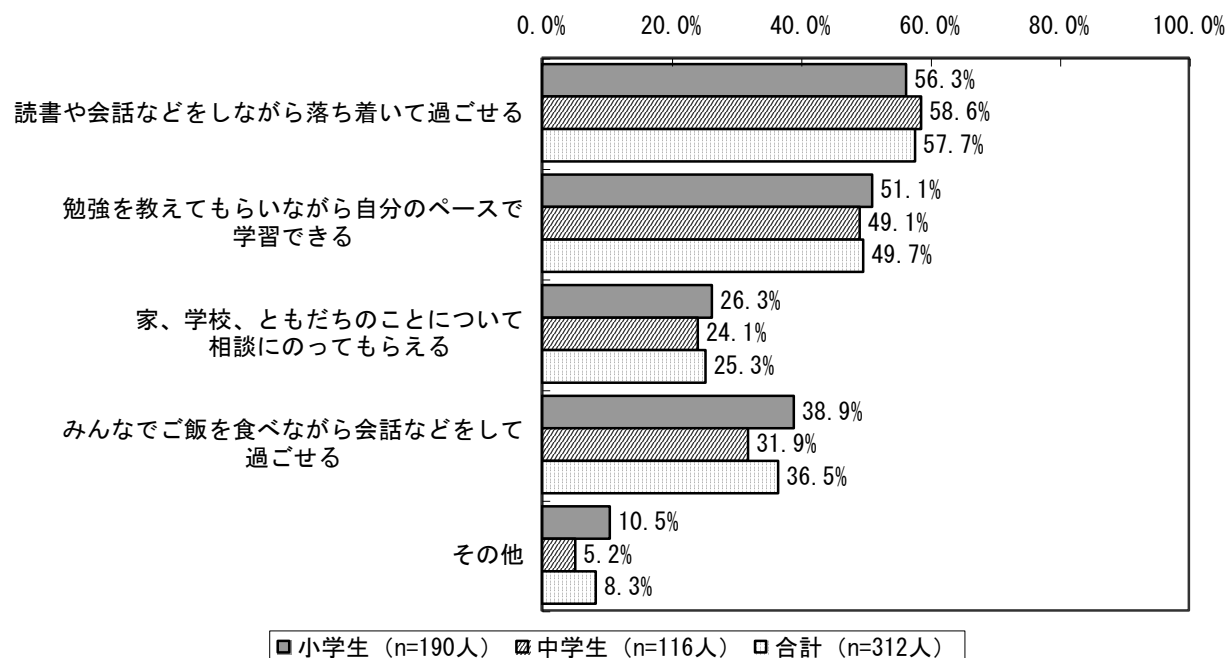
図：福祉事務所管内別・家の近くの居場所の利用（小・中学生）



小・中学生 17- (1). 利用したい内容
 問 17 (1). 問 16 で 1 または 2 に ○ を した 方* に お 聞 き し ま す。
 その 場 所 で は、ど の よ う な こ と が で き れ ば 良 い と 思 い ま す か。(あ て は ま る も の す べ て に ○)

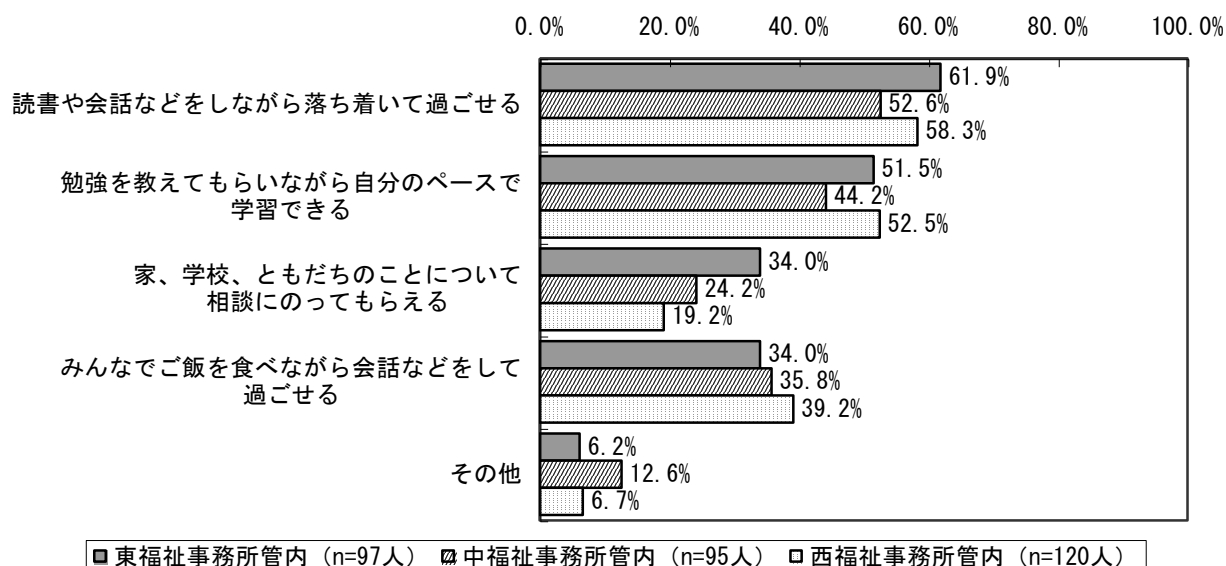
小・中学生について、家の近くの無料で過ごせる場として利用したい内容をみると、「読書や会話などをしながら落ち着いて過ごせる」が 57.7%、「勉強を教えてもらいながら自分のペースで学習できる」が 49.7%、「みんなでご飯を食べながら会話などをして過ごせる」が 36.5%となっています。

図：利用したい内容（小・中学生）



福祉事務所管内別にみると、いずれの福祉事務所管内でも「読書や会話などをしながら落ち着いて過ごせる場所」が最も多く、東福祉事務所管内、西福祉事務所管内で約6割を占めています。「勉強を教えてもらいながら自分のペースで学習できる場所」が次いで多く、東福祉事務所管内、西福祉事務所管内で約5割となっています。「家、学校、ともだちのことについて相談にのってもらえる場所」は東福祉事務所管内では約3割を占めています。「みんなでご飯を食べながら会話などをして過ごせる場所」はいずれの福祉事務所管内でも3割を超えています。

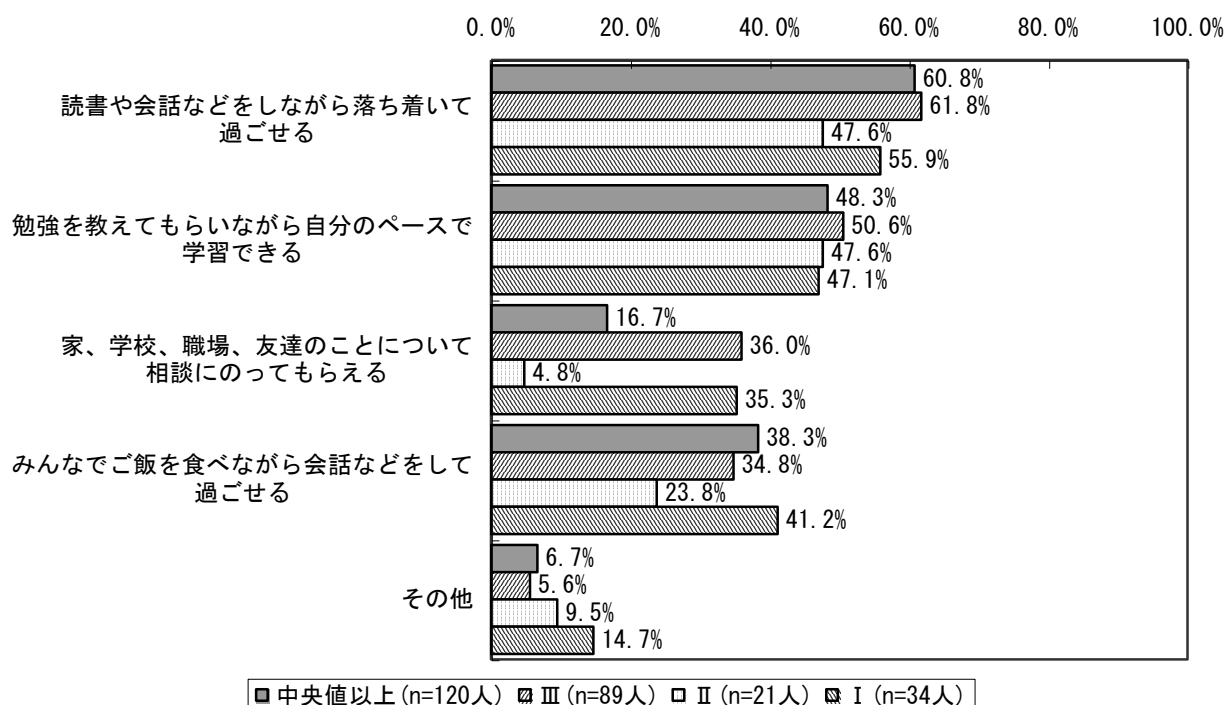
図：福祉事務所管内別・利用したい場所（小・中学生）



■ 東福祉事務所管内 (n=97人) ▨ 中福祉事務所管内 (n=95人) □ 西福祉事務所管内 (n=120人)

困窮度別にみると、困窮度と「子どもについて、家の近くの無料で過ごせる場として利用したい内容」は関連がみられません。

図：困窮度別・利用したい内容（小・中学生）



■ 中央値以上 (n=120人) ▨ Ⅲ (n=89人) □ Ⅱ (n=21人) ▩ Ⅰ (n=34人)

※問 17 (1) の質問中、「問 16 で 1 または 2 に ○ をした方」とは自宅や学校以外の居場所について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

小・中学生 17- (2). 利用したい範囲

問 17 (2). 問 16 で 1 または 2 に ○ をした方*にお聞きします。

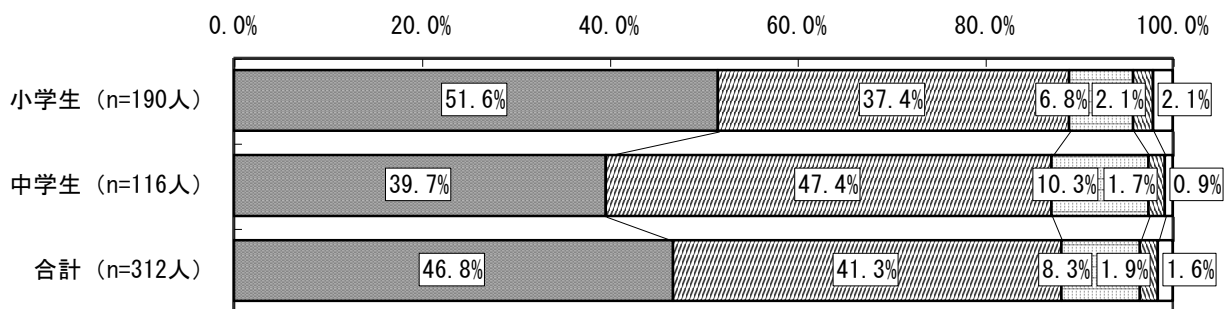
その場所は、どの範囲にあれば利用したいと思いますか。(あてはまるもの 1 つだけに○)

※小学生の皆さんは、ひとりで自分の小学校区以外の場所へも出かけることができるとしたらどの範囲を希望するかを教えてください。

小・中学生について、家の近くの無料で過ごせる場として利用したい範囲をみると、「子ども 1 人で歩いて行ける場所」が 46.8%、「自転車 15 分以内の場所」が 41.3%、「市内ならどこでもよい」が 8.3% となっています。「子ども 1 人で歩いて行ける場所」と「自転車 15 分以内の場所」がともに 4 割を超えており、近くで利用したいと考えている子どもが多いです。

小学生と中学生の比較では、小学生は「子ども 1 人で歩いて行ける場所」が 51.6%で最も多く、中学生は「自転車 15 分以内の場所」が 47.4%で最も多くなっています。

図：利用したい範囲（小・中学生）



■ 子ども 1 人で歩いて行ける場所 ■ 自転車 15 分以内の場所 □ 市内ならどこでもよい ▨ その他 □ 無回答

※問 17 (2) の質問中、「問 16 で 1 または 2 に ○ をした方」とは自宅や学校以外の居場所について「利用したい」「どちらかという util したい」のいずれかに回答した人のことです。

小・中学生 17- (3). 利用したい頻度

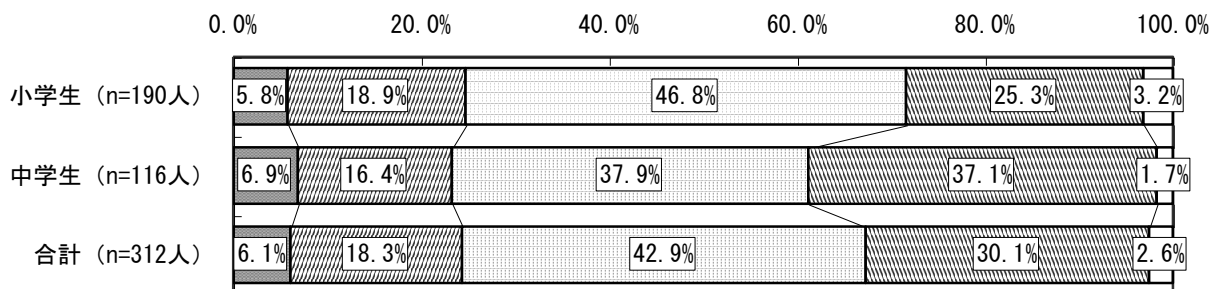
問 17 (3). 問 16 で 1 または 2 に ○ をした方*にお聞きします。

その場所は、どのくらいの頻度で利用したいと思いますか。(あてはまるもの 1 つだけに○)

小・中学生について、家の近くの無料で過ごせる場として利用したい頻度をみると、「週に 1 ~ 2 回程度」が 42.9%、「月に 1 ~ 2 回程度」が 30.1%、「週に 3 ~ 4 回程度」が 18.3% となっています。

小学生と中学生の比較では、「週に 1 ~ 2 回程度」は小学生が 46.8%、中学生は 37.9%と小学生が多く、「月に 1 ~ 2 回程度」は小学生が 25.3%、中学生は 37.1%と中学生が多くなっています。

図：利用したい頻度（小・中学生）



■ ほとんど毎日 ▨ 週に 3 ~ 4 回程度 □ 週に 1 ~ 2 回程度 ▨ 月に 1 ~ 2 回程度 □ 無回答

※問 17 (3) の質問中、「問 16 で 1 または 2 に ○ をした方」とは自宅や学校以外の居場所について「利用したい」「どちらかという util したい」のいずれかに回答した人のことです。

小・中学生 17- (4). 利用したい時間

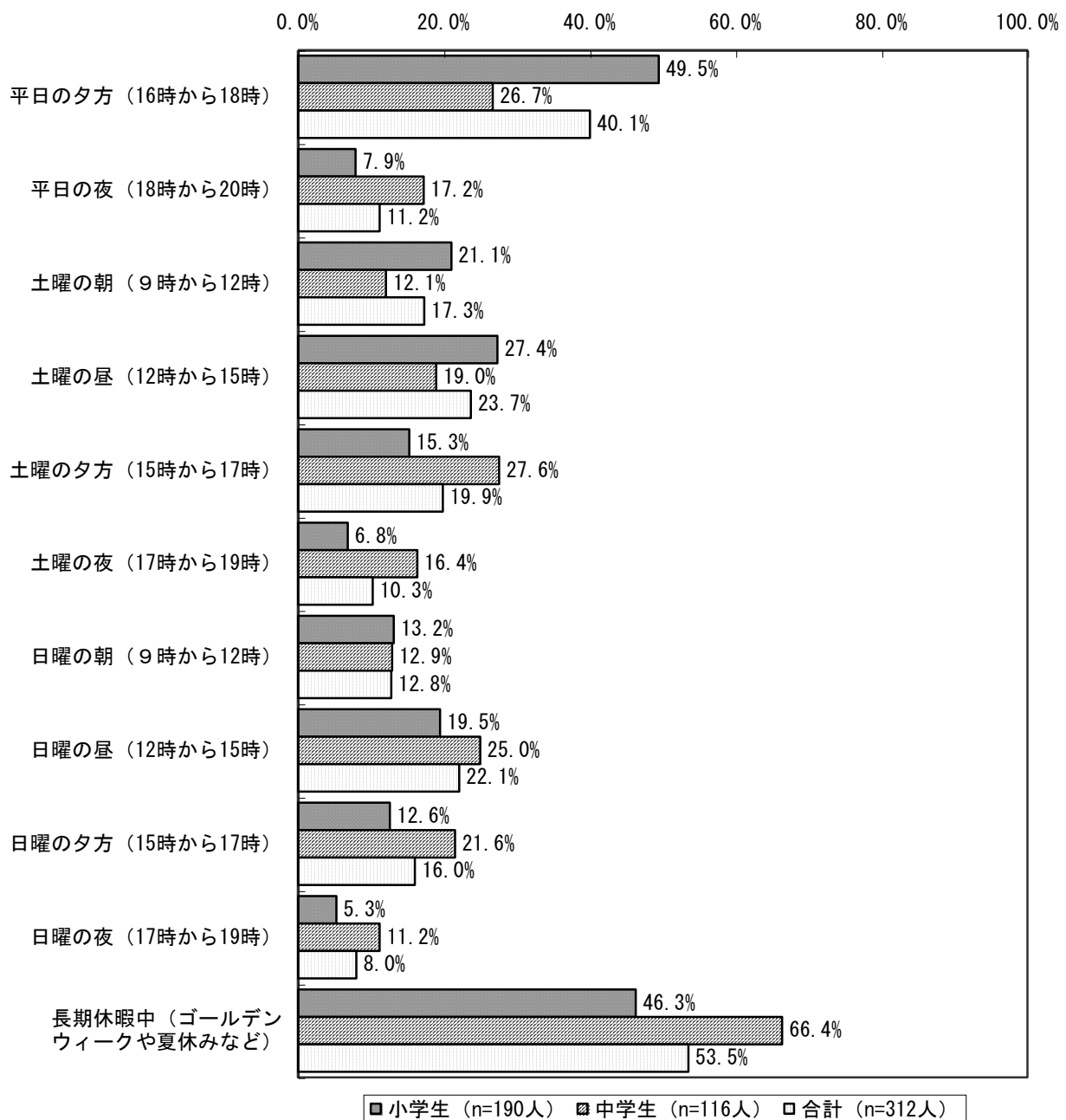
問 17 (4). 問 16 で 1 または 2 に ○ をした方*にお聞きします。

その場所は、どの時間帯に利用したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

小・中学生について、家の近くの無料で過ごせる場を利用したい時間をみると、「長期休暇中（ゴールデンウィークや夏休みなど）」が 53.5%、「平日の夕方（16時から18時）」が 40.1%、「土曜の昼（12時から15時）」が 23.7%となっています。

小学生と中学生の比較では、小学生は「平日の夕方（16時から18時）」が 49.5%で最も多く、中学生は「長期休暇中（ゴールデンウィークや夏休みなど）」が 66.4%で最も多くなっています。

図：利用したい時間（小・中学生）



※問 17 (4) の質問中、「問 16 で 1 または 2 に ○ をした方」とは自宅や学校以外の居場所について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

小・中学生 17- (5). 利用したくない理由

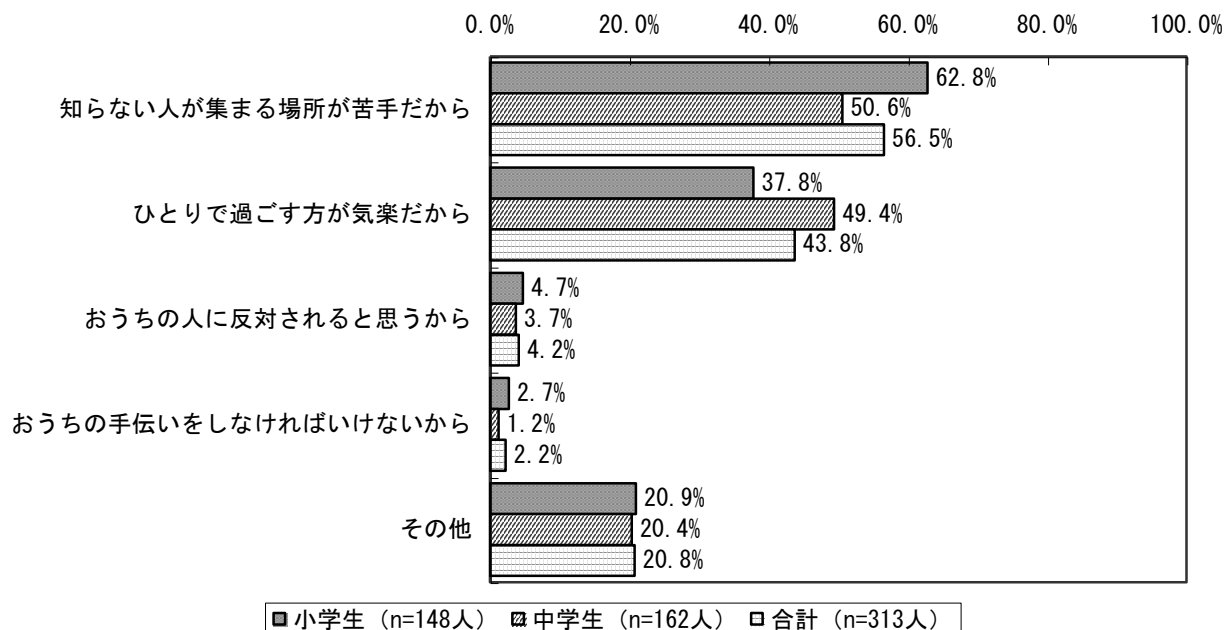
問 17 (5). 問 16 で 3 または 4 に ○ をした方*にお聞きします。

利用したいと思わない理由はどんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

小・中学生について、家の近くの無料で過ごせる場を利用したくない理由をみると、「知らない人が集まる場所が苦手だから」が 56.5%、「ひとりで過ごす方が気楽だから」が 43.8%、「おうちの人に反対されると思うから」が 4.2%となっています。

小学生・中学生とも「知らない人が集まる場所が苦手だから」が最も多くなっていますが、小学生は 62.8%、中学生は 50.6%と中学生のほうが少なくなっています。次いで、「ひとりで過ごす方が気楽だから」は小学生が 37.8%、中学生が 49.4%と中学生のほうが多くなっています。

図：利用したくない理由（小・中学生）



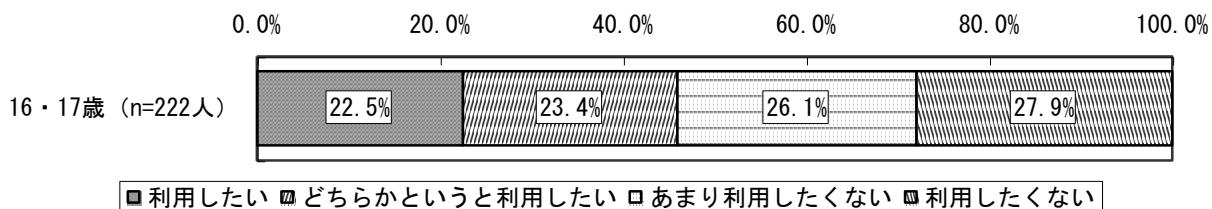
※問 17 の質問中、「問 16 で 3 または 4 に ○ をした方」とは自宅や学校以外の居場所について「あまり利用したくない」「利用したくない」のいずれかに回答した人のことです。

16・17歳 38. 家の近くの居場所の利用

問 38. あなたは、自宅や学校以外の場所で、無料で、ボランティアの方などと気を使わずに落ち着いて過ごせる場所があれば、利用したいと思いますか。(あてはまるもの1つだけに○)

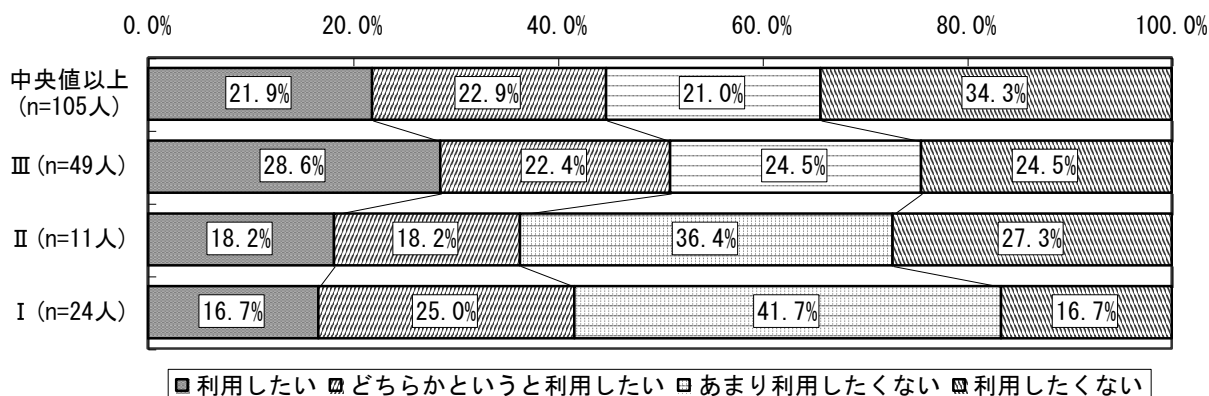
16・17歳について家の近くの無料で過ごせる場所の利用についてみると、「利用したくない」が27.9%、「あまり利用したくない」が26.1%、「どちらかというとうり利用したい」が23.4%となります。

図：家の近くの居場所の利用（16・17歳）



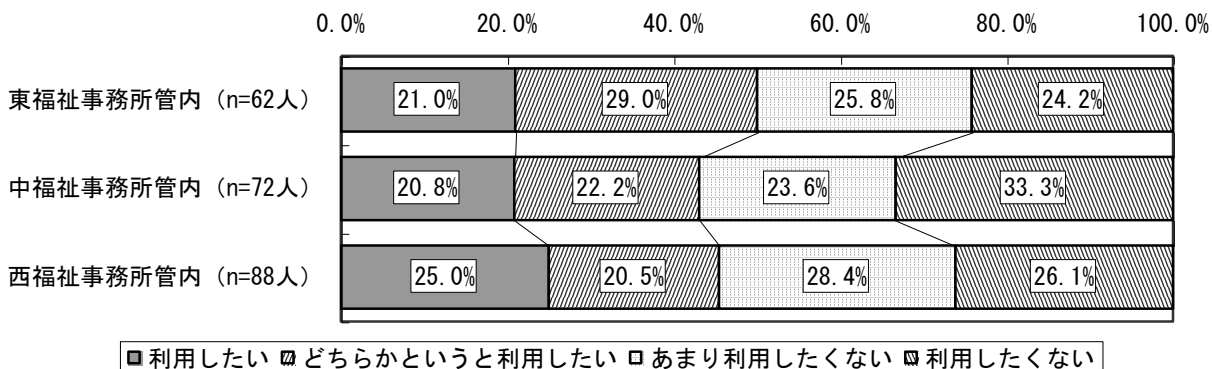
困窮度別にみると、困窮度ⅠとⅡでは「あまり利用したくない」と「利用したくない」の合計がそれぞれ58.4%、63.7%となっています。

図：困窮度別・家の近くの居場所の利用（16・17歳）



福祉事務所管内別にみると、「利用したい」と「どちらかというとうり利用したい」の合計は東福祉事務所管内が50.0%となっており、最も多くなっています。

図：福祉事務所管内別・家の近くの居場所の利用（16・17歳）

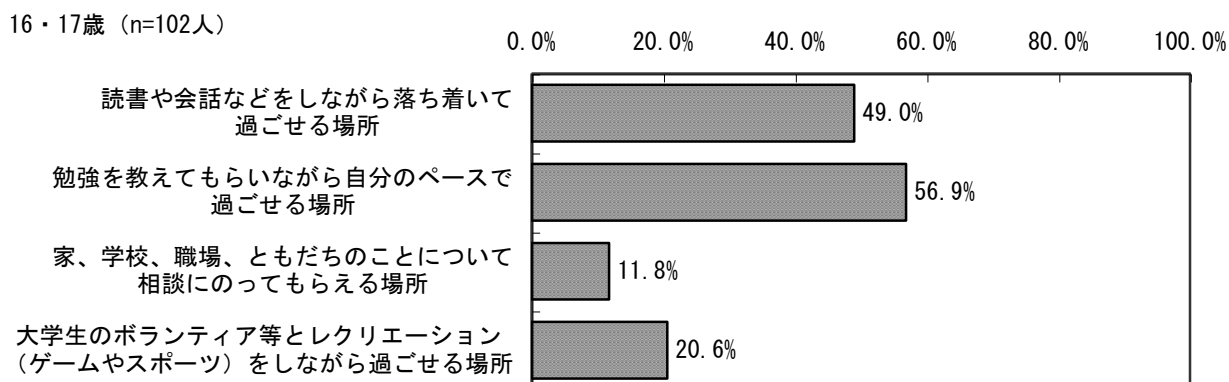


16・17歳 39. 利用したい場所

問 39. 住んでいる地域の近くに、自宅以外の場所でどのような場所があれば利用したいですか。
(あてはまるものすべてに○)

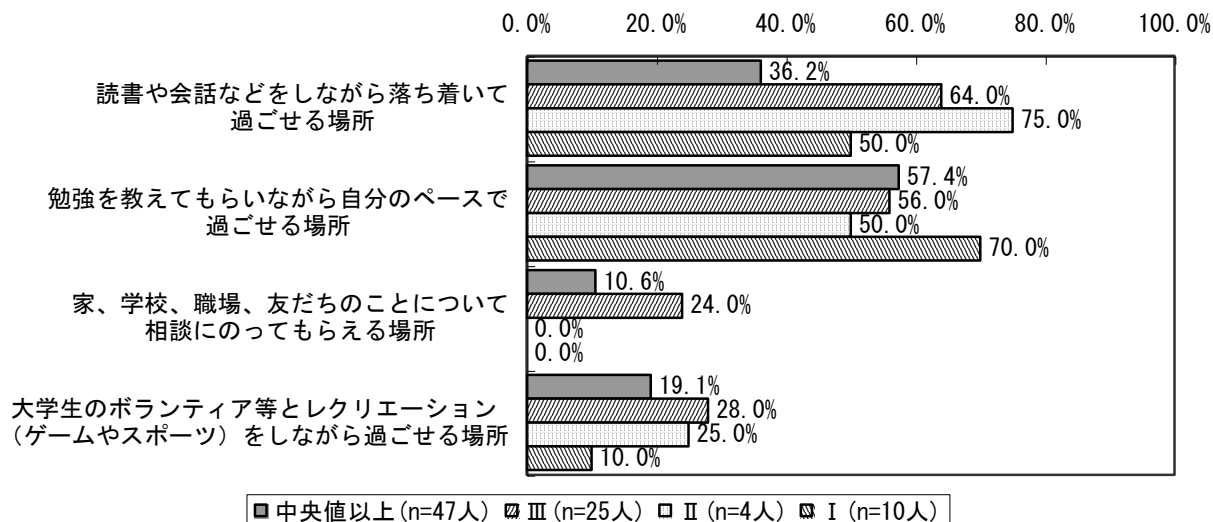
16・17歳について、家の近くの無料で過ごせる場として利用したい場所をみると、「勉強を教えてもらいながら自分のペースで過ごせる場所」が56.9%、「読書や会話などをしながら落ち着いた過ごせる場所」が49.0%、「大学生のボランティア等とレクリエーション（ゲームやスポーツ）をしながら過ごせる場所」が20.6%となっています。

図：利用したい場所（16・17歳）



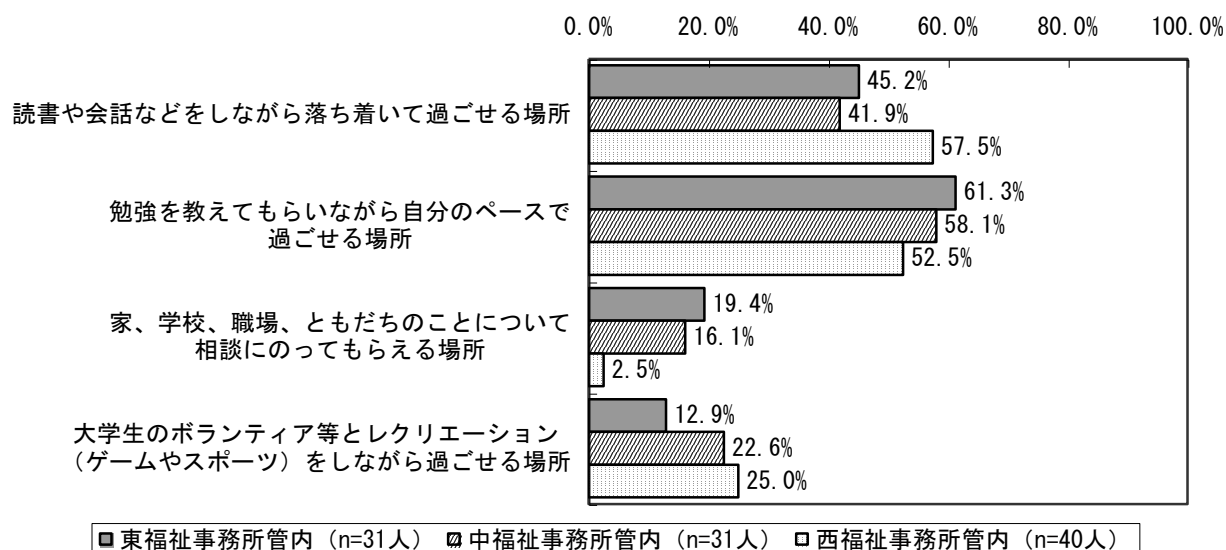
困窮度別にみると、困窮度Ⅰの世帯を除いて、困窮度が高い世帯の高校生ほど「読書や会話などをしながら落ち着いた過ごせる場所」が多くなっています。なお、困窮度Ⅰの世帯の高校生は「勉強を教えてもらいながら自分のペースで過ごせる場所」が多くなっています。

図：困窮度別・利用したい場所（16・17歳）



福祉事務所管内別にみると、東福祉事務所管内と中福祉事務所管内は「勉強を教えてもらいながら自分のペースで過ごせる場所」が最も多く約6割を占めています。西福祉事務所管内は「読書や会話などをしながら落ち着いた過ごせる場所」が最も多く、約6割を占めています。「家、学校、職場、ともだちのことについて相談にのってもらえる場所」は西福祉事務所管内ではほとんどニーズはありませんが、東福祉事務所管内と中福祉事務所管内では約2割を占めています。「大学生のボランティア等とレクリエーション（ゲームやスポーツ）をしながら過ごせる場所」は中福祉事務所管内と西福祉事務所管内では2割以上を占めています。

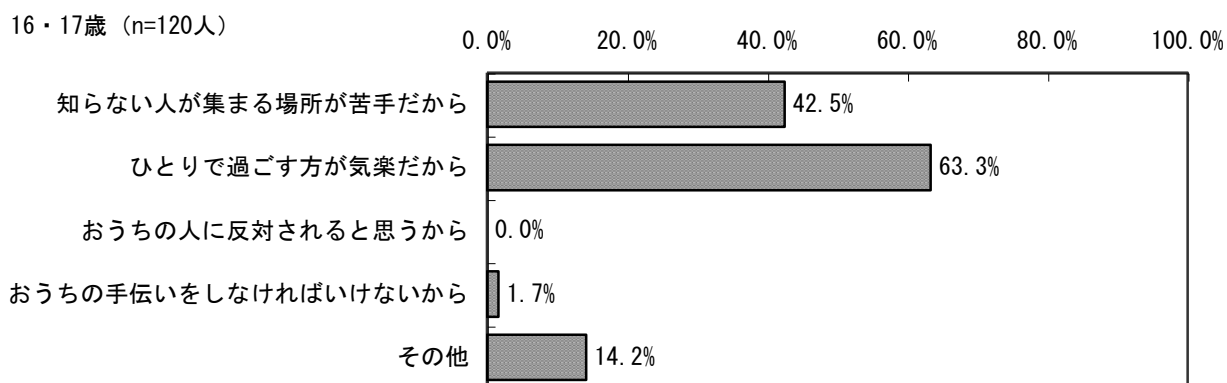
図：福祉事務所管内別・利用したい場所（16・17歳）



16・17歳 40. 利用したくない理由
 問 40. 問 38 で 3 または 4 に ○ を した 方* に お 聞 き し ま す。
 利用したいと思わない理由はどんなことですか。（あてはまるものすべてに○）

16・17歳について、家の近くの無料で過ごせる場を利用したくない理由をみると、「ひとりで過ごす方が気楽だから」が63.3%、「知らない人が集まる場所が苦手だから」が42.5%となっています。

図：利用したくない理由（16・17歳）



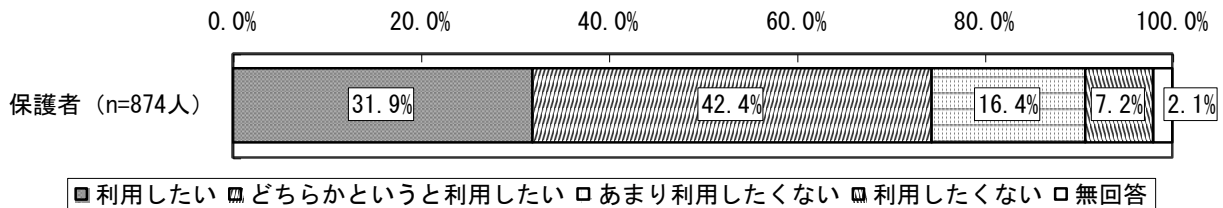
*問 40 の 質 問 中、「問 38 で 3 または 4 に ○ を した 方」とは 自 宅 や 学 校 以 外 の 居 場 所 に つ い て 「あ ま り 利 用 し た く な い」「利 用 し た く な い」の い ず れ か に 回 答 し た 人 の こ と で す。

保護者 34. 自宅や学校以外の子どもの居場所について

問 34. 自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所についてどう思われますか。(あてはまるもの1つだけに○)

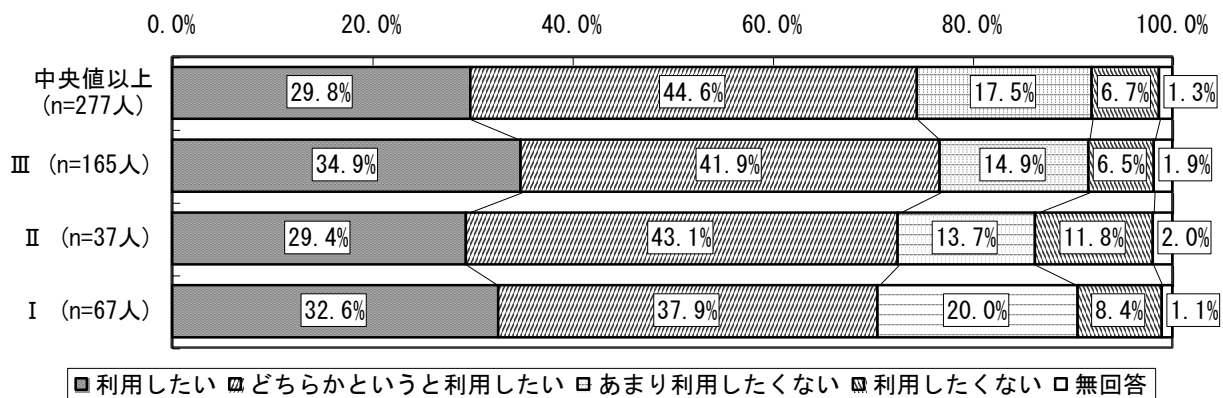
保護者について自宅や学校以外の子どもの居場所の利用についてみると、「利用したい」が 31.9%、「どちらかというとうり利用したい」が 42.4%、「あまり利用したくない」が 16.4%となっており、「利用したい」と「どちらかというとうり利用したい」を合計した比率は 74.3%となっています。

図：自宅や学校以外の子どもの居場所について（保護者）



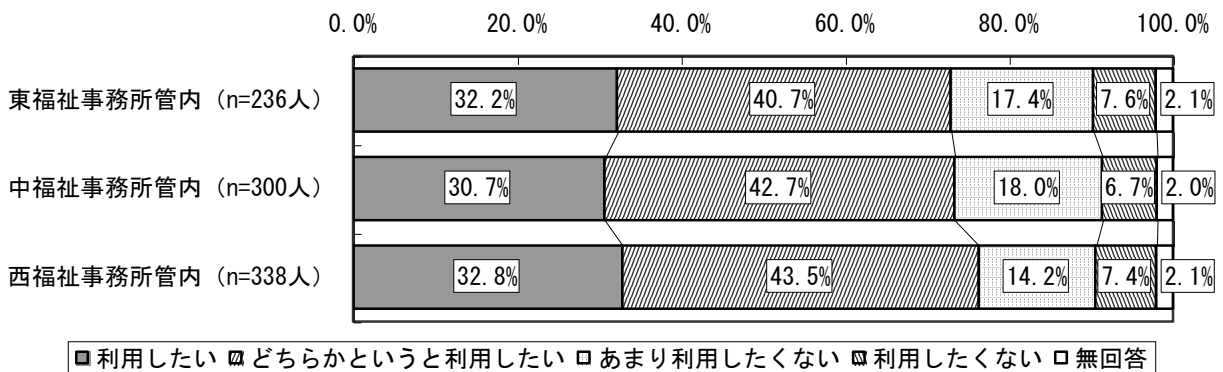
困窮度別にみると、「利用したい」と「どちらかというとうり利用したい」の合計はいずれの世帯も7割以上となっており、困窮度Ⅲの世帯では 76.8%と最も多く、次いで中央値以上の世帯が 74.4%となっています。

図：困窮度・自宅や学校以外の子どもの居場所について（保護者）



福祉事務所管内別にみると、「利用したい」と「どちらかというとうり利用したい」の合計はいずれの地域も7割以上となっており、西福祉事務所管内は 76.3%と最も多くなっています。

図：福祉事務所管内別別・自宅や学校以外の子どもの居場所について（保護者）



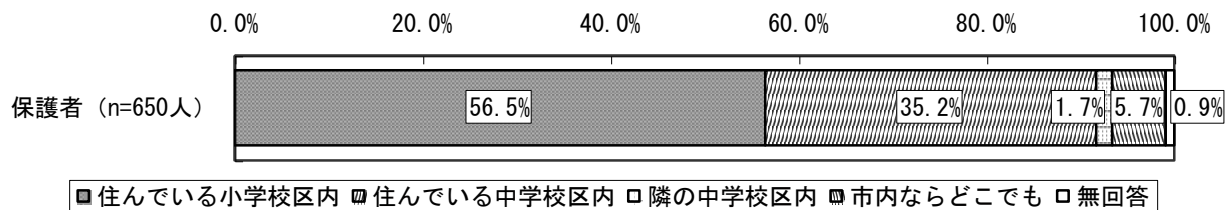
保護者 34-A-①. 子どもの居場所を利用したい場所の範囲

問 34A①. 問 34 で 1 または 2 に ○ をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どの範囲にあれば良いと思いますか。(あてはまるもの 1 つだけに○)

保護者について子どもの居場所を利用したい場所の範囲をみると、「住んでいる小学校区内」が 56.5%、「住んでいる中学校区内」が 35.2%となっています。「住んでいる小学校区内」と「住んでいる中学校区内」を合計した比率は 91.7%となり、自宅の近くで利用したいと考えている人が多くなっています。

図：子どもの居場所を利用したい場所の範囲（保護者）



※問 34A①の質問中、「問 34 で 1 または 2 に ○ をした方」とは自宅や学校以外の子どもの居場所について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

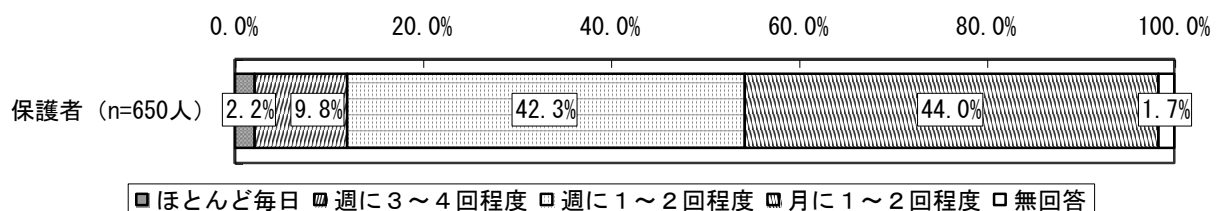
保護者 34-A-②. 子どもの居場所を利用したい頻度

問 34A②. 問 34 で 1 または 2 に ○ をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どのくらいの頻度で利用したいですか。(あてはまるもの 1 つだけに○)

保護者について子どもの居場所を利用したい頻度をみると、「月に 1～2 回程度」が 44.0%、「週に 1～2 回程度」が 42.3%、「週に 3～4 回程度」が 9.8%となっています。

図：子どもの居場所を利用したい頻度（保護者）



※問 34A②の質問中、「問 34 で 1 または 2 に ○ をした方」とは自宅や学校以外の子どもの居場所について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

保護者 34-A-③. 子どもの居場所を利用したい時間帯

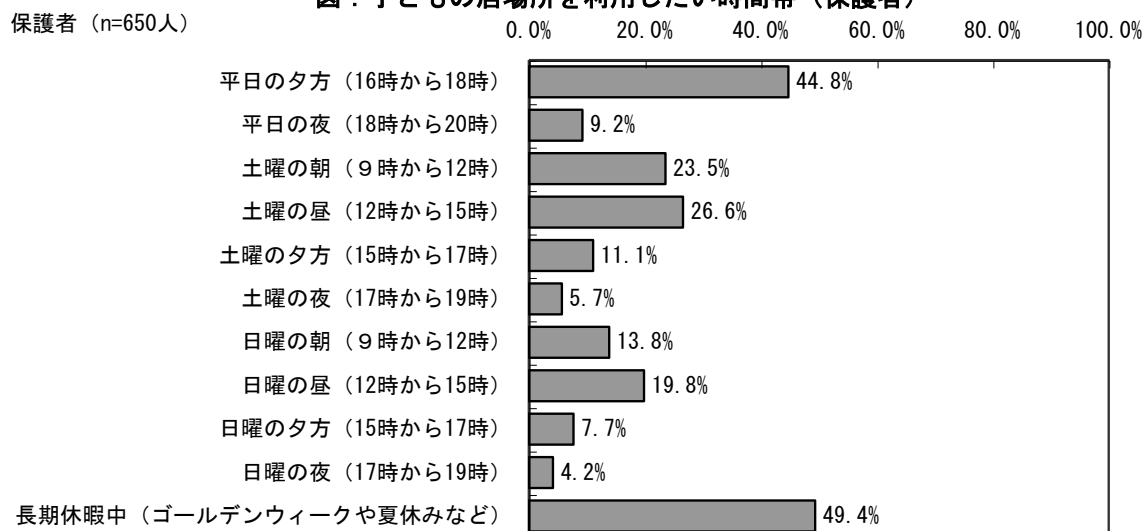
問 34A③. 問 34 で 1 または 2 に ○ をした方※にお聞きします。

もし利用したいなら、どの時間帯に利用したいですか。(あてはまるものすべてに○)

保護者について子どもの居場所を利用したい時間帯をみると、「長期休暇中（ゴールデンウィークや夏休みなど）」が 49.4%、「平日の夕方（16時から18時）」が 44.8%、「土曜の昼（12時から15時）」が 26.6%となっています。

「長期休暇中（ゴールデンウィークや夏休みなど）」や「平日の夕方（16時から18時）」は4割を超える比率となっている一方、「土曜の夜（17時から19時）」は 5.7%、「日曜の夜（17時から19時）」は 4.2%となり、ニーズが低い事がうかがえます。

図：子どもの居場所を利用したい時間帯（保護者）



※問 34A③の質問中、「問 34 で 1 または 2 に ○ をした方」とは自宅や学校以外の子どもの居場所について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

保護者 34-B. 子どもの居場所を利用したくない理由

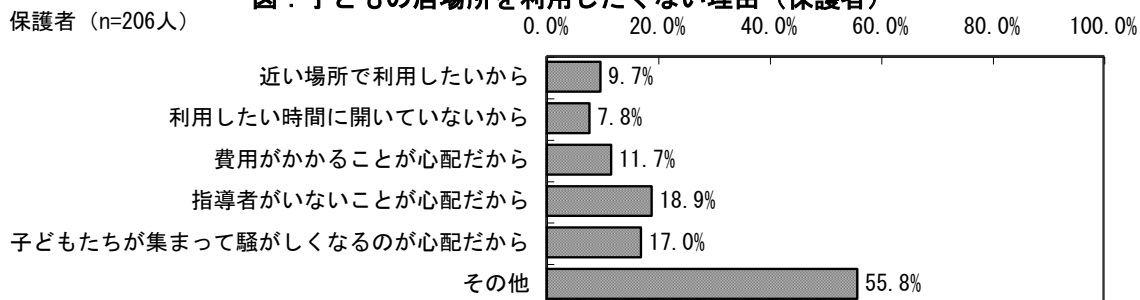
問 34B. 問 34 で 3 または 4 に ○ をした方※にお聞きします。

自宅や学校以外で子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所を利用したくない理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

保護者について子どもの居場所を利用したくない理由をみると、「その他」を除いて、「指導者がいないことが心配だから」が 18.9%、「子どもたちが集まって騒がしくなるのが心配だから」が 17.0%、「費用がかかることが心配だから」が 11.7%となっています。

「その他」の内容は「子どもがほぼ自立している年齢のため必要ない」、「子どもが行きたがらない」、「子どもが習い事やクラブで忙しく、行く時間がない」などとなっています。

図：子どもの居場所を利用したくない理由（保護者）



※問 34Bの質問中、「問 34 で 3 または 4 に ○ をした方」とは自宅や学校以外の子どもの居場所について「あまり利用したくない」「利用したくない」のいずれかに回答した人のことです。

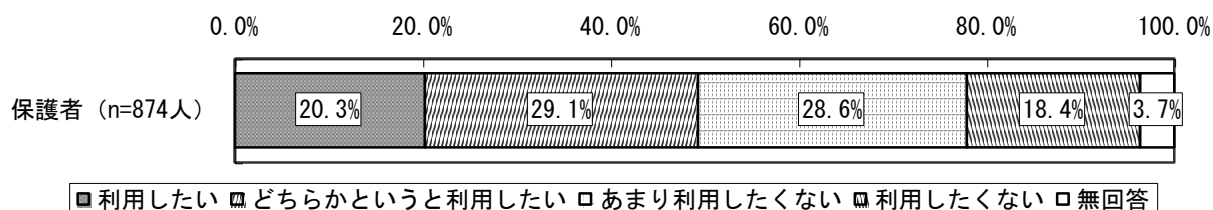
【子ども食堂】

保護者 35. 「子ども食堂」について

問 35. 子どもの居場所のうち、主に「子ども食堂」などの子どもたちが無料もしくは低額で食事ができる場所についてどう思われますか。(あてはまるもの1つだけに○)

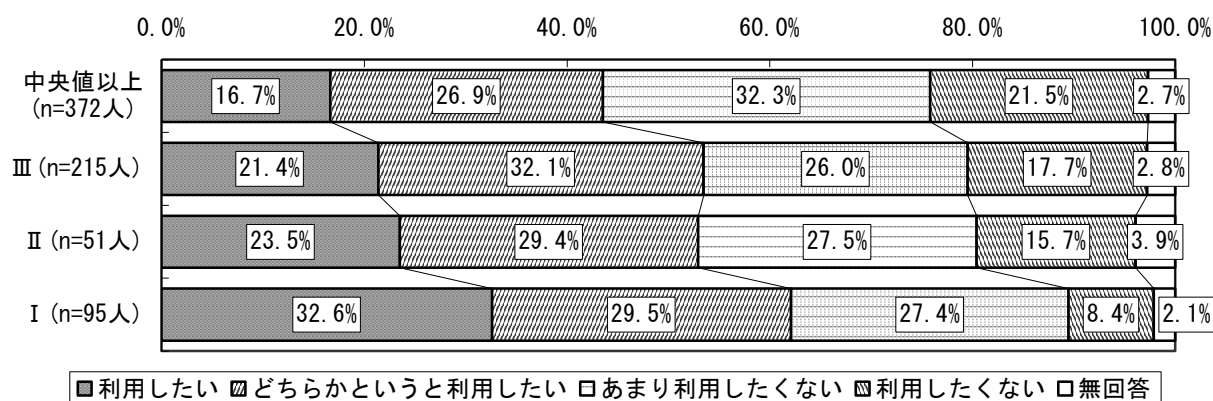
保護者について「子ども食堂」の利用意向をみると、「利用したい」が20.3%、「どちらかという利用したい」が29.1%、「あまり利用したくない」が28.6%となっており、「利用したい」と「どちらかという利用したい」を合計した比率は49.4%となっています。

図：「子ども食堂」について（保護者）



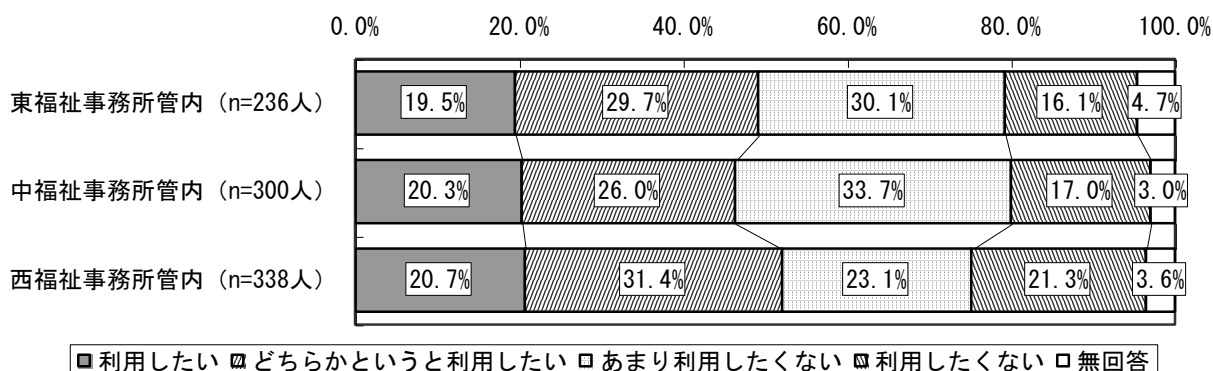
困窮度別にみると、「子ども食堂」などの利用意向は、困窮度が高い世帯の保護者ほど「利用したい」が多くなっています。

図：困窮度別・「子ども食堂」について（保護者）



福祉事務所管内別にみると、「利用したい」と「どちらかという利用したい」の合計は西福祉事務所管内が52.1%と最も多くなっています。中福祉事務所管内は「あまり利用したくない」と「利用したくない」が50.7%となっており、利用したい人を上回っています。

図：福祉事務所管内別・「子ども食堂」について（保護者）



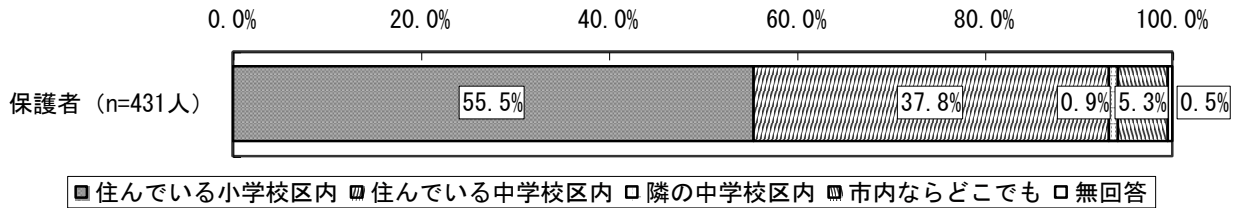
保護者 35-C-①. 「子ども食堂」を利用したい場所の範囲

問 35C①. 問 35 で 1 または 2 に ○ をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どの範囲にあれば良いと思いますか。(あてはまるもの 1 つだけに○)

保護者について「子ども食堂」を利用したい場所の範囲をみると、「住んでいる小学校区内」が 55.5%、「住んでいる中学校区内」が 37.8%、「市内ならどこでも」が 5.3%となっています。「住んでいる小学校区内」と「住んでいる中学校区内」を合計した比率は 93.3%となり、自宅の近くで利用したい人が多くなっています。

図：「子ども食堂」を利用したい場所の範囲（保護者）



※問 35C①の質問中、「問 35 で 1 または 2 に ○ をした方」とは子ども食堂について「利用したい」「どちらか」というと利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

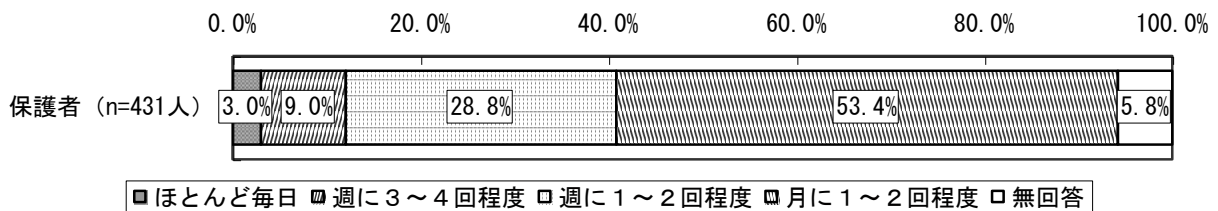
保護者 35-C-②. 「子ども食堂」を利用したい頻度

問 35C②. 問 35 で 1 または 2 に ○ をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どのくらいの頻度で利用したいですか。(あてはまるもの 1 つだけに○)

保護者について「子ども食堂」を利用したい頻度をみると、「月に 1～2 回程度」が 53.4%、「週に 1～2 回程度」が 28.8%、「週に 3～4 回程度」が 9.0%となっています。

図：「子ども食堂」を利用したい頻度（保護者）



※問 35C②の質問中、「問 35 で 1 または 2 に ○ をした方」とは子ども食堂について「利用したい」「どちらか」というと利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

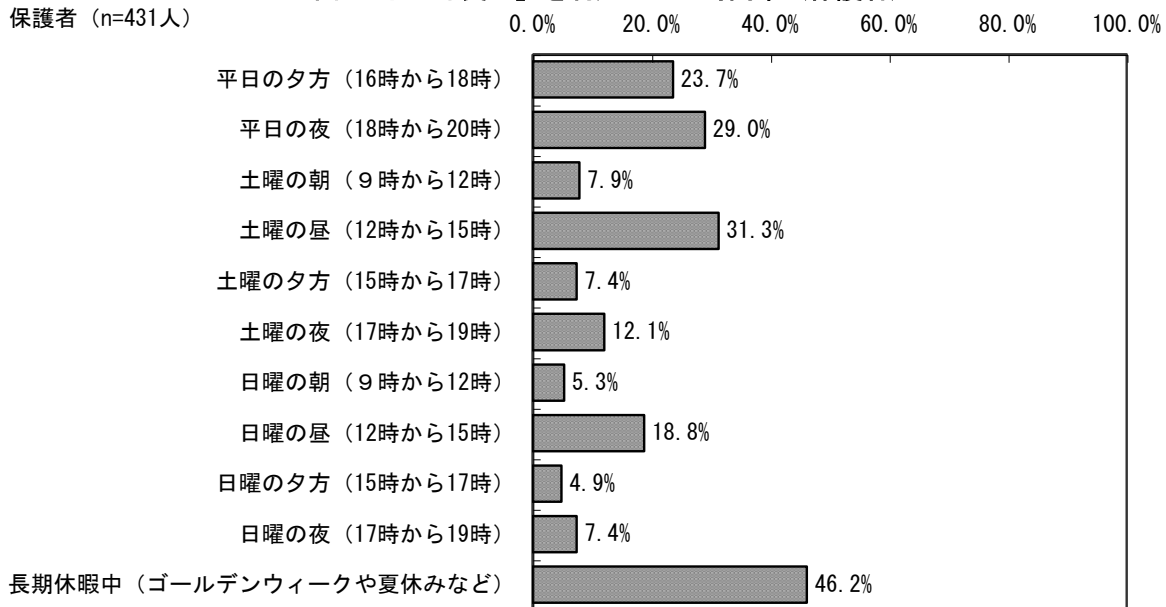
保護者 35-C-③. 「子ども食堂」を利用したい時間帯

問 35C③. 問 35 で 1 または 2 に ○ をした方※にお聞きします。

もし利用したいなら、どの時間帯に利用したいですか。(あてはまるものすべてに○)

保護者について「子ども食堂」を利用したい時間帯をみると、「長期休暇中（ゴールデンウィークや夏休みなど）」が 46.2%、「土曜の昼（12時から15時）」が 31.3%、「平日の夜（18時から20時）」が 29.0%となっています。

図：「子ども食堂」を利用したい時間帯（保護者）



※問 35C③の質問中、「問 35 で 1 または 2 に ○ をした方」とは子ども食堂について「利用したい」「どちらか」というと利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

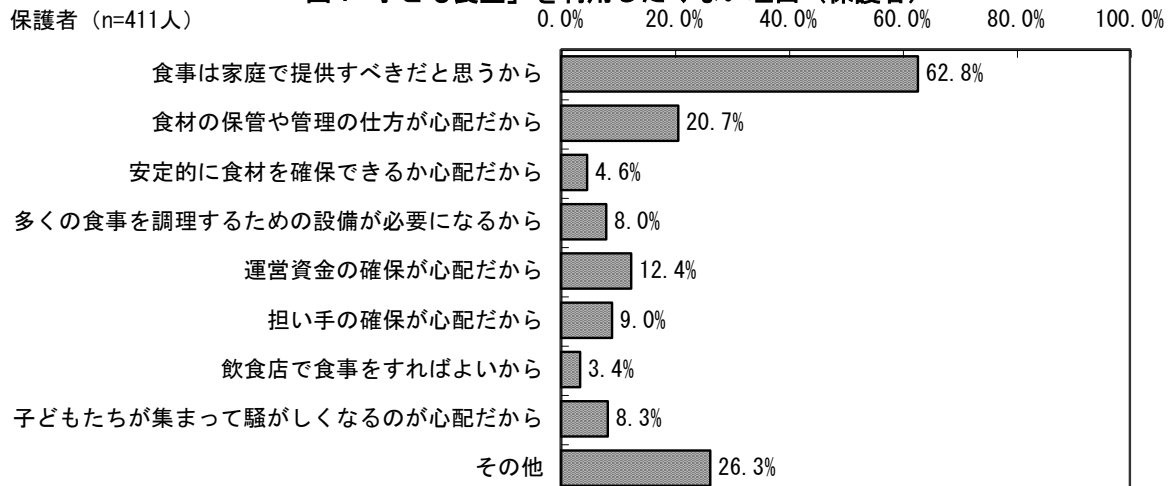
保護者 35-D. 「子ども食堂」を利用したくない理由

問 35D. 問 35 で 3 または 4 に ○ をした方※にお聞きします。

「子ども食堂」を利用したくない理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

保護者について「子ども食堂」を利用したくない理由をみると、「その他」を除いて、「食事は家庭で提供すべきだと思うから」が 62.8%、「食材の保管や管理の仕方が心配だから」が 20.7%、「運営資金の確保が心配だから」が 12.4%となっています。

図：「子ども食堂」を利用したくない理由（保護者）



※問 35Dの質問中、「問 35 で 3 または 4 に ○ をした方」とは子ども食堂について「あまり利用したくない」「利用したくない」のいずれかに回答した人のことです。

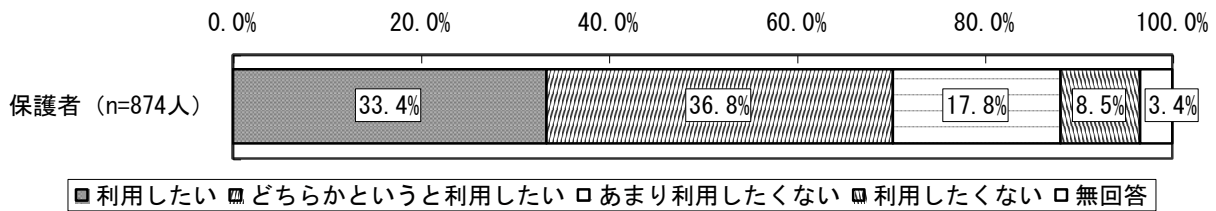
【学習支援の場】

保護者 36. 「学習支援の場」について

問 36. 子どもの居場所のうち、自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える「学習支援の場」についてどう思われますか。(あてはまるもの1つに○)

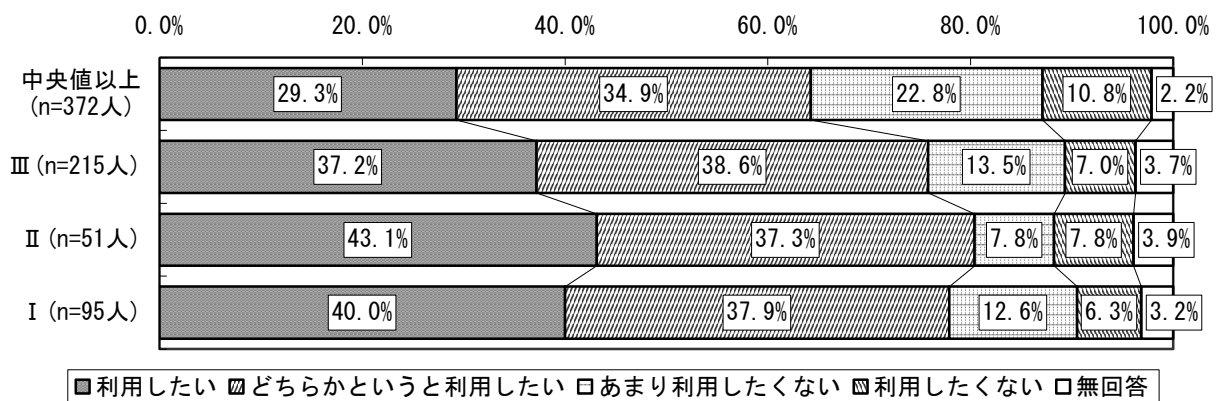
保護者について「学習支援の場」の利用意向をみると、「利用したい」が33.4%、「どちらかという利用したい」が36.8%、「あまり利用したくない」が17.8%となっており、「利用したい」と「どちらかという利用したい」を合計した比率は70.2%となっています。

図：「学習支援の場」について（保護者）



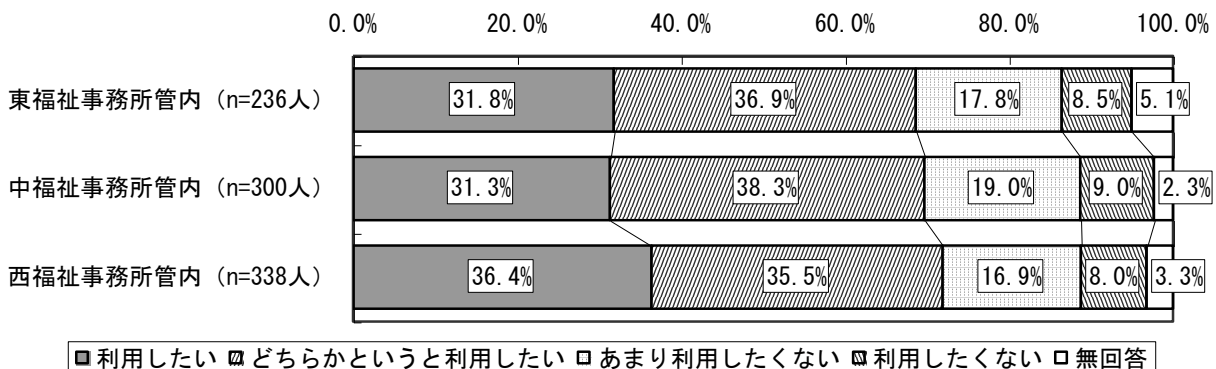
困窮度別にみると、「利用したい」は中央値以上の世帯では3割未満なのに対して、困窮度Ⅱ以上の世帯では4割以上となっており、困窮度が高い世帯の利用意向が高くなっています。

図：困窮度別・「学習支援の場」について（保護者）



福祉事務所管内別にみると、「利用したい」と「どちらかという利用したい」の合計は西福祉事務所管内が71.9%と最も多くなっています。

図：福祉事務所管内別・「学習支援の場」について（保護者）



保護者 36-E-①. 「学習支援の場」を利用したい場所の範囲

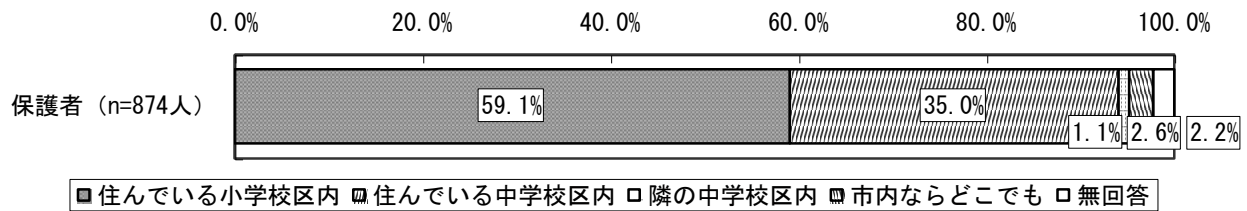
問 36E①. 問 36 で 1 または 2 に ○ をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どの範囲にあれば良いと思いますか。(あてはまるもの 1 つだけに○)

保護者について「学習支援の場」を利用したい場所の範囲についてみると、「住んでいる小学校区内」が 59.1%、「住んでいる中学校区内」が 35.0%、「市内ならどこでも」が 2.6%となっています。

「住んでいる小学校区内」と「住んでいる中学校区内」を合わせて 94.1%となり、自宅から近い場所で利用したいという人が多くなっています。

図：「学習支援の場」を利用したい場所の範囲（保護者）



※問 36E①の質問中、「問 36 で 1 または 2 に ○ をした方」とは学習支援の場について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

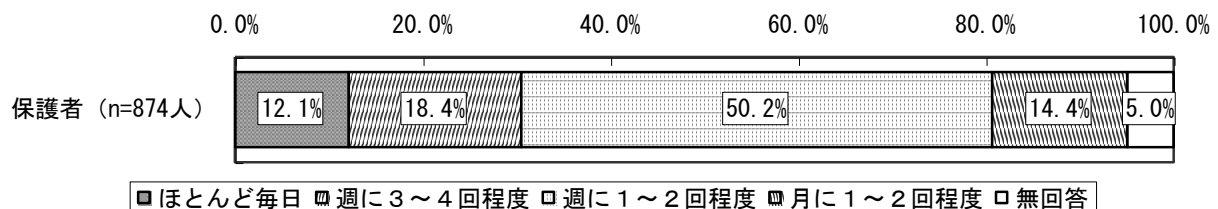
保護者 36-E-②. 「学習支援の場」を利用したい頻度

問 36E②. 問 36 で 1 または 2 に ○ をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どのくらいの頻度で利用したいですか。(あてはまるもの 1 つだけに○)

保護者について「学習支援の場」を利用したい頻度をみると、「週に 1～2 回程度」が 50.2%、「週に 3～4 回程度」が 18.4%、「月に 1～2 回程度」が 14.4%となっています。

図：「学習支援の場」を利用したい頻度（保護者）

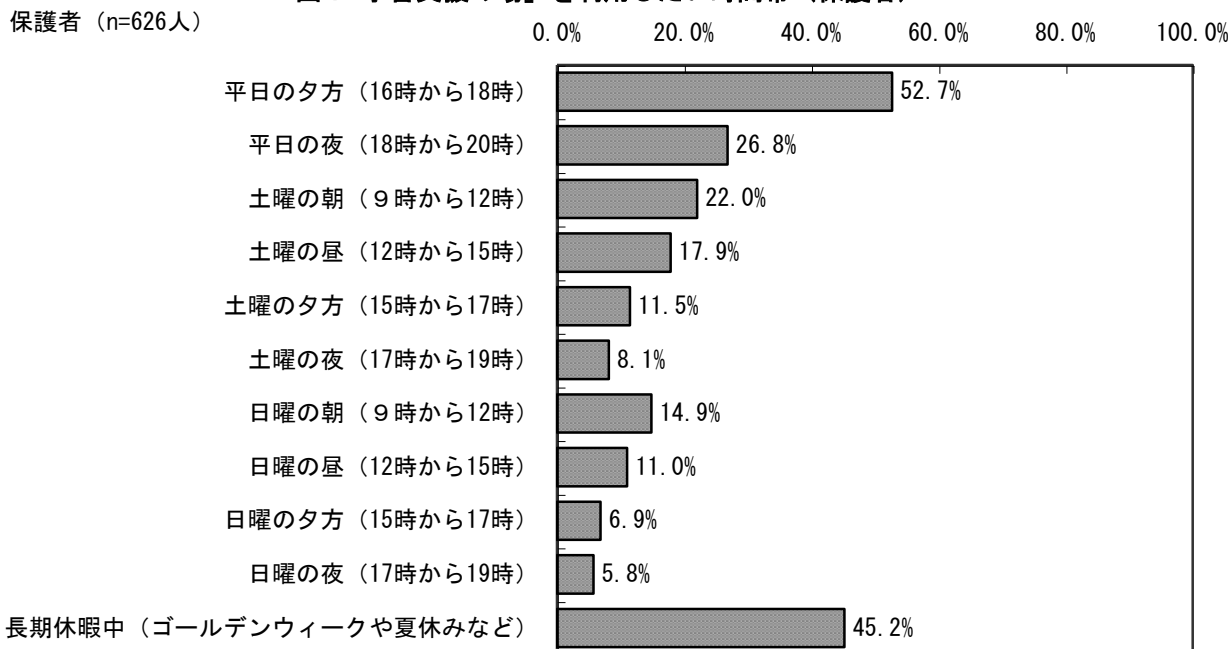


※問 36E②の質問中、「問 36 で 1 または 2 に ○ をした方」とは学習支援の場について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

保護者 36-E-③. 「学習支援の場」を利用したい時間帯
 問 36 E ③. 問 36 で 1 または 2 に ○ をした方※にお聞きします。
 もし利用したいなら、どの時間帯に利用したいですか。(あてはまるものすべてに○)

保護者について「学習支援の場」を利用したい時間帯をみると、「平日の夕方（16時から18時）」が52.7%、「長期休暇中（ゴールデンウィークや夏休みなど）」が45.2%、「平日の夜（18時から20時）」が26.8%となっています。

図：「学習支援の場」を利用したい時間帯（保護者）

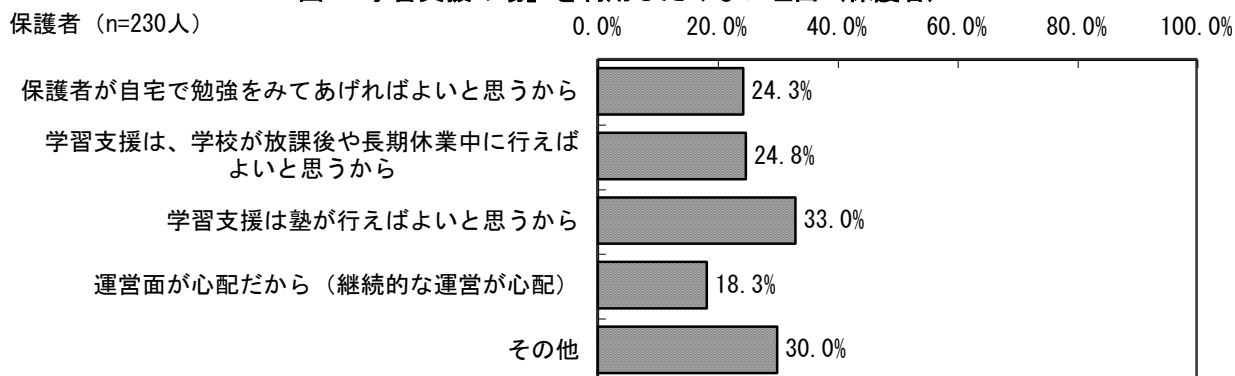


※問 36 E ③の質問中、「問 36 で 1 または 2 に ○ をした方」とは学習支援の場について「利用したい」「どちらか」というと利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

保護者 36-F. 「学習支援の場」を利用したくない理由
 問 36 F. 問 36 で 3 または 4 に ○ をした方※にお聞きします。
 「学習支援の場」を利用したくない理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

保護者について「学習支援の場」を利用したくない理由をみると、「その他」を除いて、「学習支援は塾が行えばよいと思うから」が33.0%、「学習支援は、学校が放課後や長期休業中に行えばよいと思うから」が24.8%、「保護者が自宅で勉強をみてあげればよいと思うから」が24.3%となっています。「その他」の内容は「自主学習で問題ないため」、「支援内容が分からないため」などとなっています。

図：「学習支援の場」を利用したくない理由（保護者）



※問 36 E ①の質問中、「問 36 で 3 または 4 に ○ をした方」とは学習支援の場について「あまり利用したくない」「利用したくない」のいずれかに回答した人のことです。

【思い出づくり】

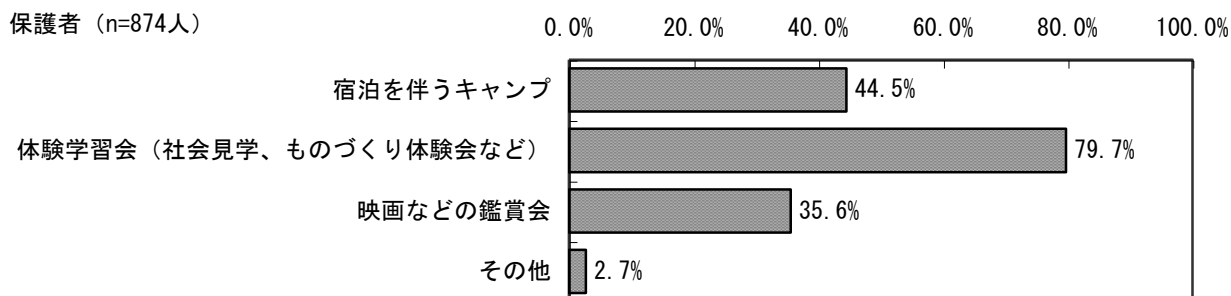
保護者 37-1. 体験活動

問 37 (1). 子どもたちの体験活動として、どの様なイベントがあればよいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

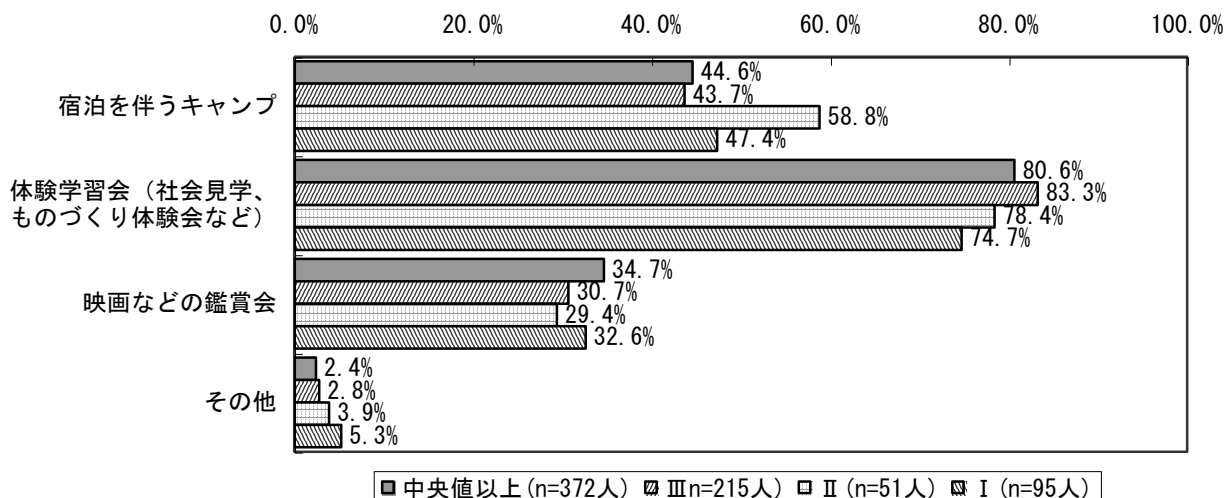
保護者について子どもたちの体験活動として望むものをみると、「体験学習会（社会見学、ものづくり体験会など）」が 79.7%、「宿泊を伴うキャンプ」が 44.5%、「映画などの鑑賞会」が 35.6%となり、「体験学習会（社会見学、ものづくり体験会など）」が約 8割となっています。

図：体験活動（保護者）



困窮度別にみると、困窮度Ⅱの世帯の保護者について、「宿泊を伴うキャンプ」が多くなっていますが、全般には余り差はありません。

図：困窮度別・体験活動（保護者）



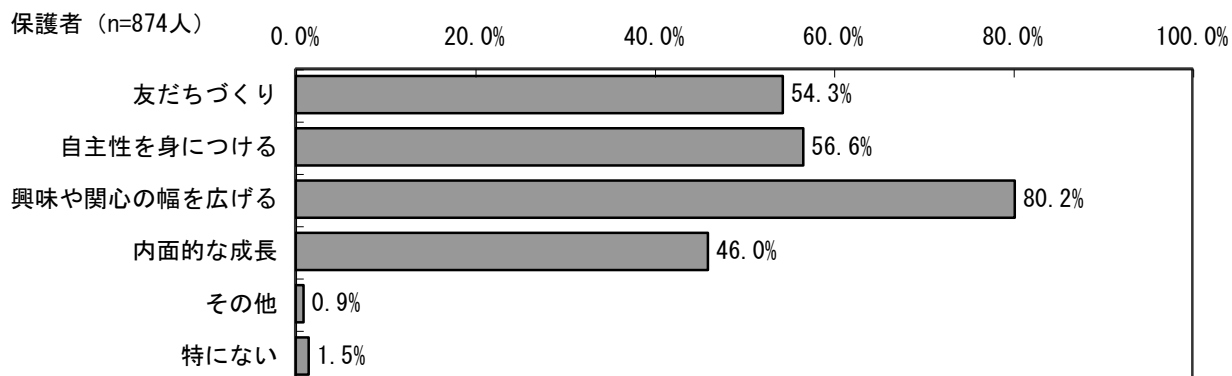
保護者 37-2. イベントに期待すること

問 37 (2). イベントを通じて、子どもに期待することはどんなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

保護者についてイベントを通じて子どもに期待することをみると、「興味や関心の幅を広げる」が80.2%、「自主性を身につける」が56.6%、「友だちづくり」が54.3%となっています。「内面的な成長」も4割を超える一方、「特にない」は1.5%となっており、イベントに期待することがある人が多いことがうかがえます。

図：イベントに期待すること（保護者）



第2編 児童扶養手当現況届時アンケート

1. 回答者の属性

回答者の属性に関する回答結果は以下のとおりとなっています。

15. 性別

問 15. あなたの性別を教えてください。

回答者の性別をみると、「女性」が94.0%、「男性」が6.0%となり、今回のアンケート調査の回答者は女性が多くなっています。

表：性別

	回答数	構成比
男性	3	6.0%
女性	47	94.0%
答えたくない	0	0.0%
合計	50	100.0%

2. 単純集計結果

各設問の主な単純集計結果について、以下のとおり、(1) 経済状況、(2) 生活環境、(3) 教育環境、(4) 社会環境 (5) 子どもの居場所づくり (6) 母子・父子施策の認知度に分けて整理しました。

(1) 経済状況

4. 経済的な理由による経験

問4. あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。(あてはまるものすべてに○)

経済的な理由による経験をみると、「新しい服や靴を買うのを控えた」が66.0%、「食費を切りつめた」が60.0%、「趣味やレジャーの出費を減らした」と「友人・知人との外食を控えた」がともに58.0%となり、それぞれ6割前後の比率となっています。

表：経済的な理由による経験

	回答数	構成比
食費を切りつめた	30	60.0%
電気・ガス・水道などが止められた	2	4.0%
医療機関を受診できなかった	1	2.0%
国民健康保険料の支払いが滞ったことがある	8	16.0%
国民年金の支払いが滞ったことがある	5	10.0%
金融機関などに借金をしたことがある	0	0.0%
クレジットカードの利用が停止になったことがある	2	4.0%
新しい服や靴を買うのを控えた	33	66.0%
新聞や雑誌を買うのを控えた	20	40.0%
スマートフォンへの切り替え・利用を断念した	5	10.0%
冠婚葬祭のつきあいを控えた	4	8.0%
生活の見通しがたたなくて不安になったことがある	25	50.0%
鉄道やバスの利用を控え、自転車を使ったり歩くようにした	13	26.0%
電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある	5	10.0%
家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある	4	8.0%
趣味やレジャーの出費を減らした	29	58.0%
冷暖房の使用を控えた	19	38.0%
友人・知人との外食を控えた	29	58.0%
敷金・保証金等を用意できないので、住み替え・転居を断念した	9	18.0%
理髪店・美容院に行く回数を減らした	24	48.0%
子ども部屋が欲しかったがつかれなかった	11	22.0%
どれもあてはまらない	4	8.0%
有効回答数	50	100.0%

9. 子どもに関する経済的な苦境の経験

問9. あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（おおむね1年間でお考えください）（あてはまるものすべてに○）

子どもに関する経済的な苦境の経験をみると、「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」と「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」がともに42.0%、「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」が38.0%、「子どもを習い事に通わすことができなかった」が36.0%となり、「どれにもあてはまらない」が34.0%となっています。

表：子どもに関する経済的な苦境の経験

	回答数	構成比
子どもを医療機関に受診させることができなかった	0	0.0%
子どもの進路を変更した	7	14.0%
子どものための本や絵本が買えなかった	7	14.0%
子どもにおこづかいを渡すことができなかった	19	38.0%
子どもに新しい服や靴を買うことができなかった	21	42.0%
子どもを学校の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	0	0.0%
子どもを習い事に通わすことができなかった	18	36.0%
子どもを学校のクラブ活動に参加させられなかった	1	2.0%
子どもを学習塾に通わすことができなかった	14	28.0%
子どもの誕生日を祝えなかった	4	8.0%
子どもにお年玉をあげることができなかった	11	22.0%
子どもの学校行事などに参加することができなかった	6	12.0%
子ども会、地域の行事（祭りなど）の活動に参加することができなかった	3	6.0%
家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった	21	42.0%
どれにもあてはまらない	17	34.0%
有効回答数	50	100.0%

3-1. 家計の状況

問3（1）. 前年（2016年）の1年間のあなたの家計状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

家計の状況をみると、「赤字でも黒字でもない」が56.0%、「赤字である」が32.0%、「わからない」が8.0%となっています。「貯蓄ができています」が4.0%で、貯蓄ができています割合は1割より少なくなっています。

表：家計の状況

	回答数	構成比
貯蓄ができています	2	4.0%
赤字である	16	32.0%
赤字でも黒字でもない	28	56.0%
わからない	4	8.0%
合計	50	100.0%

3-2. 赤字の対応

問3(2). 問3(1)で2に○をした方*にお聞きします。

赤字の場合はどのようにしていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

赤字の場合の対応をみると「貯金、預金のとりくずし」が56.3%、「親や親族などからの仕送り」と「金融機関等からの借り入れ」が18.8%となっています。5割強が「貯金、預金のとりくずし」で赤字を補っています。

表：赤字の対応

	回答数	構成比
貯金、預金のとりくずし	9	56.3%
親や親族などからの仕送り	3	18.8%
金融機関等からの借り入れ	3	18.8%
その他	0	0.0%
無回答	1	6.3%
合計	16	100.0%

※問3(2)の質問中、「問3(1)で2に○をした方」とは家計の状況について「赤字である」に回答した人のことです。

3-3. 子どもの将来のための貯蓄

問3(3). お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

子どもの将来のために貯蓄ができているかをみると、「貯蓄をしたいができていない」が78.0%、「貯蓄をしている」が22.0%となっています。7割強が「貯蓄をしたいができていない」状況にあります。

図：子どもの将来のための貯蓄

	回答数	構成比
貯蓄をしている	11	22.0%
貯蓄をしたいができていない	39	78.0%
貯蓄をするつもりはない	0	0.0%
合計	50	100.0%

28-1. 世帯で収入のある人数

問28(1). あなたの世帯で収入のある方の人数を教えてください。(あてはまるもの1つだけに○)

世帯で収入のある人の人数をみると、「1人」が80.0%、「2人」が14.0%、「3人」が4.0%となり、収入のある人数が「1人」が8割を占めています。

図：世帯で収入のある人数

	回答数	構成比
1人	40	80.0%
2人	7	14.0%
3人	2	4.0%
4人	0	0.0%
5人以上	1	2.0%
合計	50	100.0%

28-2. 主に生計を支えている人

問 28 (2). あなたの世帯で主に生計を支えている方はどなたですか。(あてはまるも 1 つだけに○)

主に生計を支えている人をみると、「お母さん」が 94.0%、「お父さん」が 4.0%となっています。

このアンケートは児童扶養手当の現況届時に記入してもらったため、「お母さん」が世帯で主に収入を支えている比率が 9 割弱と高くなっています。

図：主に生計を支えている人

	回答数	構成比
お母さん	47	94.0%
お父さん	2	4.0%
おばあさん、おじいさん	0	0.0%
兄・姉	0	0.0%
おじ・おばなど親戚	0	0.0%
その他の人	0	0.0%
無回答	1	2.0%
合計	50	100.0%

28-3-A. 児童手当

問 28 (3) A. あなたの世帯では児童手当を受けていますか。

(あてはまるもの 1 つに○をつけてください)

児童手当の利用をみると、「受けている」が 72.0%、「受けたことがある」が 18.0%、「受けたことはない」が 6.0%となっています。「受けている」と「受けたことがある」を合計した比率は 9 割で高くなっています。

図：児童手当

	回答数	構成比
受けている	36	72.0%
受けたことがある	9	18.0%
受けたことはない	3	6.0%
無回答	2	4.0%
合計	50	100.0%

28-3-B. 就学援助費

問 28 (3) B. あなたの世帯では就学援助費を受けていますか。

(あてはまるもの 1 つに○をつけてください)

就学援助費の利用をみると、「受けている」が 52.0%、「受けたことはない」が 26.0%、「受けたことがある」が 14.0%となっています。

図：就学援助費

	回答数	構成比
受けている	26	52.0%
受けたことがある	7	14.0%
受けたことはない	13	26.0%
無回答	4	8.0%
合計	50	100.0%

28-3-C. 児童扶養手当

問 28 (3) C. あなたの世帯では児童扶養手当を受けていますか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

児童扶養手当の利用をみると、このアンケートは児童扶養手当の現況届時に記入してもらったため、調査対象者は全て「受けている」に該当します。

28-3-D. 障害や難病の手当

問 28 (3) D. あなたの世帯では障害や難病の手当を受けていますか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

障害や難病の手当の利用をみると、「受けたことはない」が66.0%、「受けている」が10.0%、「受けたことがある」が2.0%となっています。

図：障害や難病の手当

	回答数	構成比
受けている	5	10.0%
受けたことがある	1	2.0%
受けたことはない	33	66.0%
無回答	11	22.0%
合計	50	100.0%

28-3-E. 生活保護

問 28 (3) E. あなたの世帯では生活保護を受けていますか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

生活保護の利用をみると、「受けたことはない」が70.0%、「受けている」が12.0%、「受けたことがある」が4.0%となっています。

図：生活保護

	回答数	構成比
受けている	6	12.0%
受けたことがある	2	4.0%
受けたことはない	35	70.0%
無回答	7	14.0%
合計	50	100.0%

28-3-F. 公的年金（老齢年金）

問 28 (3) F. あなたの世帯では公的年金（老齢年金）を受けていますか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

公的年金（老齢年金）の利用をみると、「受けたことはない」が76.0%、「受けている」と「受けたことがある」が2.0%となっています。

図：公的年金（老齢年金）

	回答数	構成比
受けている	1	2.0%
受けたことがある	1	2.0%
受けたことはない	38	76.0%
無回答	10	20.0%
合計	50	100.0%

28-3-G. 公的年金（遺族年金、障害年金）

問 28（3）G. あなたの世帯では公的年金（遺族年金、障害年金）を受けていますか。

（あてはまるもの1つに○をつけてください）

公的年金（遺族年金、障害年金）の利用をみると、「受けたことはない」が76.0%、「受けている」と「受けたことがある」が2.0%となっています。

図：公的年金（遺族年金、障害年金）

	回答数	構成比
受けている	1	2.0%
受けたことがある	1	2.0%
受けたことはない	38	76.0%
無回答	10	20.0%
合計	50	100.0%

28-3-H. 雇用保険（失業保険）

問 28（3）H. あなたの世帯では雇用保険（失業保険）を受けていますか。

（あてはまるもの1つに○をつけてください）

雇用保険（失業保険）の利用をみると、「受けたことはない」が50.0%、「受けたことがある」が26.0%、「受けている」が4.0%となっています。

図：雇用保険（失業保険）

	回答数	構成比
受けている	2	4.0%
受けたことがある	13	26.0%
受けたことはない	25	50.0%
無回答	10	20.0%
合計	50	100.0%

28-3-I. 養育費

問 28（3）I. あなたの世帯では養育費を受けていますか。

（あてはまるもの1つに○をつけてください）

養育費の利用をみると、「受けたことはない」が68.0%、「受けている」と「受けたことがある」が8.0%となっています。

図：養育費

	回答数	構成比
受けている	4	8.0%
受けたことがある	4	8.0%
受けたことはない	34	68.0%
無回答	8	16.0%
合計	50	100.0%

28-3-J. 親・親族からの仕送り

問 28 (3) J. あなたの世帯では親・親族からの仕送りを受けていますか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

親・親族からの仕送りの状況を見ると、「受けたことはない」が70.0%、「受けたことがある」が8.0%、「受けている」が2.0%となっています。

図：親・親族からの仕送り

	回答数	構成比
受けている	1	2.0%
受けたことがある	4	8.0%
受けたことはない	35	70.0%
無回答	10	20.0%
合計	50	100.0%

28-3-K. 退職金

問 28 (3) K. あなたの世帯では退職金を受けていますか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

退職金の状況をみると、「受けたことはない」が68.0%、「受けたことがある」が12.0%となっています。

図：退職金

	回答数	構成比
受けている	0	0.0%
受けたことがある	6	12.0%
受けたことはない	34	68.0%
無回答	10	20.0%
合計	50	100.0%

28-3-L. その他、株式配当などの副収入

問 28 (3) L. あなたの世帯ではその他、株式配当などの副収入を受けていますか。

(あてはまるもの1つに○をつけてください)

その他、株式配当などの副収入の状況をみると、「受けたことはない」が76.0%、「受けたことがある」が4.0%となっています。

図：その他、株式配当などの副収入

	回答数	構成比
受けている	0	0.0%
受けたことがある	2	4.0%
受けたことはない	38	76.0%
無回答	10	20.0%
合計	50	100.0%

18. 就業状況

問 18. あなたの現在の就業状況についておたずねします。

※複数箇所に勤めている場合はあてはまるものすべてに○をしてください。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号に○をしてください。

回答者の現在の就業状況をみると、「パート・アルバイト・非正規職員で1カ所に勤務」が 52.0%、「常勤・正規職員」が 44.0%となり、9割以上が就業しています。「パート・アルバイト・非正規職員で1カ所に勤務」が「常勤・正規職員」より8ポイント多くなっています。

図：就業状況（複数回答）

	回答数	構成比
常勤・正規職員	22	44.0%
パート・アルバイト・非正規職員で1カ所に勤務	26	52.0%
パート・アルバイト・非正規職員で2カ所以上に勤務	0	0.0%
自営業・家業	0	0.0%
その他の就業形態	0	0.0%
仕事を探している	2	4.0%
仕事を探していない	1	2.0%
有効回答数	50	100.0%

18. 仕事を探していない理由

問 18. 仕事を探していない理由は何ですか。

図：仕事を探していない理由

	回答数	構成比
家事や育児に専念	0	0.0%
学生	0	0.0%
おうちの人の介護や介助	0	0.0%
病気療養	1	100.0%
年金など	0	0.0%
家賃収入、株式運用など	0	0.0%
その他	0	0.0%
有効回答数	1	100.0%

(2) 生活環境

1-1. 家族の人数

問1 (1). あなたの家族は、何人ですか。(あなたを含めてお答えください)
(あてはまるもの1つだけに○)

家族の人数をみると、「3人」が40.0%、「2人」が28.0%、「4人」が20.0%となり、「3人」が4割で最も高くなっています。

図：家族の人数

	回答数	構成比
2人	14	28.0%
3人	20	40.0%
4人	10	20.0%
5人	5	10.0%
6人	1	2.0%
7人以上	0	0.0%
合計	50	100.0%

1-2. 家族のなかの子どもの人数

問1 (2). 家族のなかの子どもの人数は何人ですか。(あてはまるもの1つだけに○)

家族のなかの子どもの人数をみると、「2人」が46.0%、「1人」が42.0%、「3人」が10.0%となり、「1人」と「2人」が4割を超えています。

図：家族のなかの子どもの人数

	回答数	構成比
1人	21	42.0%
2人	23	46.0%
3人	5	10.0%
4人	0	0.0%
5人	1	2.0%
6人以上	0	0.0%
合計	50	100.0%

1-3. 小学校入学前の子どもの人数

問1 (3). 家族の中の子どものうち、小学校入学前の子どもの人数は何人ですか。
(あてはまるもの1つだけに○)

家族の中の子どものうち、小学校入学前の子どもの人数をみると、小学校入学前の子どもの人数が「いない」が90.0%と高くなっています。

図：小学校入学前の子どもの人数

	回答数	構成比
いない	45	90.0%
1人	4	8.0%
2人	1	2.0%
3人	0	0.0%
4人	0	0.0%
5人以上	0	0.0%
合計	50	100.0%

1-4. 小学校1年生から18歳未満の子どもの人数

問1(4). 家族のなかで、小学校1年生から18歳未満の子どもの人数は何人ですか。

(あてはまるもの1つだけに○)

家族の中の小学校1年生から18歳未満の子どもの人数をみると、「1人」が66.0%、「2人」が26.0%となっています。小学校1年生から18歳未満の子どもが「1人」いる比率が6割強となっています。

図：小学校1年生から18歳未満の子どもの人数

	回答数	構成比
いない	3	6.0%
1人	33	66.0%
2人	13	26.0%
3人	0	0.0%
4人	1	2.0%
5人以上	0	0.0%
合計	50	100.0%

1-5. 18歳以上の子どもの人数

問1(5). 家族のなかで、18歳以上の子どもの人数は何人ですか。

(あてはまるもの1つだけに○)

家族の中の18歳以上の子どもの人数をみると、「いない」が76.0%、「1人」が16.0%となっています。18歳以上の子どもが「いない」が7割強となっています。

図：18歳以上の子どもの人数

	回答数	構成比
いない	38	76.0%
1人	8	16.0%
2人	3	6.0%
3人	1	2.0%
4人	0	0.0%
5人以上	0	0.0%
合計	50	100.0%

1-6. 家族構成

問1(6). 家族をすべて選んでください。(あてはまるものすべてに○)

家族構成をみると、「お子さん」が100.0%、「あなた」が98.0%、「おばあさん」が24.0%となっています。アンケートの回答者は母親が94.0%となっていることから(問15、9ページ参照)、母子世帯が多数を占めていることがわかります。一方、「おばあさん」や「おじいさん」を含む三世代で同居している人は3割未満となっています。

図：家族構成

	回答数	構成比
あなた	49	98.0%
お子さん	50	100.0%
おばあさん	12	24.0%
おじいさん	6	12.0%
おじ・おばなど親戚	0	0.0%
その他の人	1	2.0%
有効回答数	50	100.0%

2. 住居

問2. あなたの住居は、次のどれに当てはまりますか。(あてはまるもの1つだけに○)

住居をみると、「民間の賃貸住宅」が52.0%、「持ち家」が40.0%、「府営・市営住宅」が6.0%となっています。「民間の賃貸住宅」「持ち家」が4割を超えており、多くなっています。

図：住居

	回答数	構成比
民間の賃貸住宅	26	52.0%
府営・市営住宅	3	6.0%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	0	0.0%
持ち家	20	40.0%
官舎・社宅	0	0.0%
その他	1	2.0%
合計	50	100.0%

5. 学校が終わってから子どもと過ごす時間が長い人

問5. 学校が終わってから、主にお子さんと過ごす時間が長いのはどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

学校が終わってから子どもと過ごす時間が長い人をみると、「あなた」が60.0%、「おばあさん」が26.0%、「学童保育の指導員」と「兄弟でいる」が14.0%でした。「子どもがひとりでいる」は8.0%と少なくなっています。

図：学校が終わってから子どもと過ごす時間が長い人

	回答数	構成比
あなた	30	60.0%
おばあさん	13	26.0%
おじいさん	6	12.0%
おじ・おばなど親戚	0	0.0%
近所の人	0	0.0%
学童保育の指導員	7	14.0%
ファミリーサポートセンター会員	0	0.0%
兄弟でいる	7	14.0%
子どもがひとりでいる	4	8.0%
その他の人	1	2.0%
有効回答数	50	100.0%

10-1. 子どもへの信頼

問10(1). あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまるもの1つだけに○)

回答者の子どもへの信頼度をみると、「とても信頼している」が56.0%、「信頼している」が44.0%となり、「とても信頼している」と「信頼している」を合計した比率は100.0%となりました。

図：子どもへの信頼

	回答数	構成比
とても信頼している	28	56.0%
信頼している	22	44.0%
あまり信頼していない	0	0.0%
信頼していない	0	0.0%
合計	50	100.0%

10-2. 子どもとの会話

問 10 (2). あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(あてはまるもの1つだけに○)

回答者と子どもの会話の頻度をみると、「よくする」が62.0%、「する」が34.0%となり、「よくする」と「する」を合計した比率は96.0%となりました。

図：子どもとの会話

	回答数	構成比
よくする	31	62.0%
する	17	34.0%
あまりしない	2	4.0%
しない	0	0.0%
合計	50	100.0%

10-3. 子どもと一緒にいる時間（平日）

問 10 (3). あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。(平日)(あてはまるもの1つだけに○)

回答者が平日に子どもと一緒にいる時間をみると、「30分～1時間未満」と「2時間～3時間未満」が22.0%、「1時間～2時間未満」が16.0%となっています。「3時間～4時間未満」と「4時間に以上」が10.0%となっています。平日に子どもと一緒にいる時間が1時間未満の人は28.0%と約3割を占めています。

図：平日に子どもと一緒にいる時間

	回答数	構成比
0～15分未満	1	2.0%
15分～30分未満	2	4.0%
30分～1時間未満	11	22.0%
1時間～2時間未満	8	16.0%
2時間～3時間未満	11	22.0%
3時間～4時間未満	5	10.0%
4時間以上	5	10.0%
無回答	7	14.0%
合計	50	100.0%

10-3. 子どもと一緒にいる時間（休日）

問 10 (3). あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。(休日)(あてはまるもの1つだけに○)

回答者が休日に子どもと一緒にいる時間をみると、「2時間～4時間未満」と「4時間～6時間未満」が20.0%、「10時間以上」が18.0%、「2時間未満」が14.0%、「6時間～8時間未満」が10.0%となっています。平日に比べると子どもと一緒にいる時間は長くなりますが、「10時間以上」は2割に満たず、ほぼ1日一緒にいられる人は少ないことがわかります。

図：休日に子どもと一緒にいる時間

	回答数	構成比
2時間未満	7	14.0%
2時間～4時間未満	10	20.0%
4時間～6時間未満	10	20.0%
6時間～8時間未満	5	10.0%
8時間～10時間未満	2	4.0%
10時間以上	9	18.0%
無回答	7	14.0%
合計	50	100.0%

10-4. 子どもの将来に期待しているか

問 10 (4). あなたはお子さんの将来に期待していますか。(あてはまるもの1つだけに○)

回答者の子どもの将来への期待度をみると、「とても期待している」が 50.0%、「期待している」が 30.0%、「あまり期待していない」が 18.0%となっています。「とても期待している」と「期待している」を合計した比率は 80.0%、「あまり期待していない」と「期待していない」を合計した比率は 18.0%となりました。

図：子どもの将来に期待しているか

	回答数	構成比
期待している	15	30.0%
とても期待している	25	50.0%
あまり期待していない	9	18.0%
期待していない	0	0.0%
無回答	1	2.0%
合計	50	100.0%

16. 初めて親となった年齢

問 16. 初めて親となった年齢はいくつですか。(あてはまるもの1つだけに○)

回答者が初めて親となった年齢をみると、「27～30歳」が 24.0%、「20～23歳」が 22.0%、「24～26歳」と「31～34歳」が 16.0%、「10代」が 6.0%となりました。

図：初めて親となった年齢

	回答数	構成比
10代	3	6.0%
20～23歳	11	22.0%
24～26歳	8	16.0%
27～30歳	12	24.0%
31～34歳	8	16.0%
35～39歳	4	8.0%
40歳以上	4	8.0%
合計	50	100.0%

6. 起床時間の規則性

問 6. お子さんは、平日（月曜日～金曜日）は、決まった時間に起きていますか。

(あてはまるもの1つだけに○)

子どもの平日の起床時間の規則性をみると、「起きている」が 74.0%、「どちらかといえば、起きている」が 22.0%、「あまり、起きていない」が 4.0%となっています。「起きている」と「どちらかといえば、起きている」を合計した比率は 96.0%、「あまり、起きていない」と「起きていない」を合計した比率は 4.0%になりました。

図：起床時間の規則性

	回答数	構成比
起きている	37	74.0%
どちらかといえば、起きている	11	22.0%
あまり、起きていない	2	4.0%
起きていない	0	0.0%
合計	50	100.0%

7. 朝食の頻度

問7. お子さんは、朝食をいつも食べていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

子どもの朝食の頻度をみると、「毎日またはほとんど毎日食べる」が92.0%となり、朝食を食べないことがある子どもは8.0%となっています。

図：朝食の頻度

	回答数	構成比
毎日またはほとんど毎日食べる	46	92.0%
週に4～5日は食べる	2	4.0%
週に2～3日は食べる	0	0.0%
週に1日は食べる	1	2.0%
ほとんど食べない	1	2.0%
合計	50	100.0%

8. 夕食の頻度

問8. お子さんは、夕食をいつも食べていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

子どもの夕食の頻度をみると、「毎日またはほとんど毎日食べる」が98.0%となっています。

図：夕食の頻度

	回答数	構成比
毎日またはほとんど毎日食べる	49	98.0%
週に4～5日は食べる	0	0.0%
週に2～3日は食べる	1	2.0%
週に1日は食べる	0	0.0%
ほとんど食べない	0	0.0%
合計	50	100.0%

20-1. 生活を楽しんでいるか

問20(1). 生活を楽しんでいますか。(仕事や家事、育児など)(あてはまるもの1つだけに○)

回答者が生活を楽しんでいるかをみると、「楽しんでいる」が40.0%、「とても楽しんでいる」が24.0%、「楽しんでいない」が16.0%となっています。「とても楽しんでいる」と「楽しんでいる」を合計した比率は64.0%となっています。

図：生活を楽しんでいるか

	回答数	構成比
とても楽しんでいる	12	24.0%
楽しんでいる	20	40.0%
あまり楽しんでいない	4	8.0%
楽しんではいない	8	16.0%
わからない	6	12.0%
合計	50	100.0%

20-2. 将来に希望を持っているか

問20(2). 将来に対して希望を持っていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

回答者が将来に希望を持っているかをみると、「希望が持てる」と「希望が持てる」と「希望が持てる」と「希望が持てる」が60.0%、「希望が持てない」と「わからない」が16.0%、「希望が持てる」が8.0%となっています。「希望が持てる」と「希望が持てる」と「希望が持てる」が6割となっています。

図：将来に希望を持っているか

	回答数	構成比
希望が持てる	4	8.0%
希望が持てる」と「希望が持てる」と「希望が持てる」	30	60.0%
希望が持てない	8	16.0%
わからない	8	16.0%
合計	50	100.0%

(3) 教育環境

17. 最終学歴

問 17. あなたが最後に通った学校を教えてください。(あてはまるもの1つだけに○)

回答者の最終学歴をみると、「高等学校卒業」が48.0%、「高専、短大、専門学校等卒業」が34.0%、「大学卒業」が8.0%となっています。

図：最終学歴

	回答数	構成比
中学校卒業	3	6.0%
高等学校中途退学	1	2.0%
高等学校卒業	24	48.0%
高専、短大、専門学校等卒業	17	34.0%
大学卒業	4	8.0%
大学院修了	0	0.0%
その他の教育機関卒業	1	2.0%
答えたくない	0	0.0%
合計	50	100.0%

11. 希望する進学先

問 11. あなたは、お子さんの進学についてどこまで希望されますか。

(あてはまるもの1つだけに○)

回答者が子どもに希望する進学先をみると、「短期大学・大学」が48.0%、「高等学校」が22.0%、「専門学校・高等専門学校」が14.0%となり、「短期大学・大学」が4割強となっています。

図：希望する進学先

	回答数	構成比
中学校	0	0.0%
高等学校	11	22.0%
短期大学・大学	24	48.0%
大学院	1	2.0%
留学	0	0.0%
専門学校・高等専門学校	7	14.0%
考えたことがない	2	4.0%
わからない	5	10.0%
合計	50	100.0%

12. 進学費用

問 12. 問 11 で 3～6 に○をした方*にお聞きします。

あなたは、お子さんの大学等への進学費用（学費）について、主にどのようにお考えですか。

（あてはまるものすべてに○）

子どもの進学費用をみると、「奨学金（返済義務あり）の利用を考えている」が 65.6%、「奨学金（返済義務なし）の利用を考えている」が 50.0%、「学資ローン（教育ローン）の利用を考えている」が 40.6%、「進学費用（学費）のための貯蓄等から支払いを考えている」が 28.1%となっています。

「学資ローン（教育ローン）の利用を考えている」や「奨学金（返済義務あり）の利用を考えている」「奨学金（返済義務なし）の利用を考えている」を考えている比率がそれぞれ 4 割を超えています。

図：進学費用

	回答数	構成比
進学費用（学費）のための貯蓄等から支払いを考えている	9	28.1%
親族からの援助や借入れを考えている	1	3.1%
学資ローン（教育ローン）の利用を考えている	13	40.6%
奨学金（返済義務あり）の利用を考えている	21	65.6%
奨学金（返済義務なし）の利用を考えている	16	50.0%
その他	0	0.0%
有効回答数	32	100.0%

※問 12 の質問中、「問 11 で 3～6 に○をした方」とは希望する進学先について「短期大学・大学」「大学院」「留学」「専門学校・高等専門学校」のいずれかに回答した人のことです。

13. 子どもの進路の予想

問 13. あなたは、お子さんが問 11 の希望通りの学校まで進むことになるとお考えですか。

（あてはまるもの 1 つだけに○）

子どもが回答者の希望通りに進学するかをみると、「思う」が 42.0%、「わからない」が 34.0%、「思わない」が 10.0%となっています。

図：子どもの進路の予想

	回答数	構成比
思う	21	42.0%
思わない	5	10.0%
わからない	17	34.0%
無回答	7	14.0%
合計	50	100.0%

14. 子どもが希望通りに進学しないと思う理由

問 14. 問 13 で 2 に○をした方にお聞きします。その理由について教えてください。

（あてはまるものすべてに○）

子どもが回答者の希望通りに進学しないと思う理由をみると、子どもが希望通りに進学しないと思う理由は「お子さんの学力から考えて」と「経済的な余裕がないから」が 80.0%で大きな理由となっています。

図：子どもが希望通りに進学しないと思う理由

	回答数	構成比
お子さんの希望と異なるから	0	0.0%
お子さんの学力から考えて	4	80.0%
経済的な余裕がないから	4	80.0%
その他	0	0.0%
特に理由はない	0	0.0%
有効回答数	5	100.0%

(4) 社会環境

19. 困った時の相談先

問 19. あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。
(あてはまるもの1すべてに○)

回答者の困った時の相談先をみると、「自分の親」が72.0%、「きょうだい・その他の親戚」と「近隣に住む知人や友人」が30.0%、「職場関係者」が16.0%となっています。「相談できる相手がいない」は2.0%と少なくなっています。「自分の親」が7割弱となっています。

図：困った時の相談先

	回答数	構成比
自分の親	36	72.0%
きょうだい・その他の親戚	15	30.0%
近隣に住む知人や友人	15	30.0%
近隣に住んでいない知人や友人	3	6.0%
職場関係者	8	16.0%
学校の先生・スクールカウンセラー	3	6.0%
公的機関や役所の相談員	5	10.0%
学童保育の指導員	0	0.0%
地域の民生委員・児童委員	1	2.0%
民間の支援団体	0	0.0%
民間のカウンセラー・電話相談	0	0.0%
医療機関の医師や看護師	1	2.0%
インターネットのサイトへの書き込み	0	0.0%
その他	2	4.0%
相談できる相手がいない	1	2.0%
有効回答数	50	100.0%

21. 近所づきあい

問 21. 近所づきあいをどの程度されていますか。(あてはまるもの1つだけに○)

回答者の近所づきあいの頻度をみると、「たまに立ち話をするくらいの人がいる」が46.0%、「道で会えばあいさつするくらいの人がいる」が30.0%、「困っているときは、相談したり助け合ったりする人がある」が14.0%となっています。

図：近所づきあい

	回答数	構成比
困っているときは、相談したり助け合ったりする人がある	7	14.0%
買い物や地域の行事などを一緒に行ったりする気の合う人がある	0	0.0%
たまに立ち話をするくらいの人がいる	23	46.0%
道で会えばあいさつするくらいの人がいる	15	30.0%
近所づきあいはほとんどしていない	5	10.0%
その他	0	0.0%
合計	50	100.0%

22. 地域に支えられる感覚

問 22. あなたは、地域の人に（もしくは社会で）。支えられていると感じますか。

（あてはまるもの1つだけに○）

回答者の地域に支えられる感覚をみると、「感じる」と「感じない」がそれぞれ 48.0%となり、同率になっています。

図：地域に支えられる感覚

	回答数	構成比
感じる	24	48.0%
感じない	24	48.0%
無回答	2	4.0%
合計	50	100.0%

23. 地域イベントへの参加

問 23. あなたのお子さんは、過去1年間で次のような地域のイベントや活動に参加したことがありますか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

子どもの地域イベントへの参加状況をみると、「近所のお祭り」が70.0%、「いずれにも参加していない」が26.0%、「子供会や町内会などが開いた運動会やクリスマス会などの行事」が22.0%となっています。

「近所のお祭り」が7割あり、他のイベントに比べて高い比率となっています。

図：地域イベントへの参加

	回答数	構成比
近所のお祭り	35	70.0%
子供会や町内会などが開いた運動会やクリスマス会などの行事	11	22.0%
公園や道路などの地域清掃行事	4	8.0%
スポーツ少年団	2	4.0%
その他	1	2.0%
いずれにも参加していない	13	26.0%
有効回答数	50	100.0%

(5) 子どもの居場所づくり

【子どもの居場所】

24. 自宅や学校以外の子どもの居場所について

問 24. 自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所についてどう思われますか。(あてはまるもの1つだけに○)

自宅や学校以外の子どもの居場所の利用をみると、「利用したい」が44.0%、「どちらかという利用したい」が34.0%、「どちらかという利用したくない」が12.0%となり、「利用したい」と「どちらかという利用したい」を合計した比率は78.0%となっています。

図：自宅や学校以外の子どもの居場所について

	回答数	構成比
利用したい	22	44.0%
どちらかという利用したい	17	34.0%
どちらかという利用したくない	6	12.0%
利用したくない	1	2.0%
無回答	4	8.0%
合計	50	100.0%

24-A-①. 子どもの居場所を利用したい場所の範囲

問 24A①. 問 24 で1または2に○をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どの範囲にあれば良いと思いますか。(あてはまるもの1つだけに○)

子どもの居場所を利用したい場所の範囲をみると、「住んでいる小学校区内」が59.0%、「住んでいる中学校区内」が38.5%となっています。「住んでいる小学校区内」と「住んでいる中学校区内」を合計した比率は97.5%となり、自宅からより身近な小学校区内で利用したいと考えている人が多くなっています。

図：子どもの居場所を利用したい場所の範囲

	回答数	構成比
住んでいる小学校区内	23	59.0%
住んでいる中学校区内	15	38.5%
隣の中学校区内	0	0.0%
市内ならどこでも	1	2.6%
合計	39	100.0%

※問 24A①の質問中、「問 24 で1または2に○をした方」とは自宅や学校以外の子どもの居場所について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

24-A-②. 子どもの居場所を利用したい頻度

問 24A②. 問 24 で1または2に○をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どのくらいの頻度で利用したいですか。(あてはまるもの1つだけに○)

子どもの居場所を利用したい頻度をみると、「週に1～2回程度」が41.0%、「月に1～2回程度」が28.2%、「週に3～4回程度」が20.5%、「ほとんど毎日」が10.3%となり、「週に1～2回程度」が4割程度となっています。

図：子どもの居場所を利用したい頻度

	回答数	構成比
ほとんど毎日	4	10.3%
週に3～4回程度	8	20.5%
週に1～2回程度	16	41.0%
月に1～2回程度	11	28.2%
合計	39	100.0%

※問 24A②の質問中、「問 24 で1または2に○をした方」とは自宅や学校以外の子どもの居場所について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

24-A-③. 子どもの居場所を利用したい時間帯

問 24A③. 問 24 で 1 または 2 に ○ をした方※にお聞きします。

もし利用したいなら、どの時間帯に利用したいですか。(あてはまるものすべてに○)

子どもの居場所を利用したい時間帯をみると、「平日の夕方 (16 時から 18 時)」が 38.5%、「長期休暇中」が 30.8%、「土曜の朝 (9 時から 12 時)」が 25.6%となっています。

「平日の夕方 (16 時から 18 時)」「長期休暇中」は 3 割を超えており、その他の時間帯も概ね 1 割を超えています。一方、「土曜の夜 (17 時から 19 時)」は 2.6%、「日曜の夜 (17 時から 19 時)」は 0.0%となり、ニーズが低いことがうかがえます。

図：子どもの居場所を利用したい時間帯

	回答数	構成比
平日の夕方 (16時から18時)	15	38.5%
平日の夜 (18時から20時)	5	12.8%
土曜の朝 (9時から12時)	10	25.6%
土曜の昼 (12時から15時)	9	23.1%
土曜の夕方 (15時から17時)	7	17.9%
土曜の夜 (17時から19時)	1	2.6%
日曜の朝 (9時から12時)	7	17.9%
日曜の昼 (12時から15時)	8	20.5%
日曜の夕方 (15時から17時)	4	10.3%
日曜の夜 (17時から19時)	0	0.0%
長期休暇中	12	30.8%
有効回答数	39	100.0%

※問 24A③の質問中、「問 24 で 1 または 2 に ○ をした方」とは自宅や学校以外の子どもの居場所について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

24-B. 子どもの居場所を利用したくない理由

問 24B. 問 24 で 3 または 4 に ○ をした方※にお聞きします。

自宅や学校以外で子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所を利用したくない理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

図：子どもの居場所を利用したくない理由

	回答数	構成比
近い場所で利用したいから	0	0.0%
利用したい時間に開いていないから	1	14.3%
費用がかかることが心配だから	1	14.3%
指導者がいないことが心配だから	1	14.3%
子どもたちが集まって騒がしくなるのが心配だから	0	0.0%
その他	4	57.1%
有効回答数	7	100.0%

※問 24Bの質問中、「問 24 で 3 または 4 に ○ をした方」とは自宅や学校以外の子どもの居場所について「どちらかという利用したくない」「利用したくない」のいずれかに回答した人のことです。

【子ども食堂】

25. 「子ども食堂」について

問 25. 子どもの居場所のうち、主に「子ども食堂」などの子どもたちが無料もしくは低額で食事ができる場所についてどう思われますか。(あてはまるもの1つだけに○)

「子ども食堂」の利用についてみると、「利用したい」が34.0%、「どちらかという利用したい」と「どちらかという利用したくない」が26.0%、「利用したくない」が6.0%となり、「利用したい」と「どちらかという利用したい」を合計した比率は60.0%となっています。

図：「子ども食堂」について

	回答数	構成比
利用したい	17	34.0%
どちらかという利用したい	13	26.0%
どちらかという利用したくない	13	26.0%
利用したくない	3	6.0%
無回答	4	8.0%
合計	50	100.0%

25-C-①. 「子ども食堂」を利用したい場所の範囲

問 25C①. 問 25 で1または2に○をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どの範囲にあれば良いと思いますか。(あてはまるもの1つだけに○)

「子ども食堂」を利用したい場所の範囲をみると、「住んでいる小学校区内」が56.7%、「住んでいる中学校区内」が33.3%となっています。「住んでいる小学校区内」と「住んでいる中学校区内」を合計した比率は90.0%となり、自宅からより身近な小学校区内で利用したい人が多くなっています。

図：「子ども食堂」を利用したい場所の範囲

	回答数	構成比
住んでいる小学校区内	17	56.7%
住んでいる中学校区内	10	33.3%
隣の中学校区内	0	0.0%
市内ならどこでも	2	6.7%
無回答	1	3.3%
合計	30	100.0%

※問 25C①の質問中、「問 25 で1または2に○をした方」とは子ども食堂について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

25-C-②. 「子ども食堂」を利用したい頻度

問 25C②. 問 25 で1または2に○をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どのくらいの頻度で利用したいですか。(あてはまるもの1つだけに○)

「子ども食堂」を利用したい頻度をみると、「週に1～2回程度」が36.7%、「月に1～2回程度」が33.3%、「週に3～4回程度」が26.7%となっています。「週に3～4回程度」「週に1～2回程度」「月に1～2回程度」が3割前後の割合となっています。

図：「子ども食堂」を利用したい頻度

	回答数	構成比
ほとんど毎日	0	0.0%
週に3～4回程度	8	26.7%
週に1～2回程度	11	36.7%
月に1～2回程度	10	33.3%
無回答	1	3.3%
合計	30	100.0%

※問 25C②の質問中、「問 25 で1または2に○をした方」とは子ども食堂について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

25-C-③. 「子ども食堂」を利用したい時間帯

問 25C③. 問 25 で 1 または 2 に ○ をした方※にお聞きします。

もし利用したいなら、どの時間帯に利用したいですか。(あてはまるものすべてに○)

「子ども食堂」を利用したい時間帯をみると、「平日の夜 (18 時から 20 時)」と「土曜の昼 (12 時から 15 時)」と「日曜の昼 (12 時から 15 時)」が 30.0%、「平日の夕方 (16 時から 18 時)」と「長期休暇中」が 23.3%となっています。

「平日の夕方 (16 時から 18 時)」 「平日の夜 (18 時から 20 時)」 「土曜の昼 (12 時から 15 時)」 「日曜の昼 (12 時から 15 時)」 「長期休暇中」 が 2 割を超えています。一方、「土曜の夕方 (15 時から 17 時)」 「日曜の夜 (17 時から 19 時)」 は 0.0% でニーズがありませんでした。

図：「子ども食堂」を利用したい時間帯

	回答数	構成比
平日の夕方 (16時から18時)	7	23.3%
平日の夜 (18時から20時)	9	30.0%
土曜の朝 (9時から12時)	1	3.3%
土曜の昼 (12時から15時)	9	30.0%
土曜の夕方 (15時から17時)	0	0.0%
土曜の夜 (17時から19時)	2	6.7%
日曜の朝 (9時から12時)	2	6.7%
日曜の昼 (12時から15時)	9	30.0%
日曜の夕方 (15時から17時)	1	3.3%
日曜の夜 (17時から19時)	0	0.0%
長期休暇中	7	23.3%
有効回答数	30	100.0%

※問 25C③の質問中、「問 25 で 1 または 2 に ○ をした方」とは子ども食堂について「利用したい」「どちらか」というと利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

25-D. 「子ども食堂」を利用したくない理由

問 25D. 問 25 で 3 または 4 に ○ をした方※にお聞きします。

「子ども食堂」を利用したくない理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

「子ども食堂」を利用したくない理由をみると、「食事は家庭で提供すべきと思うから」が 62.5% となっています。

図：「子ども食堂」を利用したくない理由

	回答数	構成比
食事は家庭で提供すべきだと思うから	10	62.5%
食材の保管や管理の仕方が心配だから	3	18.8%
安定的に食材を確保できるか心配だから	1	6.3%
多くの食事を調理するための設備が必要になるから	1	6.3%
運営資金の確保が心配だから	1	6.3%
担い手の確保が心配だから	0	0.0%
飲食店で食事をすればよいから	0	0.0%
子どもたちが集まって騒がしくなるのが心配だから	0	0.0%
その他	5	31.3%
有効回答数	16	100.0%

※問 25Dの質問中、「問 25 で 3 または 4 に ○ をした方」とは子ども食堂について「利用したい」「どちらか」というと利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

【学習支援の場】

26. 「学習支援の場」について

問 26. 子どもの居場所のうち、自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える「学習支援の場」についてどう思われますか。(あてはまるもの1つに○)

「学習支援の場」の利用についてみると、「利用したい」が50.0%、「どちらかという利用したい」が36.0%、「どちらかという利用したくない」が6.0%となり、「利用したい」と「どちらかという利用したい」を合計した比率は86.0%となっています。

図：「学習支援の場」について

	回答数	構成比
利用したい	25	50.0%
どちらかという利用したい	18	36.0%
どちらかという利用したくない	3	6.0%
利用したくない	1	2.0%
無回答	3	6.0%
合計	50	100.0%

26-E-①. 「学習支援の場」を利用したい場所の範囲

問 26E①. 問 26 で1または2に○をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どの範囲にあれば良いと思いますか。(あてはまるもの1つだけに○)

「学習支援の場」を利用したい場所の範囲をみると、「住んでいる小学校区内」が48.8%、「住んでいる中学校区内」が46.5%、「市内ならどこでも」が4.7%となっています。「住んでいる小学校区内」と「住んでいる中学校区内」を合わせて95.3%となり、自宅から近い場所で利用したいという人が多くなっています。子どもの居場所や「子ども食堂」に比べると、利用したい場所は小学校区内と中学校区内で大差がありません。

図：「学習支援の場」を利用したい場所の範囲

	回答数	構成比
住んでいる小学校区内	21	48.8%
住んでいる中学校区内	20	46.5%
隣の中学校区内	0	0.0%
市内ならどこでも	2	4.7%
合計	43	100.0%

※問 26E①の質問中、「問 26 で1または2に○をした方」とは学習支援の場について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

26-E-②. 「学習支援の場」を利用したい頻度

問 26E②. 問 26 で1または2に○をした方*にお聞きします。

もし利用したいなら、どのくらいの頻度で利用したいですか。(あてはまるもの1つだけに○)

「学習支援の場」を利用したい頻度をみると、「週に1～2回程度」が39.5%、「週に3～4回程度」が30.2%、「ほとんど毎日」が20.9%となっています。

図：「学習支援の場」を利用したい頻度

	回答数	構成比
ほとんど毎日	9	20.9%
週に3～4回程度	13	30.2%
週に1～2回程度	17	39.5%
月に1～2回程度	2	4.7%
無回答	2	4.7%
合計	43	100.0%

※問 26E②の質問中、「問 26 で1または2に○をした方」とは学習支援の場について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

26-E-③. 「学習支援の場」を利用したい時間帯

問 26E③. 問 26 で 1 または 2 に ○ をした方※にお聞きします。

もし利用したいなら、どの時間帯に利用したいですか。(あてはまるものすべてに○)

「学習支援の場」を利用したい時間帯をみると、「平日の夕方（16時から18時）」が48.8%、「平日の夜（18時から20時）」が37.2%、「長期休暇中」が20.9%となっています。

図：「学習支援の場」を利用したい時間帯

	回答数	構成比
平日の夕方（16時から18時）	21	48.8%
平日の夜（18時から20時）	16	37.2%
土曜の朝（9時から12時）	5	11.6%
土曜の昼（12時から15時）	6	14.0%
土曜の夕方（15時から17時）	5	11.6%
土曜の夜（17時から19時）	4	9.3%
日曜の朝（9時から12時）	3	7.0%
日曜の昼（12時から15時）	3	7.0%
日曜の夕方（15時から17時）	2	4.7%
日曜の夜（17時から19時）	0	0.0%
長期休暇中	9	20.9%
有効回答数	43	100.0%

※問 26E③の質問中、「問 26 で 1 または 2 に ○ をした方」とは学習支援の場について「利用したい」「どちらかという利用したい」のいずれかに回答した人のことです。

26-F. 「学習支援の場」を利用したくない理由

問 26F. 問 26 で 3 または 4 に ○ をした方※にお聞きします。

「学習支援の場」を利用したくない理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

図：「学習支援の場」を利用したくない理由

	回答数	構成比
保護者が自宅で勉強をみてあげればよいと思うから	0	0.0%
学習支援は、学校が放課後や長期休業中に行えばよいと思うから	1	25.0%
学習支援は塾が行えばよいと思うから	0	0.0%
運営面が心配だから（継続的な運営が心配）	1	25.0%
その他	2	50.0%
有効回答数	4	100.0%

※問 26Fの質問中、「問 26 で 3 または 4 に ○ をした方」とは学習支援の場について「どちらかという利用したくない」「利用したくない」のいずれかに回答した人のことです。

【思い出づくり】

27-1. 体験活動

問 27 (1). 子どもたちの体験活動として、どの様なイベントがあればよいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

回答者が充実させて欲しい子どもの体験活動の内容をみると、「体験学習会」が 76.0%、「宿泊を伴うキャンプ」が 48.0%、「映画などの鑑賞会」が 36.0%となり、「体験学習会」が 7 割強となっています。

図：体験活動

	回答数	構成比
宿泊を伴うキャンプ	24	48.0%
体験学習会	38	76.0%
映画などの鑑賞会	18	36.0%
その他	2	4.0%
有効回答数	50	100.0%

27-2. イベントに期待すること

問 27 (2). イベントを通じて、子どもに期待することはどんなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

イベントを通じて、子どもへ期待することをみると、「興味や関心の幅を広げる」が 68.0%、「自主性を身につける」が 58.0%、「内面的な成長」が 46.0%、「友だちづくり」が 44.0%となり、「興味や関心の幅を広げる」が 6 割強となっていますが、他の項目も 4 割を超えており、イベントに期待することは多様であることがうかがえます。

図：イベントに期待すること

	回答数	構成比
友だちづくり	22	44.0%
自主性を身につける	29	58.0%
興味や関心の幅を広げる	34	68.0%
内面的な成長	23	46.0%
その他	2	4.0%
特にない	0	0.0%
有効回答数	50	100.0%

(6) 母子・父子施策の認知度

29-A. 母子・父子自立支援員

問 29A. 東大阪市の母子・父子自立支援員についておたずねします。それぞれの項目について、当てはまる番号1つに○をつけて下さい。

母子・父子自立支援員の認知度をみると、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が38.0%、「まったく知らない」が36.0%、「知っている」が14.0%となり、「知っている」と「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」を合計した比率は52.0%になります。

図：母子・父子自立支援員

	回答数	構成比
知っている	7	14.0%
名称を聞いたことはあるが、内容は知らない	19	38.0%
まったく知らない	18	36.0%
無回答	6	12.0%
合計	50	100.0%

29-B. 母子・父子・寡婦福祉資金の貸付

問 29B. 東大阪市の母子・父子・寡婦福祉資金の貸付についておたずねします。それぞれの項目について、当てはまる番号1つに○をつけて下さい。

母子・父子・寡婦福祉資金の貸付の認知度をみると、「まったく知らない」が34.0%、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が28.0%、「知っている」が26.0%となり、「知っている」と「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」を合計した比率は54.0%になります。

図：母子・父子・寡婦福祉資金の貸付

	回答数	構成比
知っている	13	26.0%
名称を聞いたことはあるが、内容は知らない	14	28.0%
まったく知らない	17	34.0%
無回答	6	12.0%
合計	50	100.0%

29-C. ひとり親家庭の法律相談

問 29C. 東大阪市のひとり親家庭の法律相談についておたずねします。それぞれの項目について、当てはまる番号1つに○をつけて下さい。

ひとり親家庭の法律相談の認知度をみると、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が52.0%、「まったく知らない」が24.0%、「知っている」が12.0%となり、「知っている」と「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」を合計した比率は64.0%になります。

図：ひとり親家庭の法律相談

	回答数	構成比
知っている	6	12.0%
名称を聞いたことはあるが、内容は知らない	26	52.0%
まったく知らない	12	24.0%
無回答	6	12.0%
合計	50	100.0%

29-D. 高等職業訓練促進給付金等事業

問 29D. 東大阪市の高等職業訓練促進給付金等事業についておたずねします。それぞれの項目について、当てはまる番号1つに○をつけて下さい。

高等職業訓練促進給付金等事業の認知度をみると、「まったく知らない」が42.0%となり、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が28.0%、「知っている」が18.0%、「知っている」と「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」を合計した比率は56.0%になります

図：高等職業訓練促進給付金等事業

	回答数	構成比
知っている	9	18.0%
名称を聞いたことはあるが、内容は知らない	14	28.0%
まったく知らない	21	42.0%
無回答	6	12.0%
合計	50	100.0%

29-E. 自立支援教育訓練給付金事業

問 29E. 東大阪市の自立支援教育訓練給付金事業についておたずねします。それぞれの項目について、当てはまる番号1つに○をつけて下さい。

自立支援教育訓練給付金事業の認知度をみると、「まったく知らない」が42.0%、「知っている」が24.0%、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が22.0%となり、「知っている」と「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」を合計した比率は46.0%になります

図：自立支援教育訓練給付金事業

	回答数	構成比
知っている	12	24.0%
名称を聞いたことはあるが、内容は知らない	11	22.0%
まったく知らない	21	42.0%
無回答	6	12.0%
合計	50	100.0%

29-F. 高等学校卒業程度認定試験合格支援事業

問 29F. 東大阪市の高等学校卒業程度認定試験合格支援事業についておたずねします。それぞれの項目について、当てはまる番号1つに○をつけて下さい。

高等学校卒業程度認定試験合格支援事業の認知度をみると、「まったく知らない」が56.0%、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が26.0%、「知っている」が6.0%となり、「知っている」と「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」を合計した比率は52.0%になります。

図：高等学校卒業程度認定試験合格支援事業

	回答数	構成比
知っている	3	6.0%
名称を聞いたことはあるが、内容は知らない	13	26.0%
まったく知らない	28	56.0%
無回答	6	12.0%
合計	50	100.0%

平成 29 年度東大阪市子どもの生活に関するアンケート集計結果報告書

発行日 平成 30 年 3 月

発 行 東大阪市
編 集 子どもすこやか部 子ども家庭課
東大阪市荒本北一丁目 1 番 1 号
電話 (06) 4309-3194